

327  
1024

小児  
实用 和洋裁縫小物集  
伊沢峯子  
国立国会図書館



始



12/T-11

327-1024



共立女子職業學校  
女子美術學校  
教師伊澤峯子著

小見  
實用

和洋裁縫小物集

東京 大倉書店發行

大正  
9.10  
内交

緒言

兒童の品性向上には端正なる姿態を保つと云ふ事が非常に影響を致します。即ち外的服装は内的精神の發達に裨益する所少くありませんから服装の研究も亦甚だ緊要の事と思ひます。殊に外部の裝飾ともなる可き前掛とか帽子とか又は簡單の小兒服の調製の如きは一般家庭の主婦たるべき者の心得べき事と思ひます。否之を心得て居つたなら家事經濟上の一助となるばかりで無く各自の好む所に従つて好みの型を自在に調製應用が出来ますから至極便宜であります。其の上自ら手を下して作つた作物は唯單に店頭の高價の物品を購入れたと云ふよりか非常に趣味があります。

著者は常に是等の事柄に留意致しまして出来るだけ多數の人に洋裁の知識を普及致し一般家庭の便宜を計らんと思ひまして本書を編述する事に致しました。其の記述する處は著者獨特の考案に加ふるに近時流行の新型を配置してありますから本書を識得すれば各自の趣向に従つて自在に應用作成する事が出来ます。又其の説明する處諄々乎として反復説明してありますから如何なる初心者にも一讀瞭然として理解する事が出来ます。訖ふ本書を一讀して一般家庭の福祉を得られん事を。

著者識す

小兒實用和洋裁縫小物集 目次

第壹編

第一章 總說

第二章 洋裁に關する必要事項

(一) 孔かゞり

(二) 千島縫

(三) まつり縫

(四) まつりぐけ

第三章 前掛(第一種)一歳用

縫方順序

第四章 前掛(第二種)二三歳用

縫方順序

目次

第五章 前掛(第三種)一二歲用……………二二

(甲)裁方順序……………二二

(乙)縫方順序……………二三

第六章 前掛(第四種)三四歲用……………二五

縫方順序……………二五

第七章 前掛(第五種)五六歲用……………二七

縫方順序……………二八

第八章 前掛(第六種)七八歲用……………二〇

縫方順序……………二〇

第九章 前掛(第七種)六七歲用……………二四

縫方順序……………二四

第十章 前掛(第八種)五六歲用……………二七

(甲)裁方順序……………二九

(乙)縫方順序……………三〇

第十一章 前掛(第九種)四五歲用……………三三

(甲)裁方順序……………三三

(乙)縫方順序……………三三

第十二章 前掛(第十種)七八歲用……………三七

縫方順序……………三七

第十三章 前掛(第十一種)五六歲用……………四〇

(甲)裁方順序……………四一

(乙)縫方順序……………四二

第十四章 前掛(第十二種)四五歲用……………四五

(甲)裁方順序……………四五

(乙)縫方順序……………四六

第十五章 前掛(第十三種)四五歲用……………四八

(甲)裁方順序.....四九

(乙)縫方順序.....五一

第十六章 前掛(第十四種)割烹用.....五二

(甲)裁方順序.....五三

(乙)縫方順序.....五四

第貳編.....五五

第十七章 帽子(第二種)一二歲用.....五六

(甲)裁方順序.....五六

(乙)縫方順序.....五九

第十八章 帽子(第二種)二三歲用.....六一

(甲)裁方順序.....六一

(乙)縫方順序.....六二

第十九章 帽子(第三種)一歲用.....六四

(甲)裁方順序.....六四

(乙)縫方順序.....六五

第二十章 帽子(第四種)初生兒用.....六六

(甲)裁方順序.....六六

(乙)縫方順序.....六七

第二十一章 帽子(第五種)初生兒用.....六八

(甲)裁方順序.....六八

(乙)縫方順序.....六九

第二十二章 帽子(第六種)二三歲用.....七〇

(甲)裁方順序.....七〇

(乙)縫方順序.....七一

第二十三章 帽子(第七種)三四歲用.....七二

(甲)裁方順序.....七二

(乙)縫方順序.....七三

縫方順序……………八三

第二十四章 帽子(第八種)三四歲用……………八七

縫方順序……………八七

第二十五章 帽子(第九種)三四歲用……………九二

(甲)裁方順序……………九二

(乙)縫方順序……………九三

第二十六章 帽子(第十種)七八歲用……………九五

(甲)裁方順序……………九五

(乙)縫方順序……………九七

第二十七章 帽子(第十一種)三四歲用……………九九

(甲)裁方順序……………九九

(乙)縫方順序……………一〇三

第二十八章 帽子(第十二種)五六歲用……………一〇三

(甲)裁方順序……………一〇三

(乙)縫方順序……………一〇六

第二十九章 帽子(第十三種)五六歲用……………一〇九

(甲)裁方順序……………一〇九

(乙)縫方順序……………一一一

第 參 編……………一一三

第三十章 襁褓押へ(初生兒用)……………一二三

第三十一章 簡單服(一二歲用)……………一二五

(甲)裁方順序……………一二五

(乙)縫方順序……………一二七

第三十二章 運動服(四五歲用)……………一二九

(甲)裁方順序……………一二九

(乙)縫方順序……………一三三

第三十三章 女兒服(二三歲用)……………一三七

(甲)裁方順序……………一三七

(乙)縫方順序……………一三〇

第三十四章 男兒服(四五歳用)……………一三四

(甲)裁方順序……………一三五

(乙)縫方順序……………一三六

第三十五章 廻し外套(四五歳用)……………一四一

(甲)裁方順序……………一四一

(乙)縫方順序……………一四五

小兒實用和洋裁縫小物集目次終

小兒實用和洋裁縫小物集

東京女子美術學校教師  
共立女子職業學校教師  
實踐女子學校教師

伊澤峯子著



第一章總說

凡そ服装は衛生的、經濟的、美術的の三要件を俱備する事が必要であります。衛生的の見地から致しますと兒童の體質發育上の便利となりまして健康を保全する事が必要であります。經



濟的見界から致しますと調製費額の低廉であつて而も實質が  
 剛強で永く損傷しない事が必要であります。美術的見解から  
 致しますと形質色彩が優雅であつて而も奢侈贅澤に流れぬ事  
 を要求致します。前掛や帽子は外面的裝飾となるものであり  
 ますから此の三要件を俱備する事が最も必要でありまして殊  
 に現代流行する西洋前掛は其の掛ると否とは衣服の經濟上に  
 至大の關係を持つて居るばかりでなく前掛を掛けて居る子供  
 は何處となく其の容姿が優美で可愛らしいものであります。  
 且つ之を汚染しても容易く幾回も洗濯が出来ますから前掛は  
 一般兒童に執つて必須缺く可からざるものと思ひます。夫故  
 本書には前掛を主として十數種懸げましたが形は色々に異つ  
 ても原形は一つでありますから其の中の何れでも一つ良く理

解すれば各自の趣向に従つて自由に活用が出来ます。唯注意  
 すべきは寸法の取方に於て餘り無駄布を多く出さない事及び  
 高價の飾テップやレースを澤山用ゐて煩雜するよりもむしろ  
 清楚とした方を尊びます。

用布は各自の趣味に依つて一定する處ありませんが廉價で  
 而も實質の剛強な物を選びます。前掛用として一般に用ゐら  
 れて居るのは白キヤラコでありまして之は夏冬通して用ゐら  
 れますが夏期用としてはモスリンなども宜敷ふ御座います。  
 冬期用としてはセル地かネル地も結好であります。帽子用と  
 しては寒冷紗、白羽二重等を用ゐる裝飾用としてはレース飾、  
 ツ  
 プ又は綠色とか紅色の飾切等を用ゐます。

(注意)本文中に斜目布とありますは布を斜に切つたのであり

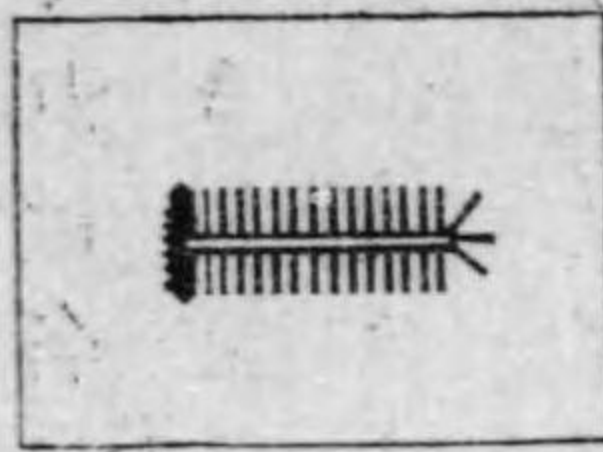
まして衿廻や袖廻の圓形の處を飾りますには斜目布四で無いと拘攀が出来て自在に縫ひませんから斜目布が必要であります。

### 第二章 洋裁に關する必要事項

#### (二) 孔かゞり。

釦孔のかゞり方は大底御承知の事と思ひますが初學者の爲に特に説明致しませう。孔の大きさは釦の大小に依つて異ります。すが普通三四分位を適度としてあけます。

(圖一第) (一)



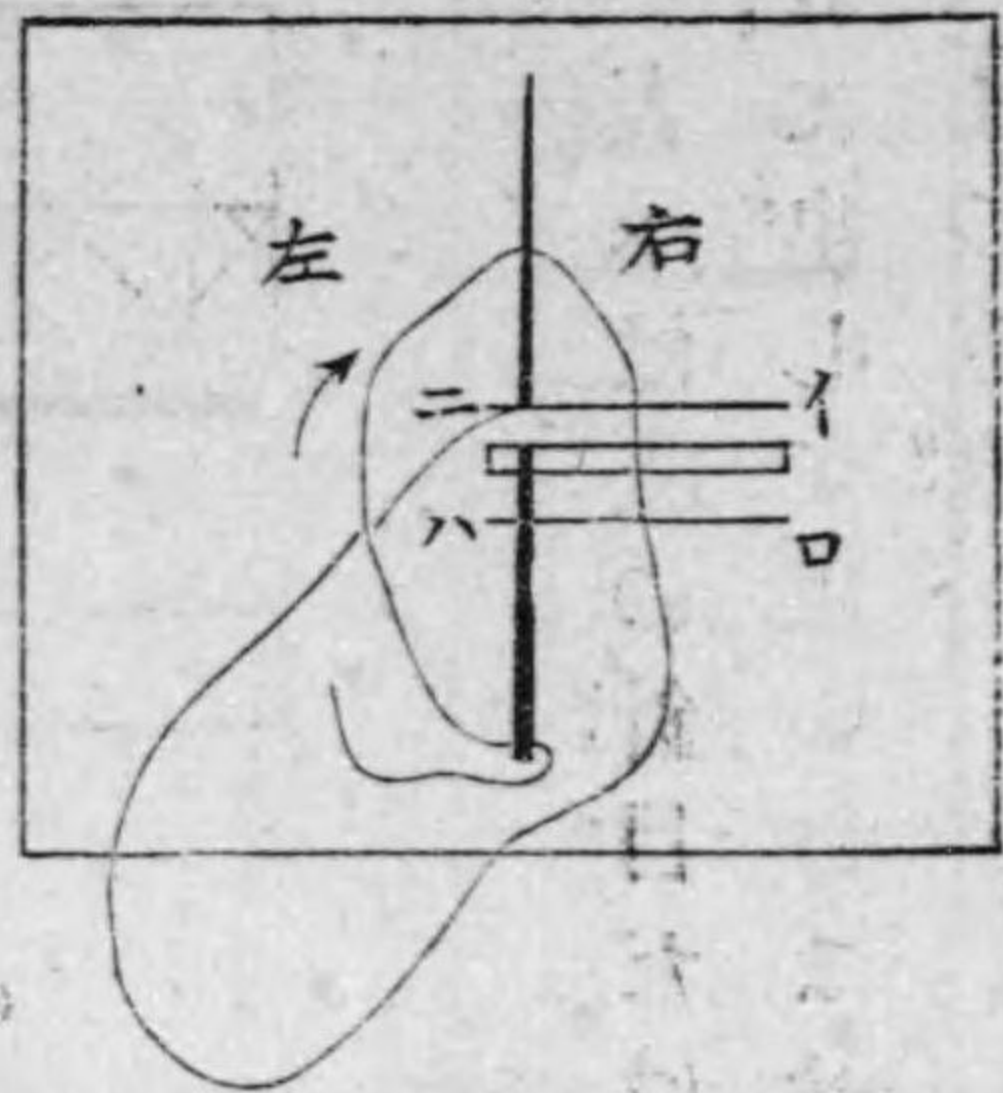
(二)



先づ孔の左右二方に道糸を少しつり加減に渡し置き針を孔の上から下に入れて(1)の道糸の端(二)から出しまして針のものとの方の糸を左から右に

圖二第

(一)



(二)



けて針を引き漸時右の方へ致します。孔かゞりは四五十回も

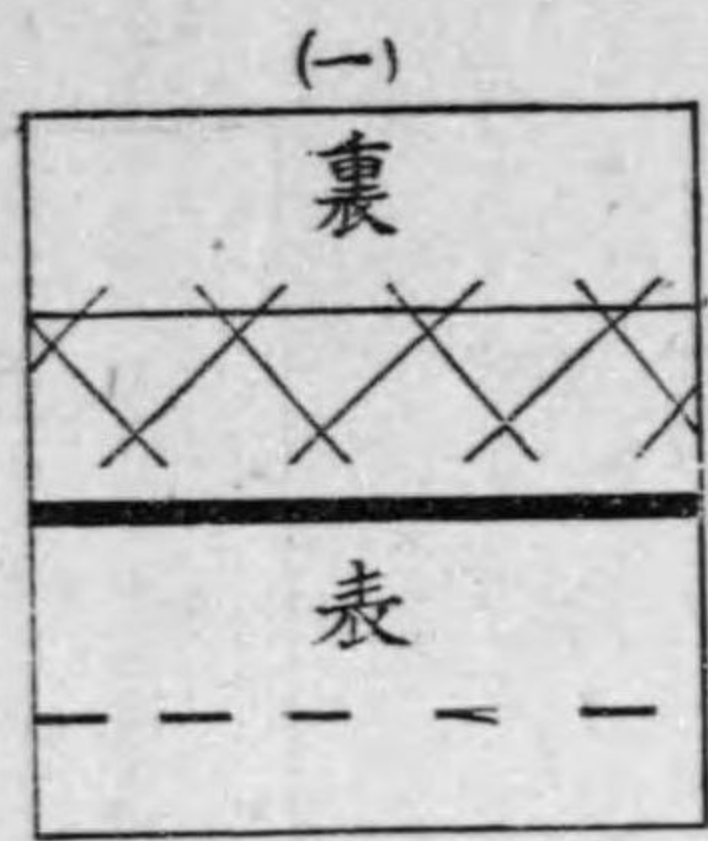
懸け針を持つて眞直ぐに左右に偏らぬ様に少し手前の方に引きます。かくして漸時右の方へかゞつて行きます。すが此の糸の引方と針足の揃へ方とに依つて孔かゞりは美しくも醜くもなるものであります。(イ)から(ロ)に至る角の所は三針又は四針位にて形を作り(2)の道糸の終り(ハ)(二)の間は糸を二本渡して門止に致します。

門止とは二本渡しました糸の下から針を出しまして糸を左から右にか

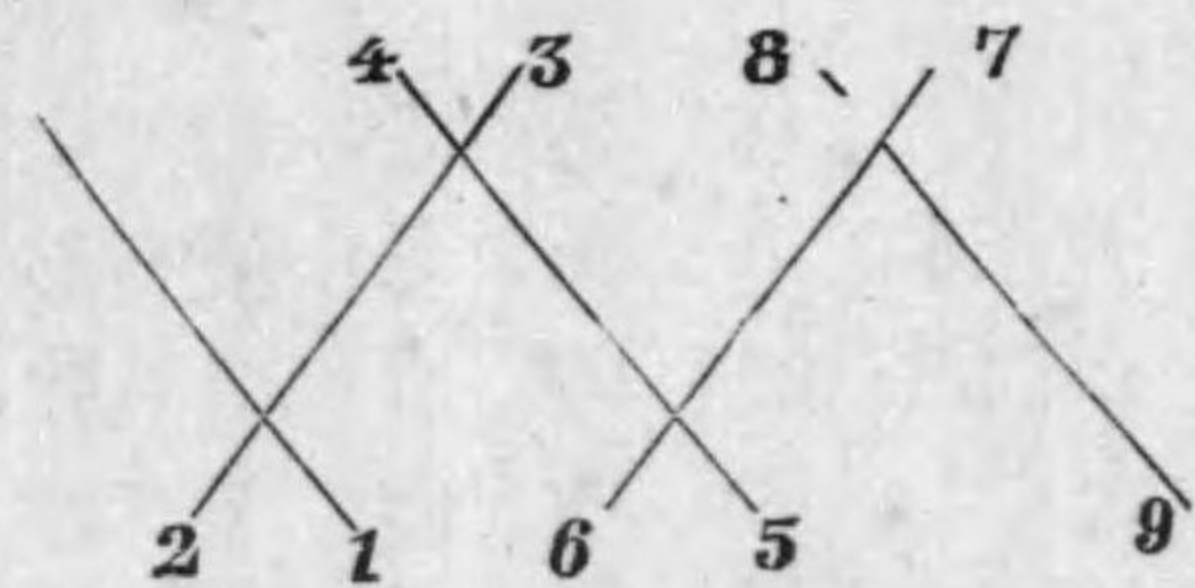
練習致しませんが美しく出来ない程難かしいものであります。

(二)千鳥縫

圖三第



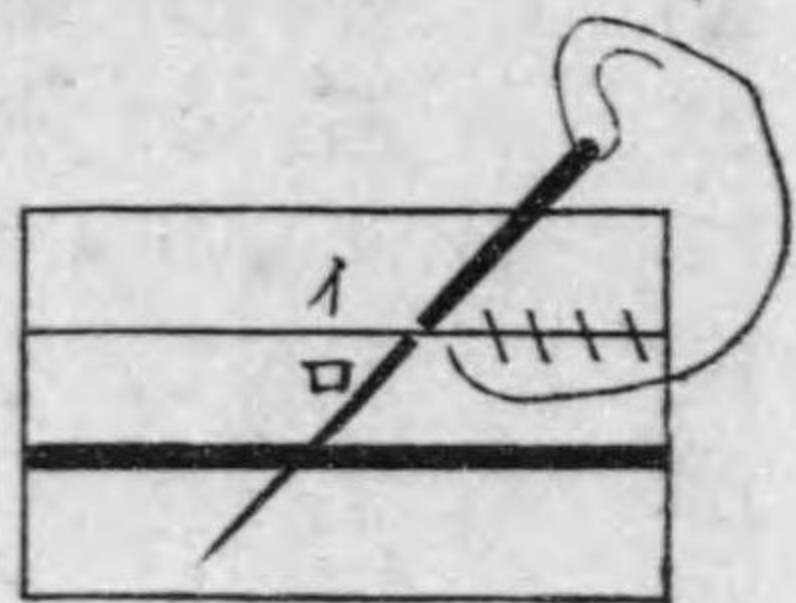
(二)



此の縫方は三ツ折か又は二ツ折にした布の端を調ふる場合に用ゐます。折目を上に向けて左の端から右の方へ縫渡すのであります。針の順序は第三圖の(二)の如くであります。三圖の(一)の針目は布地一枚だけ揃つて表へは上の針目だけ出して下の針目は布地一枚だけ揃つて表に出してはいけません。

(三)まつり縫

圖四第



此の縫方も三ツ折にした布地の端を調ふるに用ひます。之は下の布地(イ)と三ツ折の端(ロ)を一所に針を通してすくつて行くのであります。

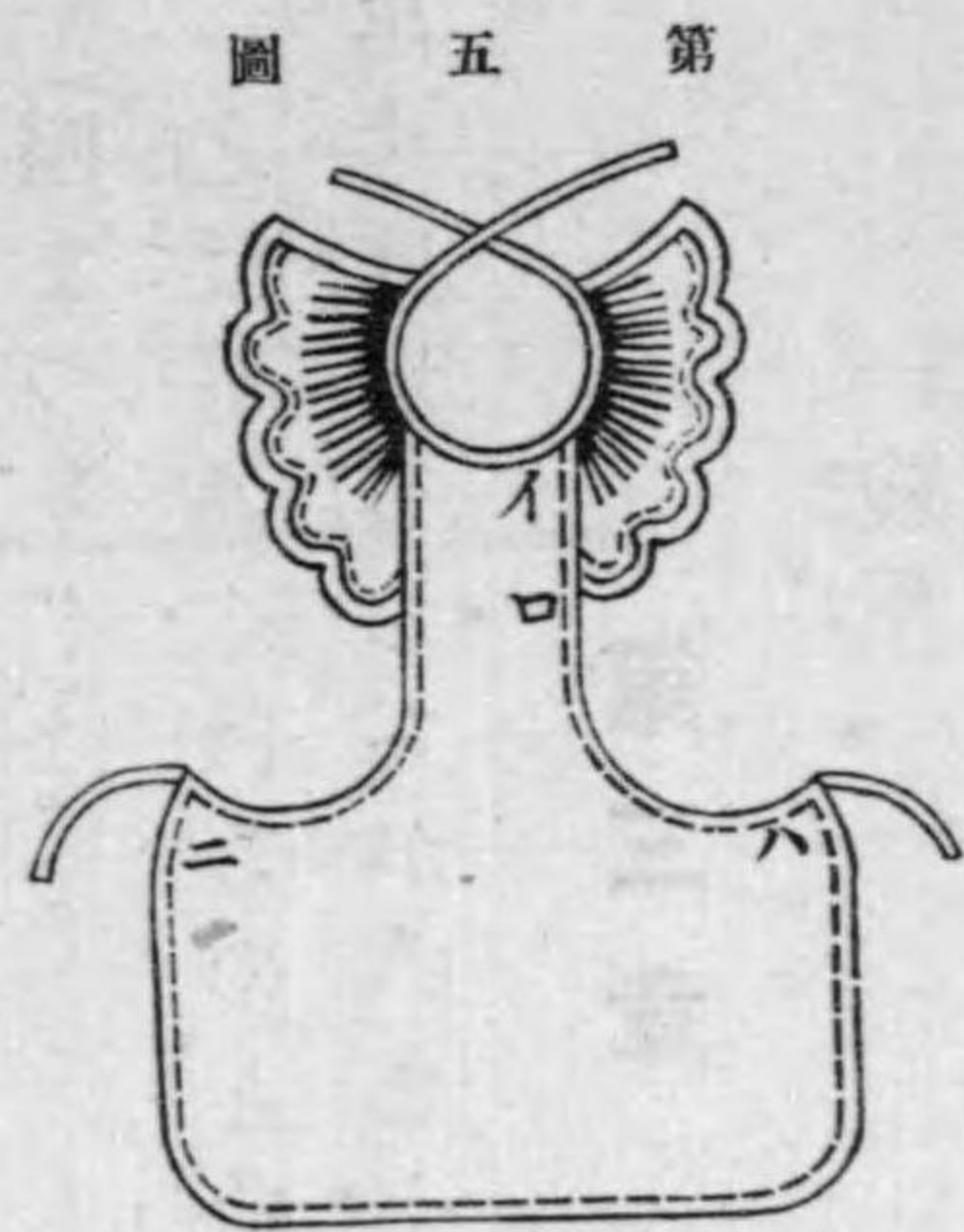
(四)まつりぐけ

之は普通くけるのと殆ど同じであります。只一單針を上に出す處が少しちがいます。

第三章 前掛 (第一種)

一歳用

要布は丈一尺三寸巾一尺二寸。テップ衿丈一尺三寸巾四分

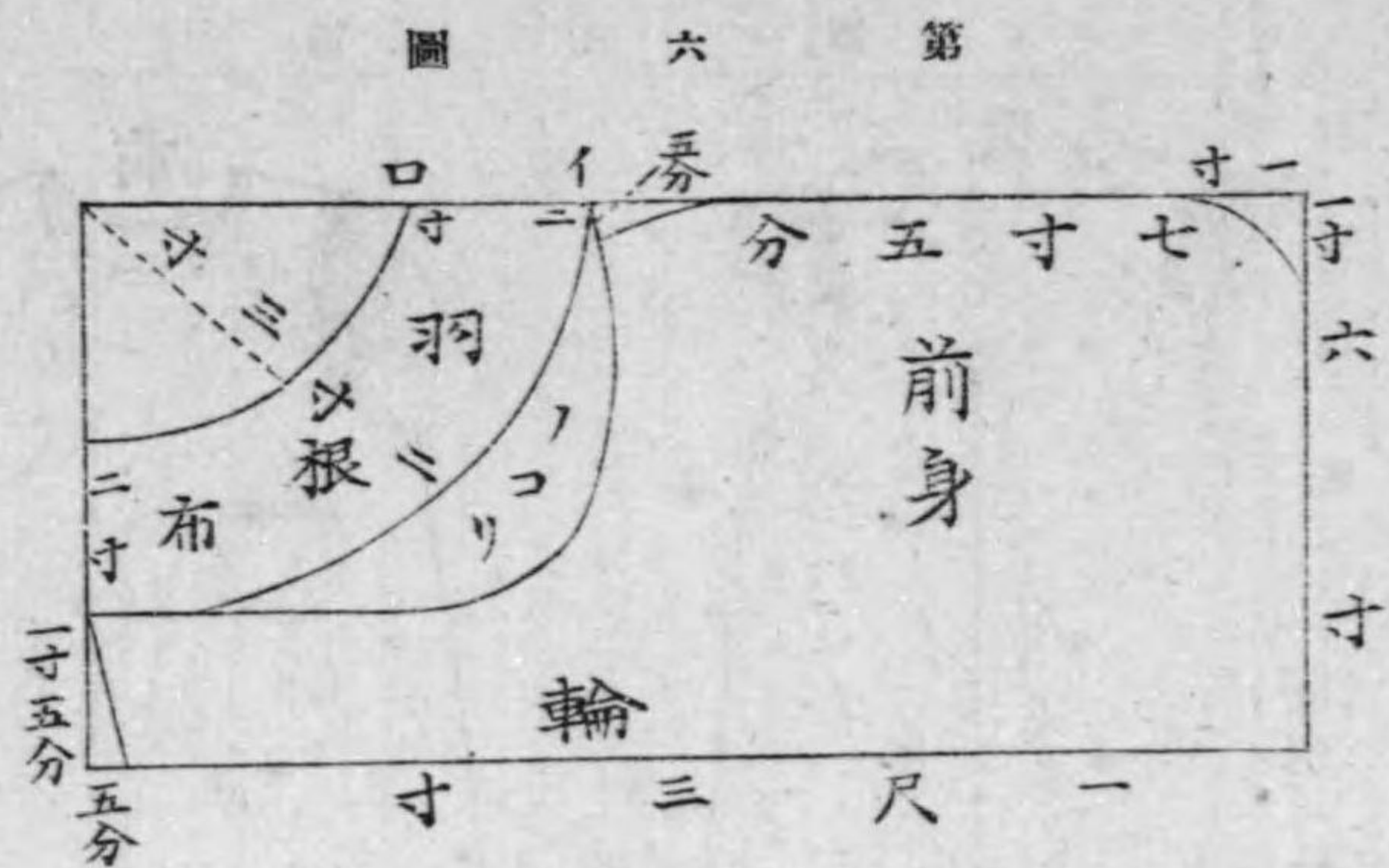


第五圖

脇即ち(イ)(ロ)の處に縫附けるのであります。此の羽根布は左右二枚の下に入れて縫附けるのであります。此の羽根布は左右二枚致します。夫から衿廻りの全周が七寸位になる様に、羽根の一方を縫締て置きます。次に衿のテップの中央と前身の中央に待針を刺し左右に割れて縫締の端を包む様に躰をかけ上から

縫方順序

一尺二寸巾の用布を二つ折になし第六圖の如く寸法を入れて裁切ります。其の縫方は最初に羽根布とある圓形の外側にレイスを附けまして(イ)(ロ)と印のある處を前身(前身頃の略)の



ミシンをかけます。残りたるテップの先は結ぶ様になるのであります。次に袖廻りから裾廻り全體を三ツ折に致しましてミシンをかけます。第五圖(ハ)(ニ)と印のある所に八寸位の丈のテップを縫附け後に結ぶ様に致します。(注意)輪とは二つ折にした中央の折目の事であります。

第四章 前掛(第二種)

二三歳用

要布は丈二尺巾二尺四寸レイス飾テップ等數尺。



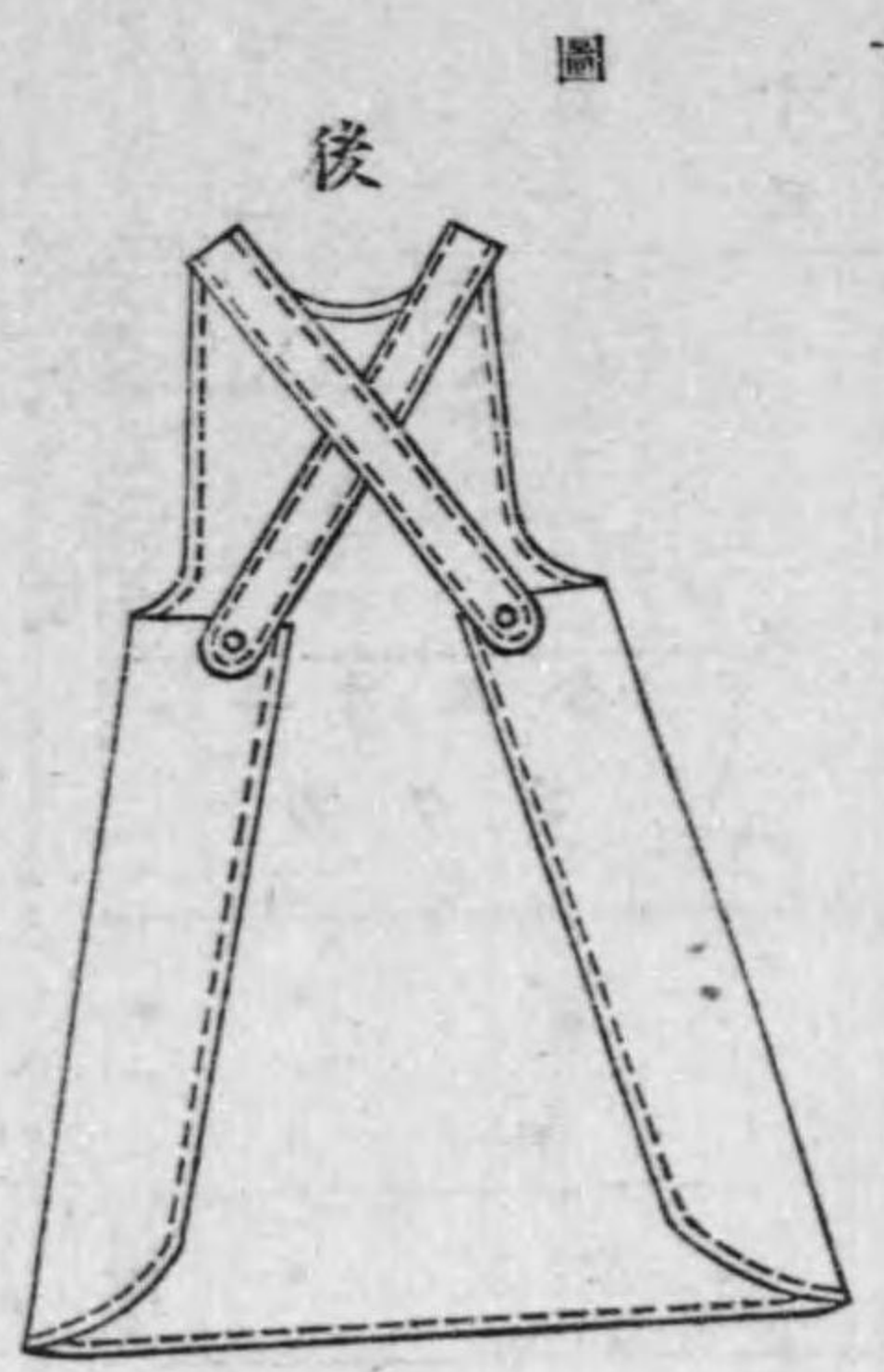
第九圖



位の丈に縫締上からミシンをかけ縫目は身頃の方に折伏せて置き残りたる袖劔を三つ折にして更に周囲に飾ミシンをかけます。隠しは衿繰の落し布にて堅横二寸五分位の巾に作り口の所は飾テツブカレイスを附け袖明から一寸位下つた右の方へ附けます。

第五章 前掛 (第三種)

一二歳用  
要布は長一尺七寸巾一尺二寸其他テツブ數尺。  
(甲)裁方順序  
一尺二寸巾の用布を二ツ折りになし第十一圖の如く各部に

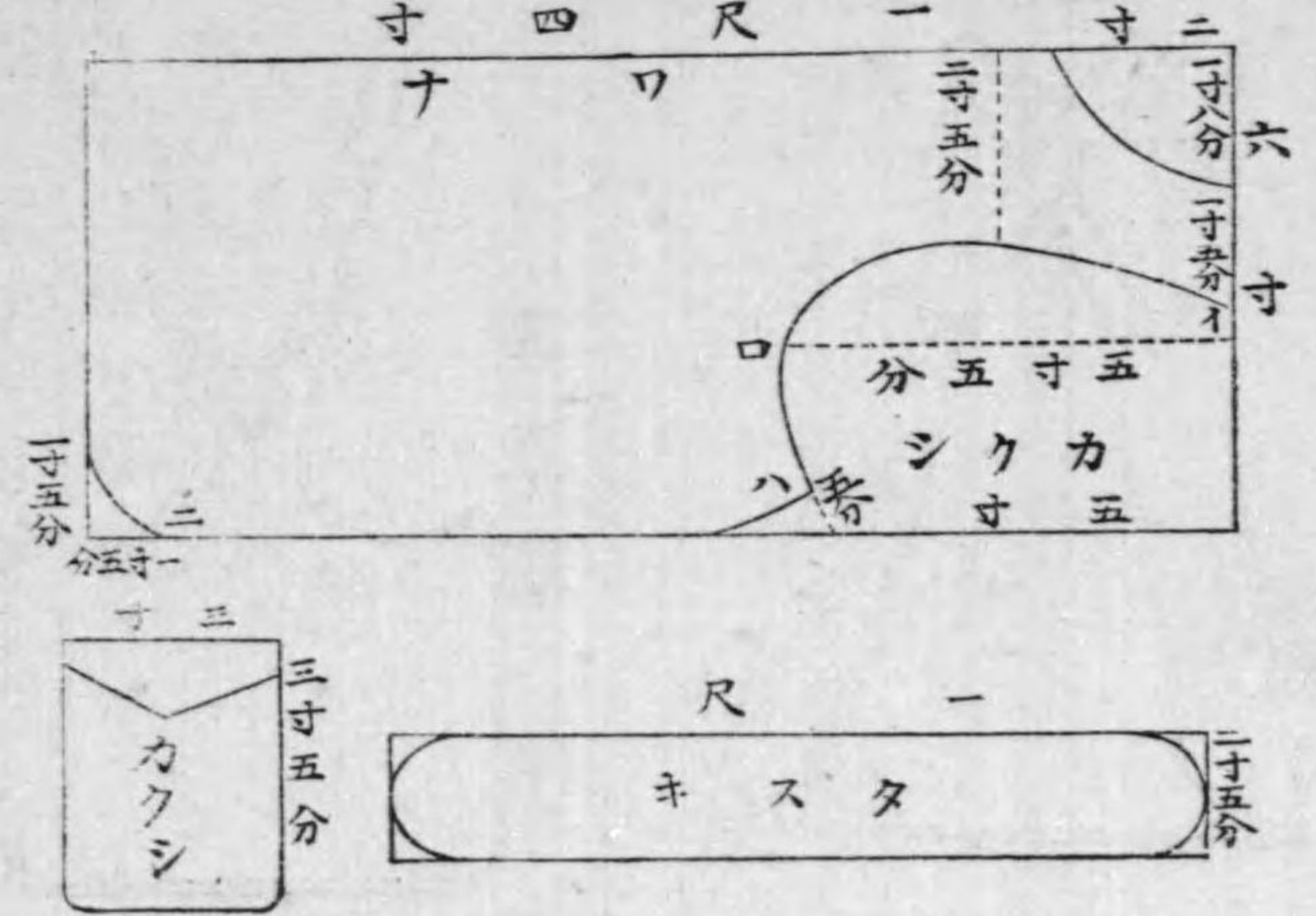


第十圖

第五章 前掛 (第三種)

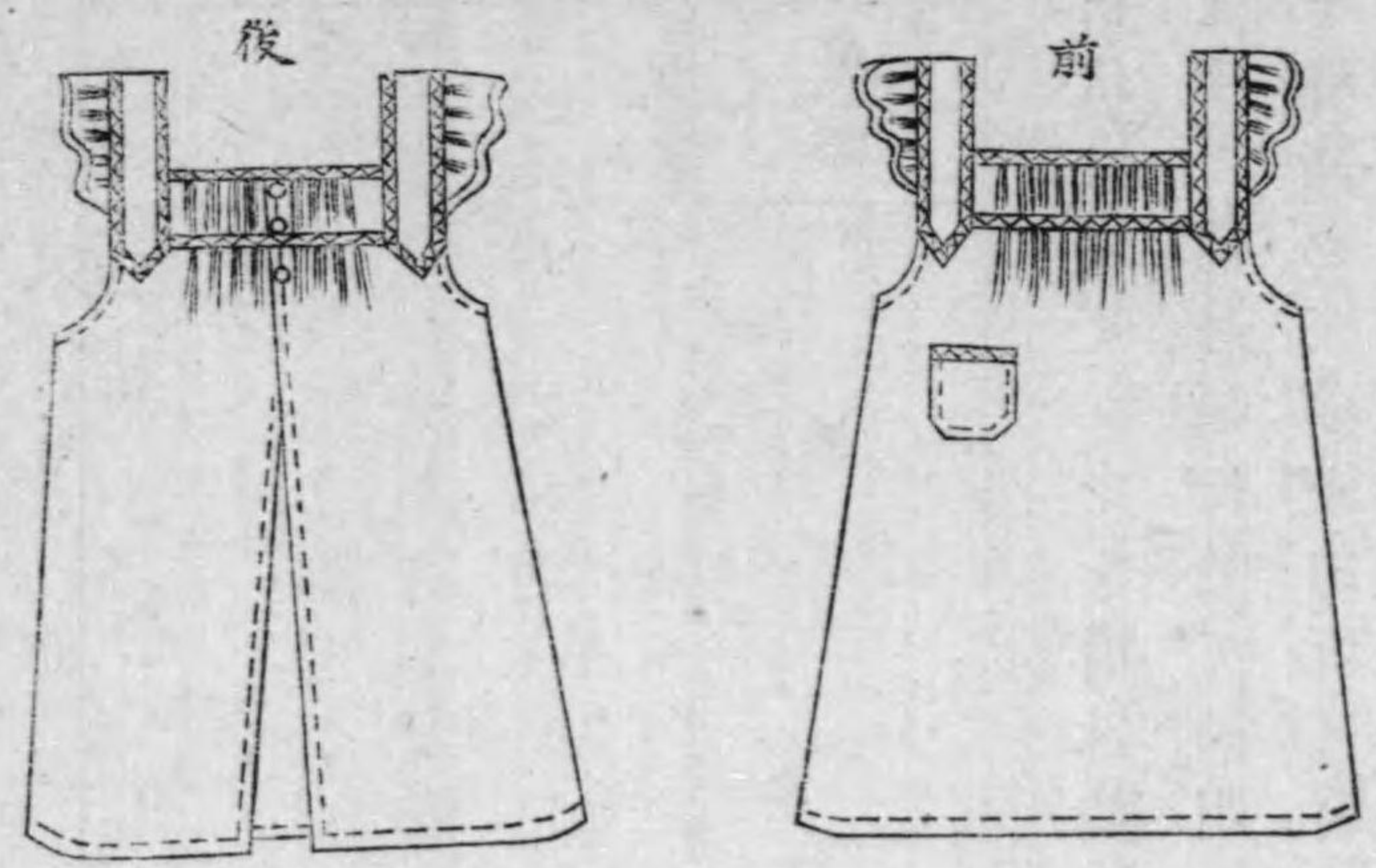
寸法を入れて裁切ります。襟布は別に出切にて長一尺巾一寸五分にて裏表二ツ分取ります。  
(乙)縫方順序  
先づ衿廻りに飾テツブ或は色變りの小切を斜目に細く切り二分五厘位の巾に折りて椽飾に致しますと一層綺麗に成ります。  
(イ)(ロ)(ハ)(ニ)と記した所は細く三ツ折に致しましてミシンを掛けるか或は絡り縫に致します。  
(ハ)と印のある所へは裏に小切を

第一十圖



一四  
 附けて置きます。之は釦を附ける爲です。次に襟切の裏表を合せて少し先を丸みに縫ひ合せて一方の先を前身の肩に一寸五分程重ねて襟をかけそれより周囲をミシンにて縫附けます。縫附けた一方の端には飾釦を附け他の方の先に豎に釦孔をあけ(ハ)と印のある小切の所へは釦を附けます。隠の口は折伏せて(裏表同じ切)ならば外側に違う布ならば内側

第二十圖



第六章 前掛(第四種)

第六章 前掛(第四種)

に折伏せる飾テツプを附け(口)と記のある所より一寸位下りたる右の方へ縫附けます。

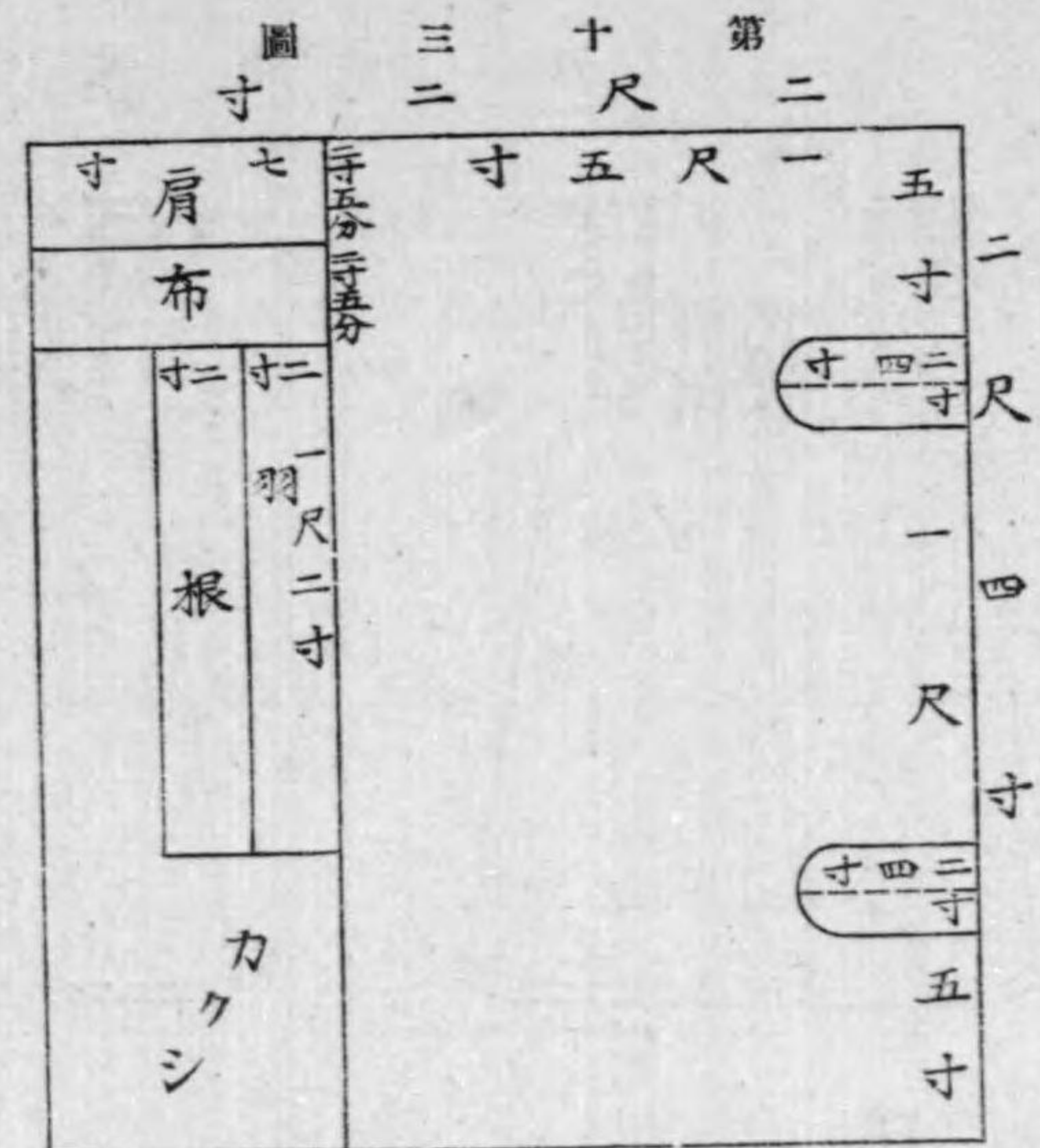
三四歳用

要布は長二尺二寸巾二尺四寸

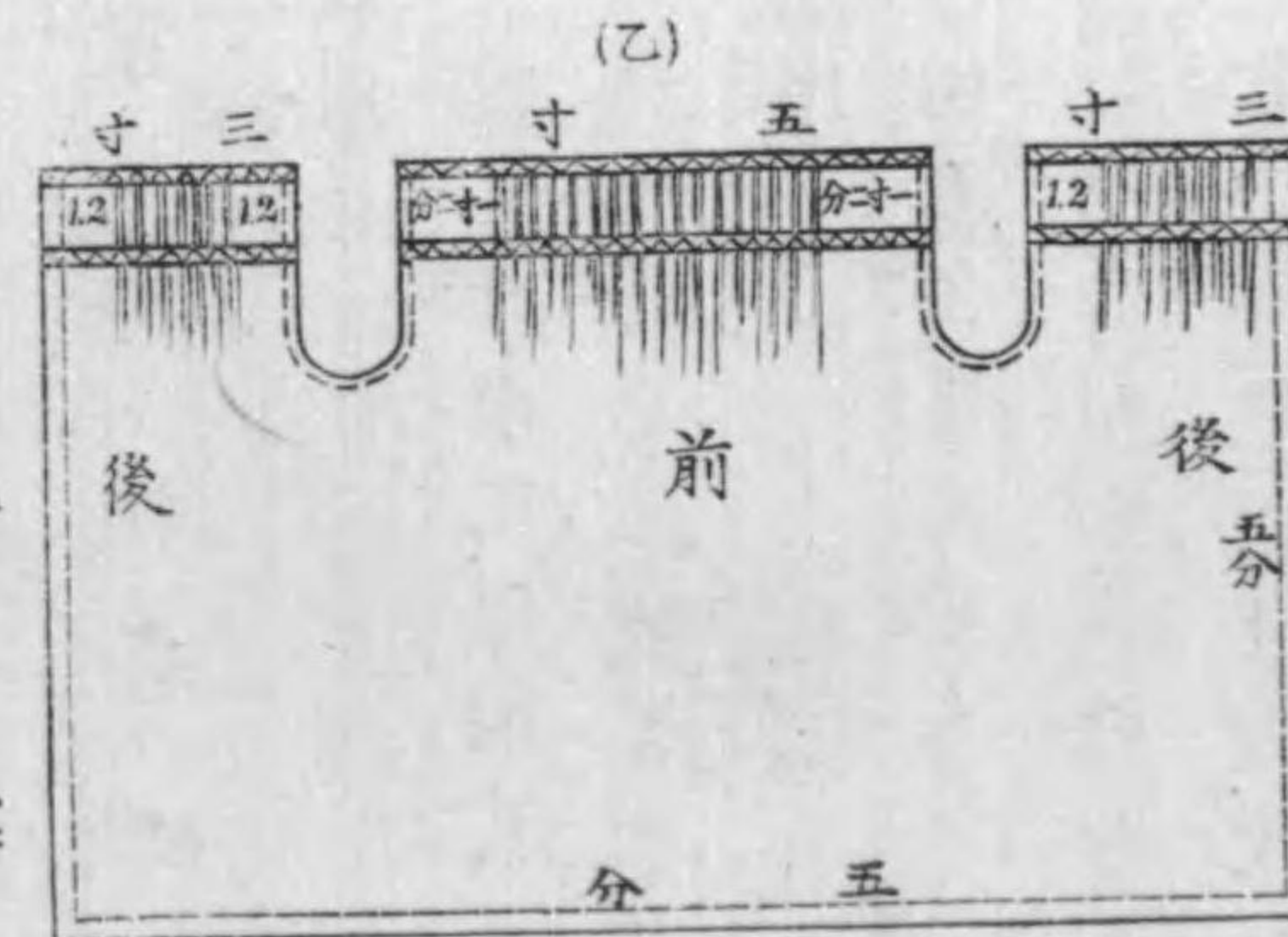
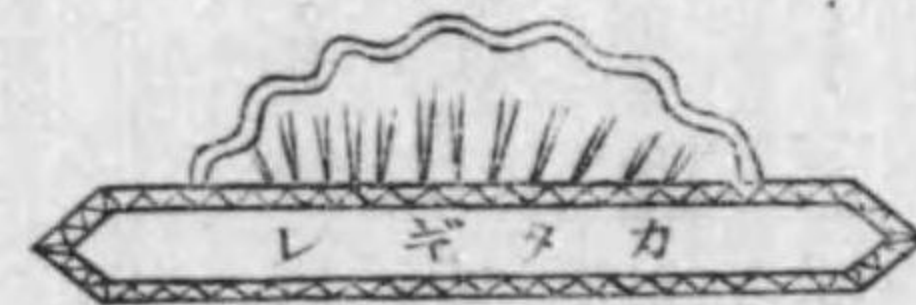
レイス。テツプ數尺

縫方順序

第十三圖の如く各部に寸法を印して裁切ります。最初後身の縦目兩側と裾廻りを三分位の巾



第四十圖 (甲)



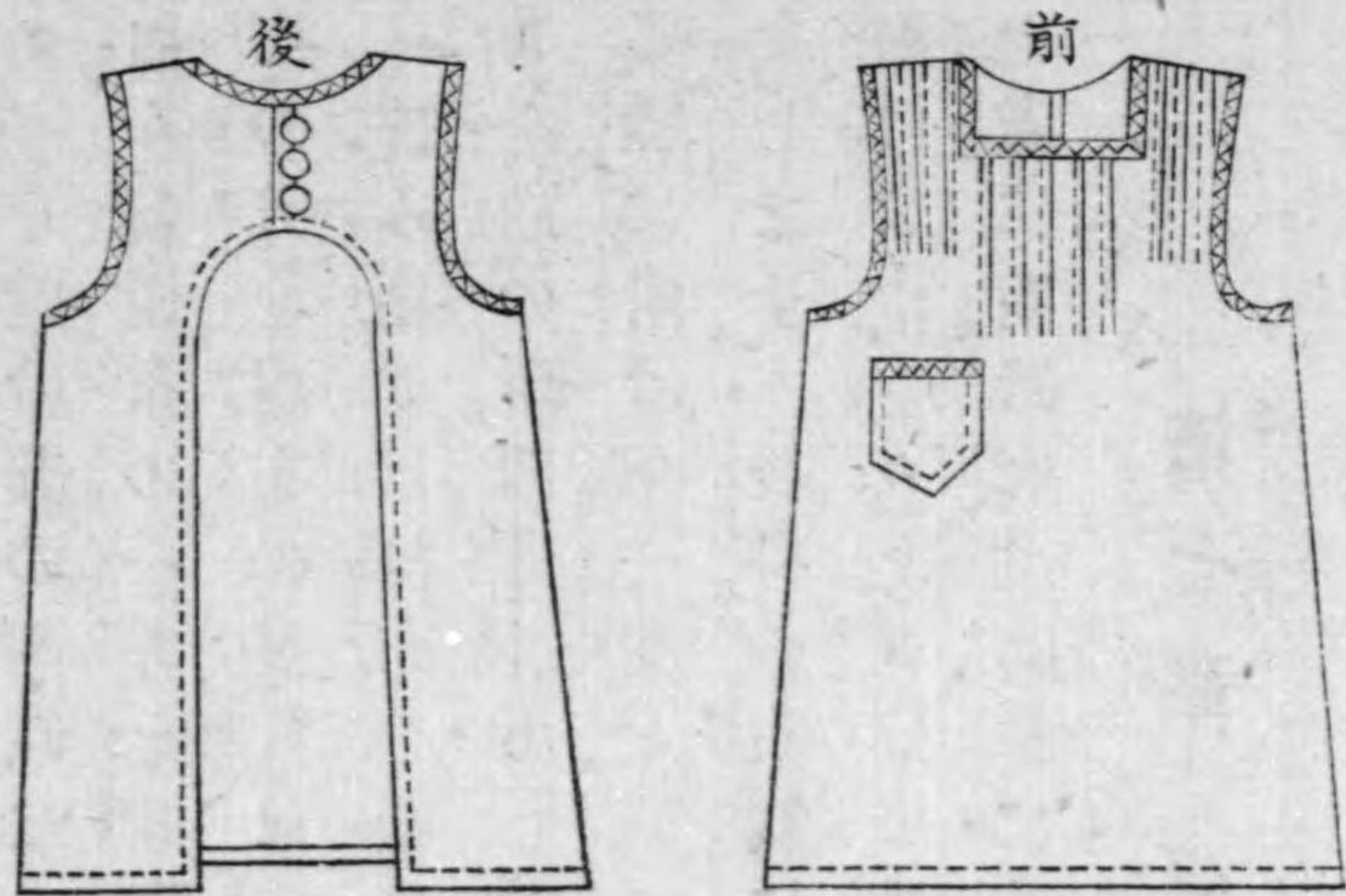
に折伏せてミシンを掛け袖明を三ツ折にしてマツリ縫ひに致します。前身頃に於て袖明から一寸二分入りたる所の中間を縫締めて前總巾五寸となし後巾は左右二ツとも三寸に縫

締めます。又一寸下つた處に同じ巾に縫締めまして上下に飾テツブを躰け其の兩端にミシンをかけます。次に第十四圖(甲)の如く羽根布の一方を圓形に裁切り直なる方にレースを附け圓形の方を肩布の長程に縫締めて肩布を二ツ折に致しました間に挟み廻りに飾布を躰けてミシンをかけて置きます。次に肩布を肩の所四寸斗出して端は前後身の両端に一寸五分程懸る様に附け今一度ミシンをかけてか又は周圍をマツリ縫ひにいたします。後身の右側に豎に釦孔を三ヶ所かゝり。左に釦を附けます。カクシは豎横三寸位にして右袖明より一寸位下つた處に附け形は隨意に致します。

第七章 前掛 (第五種)



圖 五 十 第



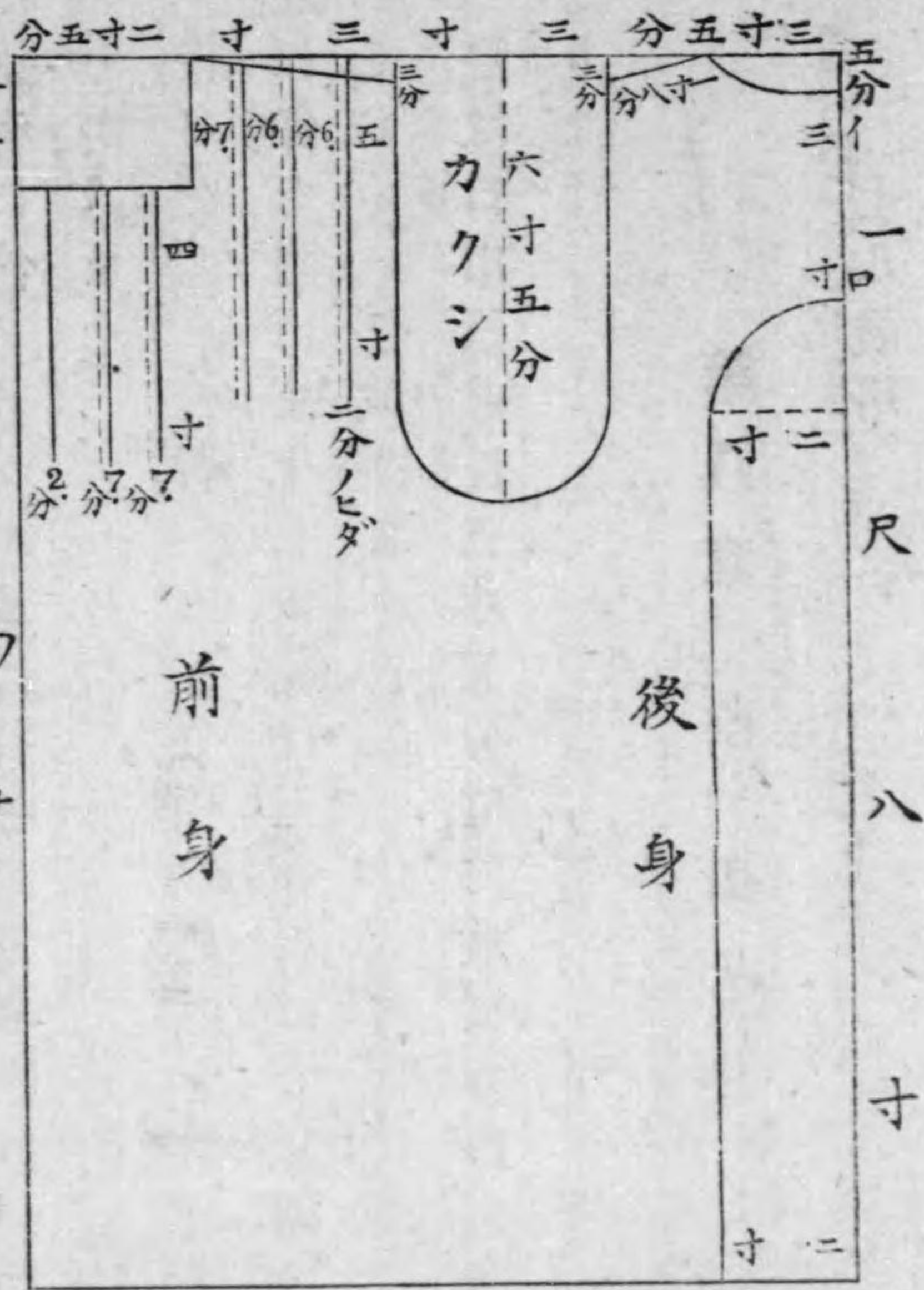
五木の襷を取りまして長を四寸位に折目は向つて右の方へ折

五六歳用  
用布は長一尺八寸。巾二尺四寸。  
テツプ數尺。  
二尺四寸の用布を二ツ折になし  
第十六圖の如く各部に寸法を印し  
て裁切ります。

縫方順序

前の輪と印のある方より最初は  
二分次に七分宛二ヶ所に標を付け  
まして之を山に襷を取るのであり  
ますが中央に一本左右に二本都合

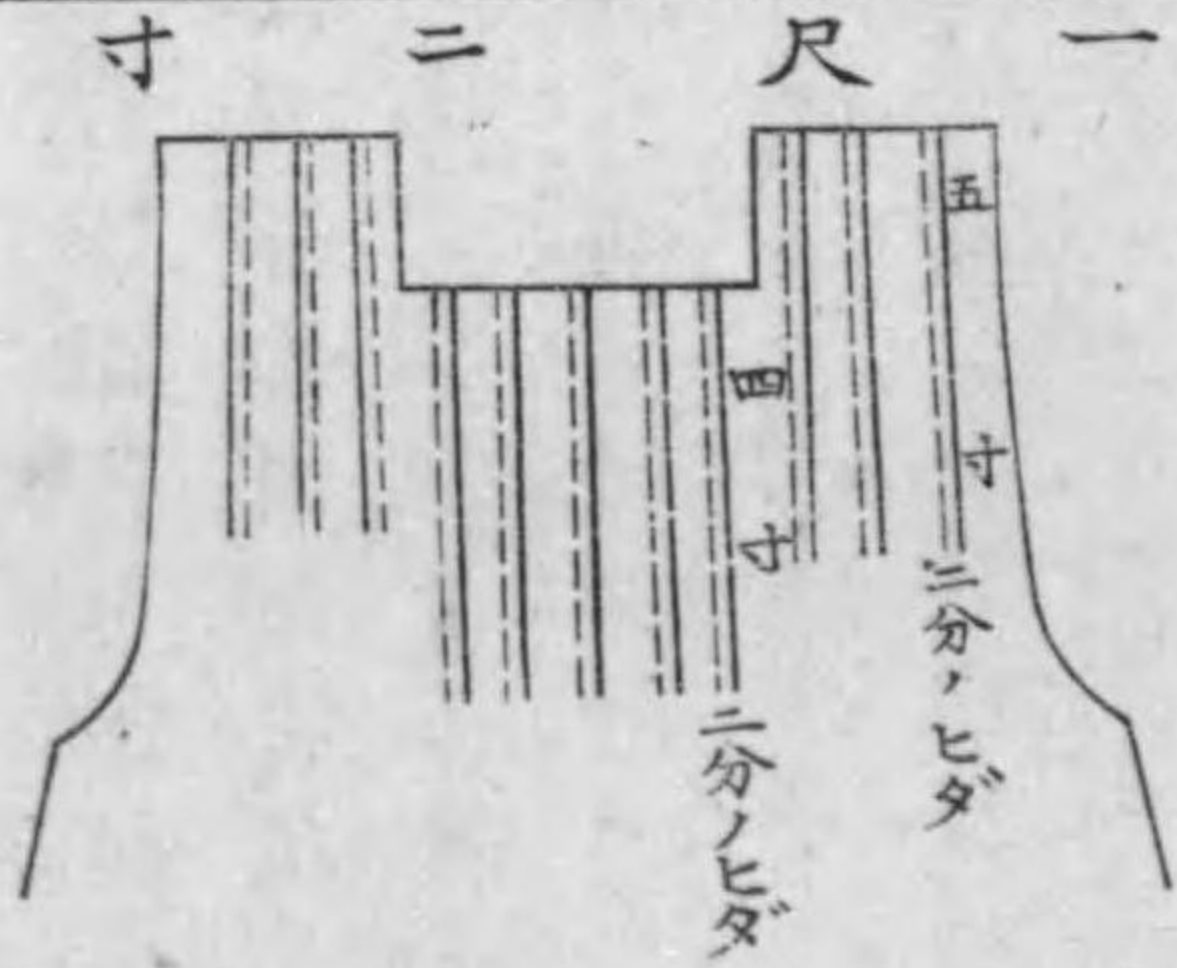
圖 六 十 第



返して置きます。次に肩の處も初め七分次に六分つ都合三  
ヶ所に印を附け此の印を山に二分の襷を取り丈五寸位の處迄

第七章 前 掛(第五種)

第十七圖

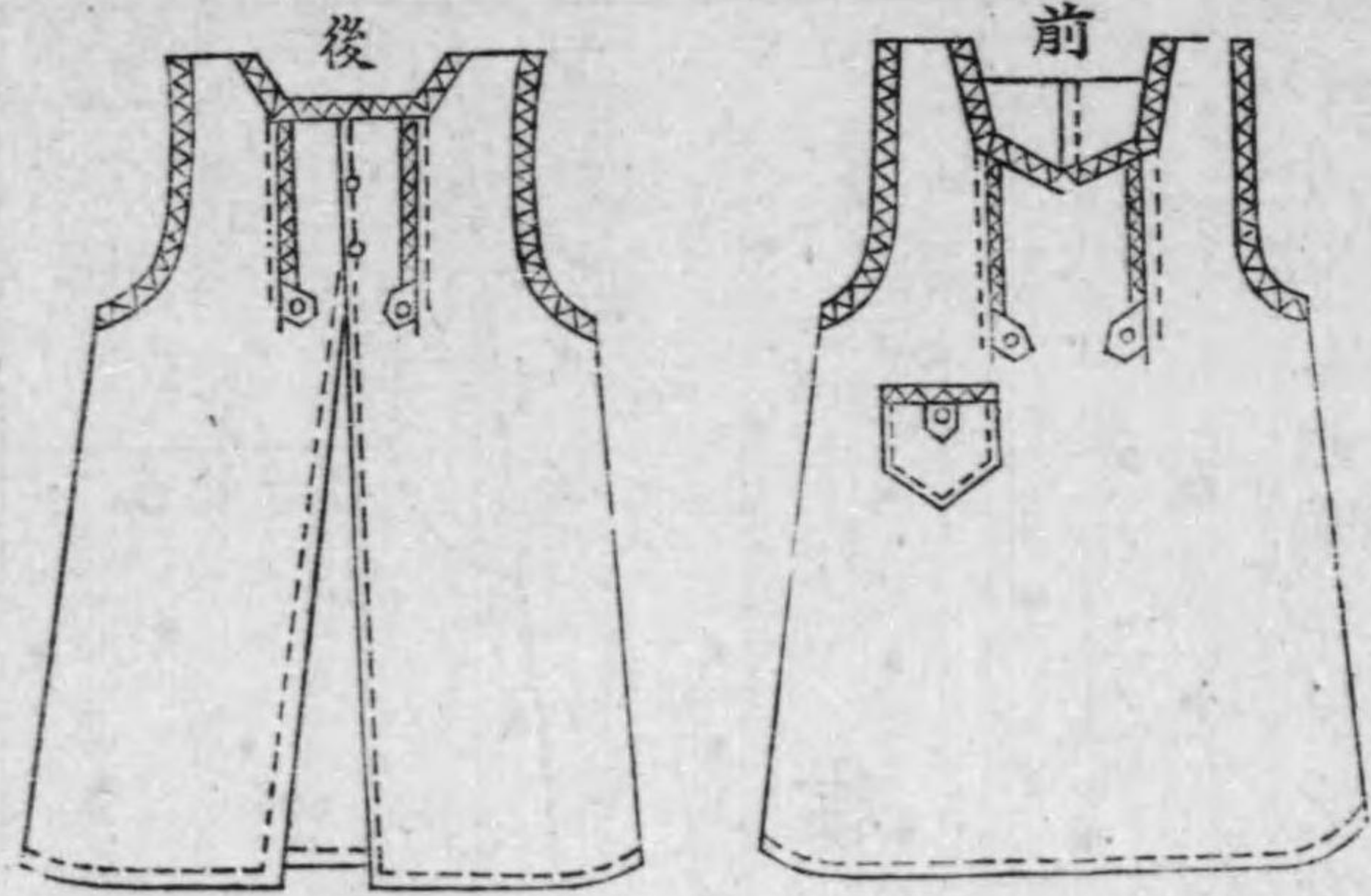


ミシンをかけ折目は袖明の方へ返して置きます。  
 次に後前の肩を縫合せ折目は後身に返し衿廻りと袖廻りに  
 は適宜に飾テップか或は緑色の飾布を躰けまして両端にミシ  
 ンをかけます。  
 後身の(イ(ロ)の所へは五分程の見返を付けて右に釦孔をあけ  
 左に釦を附けます。後脇は三ツ折になし裾は五分の巾に折伏  
 せてミシンをかけます。  
 隠は口巾三寸長三寸五分位に裁切り口の所へはテップにて  
 飾ります。

第八章 前掛 (第六種)

七八歳用

第十八圖

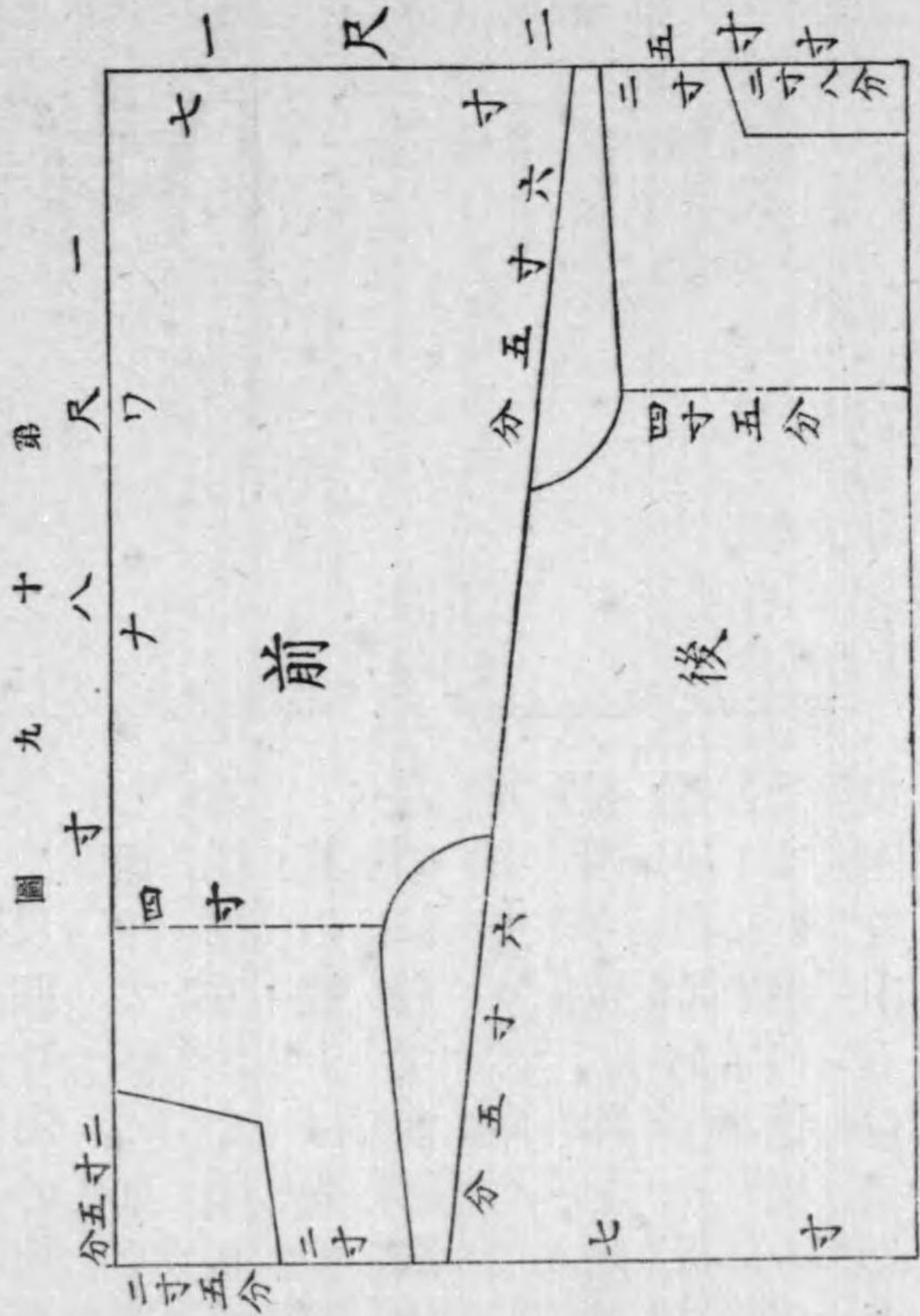


要布は長一尺八寸巾二尺四寸飾テップ數尺。

縫方順序

二尺四寸巾の用布を二ツ折にな  
 し第十九圖の如く前後と裁遣にな  
 る様に寸法を印して裁切ります。  
 其の縫方は先づ第二十圖(甲)の前  
 身頃に於て前に裁込ました角(イ)よ  
 り中央(ロ)に向つて二分五厘の處に  
 長四寸位に印を附け是を山に二分  
 五厘の襷を作り折目は中央に向け  
 ます。別に色變りの切地を斜目に  
 丈四寸巾五分に切り是を二ツ折に

第八章 前掛 (第六種)

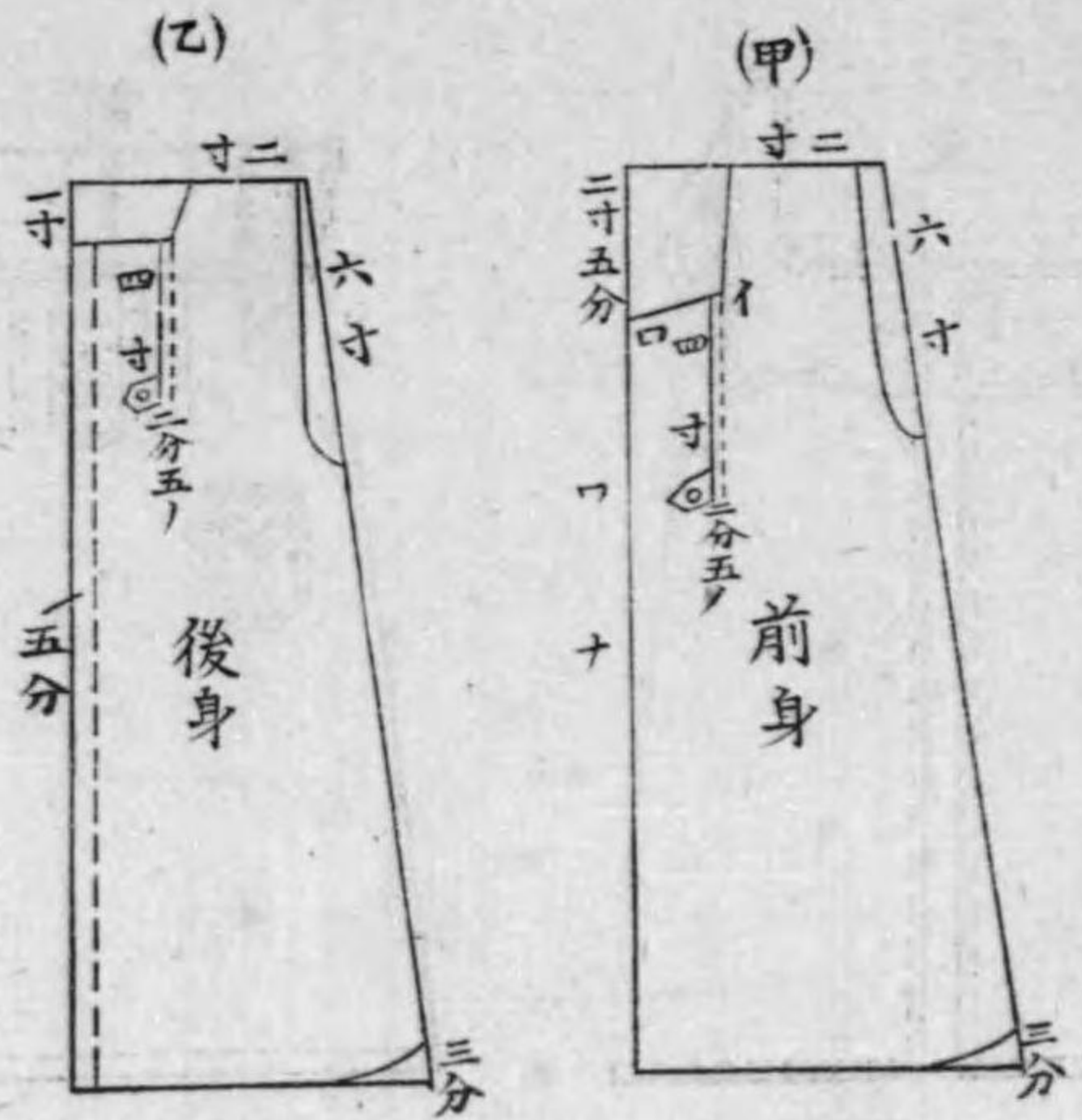


三角の小切には飾ボタンを附けます。次に第二十圖(乙)の後身頃も端を五分折伏せて表よりミシンを掛け切込の角より二分

三三 致しまして襷の下に挟みます。又別に三角の小切を七分位の切り圖の如く襷の下に挟みまして上から襷全體に飾ミシンを掛けま

五厘の所に印を附け是を山に二分五厘つまみて襷を作り前身と同様に小切を挟み上よりミシンをかけて置きます。次に肩

第二十圖

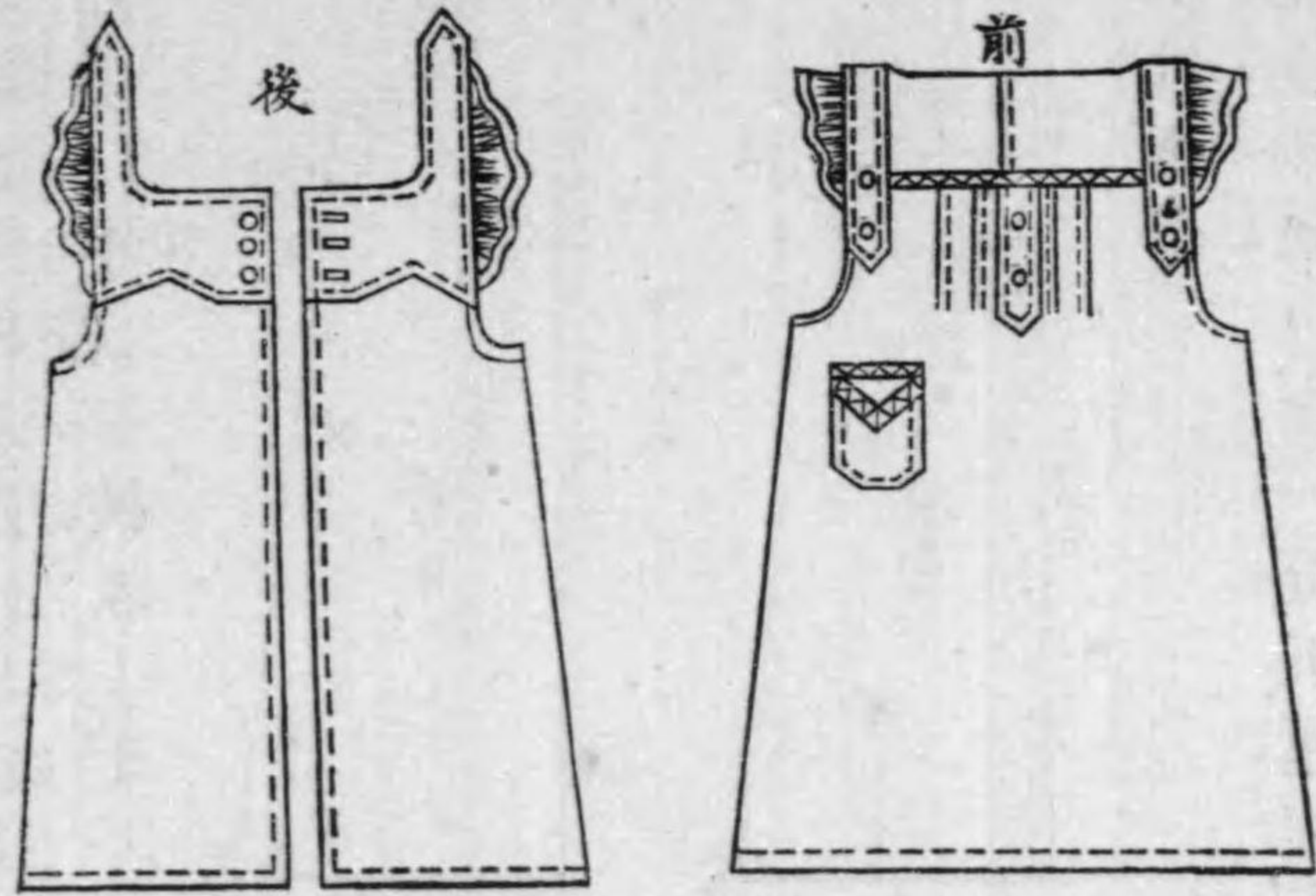


を袋縫になし折目は後身に返し袷の周囲は角々に二分程の銕みを入れ表の方へ折返し其の上七分位の巾に飾切を折伏せて袷廻り通りに載せて襷をかけ廻りにミシンを掛けます。前後身頃の兩脇を縫合せて袋縫になし裾は五分位の巾に折伏せてミシン

をかけます。

袖明の廻りを一分五厘程表の方へ折伏せ其上に三分位の斜

圖 一 十 二 第

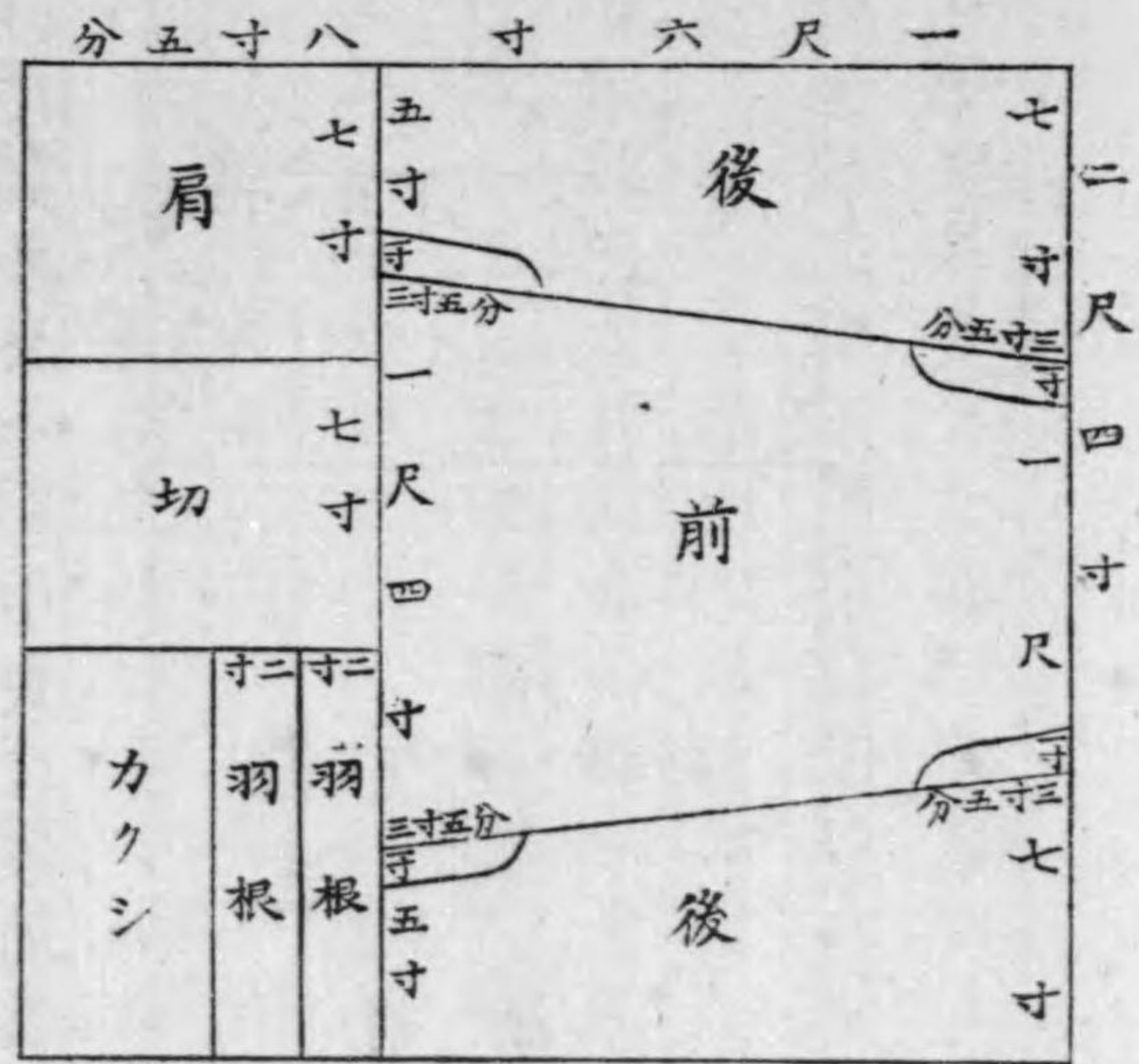


二四  
目の飾切を折伏せて兩端にミシ  
ンをかけます。  
カクシは前身の衿の落切にて  
出來上りの口巾を三寸位に作り  
上に飾布を付け前身の右側に縫  
附けます。  
後身の右側に釦孔を縫り左側  
に釦を縫附けます。

第九章 前 掛 (第七種)

六七歳用  
要布は長二尺四寸五分巾二尺

圖 二 十 二 第

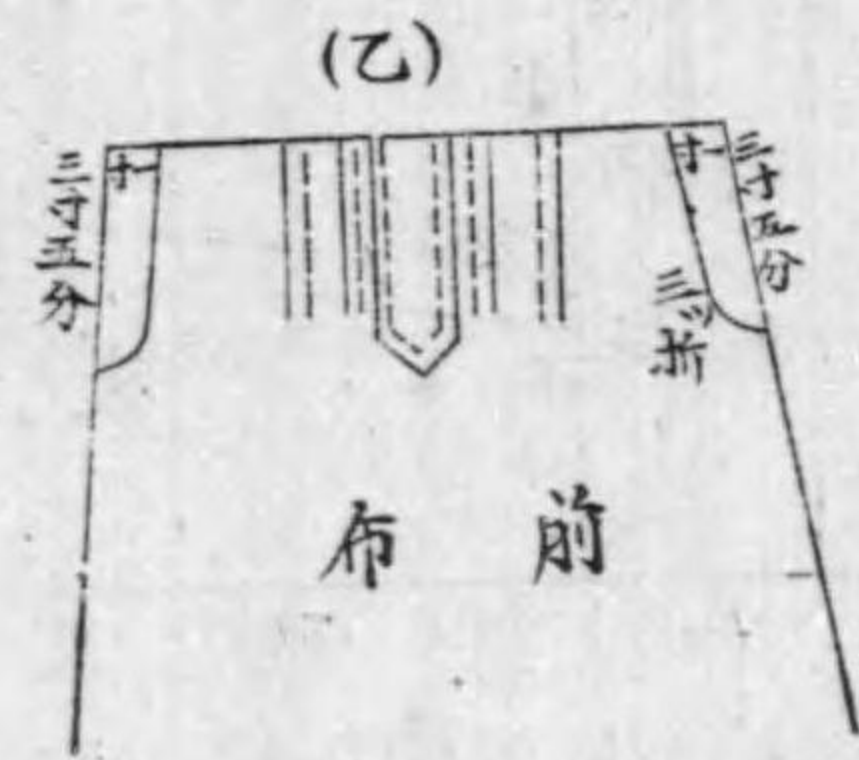
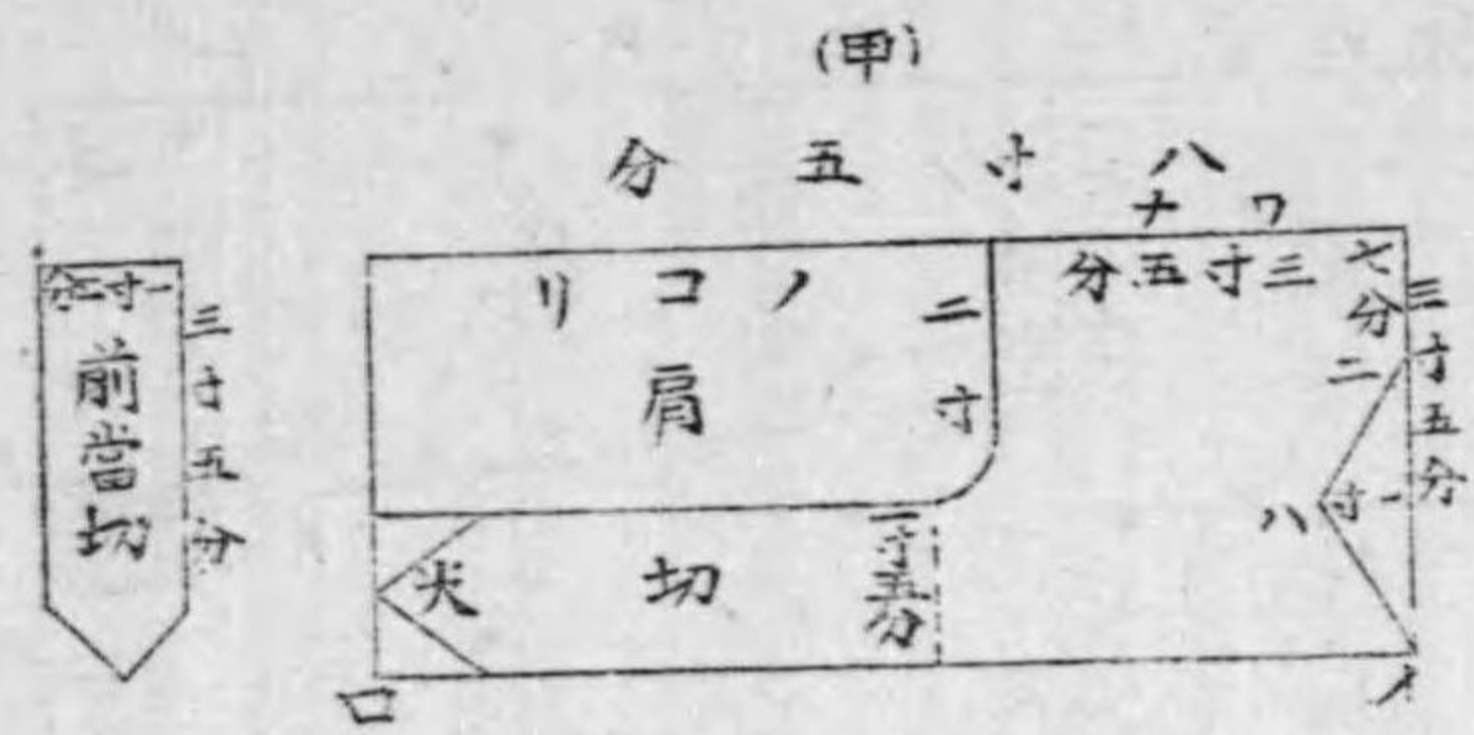


四寸レース、テツブ等數尺。  
(甲)裁方順序  
第二十圖の用布總合圖  
に於て身頃は裁違になる様  
に寸法を印して裁切ります。  
肩切とある布は二枚重ねま  
して二ツ折になし輪の方よ  
り第二十三圖(甲)の如く各部  
に寸法を印して裁切ります。  
(乙)縫方順序

先づ前身の布を二ツ折に致しまして輪の方より一寸づつ二  
ケ所に丈二寸位に印をつけ之を山に二分五厘つまみまして襷  
第九章 前 掛(第七種)

を作り折目は袖明の方に伏せて置きます。次に袖明の處は一分位の巾に三つ折にしまして、まつり縫をするか或はミシンを掛けて置きます。中央には前當切とある三角の小切の廻りを

圖 三 十 二 第



少し伏せて下に色變りの斜目布を椽に少し出して上からミシンをかける。上層美しく見えます。上の端はレースかテップを付けて置きます。次に後身の縦目の方を五分の巾に折伏せてミシンを掛け袖明は三つ折に致して置

きます。

羽根布の一方を圓形に裁切り直なる方にレースを附け圓形の方を第二十三圖(甲)肩切の(イ)口の長に縫締めまして(イ)口に合せてミシンを掛けて置きます。又肩布の(ハ)ニと印のある角に二分位鉄を入れ肩布の廻り全體を二分位に折伏せ(肩裏布も同様に致しまして)後身頃の上に載せて鉄をかけ夫から周圍全體にミシンをかけます。次に前身と後身の斜目を合せて袋縫になし折目は後身の方に返し。裾は五分巾に折伏せてミシンをかけます。胸の所は肩布の細長き部分を肩より折り、尖つた三角の所は前身の脇の所へ載せ周圍を新縫に致し飾釦をつけま

圖 四 十 二 第



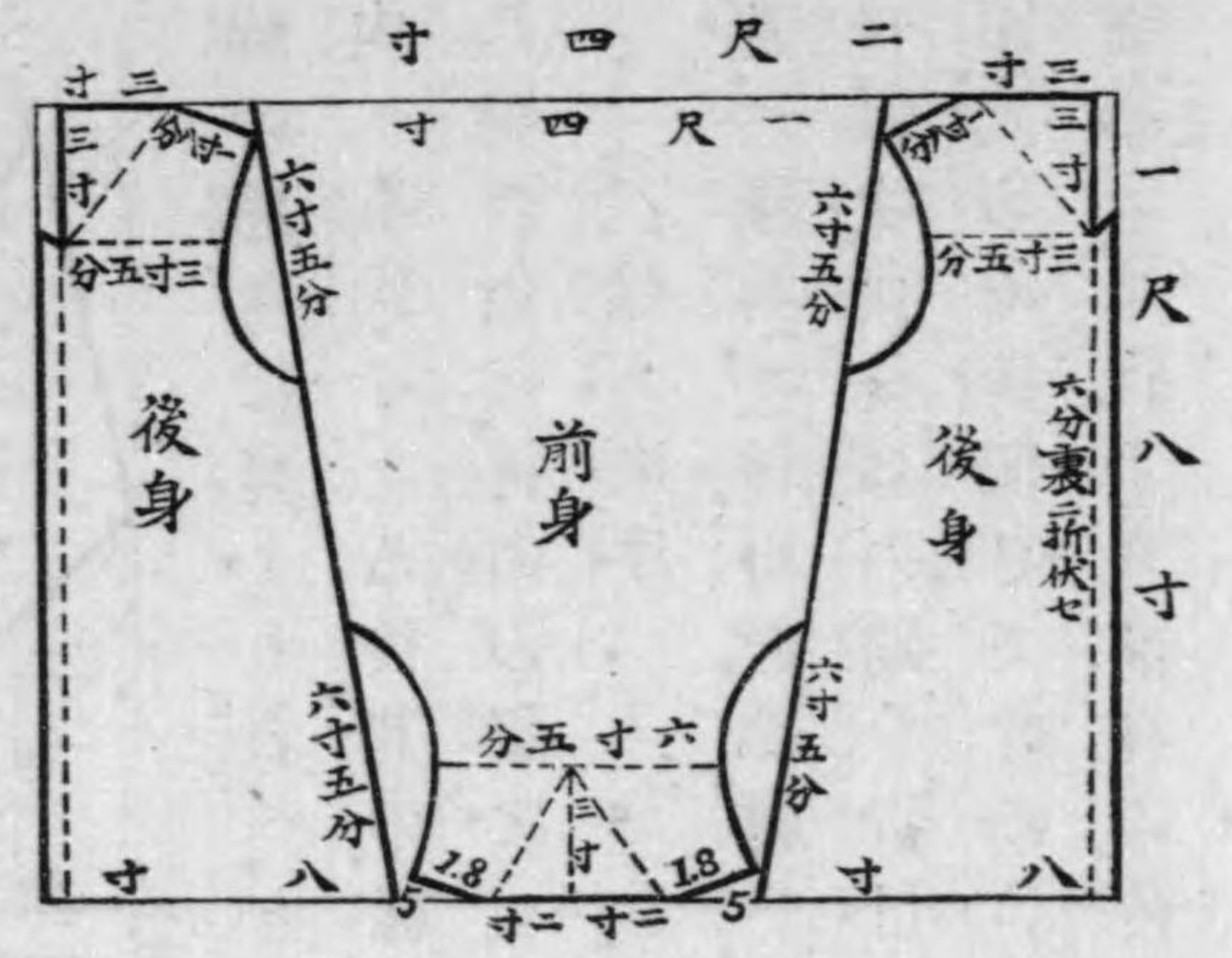
二八  
附けても附けなくも宜敷う御座いま  
すが此處では書載せました。

第十章 前 掛 (第八種)

五六歳用

此の前掛は第二十四圖に示せる如く  
衿を折つたハイカラのものであり  
まして用布は長一尺八寸巾二尺四寸  
を要しますが之では身頃だけしか取  
れませんから別にカクシ布と前三角  
當布を巾五寸長四寸程及びレースを  
少し用意する必要があるあります。

圖 五 十 二 第



(甲)裁方順序

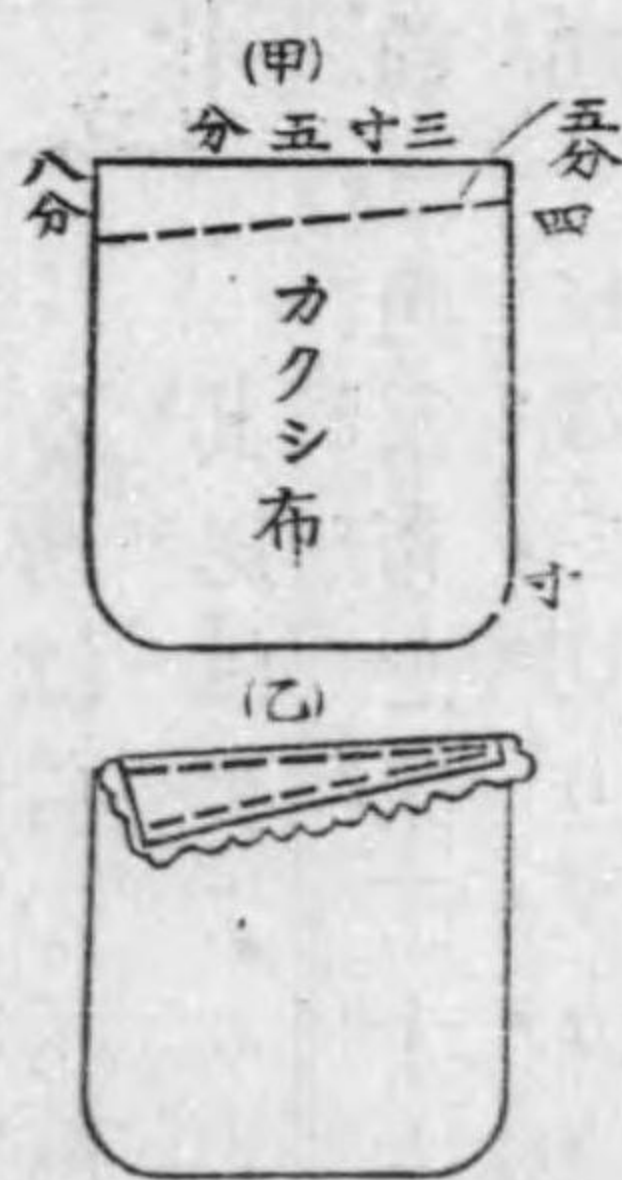
前身と後身は第二十五圖の裁  
方綜合圖に示せる寸法に依つて  
形造り大き線にて示せる輪廓通  
りに裁ち切れればよろしいのです  
前身は上部の中央に豎に三寸標  
のある所を其の三寸だけ豎に切  
ります。斜に波線にて標してあ  
る所は衿の折返る折目ですから  
其處は裏より表へ返して折癖を  
當布を第二十六圖に示せる如き  
裁ち切り又カクシ布は第二十七

つけて置きます。次に前三角  
寸法にて大き線の輪廓通りに裁ち切り又カクシ布は第二十七

圖六十二第



圖七十二第



圖の甲に示せる如き寸法に裁ち切り而して上部を五分と八分の

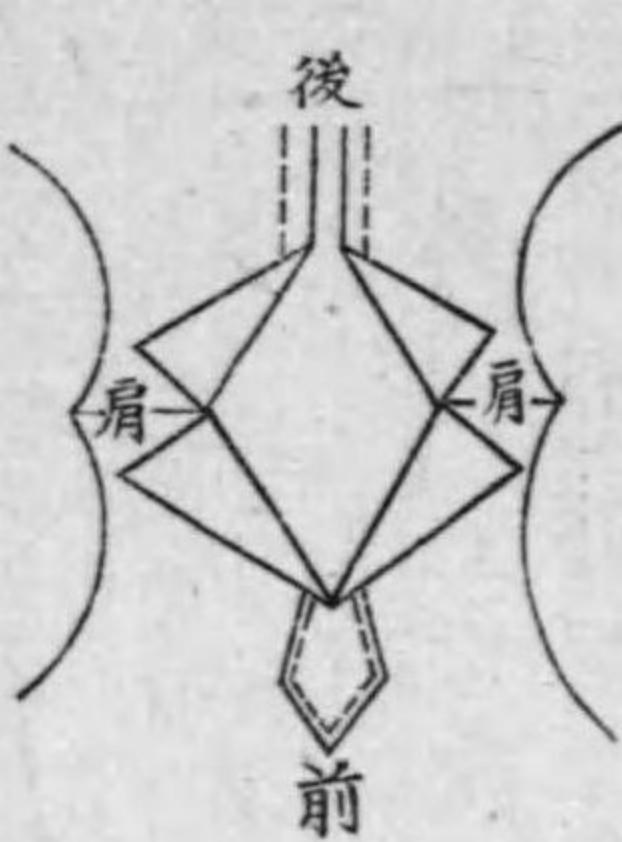
斜線の通りに裏より表へと折返し其の折返した部分の縁を少し内へ折伏せたる後其の縁へ同圖の(乙)に示せる如くレースを縫ひ付け尙ほ折山の際にミシンをかけて置きます。

(乙)縫方順序

先づ前身と後身との肩を縫合せ縫目は後身に折伏せてマツリ付け次に後身の端を折目の線より六分裏の方へ折返し其の端を又少々折伏せて此の二つの折目の際にミシンをかけて置きます。それより前身の衿を折目通りに正しく折り後身の衿

も同様に折つて置き而して前三角當布を前身の衿の下に挟みて中央に据え兩脇と下の三方を裏へ少し折伏せてミシンにて其の縁を縫ひ付ける事第二十八圖に示せる如く致します。次に前身の衿の縁を裏へ少し折伏せ其の縁へ前身より後身

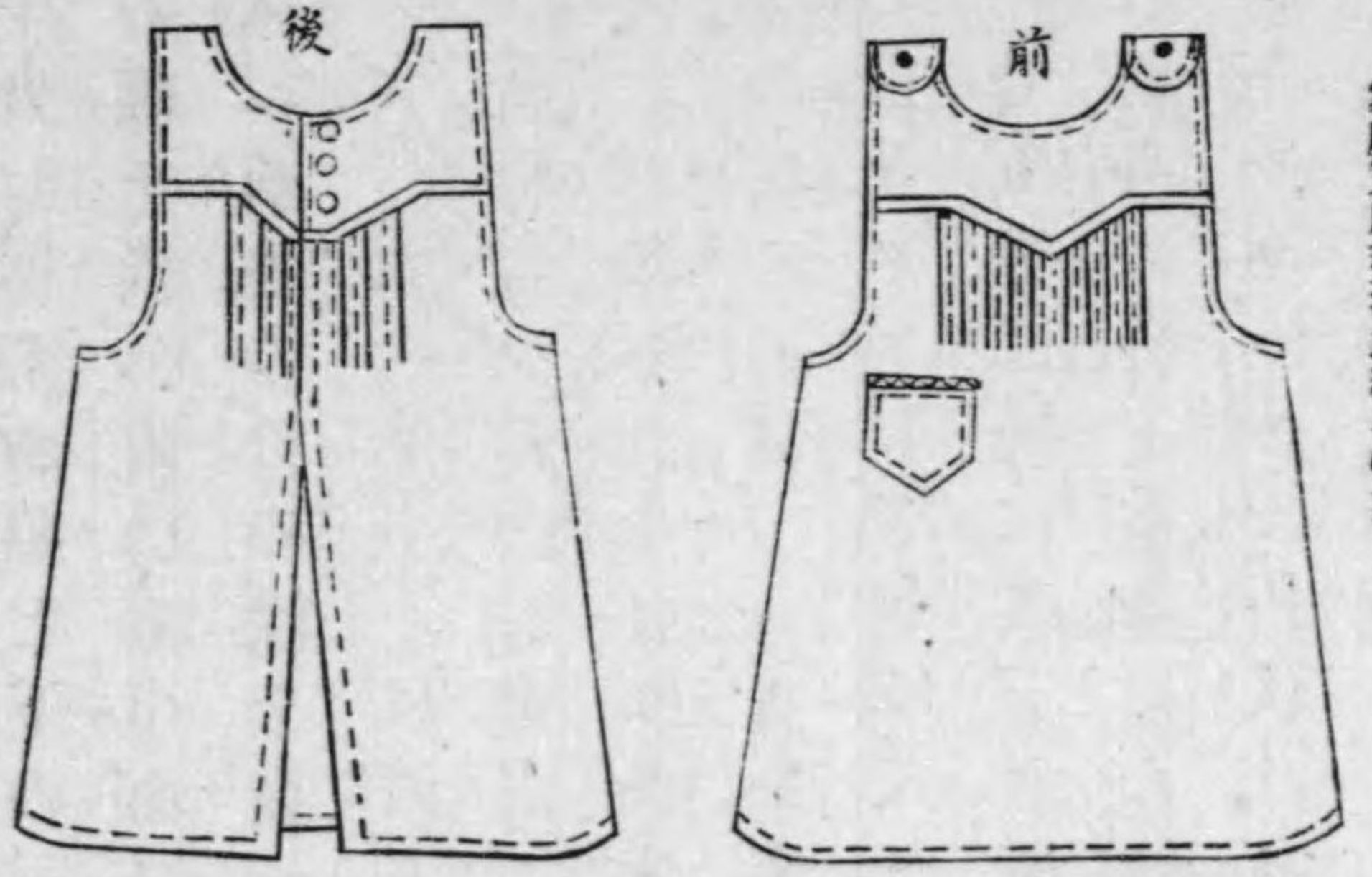
圖八十二第



幅の白テップにて包みてミシン或はマツリ縫になし後身の右に一寸五分間隔にて三ヶ所釦孔を縫り左に同位置へ釦を三個つけ前身の衿と當布にも飾釦をつけて置き次にカクシ布を左右と下を裏へ少々折伏せ身頃の右の方へ縫附けて置きます。

圖九十二第

乙圖に示す後肩布も前肩布と同様に一尺三寸を四ツ折にして

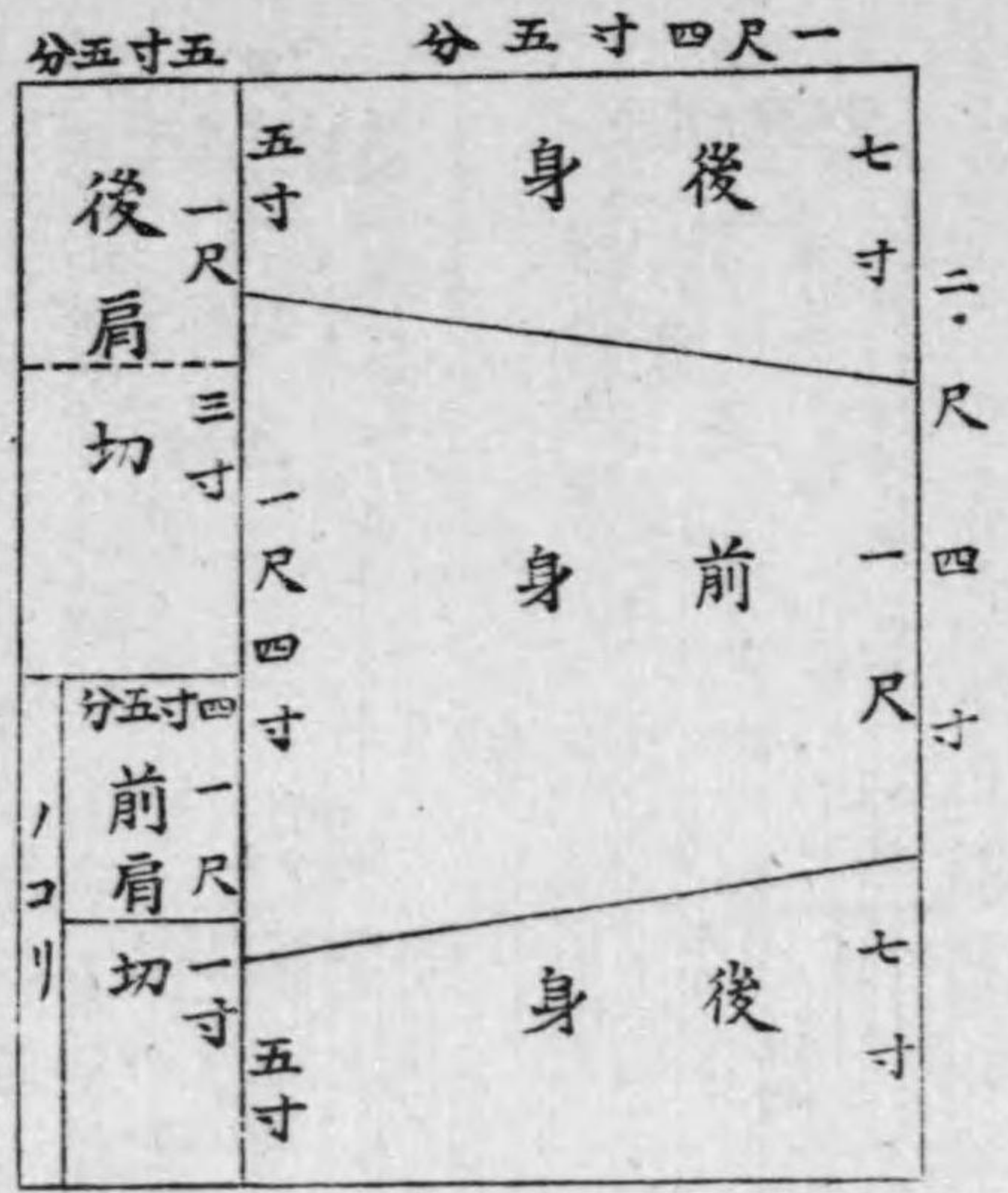


要布は長二尺、巾二尺四寸  
四五歳用  
（甲）裁方順序

第十一章 前掛（第九種）

最初第三十圖の綜合圖に示す如く各部に寸法を印して裁切り更に綜合圖を分解致しまして第三十一圖（甲）に示す如く前肩布の一尺一寸巾の方を四ツに折り輪の法から各部に寸法を標して裁ち切ります。

圖十三第



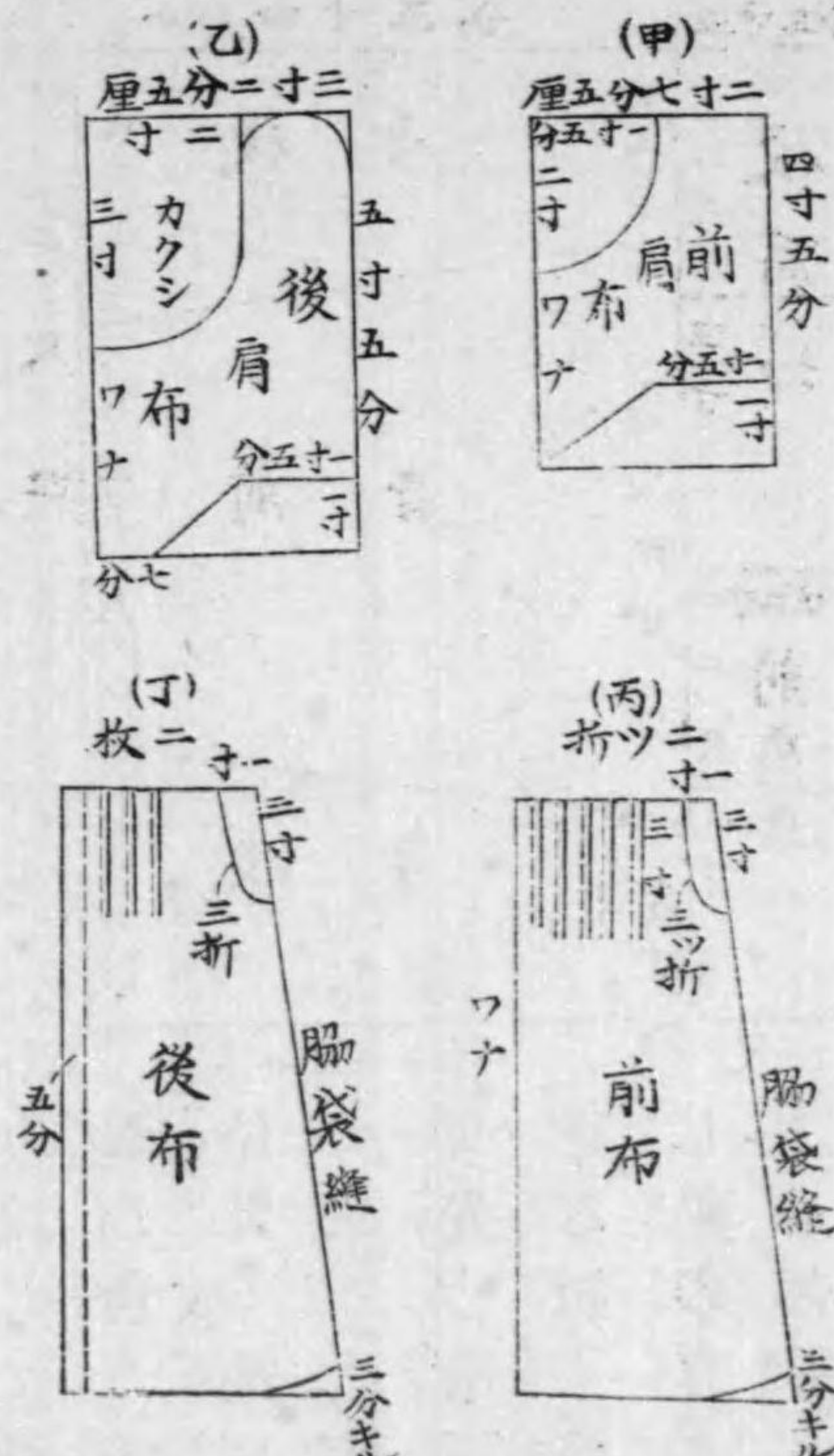
各部に寸法を標し裁切ります。是は前後肩布共裏表が出来て居ります。次に前身後身の斜目の方、上より長三寸、巾一寸裁切り

五本の襷を縫ひ丈は三寸斗りに致します襷は中央より左右に



割れて即ち右の方の襷は右向に左の方の襷は左向に折伏せて置きます。之で襷は左右合せて十本とる事になります。袖刳

圖一十三第

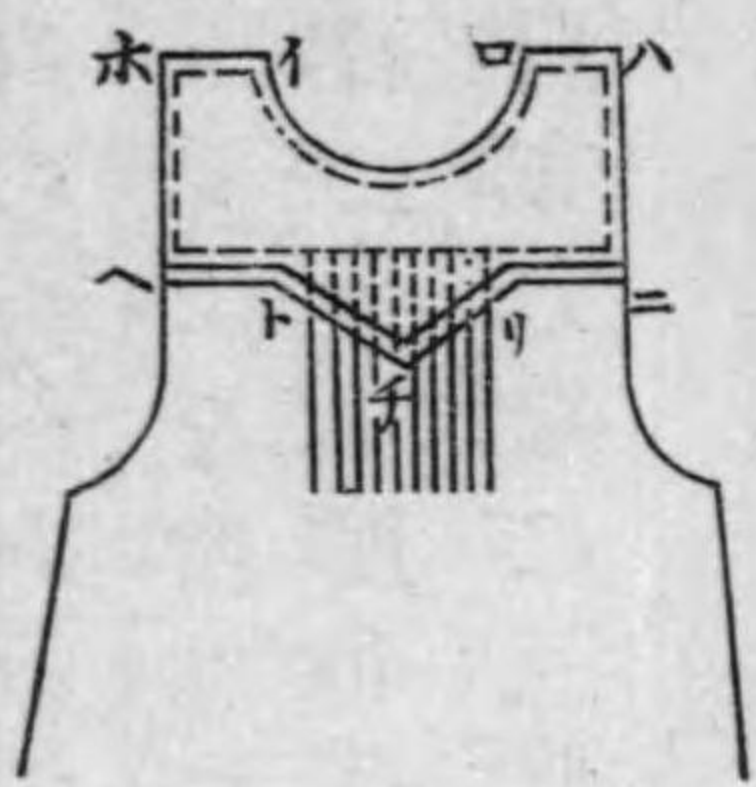


の(ト)(チ)(リ)に二分位切込を入れ(ヘ)(ト)(チ)(リ)(ニ)と印のある所を折伏せて前身の上に乗せて寝をかけ土から飾ミシンをかけ

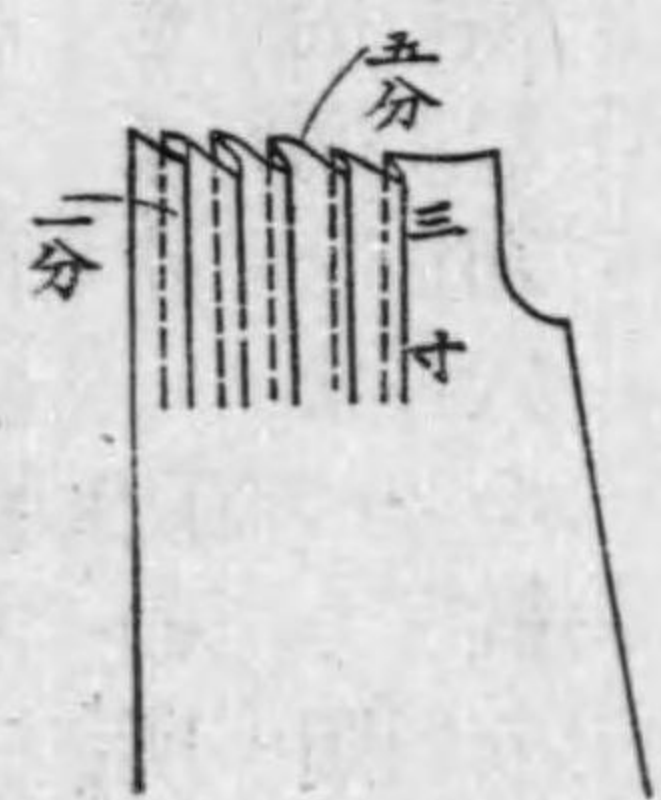
三四  
の處は細く三ツ折にしてミシンを掛けるか絡縫に致して置きます次に前肩布の三角の曲りたる所第三十二圖

て置きます裏布は衿廻りの(ホ)(イ)(ロ)(ハ)と印のある所を縫合せて裏に返し(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)の所を裏表共折込めて圖の如く飾ミシンを掛け下の尖りたる所は表と同様に少々折伏せて絡り縫に

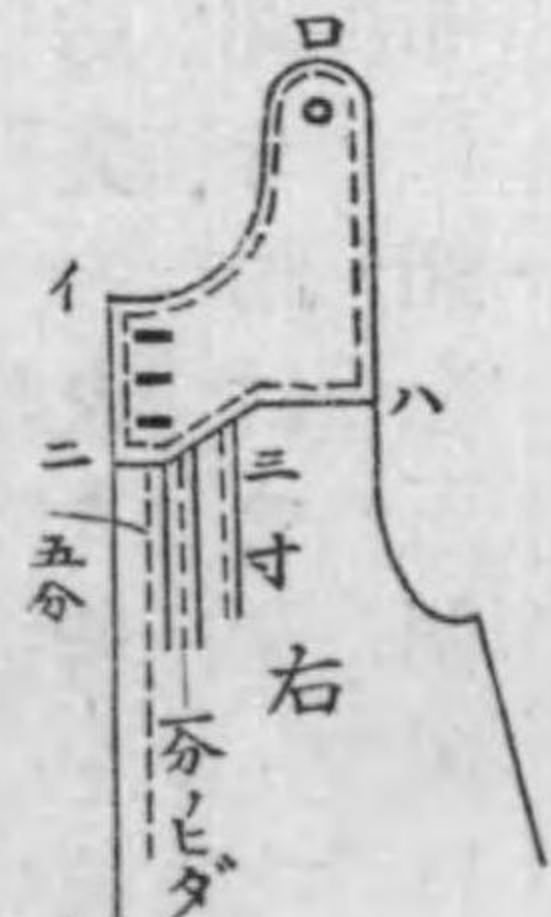
圖二十三第



圖三十三第



圖四十三第



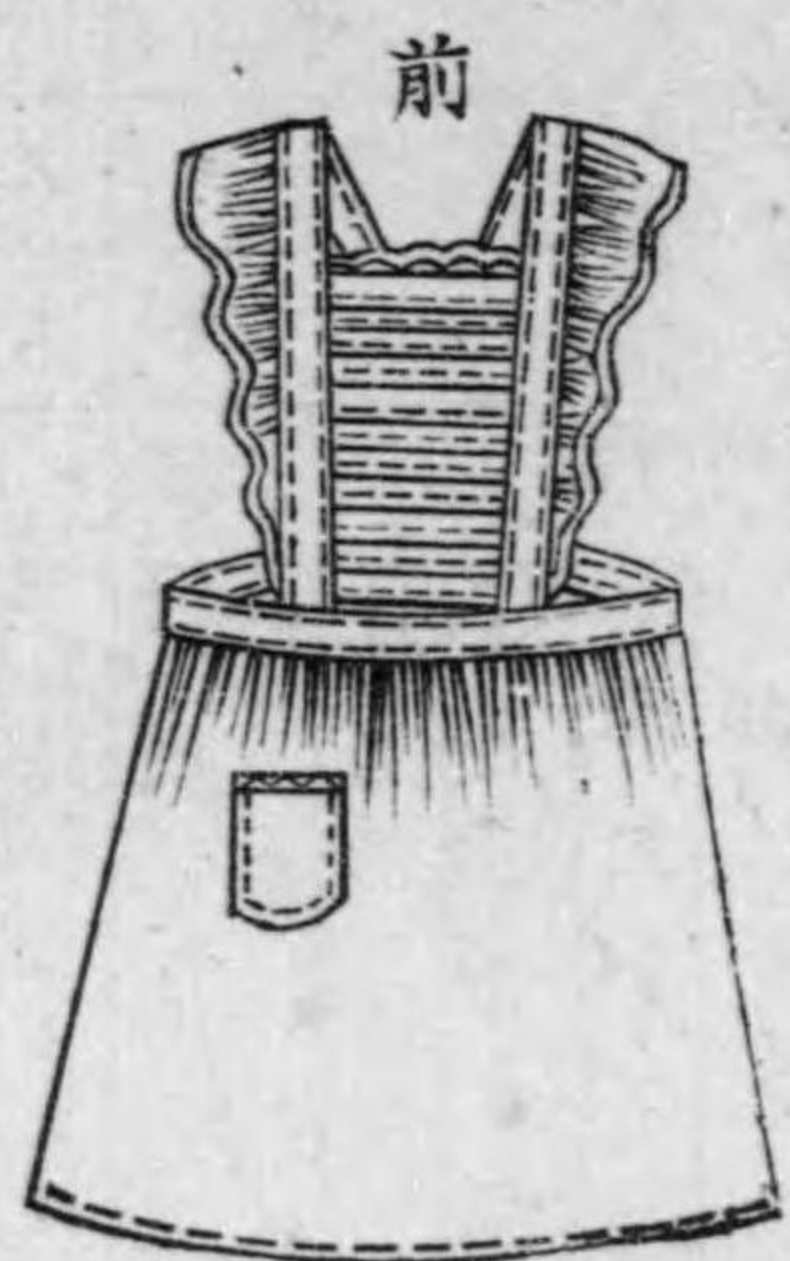
致します。

後布は豎目の端より五分の巾に折伏せて表よりミシンをかけ次に五分づつ五ヶ所に標を致しまして此の標を山に一分の襷三本を縫ひ折目は袖明の方へ向けます。袖刳は前身と同様三

つ折に致します。後肩布も曲りたる角に二分位切込を入れ肩布を身頃の上に乗せてミシンをかけ裏切は(ニイロ)の間を縫合せ裏に返して下の尖りたる處は絡り縫になし周囲全體に飾ミシンをかけます。次に前身と後身の脇を袋縫になし折目は後身の方へ向けてまつり付け裾を五分位の巾に折伏せて表よりミシンを掛けて置きます。肩の所は後肩先の丸き所を前身の肩に一寸程重ねて周囲をまつり付け飾釦を付けます。次に右肩布の端に三個所横に釦穴を縫り左肩布に釦を三個付けます、

隠は後肩布の衿割の落し切にて縦横三寸位の巾に端を少々折りまして位置は前身の右の方へ附けます。

第十二章 前掛 (第十種)

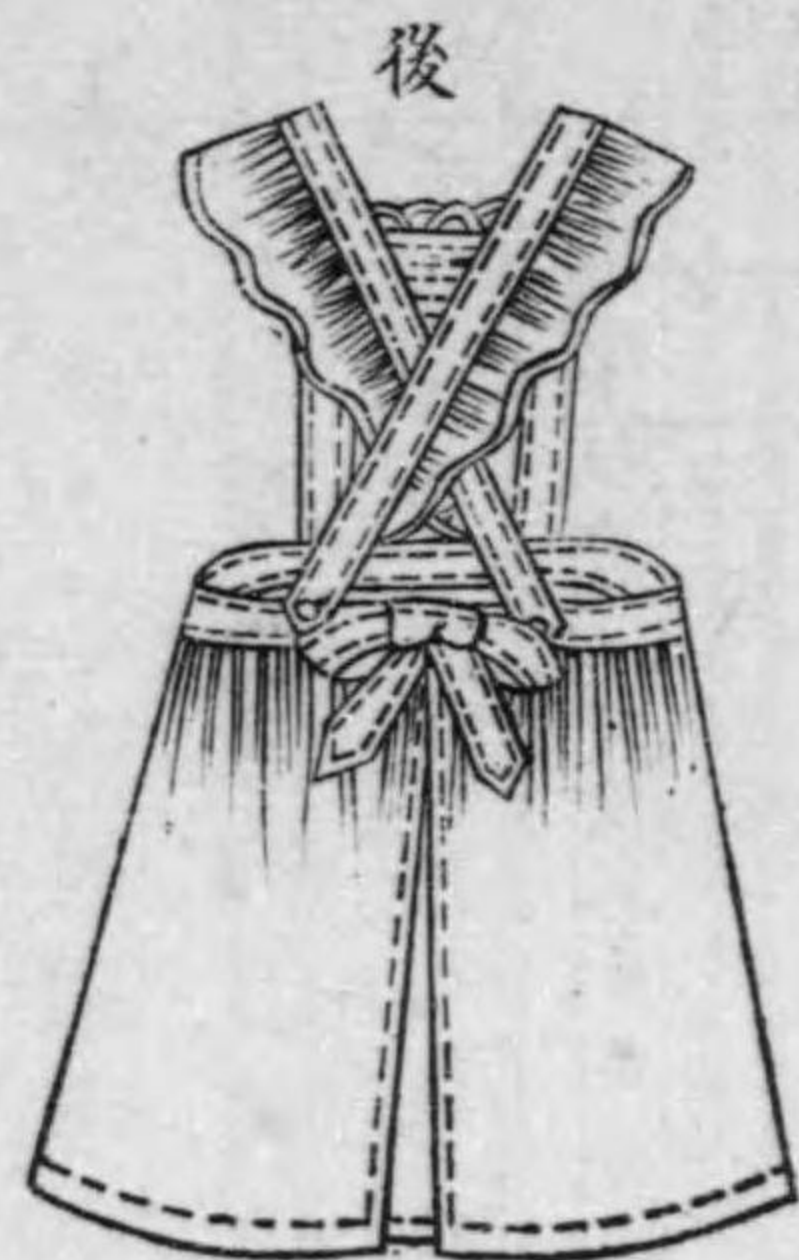


要布は長三尺二寸、巾二尺四寸、レ  
ス數尺

縫方順序

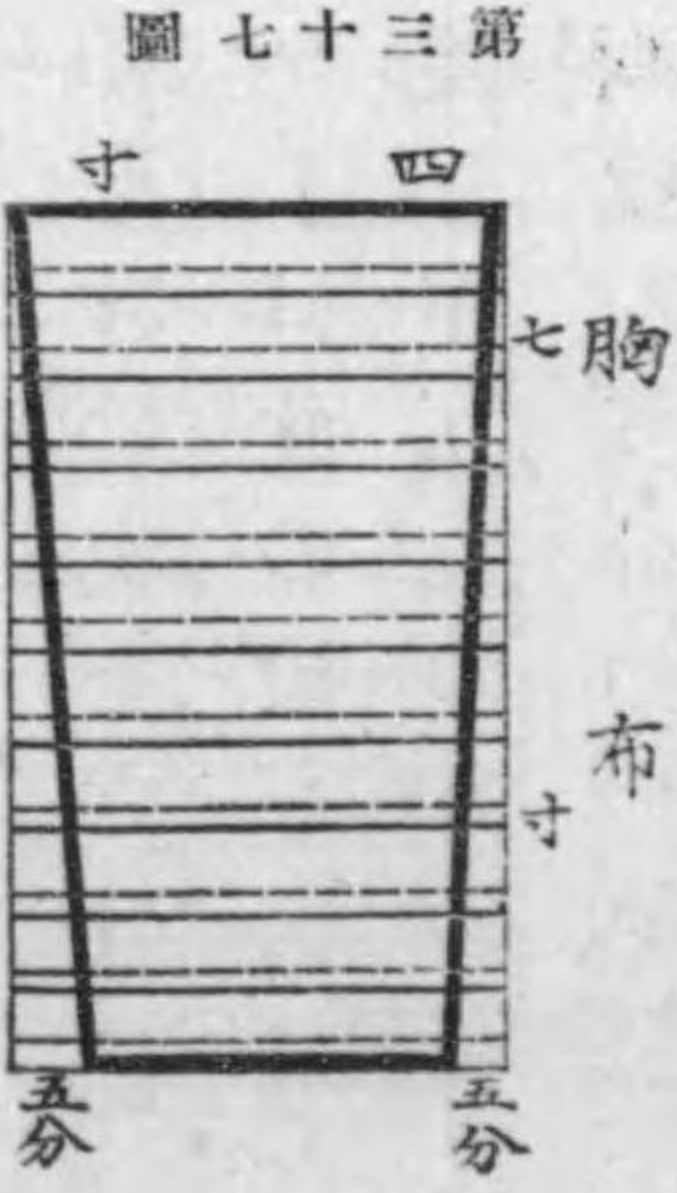
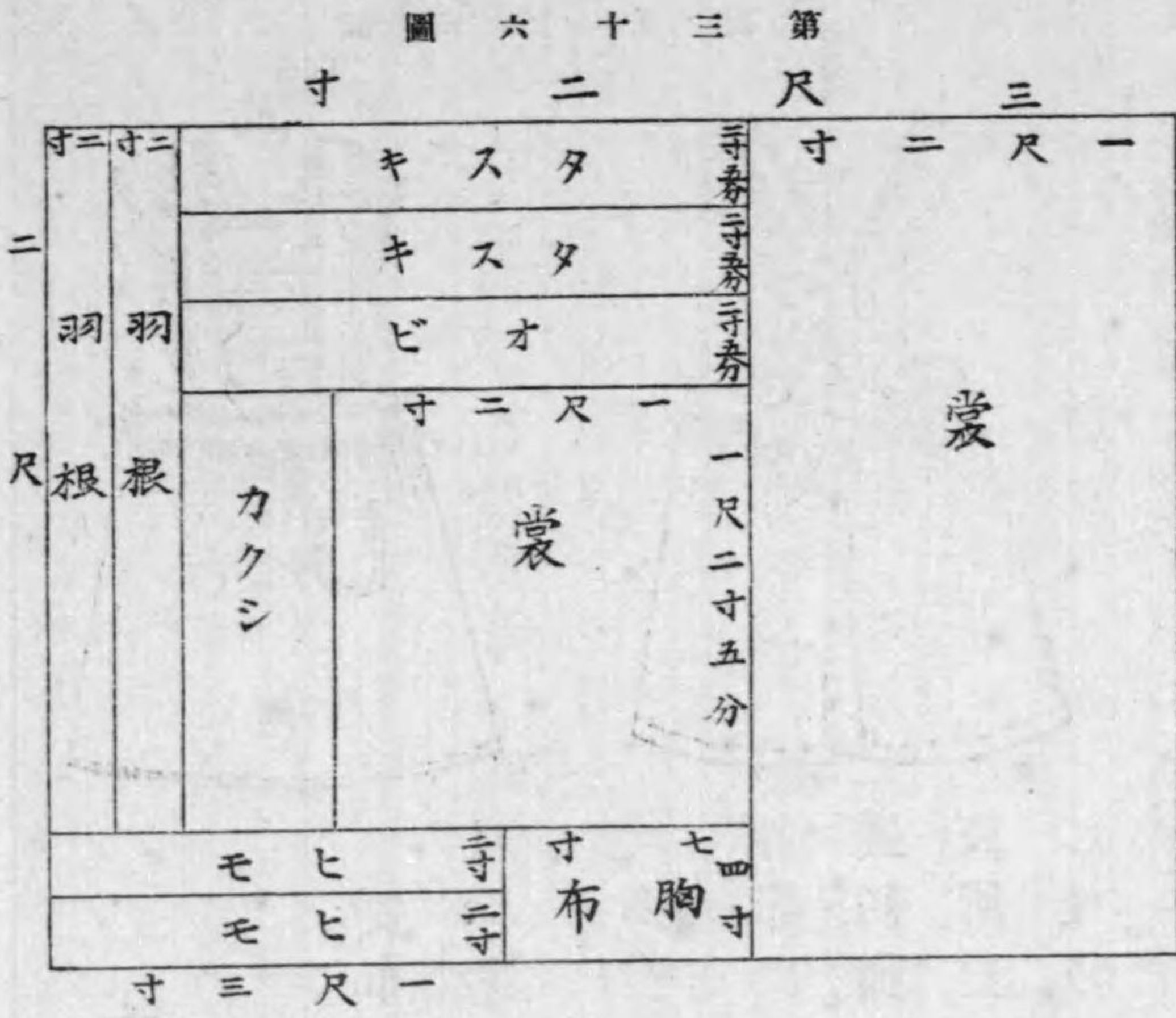
第三十六圖の綜合圖に示す如く各部に寸法を標して裁切ります。最初胸布の七寸の丈を六分づつ十箇所に標をつけ此の標を山に一分つまみて襷を作り上の方の端にレ

第三十五圖

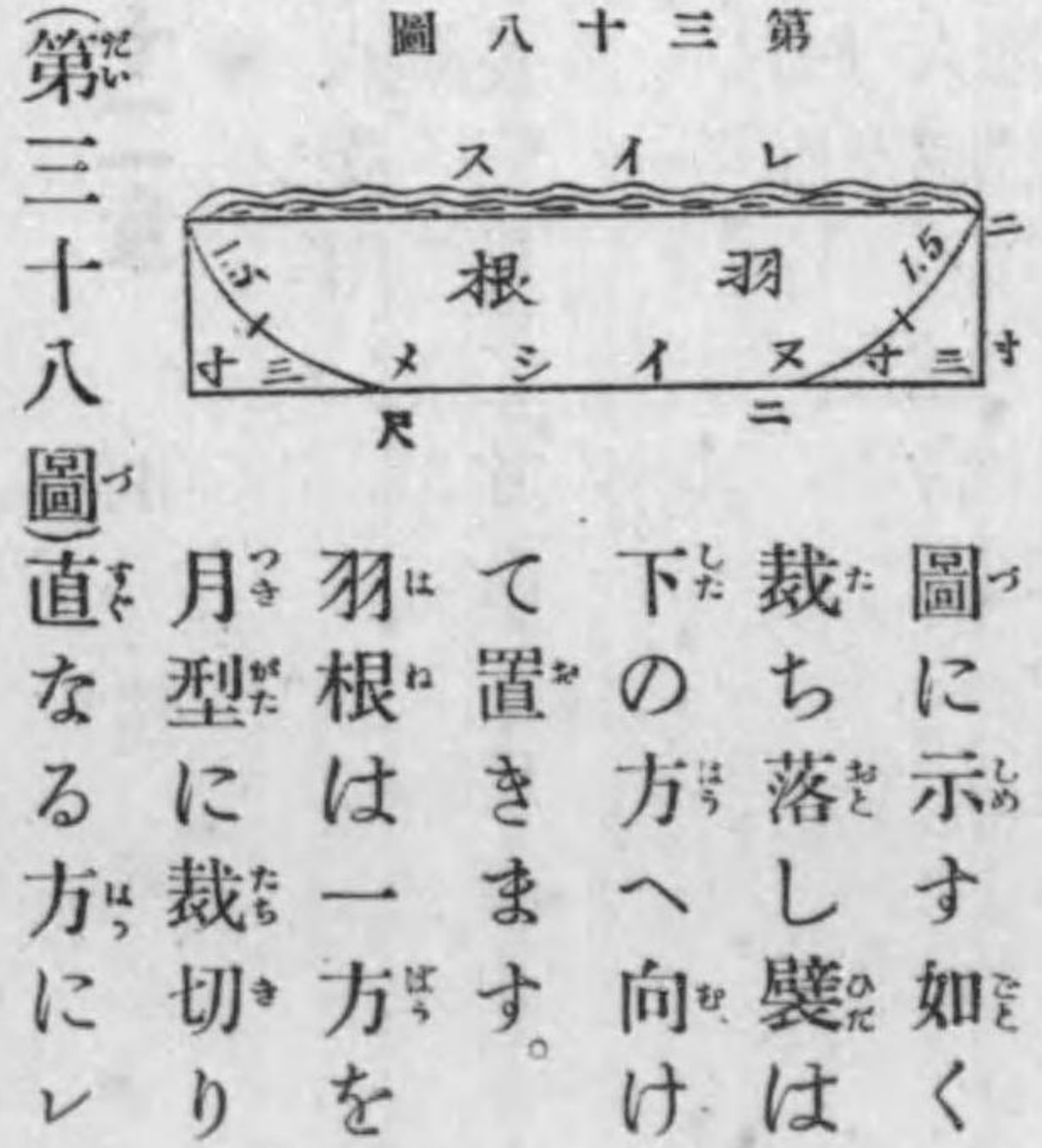


第十二章 前掛 (第十種)

二尺四寸

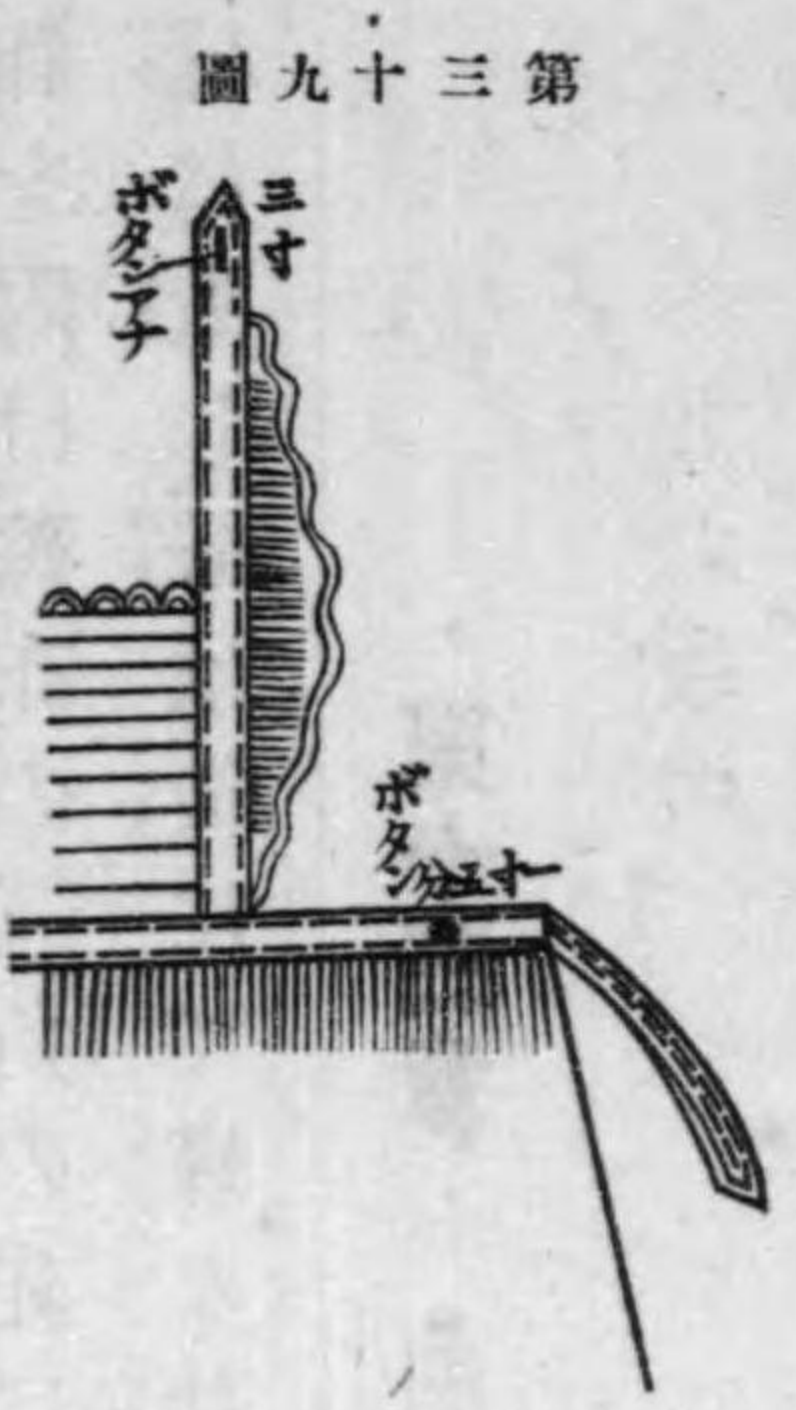


三八



圖に示す如く  
裁ち落とし襷は  
下の方へ向け  
て置きます。  
羽根は一方を  
月型に裁切り  
直なる方にレ

一、スを附け月型の方、両端より一寸五分位入つた處より一尺の  
長さに縫締て置きます。次に襟布を二つに切り周囲を少々折  
伏せまして一方の端を三角形に裁込み、其の三角の處より三寸



の巾に折伏せてミシンをかけて置き、一方上の方を細に縫締め  
ます。が長は帯丈と同じ長さに縫締めて置きます。そこで帯布  
を二枚に切り、其の周囲を少々折伏せました二枚の帯布の一方  
に裳の縫締た處を挟み、他方に胸布を挟みまして、襷をかけて置

四〇  
きます、次に紐としてある布の端を一分位の巾に三ツ折になし  
一方の先は劍の如く三角形になし他の一方は帶布の端に挟ん  
で帶布の周圍と共にミシンをかけます事第三十九圖に示す  
如く致します。夫から帶布の端より一寸五分位入りたる處へ  
釦を附け、襟布の三角の先に豎に釦孔を開けて襟は綾に掛ける  
様に致し、紐は後に蝶々結びに致します。

第十三章 前掛 (第十一種)

五六歳用

要布は長二尺四寸巾二尺四寸其他レース三尺五寸飾テッ  
プ五尺を致します。

第四十圖は其の出來上りの前後の形でありまして第四十一



第十三章 前掛 (第十一種)

圖の(一)は裁方綜合圖(二)は前表裏布  
の裁方圖(三)は紐布の裁方圖であり  
ます。

(甲)裁方順序

先づ裁方綜合圖に依りて用布を  
寸法通りに裁離し前表裏布として  
ある布を其の七寸の巾の方を二ツ  
に折り又之を横に二ツに折り(即ち  
丈の方を二ツに折り)而して之に(二)  
圖の如く各部に寸法を入れて裁ち  
切ります。但し裁ち落しました所  
は之を袖飾に致しますから輪と印

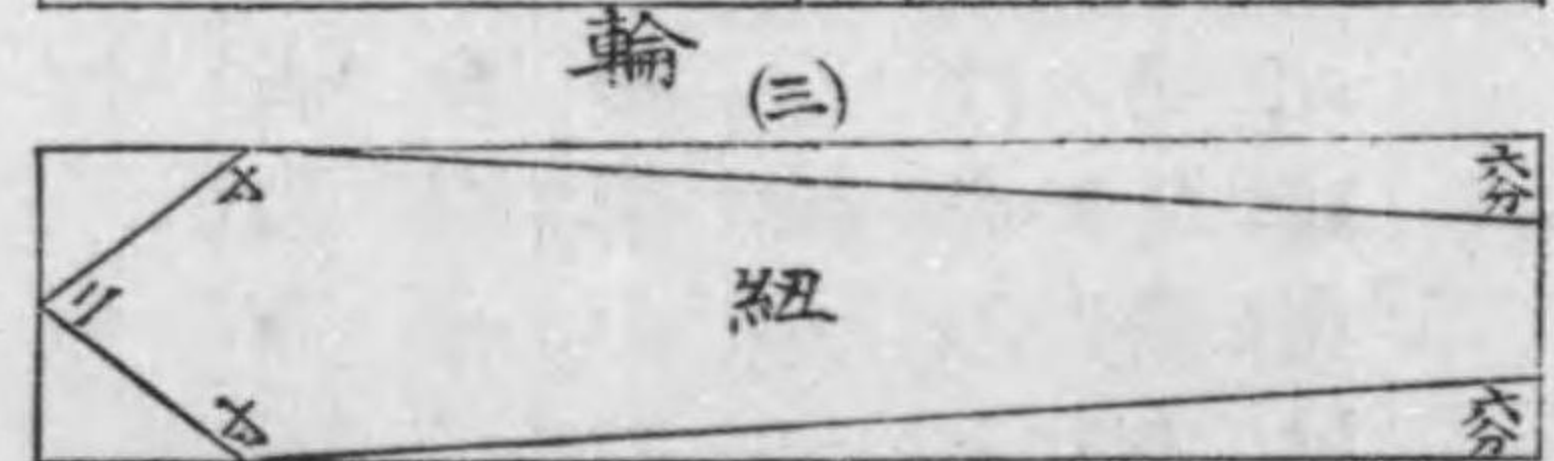
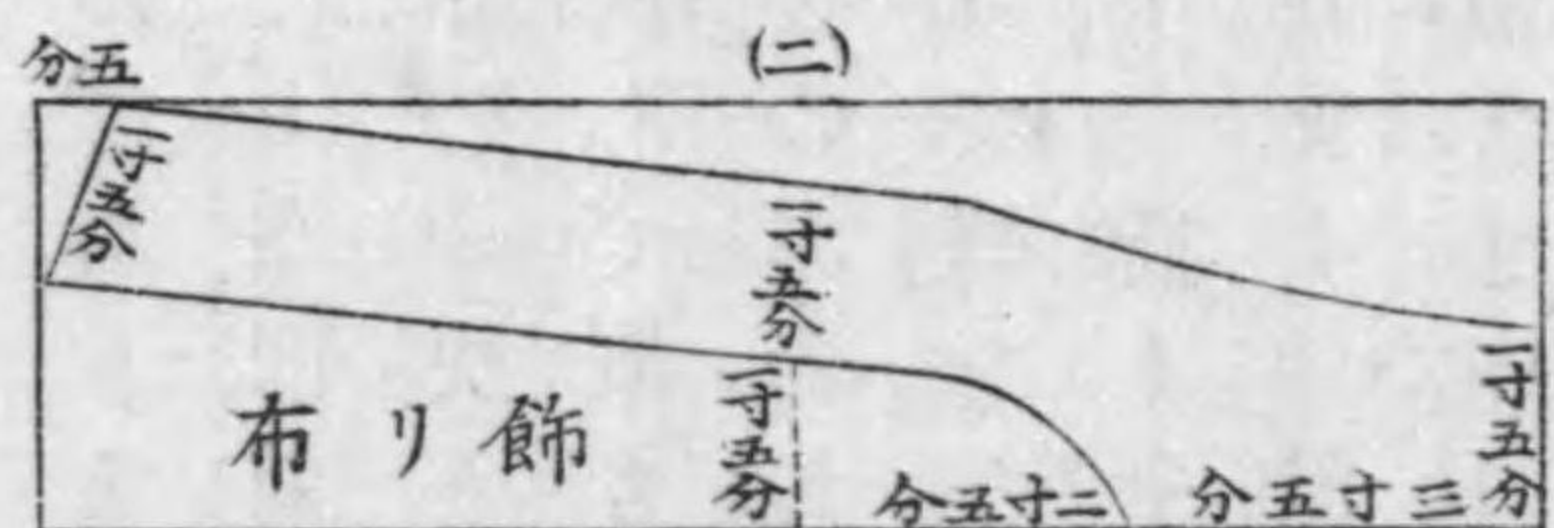
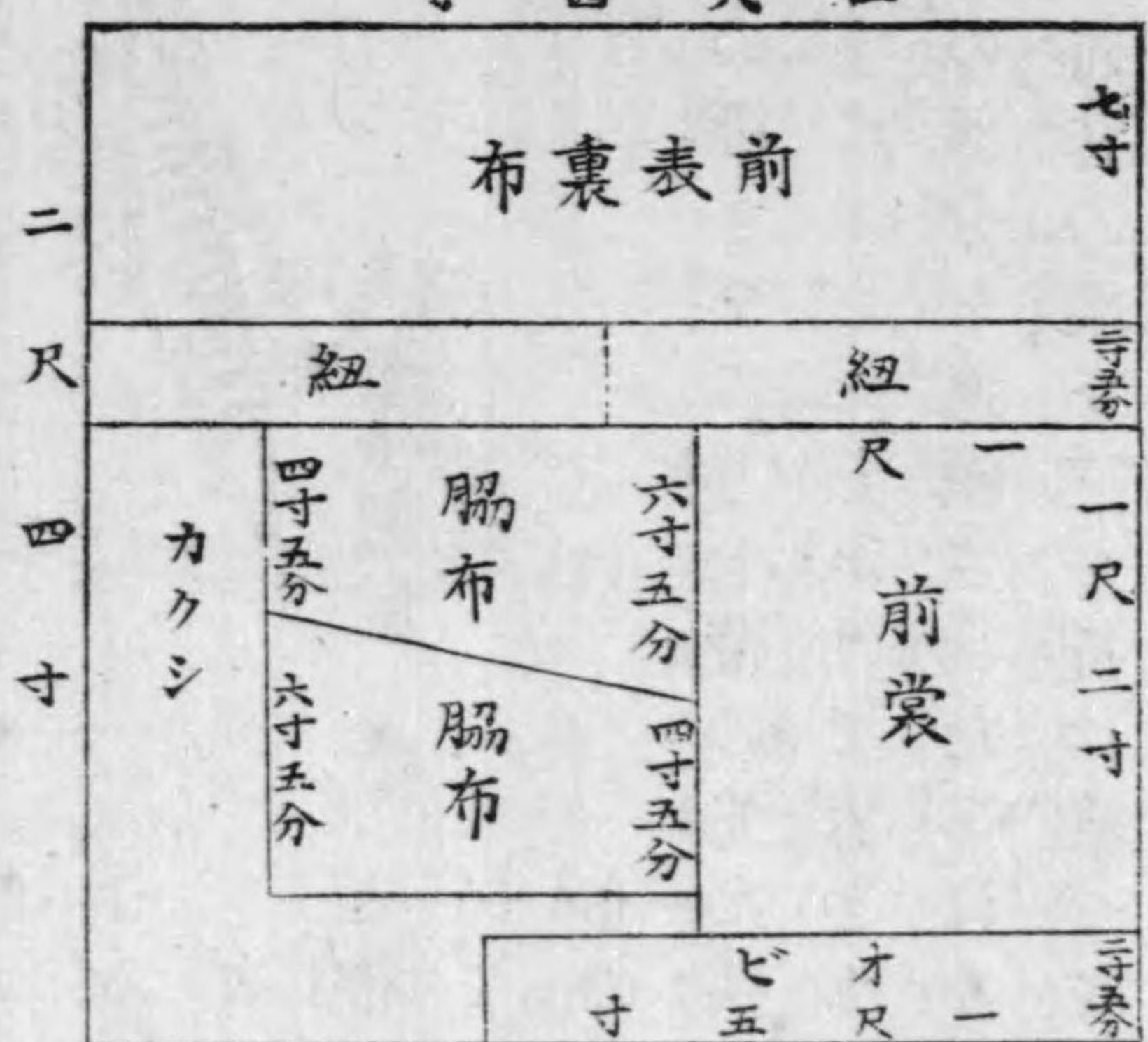
した處に能く注意して裁たねばなりません。又紐布は二本とも(三)圖の如くに寸法を入れて劍の様に裁ち切ります。

(乙)縫方順序

先づ前表裏切を裁つ場合に裁ち落しました飾り布の平の方へ「レース」を附けてミシンをかけて置きます而して此の飾り布を前表裏布の兩脇の端より端迄の間だけの丈に縫ひ縮めて戻すをかけ之を前表裏布の表裏にて挟みて兩脇を縫ひ表に返して其の上に表より飾りテップを載せて襷をかけ衿元は其の端を表裏共少し中へ折伏せて其の上に表よりテップを載せ兩端にミシンをかけて置きます。

次に裳は前布の左右の兩脇に脇布の斜目の方を合せて袋縫になし裾は五分位の中に折伏せてミシンをかけ後は一分位の

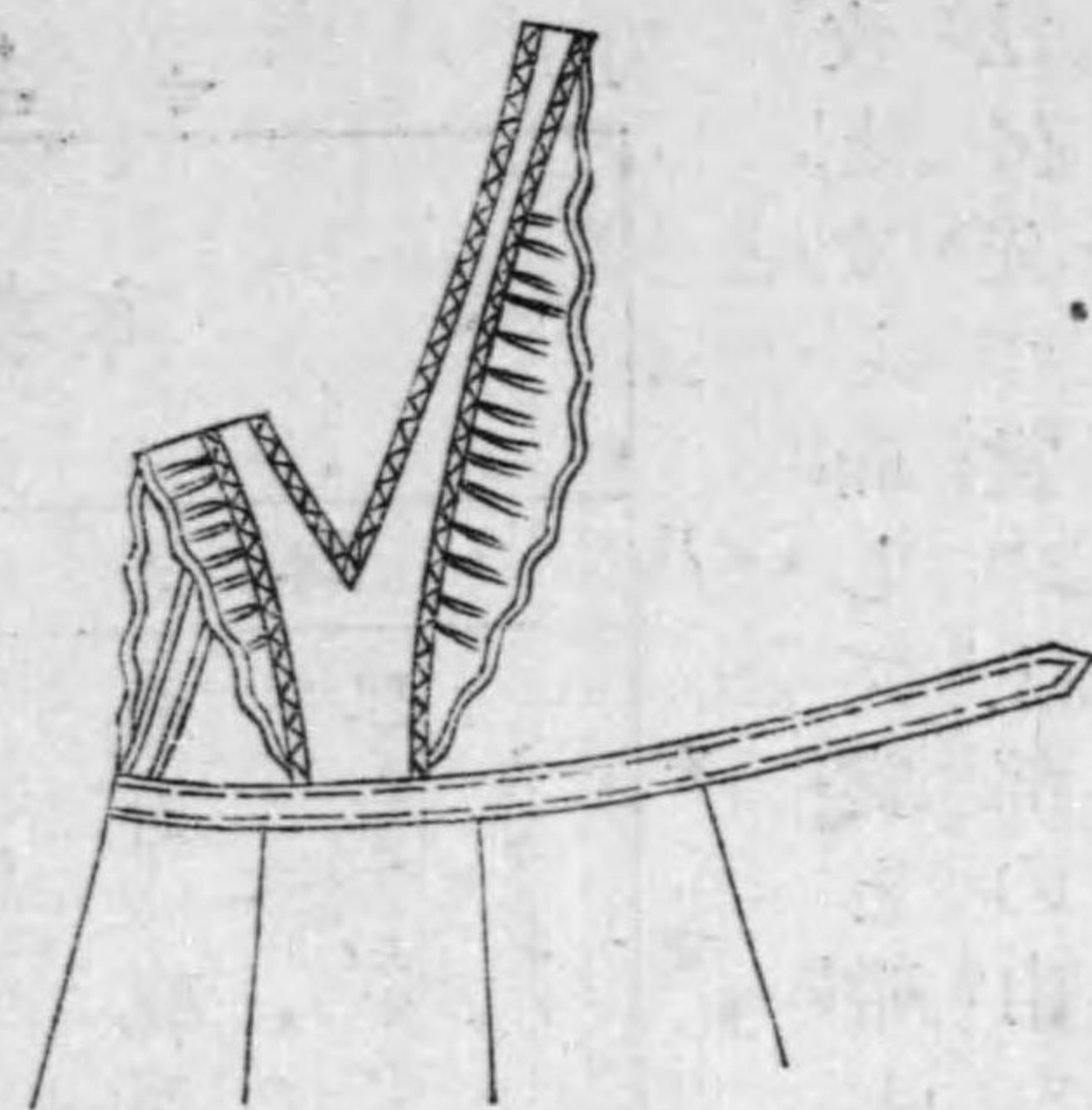
第十四圖  
二尺四寸



巾に折伏せせてミシンをかけて置きます。夫より帯布を二寸五分の方を二ツに切りて

二枚となし而して裳と帯とを縫ひ合せるのであります。其の方法は先づ裳の上部の巾を帯布の丈だけに縫ひ縮めて置き帯

圖二十四第

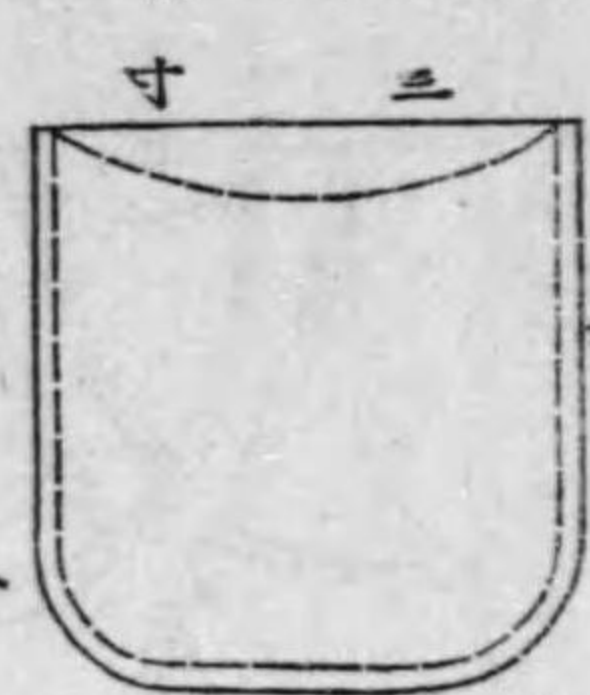


の先の細き平の方を帯の先に挟みて、帯の先に及裳の部分と連続させた事になります。但し紐布は帯の先に挟む前、其の端を三ツ折に縫つて置きます。

布の中央と裳の上部の中央とに待針を刺し、左右に割れて二枚の帯布にて挟みて、ズツと端まで縫ひ合せるのであります。

次に上布(即前表裏布)の前の中央と帯布の中央とを合せて表裏の帯にて挟んで置き、後帯の端の所に上布の後の方の先を挟んで置き、又紐

圖三十四第



それよりカクシを付けますが、カクシは巾三寸五分、丈四寸に布を裁ち、上の方は少し深く折り伏せて、ミシンをかけて縫ひ附けます。之にて全部出来上つた事になります。之は出来上り圖に示せる如く、紐を後にて結び合せて掛けるのであります。

第十四章 前掛 (第十二種)

四五歳用

要布は長一尺八寸、巾二尺四寸。

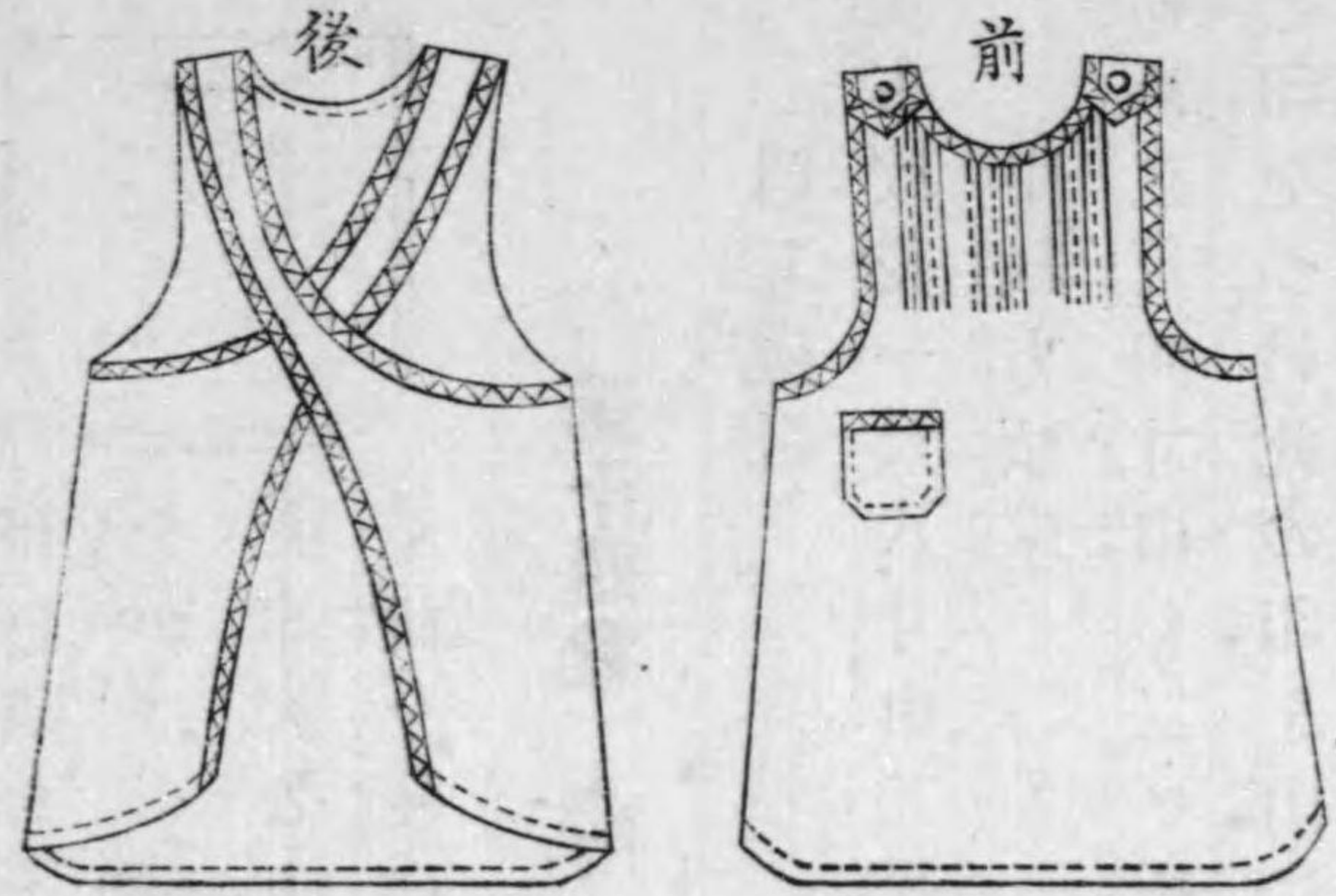
(甲)裁方順序

初め二尺四寸巾を二ツ折になし、輪の方より一分五厘次に六分と印をつけ、此の印を山に一分五厘つまみ、て襷を取る。分と印をつけ、此の印を山に一分五厘つまみ、て襷を取る。

圖四十四第

の長に致し。

中央の襷は右向に



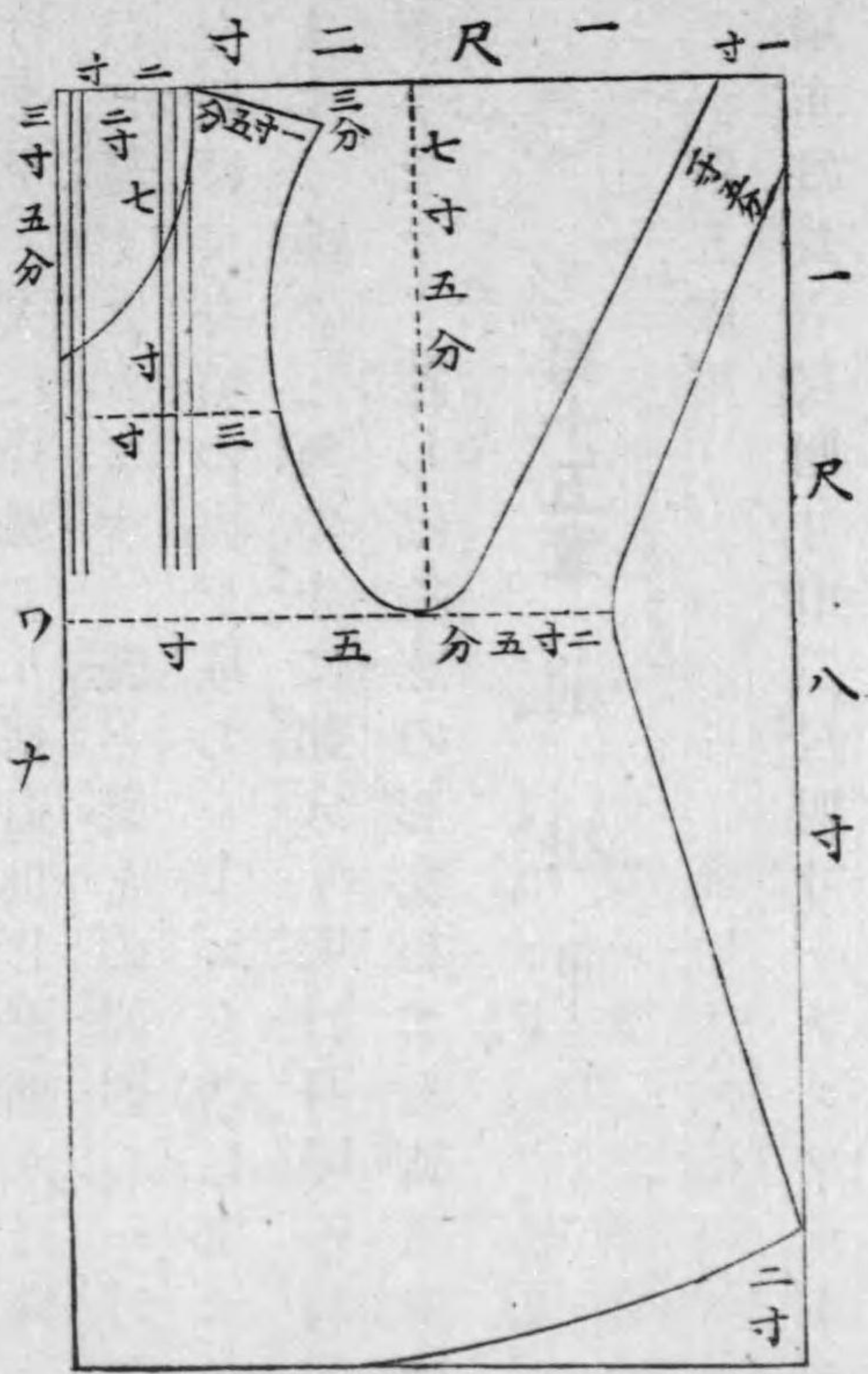
りますが之は左の方も同じに致し  
まして中央に三本の襷を取れる様  
に致すのであります。次にそれよ  
り間隔を一寸置き  
まして印  
を附け次  
に六分づ  
つ二ヶ所

圖五十四第



に印をなし此の印を山として三本  
の襷をとります襷の深さは皆七寸  
の長に致し。中央の襷は右向に左  
右の襷は袖明の方へ折伏せ

圖六十四第



をとり、尙用布の右上角に向つて角の所は一寸五分となし下  
の方は二寸五分となして襷となる所を裁切り次に裾より二寸  
上りたる所を目當として斜目に裁ち裾は圓くして居きます。

て置きます。

次に衿明を  
横に二寸縦三  
寸五分として  
裁ち切り前巾  
を三寸となし  
袖明の深さを  
七寸五分とい  
たしまして袖

(乙)縫方順序

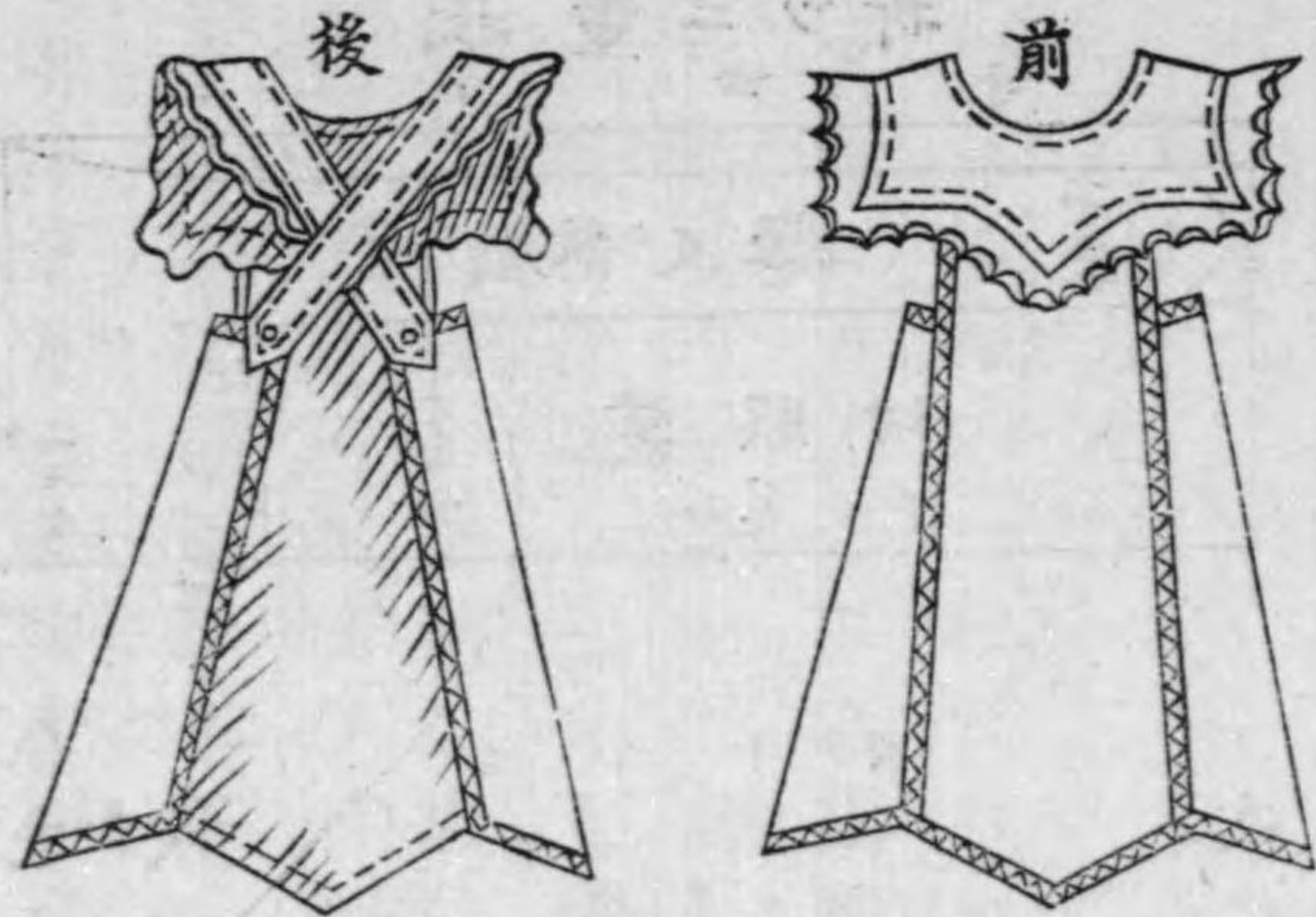
襟となるべき所は脇の裁落し布にて一寸五分の所より二寸五分の間に重ねて同じ形に裁ち切り両端にミシンをかけて縫付けます。次に衿廻りより裾迄(但し裾廻りは除く)色變りのテープにて縁をとります。襷と襷との間即ち一寸の巾の間にレースを附けて身頃の裏を裁ちレースを透しますと一層美しく見えます。襟の三角の先に釦穴を明け身頃の肩の處に釦をつけて置きます。隠しは随意の形にして右脇に附けて置きます。

第十五章 前 掛 (第十三種)

四五歳用

用布は長一尺四寸巾二尺四寸。テップレース數尺。

圖七十四第



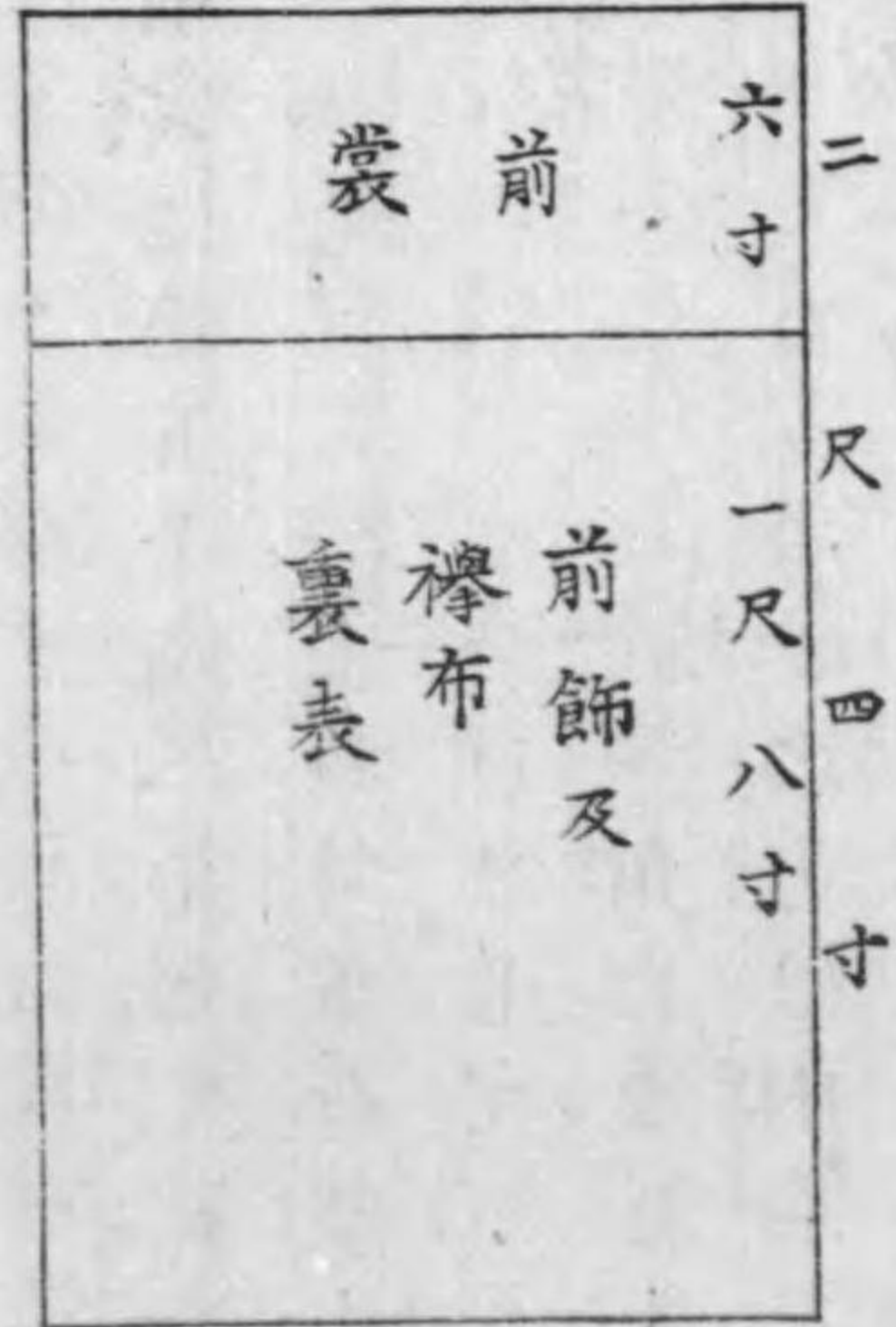
(甲)裁方順序

ち落す様に能く注意して裁たねばなりません。前飾と襟とは

第十五章 前 掛(第十三種)

四九

圖八十四第一

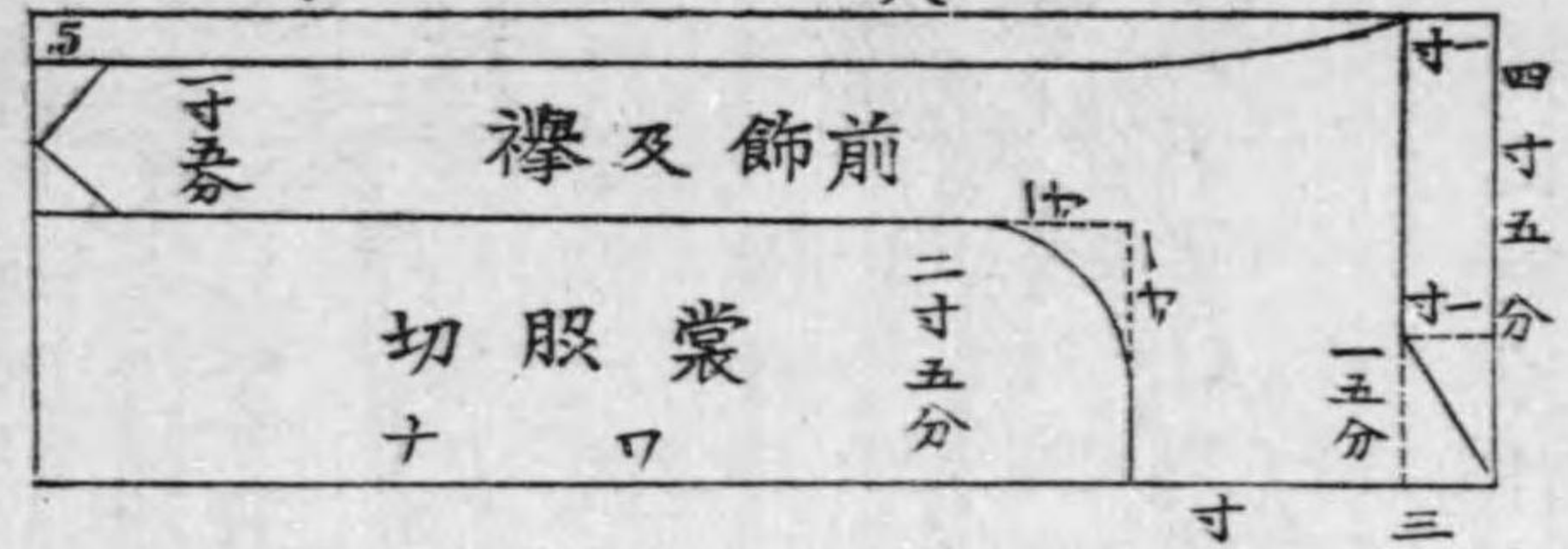


先づ前飾布の一尺八寸巾を四つに疊みまして輪の方より圖の如く寸法を印して裁切ります。落し布は脇裳に致しますから輪の方を裁



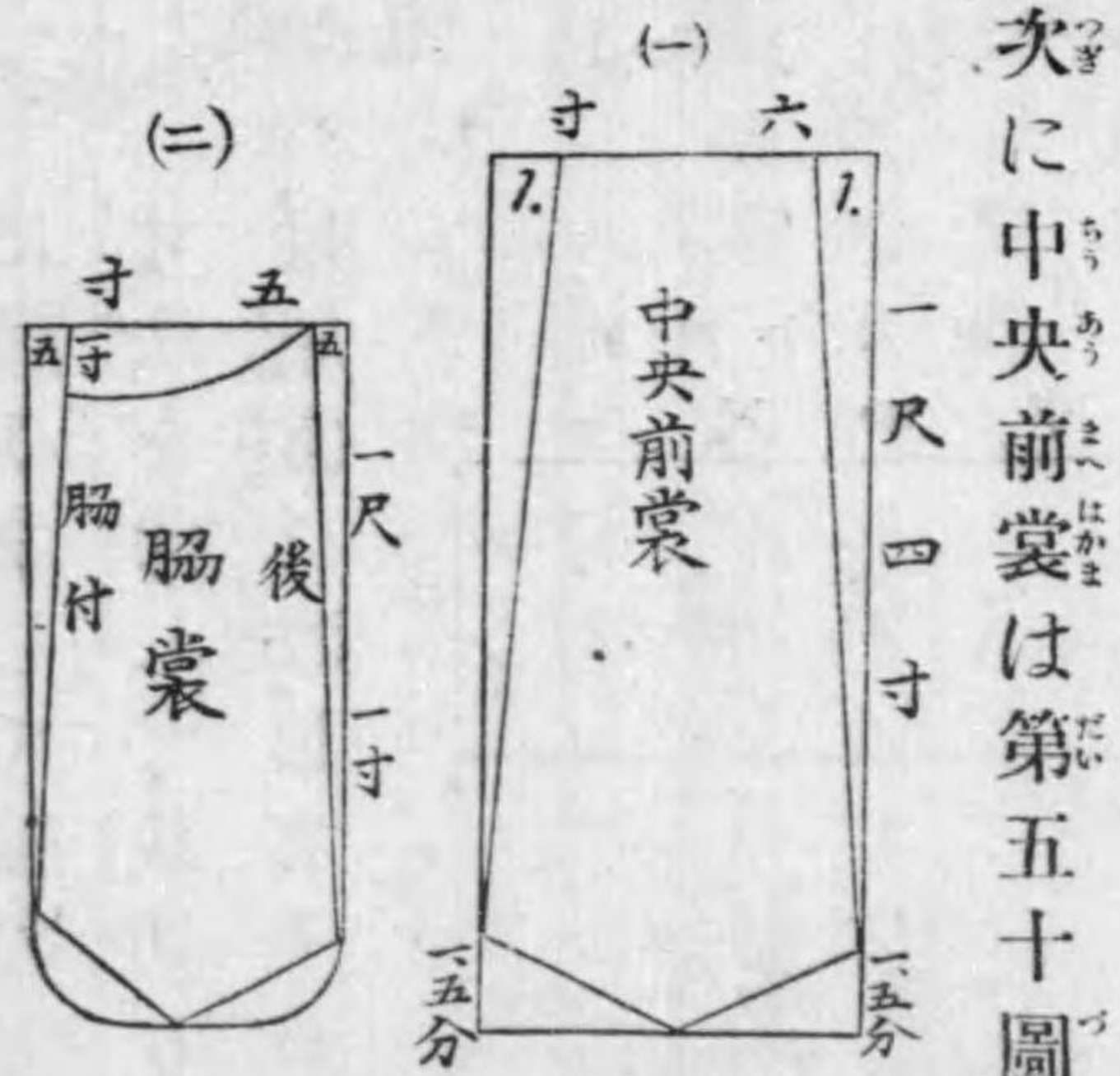
圖九十四第

折ッニ重枚ニ  
寸四尺一



を開きて下の圓形の所を三角に裁ち切り上の方は兩端を五分

圖十五第



次に五十圖(二)の如く脇裳裁ち落しの布

續になるのでありますから之も注意を願ひます。

次に中央前裳は第五十圖(一)の如く裾を一寸五分裁上げまして下を三角になし上の方は兩端を一寸づつに裁込んで置きます。

づつ裁ち込み猶脇前裳と縫合ふ方は斜目に一寸裁落して置きます。

(乙)縫方順序

先づ前飾布の一枚だけに襟の三角になりたる端より三寸入りたる所よりぐるりと周圍にレースを附けて置きます。次に前裳に脇裳を縫合せて縫目は飾テップか或は色變りの布を五分巾に斜目に裁ち二分五厘位の出來上り巾に縁飾りを附けます。脇裳の後の三角の處は釦を附けるのでありますから一寸五分位の巾の三角の處の小布を裏から附けて置きます。次に前裳の上部の中央に前飾布の三角の所を載せ即ちレースを附けた方の前飾布を身頃の上に載せて躰をかけ裏前飾布は表の通りに周圍をよく合せて躰をかけ表上から飾ミシンを

五二  
かけます。襟きの先の三角の所に釦孔を明け。小布を當てた三角の所へ釦をつけ襟を綾にして掛けるのであります。隠はあつても無くもよろしう御座います。此の前掛は洋服の上

第十六章 前掛 (第十四種)

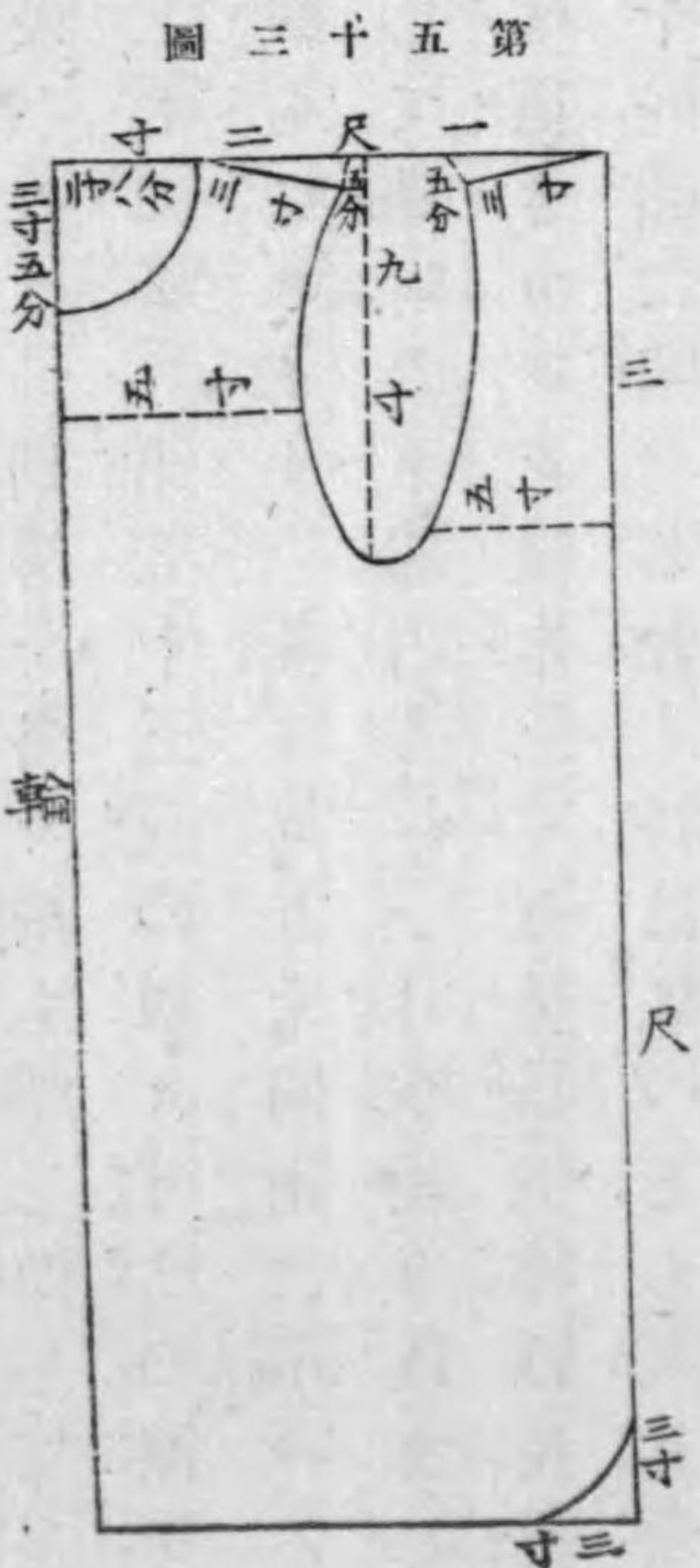
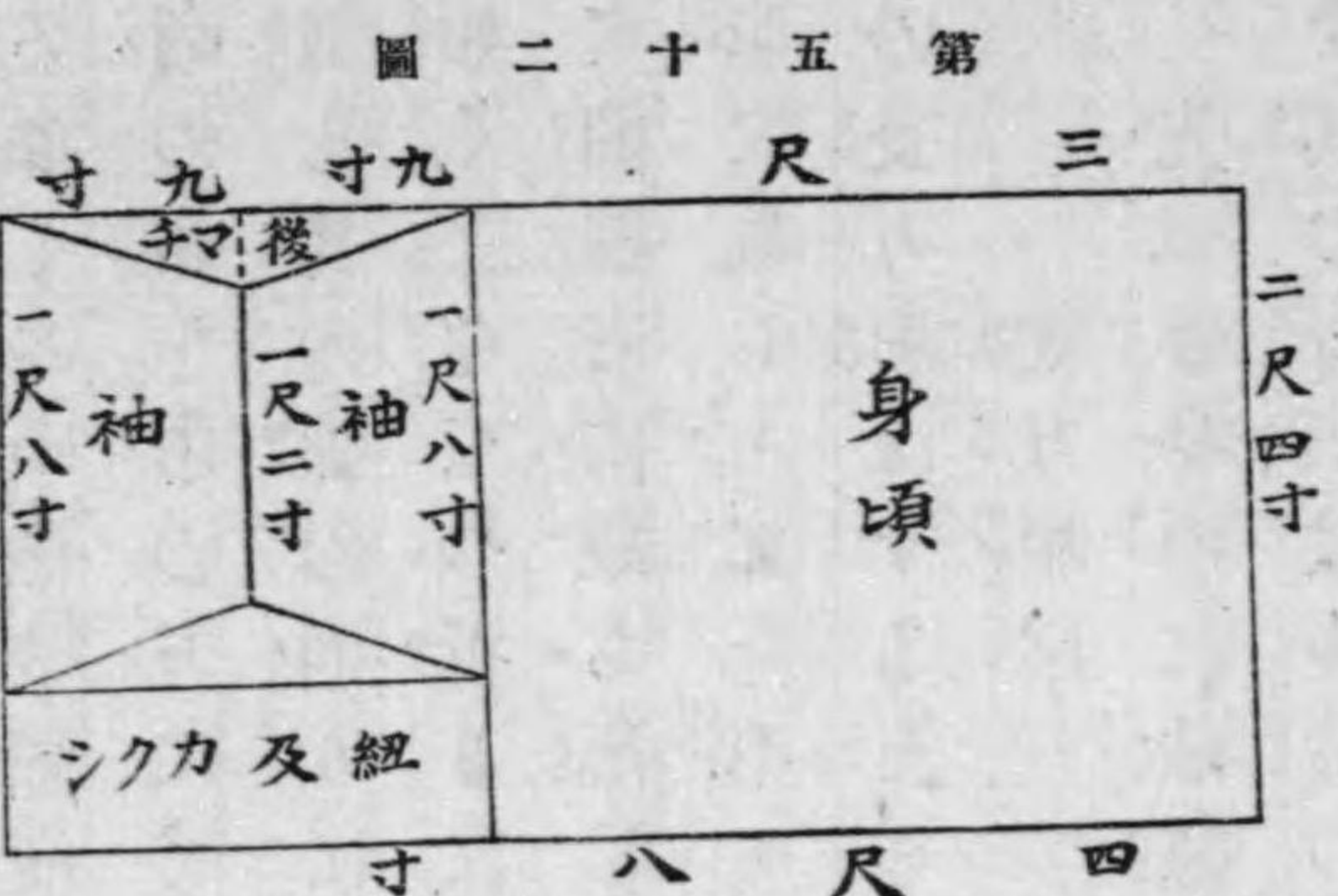
割烹用



茲に示す割烹前掛は大人用のものであります。家庭には最も必要のものでありますから

此の章で説明する事に致します。此の前掛は第五十一圖に示す如く袖附のものであります。同圖の下部の圖は未だ袖を附けぬ前に之を開いて見たる形であります。要布は長四尺八寸、幅二尺四寸を要します。

先づ要布を第五十二圖の綜合圖に示せ



第十六章 前掛 (第十四種)

る如く身頃袖後襟紐及びカクシ切等を各々裁ち離し而して身頃  
 の布を巾の方にて二ツに折り第五十三圖の如き寸法の線を  
 施し其の線の通りに裁ち切ります。袖は第五十四圖に示せる  
 如く之を二つ折りにして袖附の下部の方を一寸空繰り込まし  
 て曲線形に裁ち落して置きカクシは巾三寸五分長五寸の長方  
 形に裁ち上部を第五十一圖に示せる如く斜に裁つとも又其儘  
 の長方形にするとも随意にして置きます。

縫方順序

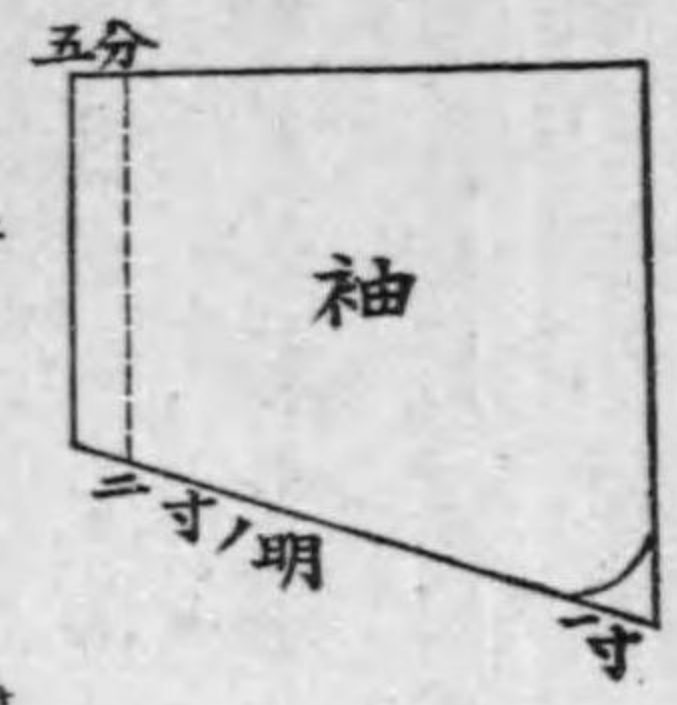
先づ後身頃に袖脇の裁ち落しの布を後襟として縫ひ附けま  
 す其の方法は後襟の斜目の方を三つ折に縫ひましてから縦即  
 ち斜目でない方を後身頃に合せて縫ひ折目は身頃に返して裾  
 迄縫ひます。即ち後襟と身頃の縫目の折に連れてブツと裾迄

身頃の端を折返し糸を續きにして裾まで縫つて行くのであり  
 ます。之は兩方の後身頃に致します裾は五分の巾に折返して  
 縫つて置きます。

次に前後の身頃の肩を合せて縫ひ合せ縫目は後身頃の方へ  
 返して表よりミシンをかけて置きます。

次に袖を縫ひますが縫口は第五十四圖に示す如く二寸の明  
 になし即ち袋縫にする個所の口先の處を二寸程明けて置く様  
 になし口は五分程折伏せて上よりミシンをかけ之は此の折伏  
 せてミシンをかけた布と布とが重なつて孔になつた所へ後に  
 引締め紐を通す様にするのでありますからミシンは折目  
 に近くかけずに折返した布の端に近くしてかける様に致しま  
 す袖の縫ひは普通の如く袋縫に致します。

圖四十五第

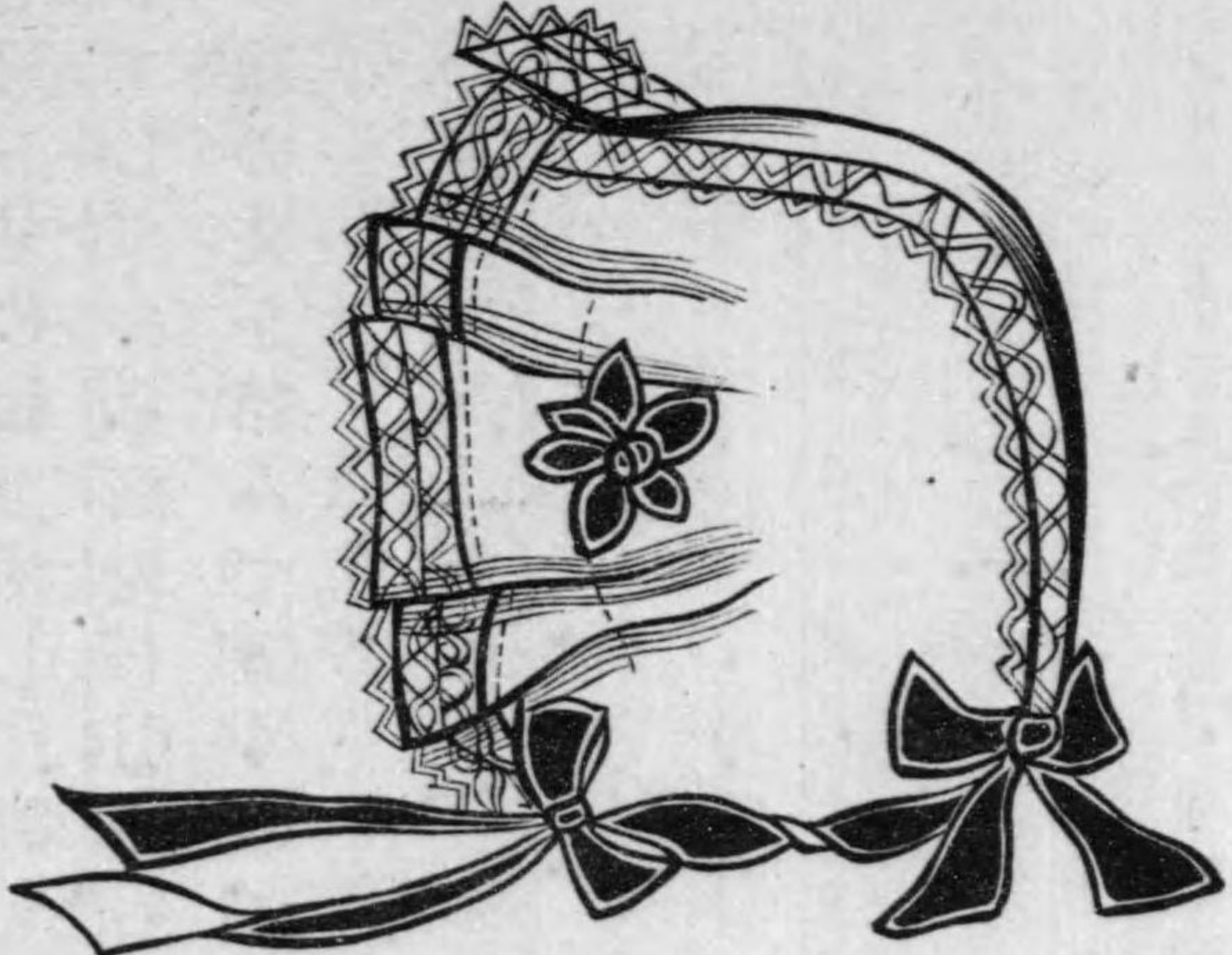


夫より袖山と肩とを待針を刺して袖を身  
 頃に合せて縫ひ縫目は身頃の方に折返して  
 表よりミシンをかけて置きます。次に衿を  
 附けますが此の衿布はカクシ及び紐布の部  
 として裁ちたる布の中より取り出来上りの巾を三分にして丈  
 は一尺八寸に致します、之を身頃に縫ひ附けますには其一尺八  
 寸の丈の中央と身頃前衿の中央と合せて後襠まで縫ひ残り  
 衿先に出して置いて後にて結ぶ爲の紐として置きます。次に巾  
 五分丈一尺の紐を後衿より一尺三寸程下りて左右に一本づつ  
 縫ひ附けて置きます。  
 次に隠布を身頃の右の方へ附けますが其の位置は袖附の所  
 より一寸程離れて前の方へ附ける事第五十一圖の下部の圖に

示せる如く致します。次に袖先の五分の折返の處に巾二分丈  
 一尺五寸の紐を通して置きます、此の紐は此の割烹前掛を着用  
 しましてから袖先を引締める爲にするので紐を引締めた後其  
 の紐の先を結んで置くのであります。

第二編

圖五十五第



第十七章 帽子 (第一種)

一二歳用

要布は寒冷紗にて長一尺。巾二

尺七寸。レース數尺

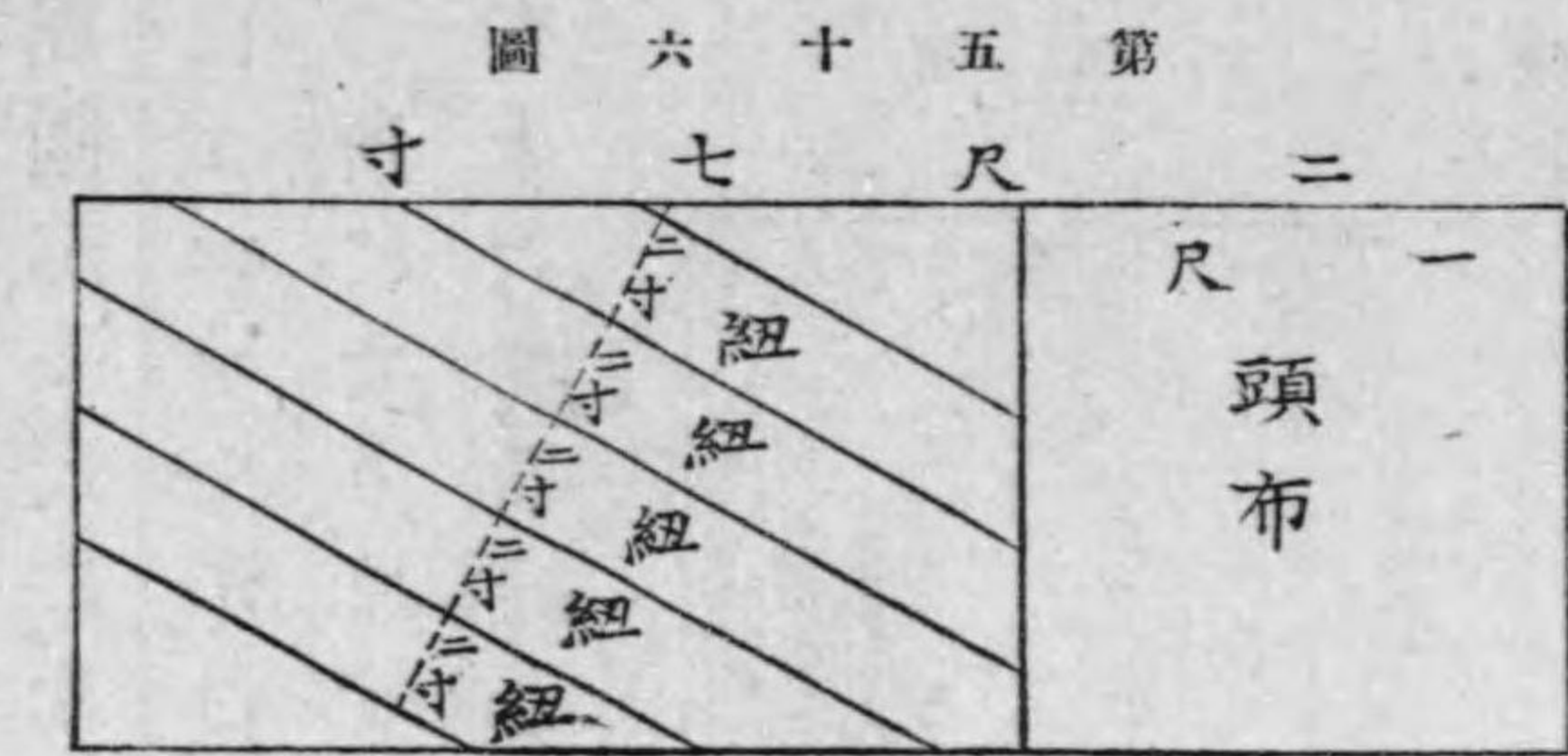
(甲)裁方順序

第五十六圖の裁方綜合圖に示せる如く各部に寸法を印して裁ち切りませ。裁ち落しました頭布一尺四方を第五十七圖に示せる如く圓形に裁ち切り中央下より一

寸五分上つた處へ水平線(イ)を印し其の端より五分下つた處

に印をつけ圖の如く丸く裁切つて置きます。

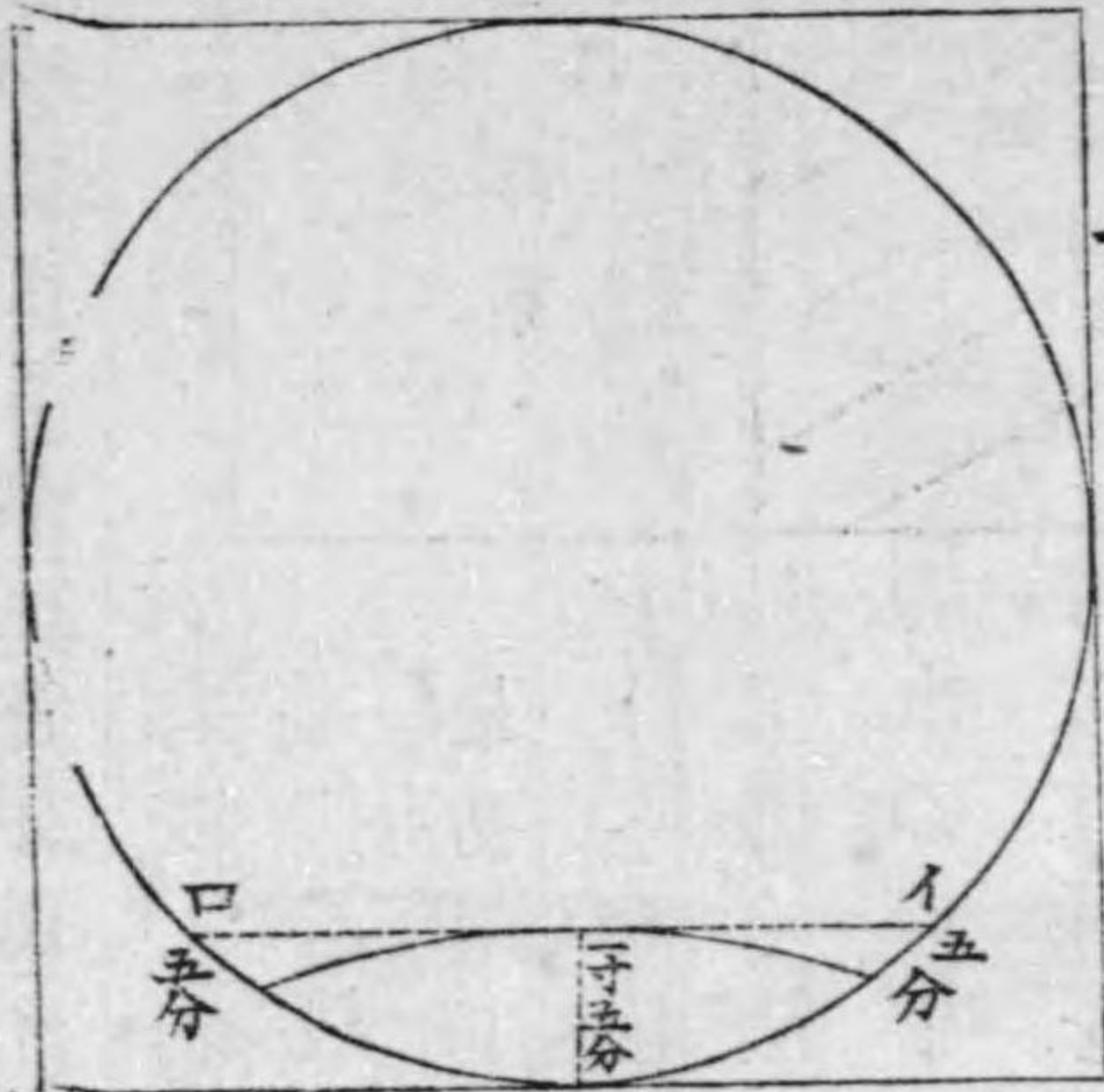
(乙)裁方順序



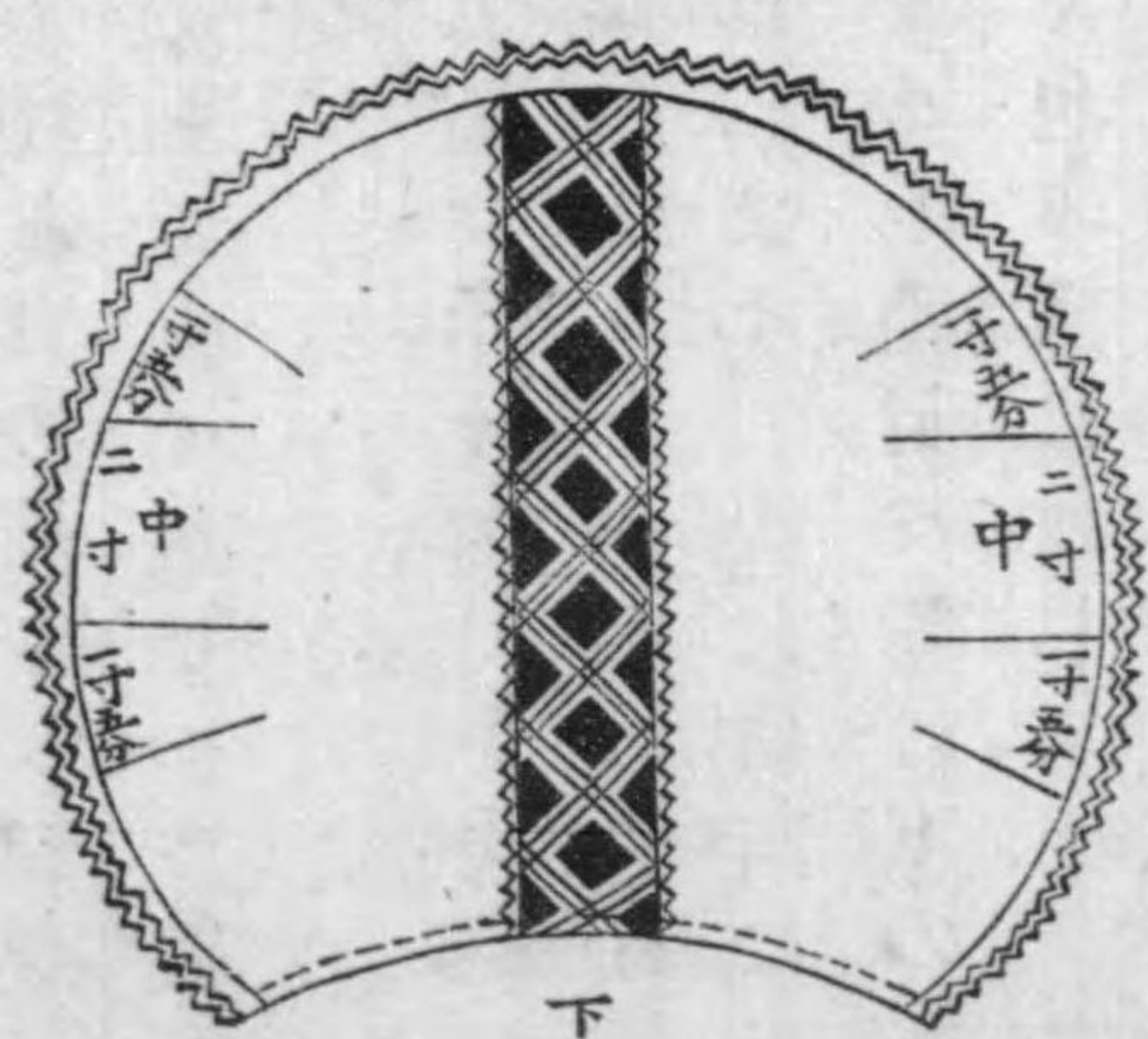
最初第五十八圖に示す如く中央縦に兩耳のレースを附け端にミシンをかけ裏は裁切りまして透く様に致します。次に周圍に五六分位の巾のレースを少し弛目に附け下の方は寒冷紗にて縁を細く包み縫に致します。次に横の中央(中)と印のある處に二寸次に一寸五分を上下に印をつけ此の印を山に折疊むのであります。すが折目は中央より上の襞は上に下の襞は下に向き而して之は左右兩側に致しまして顔の

周圍が一尺になる様に襷を重ねて端より五分計り入りたる所にミシンをかけて留めて置きます。横の中央二寸の處は横顔の所になります。其の間にリボンに蝶形に結んで飾り付け又五十六圖の紐としてある布を縫ぎ合せ端を極めて細く三ツ折

圖七十五第一



圖八十五第

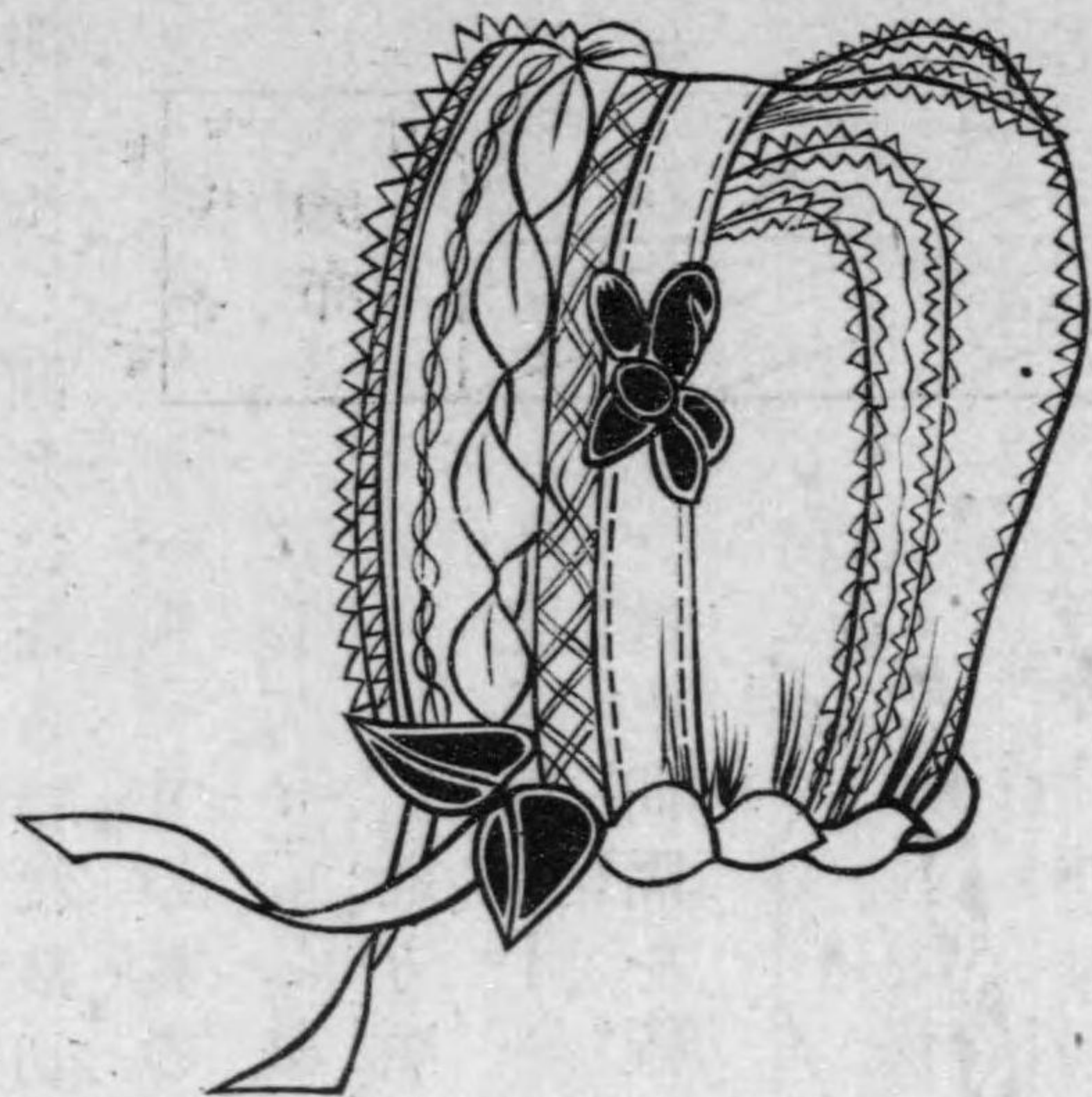


第六十圖の綜合圖にて裁ち出上り圖に示せる如く

下より後の方へ結び付けて置きます。左右の餘つた長き所は帽子を被つてから飛ばぬ様に腮で結んで置きます

第十八章 帽子 子(第二種)

圖九十五第



二歳用  
要布は寒冷紗にて長七寸巾二尺七寸。レイス數尺一寸巾のりボンニヤール。

(甲)裁方順序

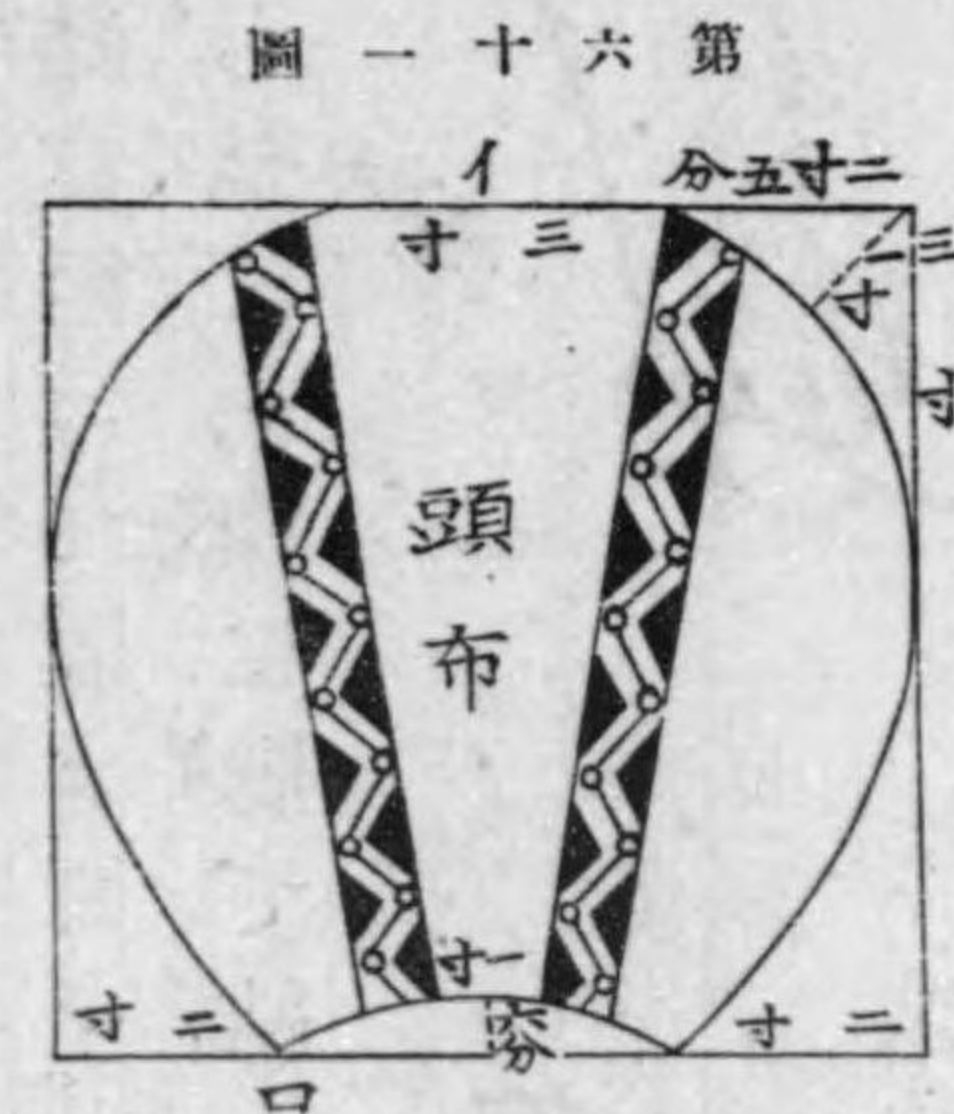
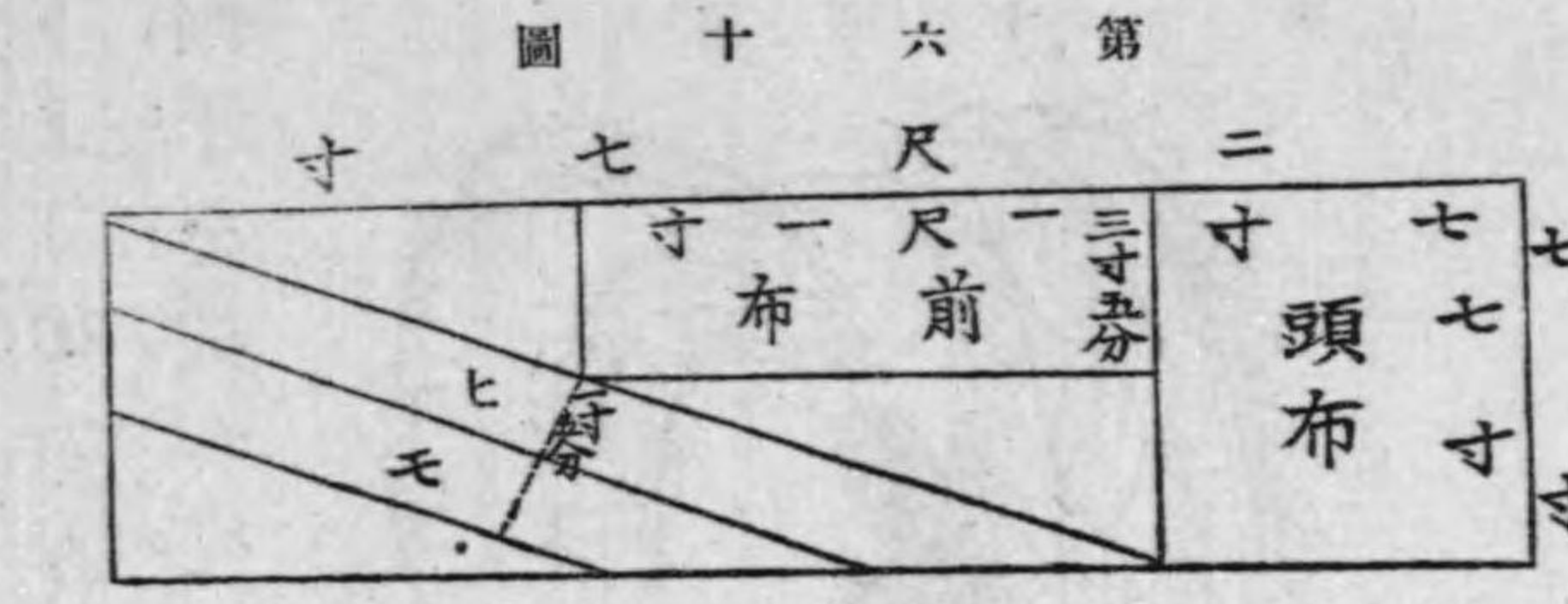
第六十圖の綜合圖にて裁ち切りました頭布の七寸四方を第六十一圖の如く各部に寸法

を印し少し圓形になる様に裁切ります。又前布(第六十二圖)は

一尺一寸の長の方を二ツ折にして下の方を斜にして(イ)口を裁ち切つて置きます。

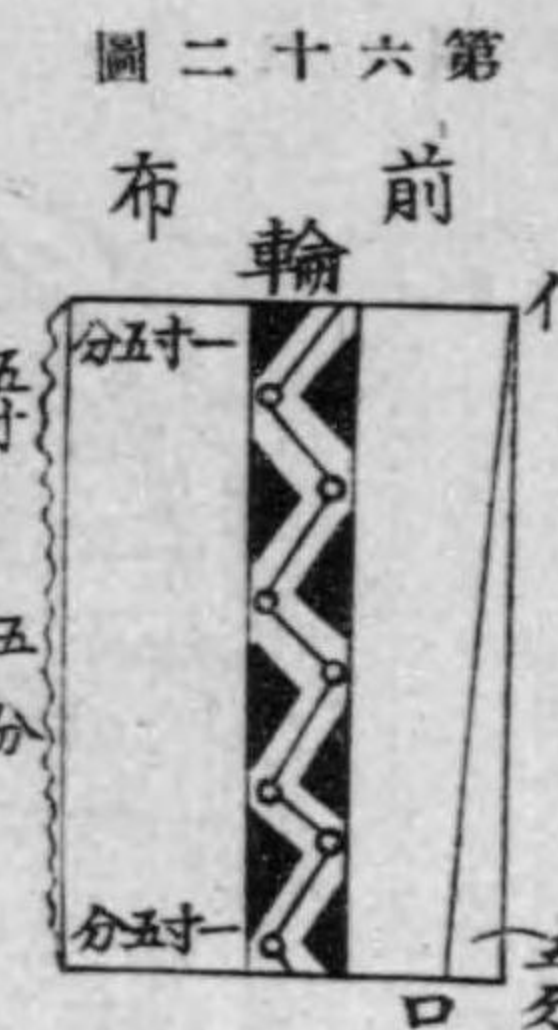
(乙)縫方順序

先づ第六十一圖の頭布に於て上中央三寸下一寸と間隔を置いてレースを斜目に二箇所附



けましてミシンをかけ裏を裁ち切つてレースを透します。次に六十圖前布の縦に真直ぐの端より一寸五分入りたる所にレースを附け

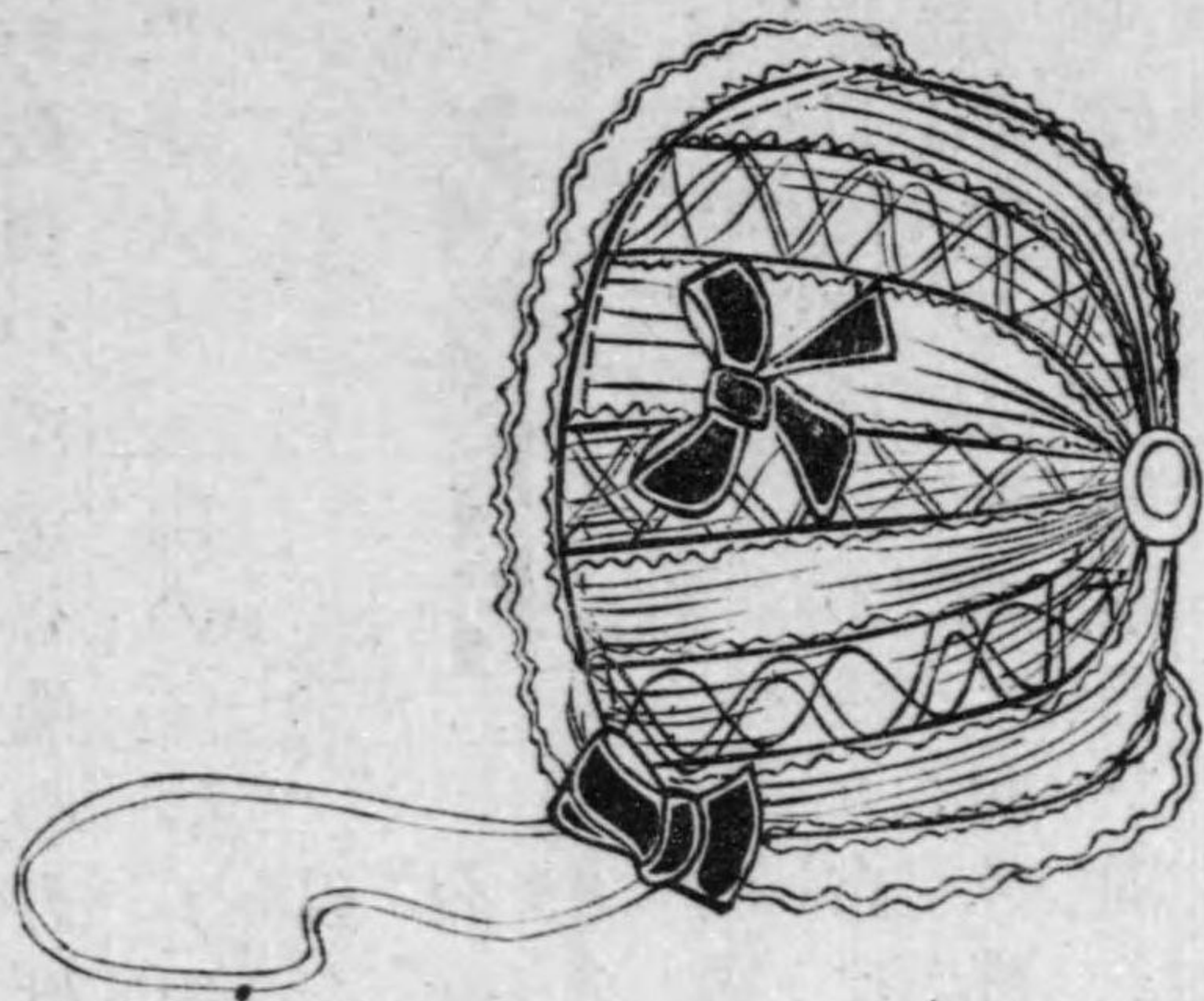
裏を裁切つて透し、端の方は小巾のレースを附けて置きます。次に第六十一圖の(イ)口と第六十二圖の(イ)口と印の合う様に待



の縫目は寒冷紗の残り布にて細く縁を包み縫に致します。次に一寸巾のりポンか或は羽二重の両端を細く三ツ縫に致しました布を一寸置き位に縫締めまして第五十九圖の出来上り圖の如く廻りに附けます。腮の兩端はりポン或は羽二重布の一方の端を蝶形に結び他の一方は長く垂れて腮下にて結ぶ様に致します。

第十九章 帽子 (第三種)

圖三十六第



一歳用

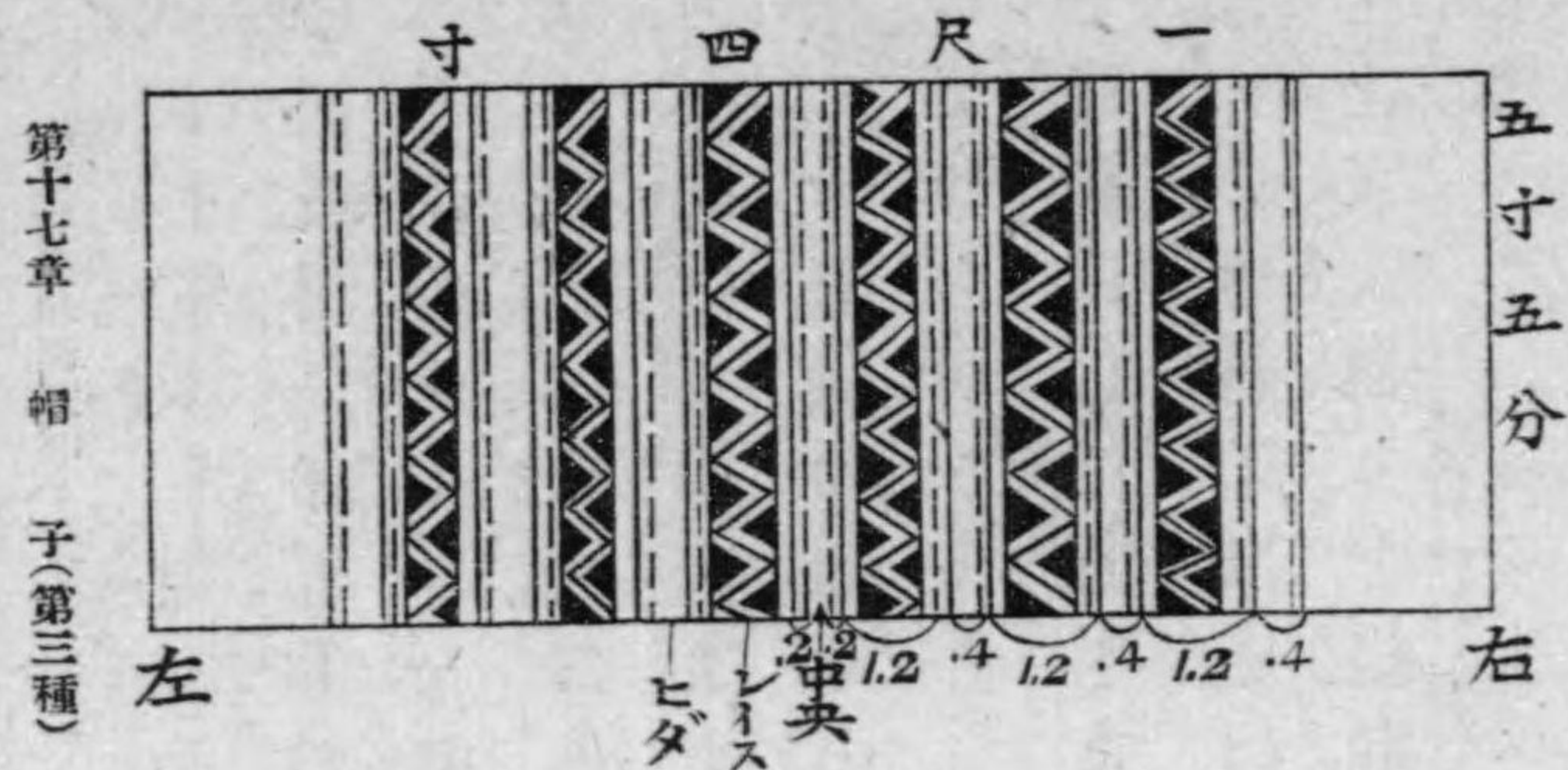
要布は寒冷紗にて長一尺四寸。巾五寸五分。レースは八寸巾六尺を要し。リボン數尺を要します。

(甲)裁方順序

此の帽子を作りますに當り夏期用としては第六十四圖に示す如く寒冷紗にて襖をとり間に透しレースを入れて作ります。冬期用としては最初裏布を第六十五圖に示す

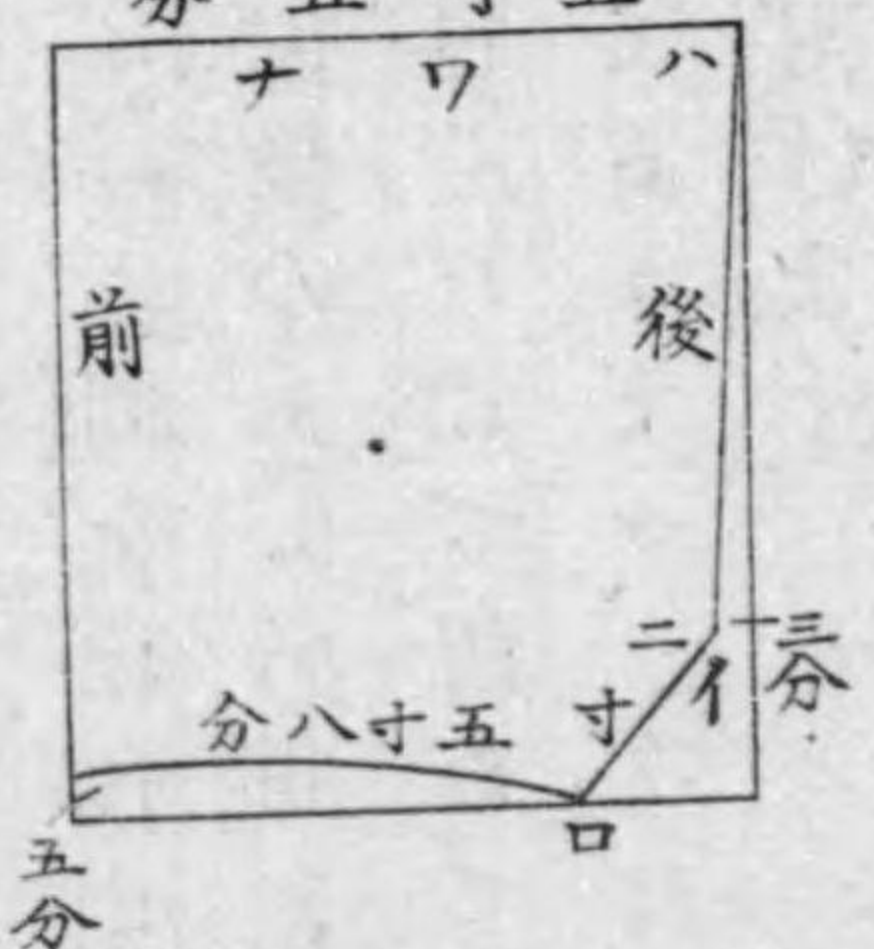
型の如く裁切つて置き次に表となるべき羽二重布を隨意に襖

圖四十六第



第十七章 帽子 (第三種)

圖五十六第



す、此處では前者の夏期用の作り方を示します。

(乙)縫方順序

先づ布の中央より右の方へ向つて二分の處に印を附け次に一寸二分其



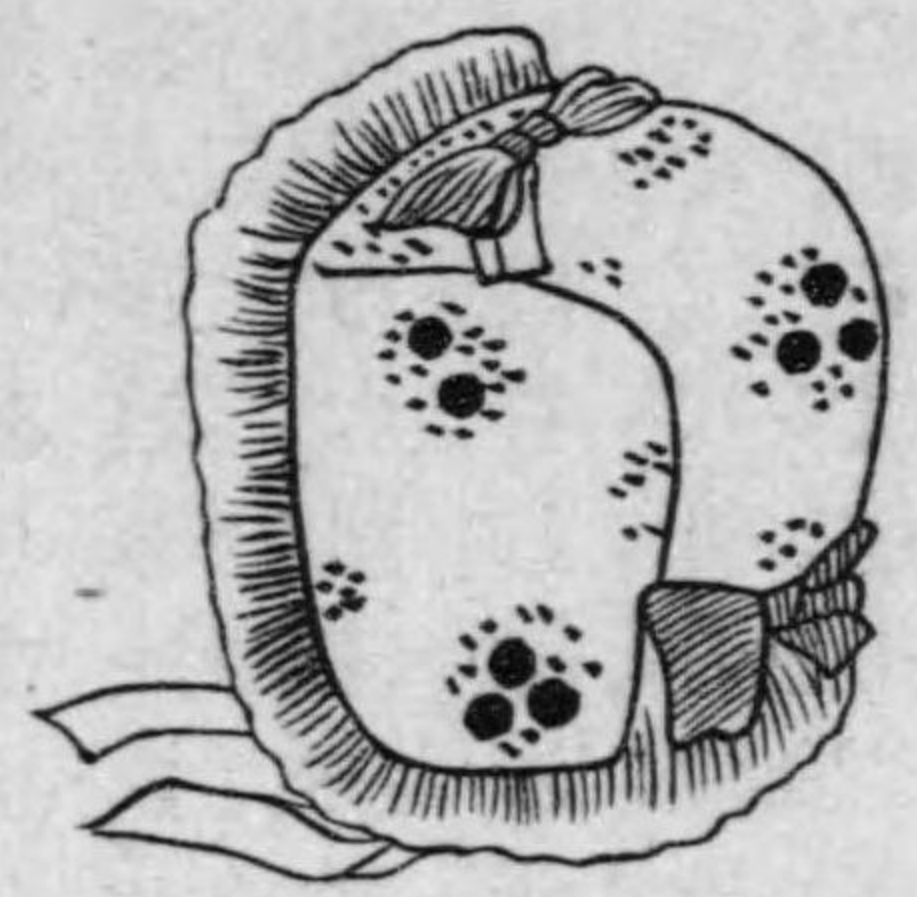
の次に四分又一寸二分と漸時七ヶ所に印をつけ之を山に一分の襷を七本とり折目は右の方へ向けて置き一寸二分の中間には八分巾のレースを縫附けて裏を裁ち切りレースを透して置きます。之は中央より左の方へ向つても同様に致し折目は左の方へ向けて置きます。扱て襷がとれレースが附きましたなら第六十五圖の如く中央より二ツに折りまして各部に寸法を印して裁ち切りします。次に(イ)の間に縫合せ縫目は開いて兩端を絡縫にして置きます次に後の(イ)の間に縫縮めまして一ツ所に引き締め其處は布に包んだ釦で留めて置き裏は丸き小布をあて、廻りを絡縫にして置きます。次に前方の顔の周圍から腮へかけてレースを縫附けます。リボンの兩端を別々に蝶形に結び腮の兩方につけ、又中央にも第六十三圖の如く飾り

リボンを附けます。

第二十章 帽子 (第四種)

初生兒用

圖六十六第



なれば極めて薄き結布又は透しレースの類が適當であります。縁の飾り布は表用布と同布に致してもよろしければ又特に配

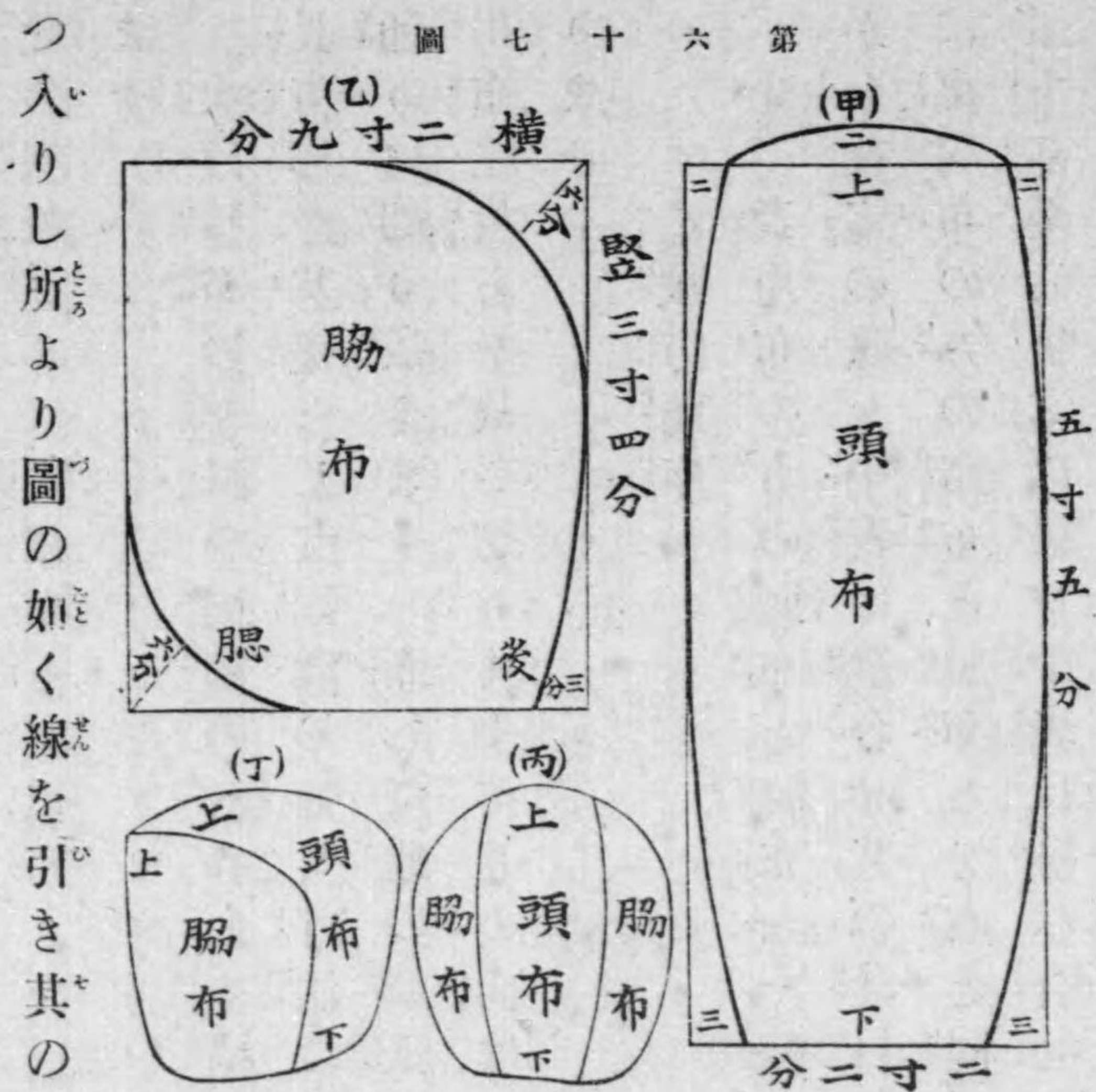
第十七章 帽子 (第四種)

此の帽子は初生兒の冠るものであります。其の體裁は第六十六圖に示せる如くであります。而して此の帽子の裏用布は隨意と致しますが其の表用布の方は冬期用なれば白天鵞絨とか又は其の他毛織物にて極めて柔軟きものがよろしく夏季用

色よき他の布を用ゐてもよろしいのであります。頭布の上部と衿元の所に附ける飾リボンは同色のものでも變色のものでも差支へありません。

而して表用布は巾五寸二分丈七寸のもの一枚あればよろしく裏用布も同寸法だけあれば宜しいのであります。但し表用布だけは若し縁の飾り布を表面用布と同布にするとせば二寸巾にて丈三尺五寸位餘計に布を見積る事が必要であります就も此の飾布は途中で接いても宜しいのでありますから幅の方と長の方とを工合よく増して無駄のない様に積るがよろしかるうと思ひます。飾リボン及び紐用のリボンなどは其の幅丈を好みに依りて適宜に選ぶ様に致します。

(甲)裁方順序



先づ頭布の型紙を第六十七圖の(甲)に示せる如く幅二寸二分丈五寸五分の長方形を基礎として上部は兩端より二分づつ入りたる所より外上へ二分山形に圓味の線を引き而して下部は三分づつ兩端より入りし所に上部二分づつ

第六十七圖

つ入りし所より圖の如く線を引き其の線通りに裁切ります。

此の型紙通りに表用布と裏用布とを一枚づつ一緒に裁ち切り  
ます。

次は脇布の型紙を同圖の乙の如く横二寸九分丈三寸四分の  
長方形を基礎として同圖の如き寸法に依つて型を作り此の型  
通りに切り抜きます。而して此の型紙通りに表用布二枚と裏  
用布二枚とを裁ち切りますが其の向は互に反對に致さねばな  
りません。

(乙)裁方順序

先づ表用布の方の頭布と脇布とを頭布を中央に挟みて上部  
から後迄の縁を中表に縫合せ其の縫目は開いて置きます。次  
に裏用布の方の頭布と脇布とを右と同様に頭布を中央に挟み  
て上部から後迄の縁を中表に縫ひ合せ其の縫目は同じく之を

開いて置きます。

それより此の頭布と脇布とを縫合せた表と裏を中表に正しく  
重ね合せ其の周圍を縫ひ合せますが後の方に少し縫ひ残し  
て置いて其所より全體を外表に返し縫ひ残しの部分は縫目に  
倣ひて絡りつけて置きます。第六十七圖の(丙)(丁)は即ち此表裏  
縫合せたる所を後ろの方から脇の方からと見た所を示した  
ものであります。

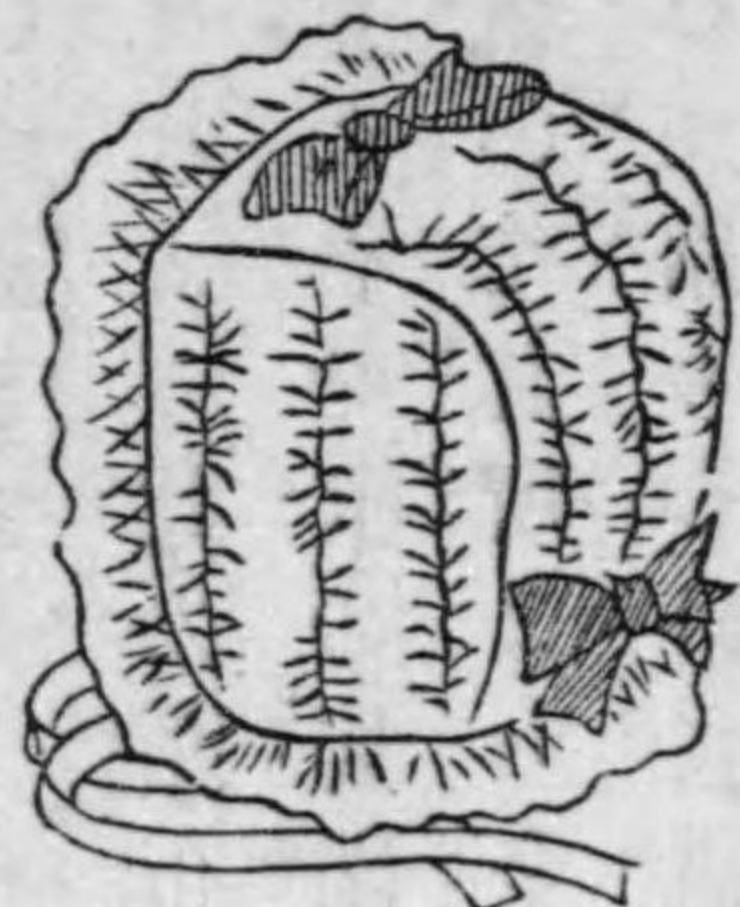
次は縁の飾布を此帽子の周圍に縫ひ附けるのであります。が  
同布の場合には其巾を二ツ折になし中央より縫ひ縮めて附け  
るのであります。但し此の飾布は表用布が柔かなる布であれ  
ば同布で致しても宜しいのですが若しさうでない時は別に柔  
かなる羽二重の様な布を飾とするが適當であります。

次は頭布と上部の所と衿元の所とに飾り結びをしたリボン  
を綴ぎ付け而して結び紐のリボンを腮の兩端に附ければ之に  
て全部出来上つた事になります。

### 第二十一章 帽子 (第五種)

初生兒用

圖八十六第



此の帽子は其の形は前章に述べた帽子と同様であります  
只其の表用布を羽二重と致し之を縫ひ縮  
める爲に其の拵へ方に幾分の相違がある  
だけであります。故に其の體裁は第六十  
八圖に示す如く用布に縫ひ縮めがあるだ  
けで其の他には少しも異つた處ありませ

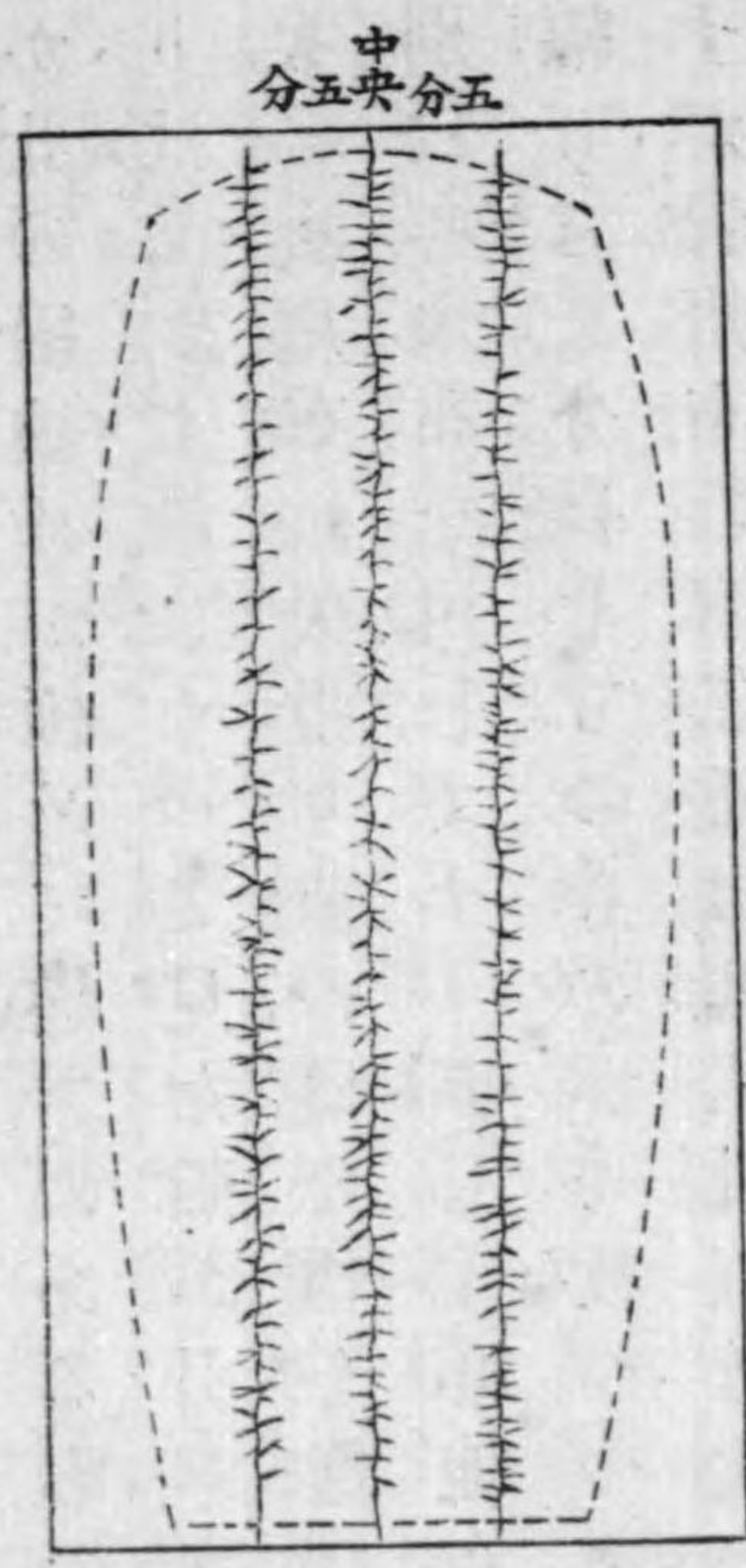
んが此の縫縮めが極めて趣きのあるものでへたな模様物など  
よりは品がよろしくつて見た眼が引き立つのであります。  
次に裏用布は矢張り前の様な物を選びますが表の羽二重に  
は別に心地布を用します。而して心地布と裏用布とは前と同  
様幅五寸二分長七寸のものが一枚づつあれば宜しいのである  
ますが表用布の羽二重は幅六寸五分丈一尺二寸のもの一枚必  
要であります。但し縁の飾り布を同じく羽二重にて致す時は  
前に説た方法より餘計に見積る事が必要であります。

(甲)裁方順序

先づ用布の方を頭布一枚脇布二枚を前の型紙通りに裁ち初  
り又心地も頭布一枚脇布二枚を前の型紙通りに裁ち切つて置  
きます。(心地布は寒冷紗を用ゐます)

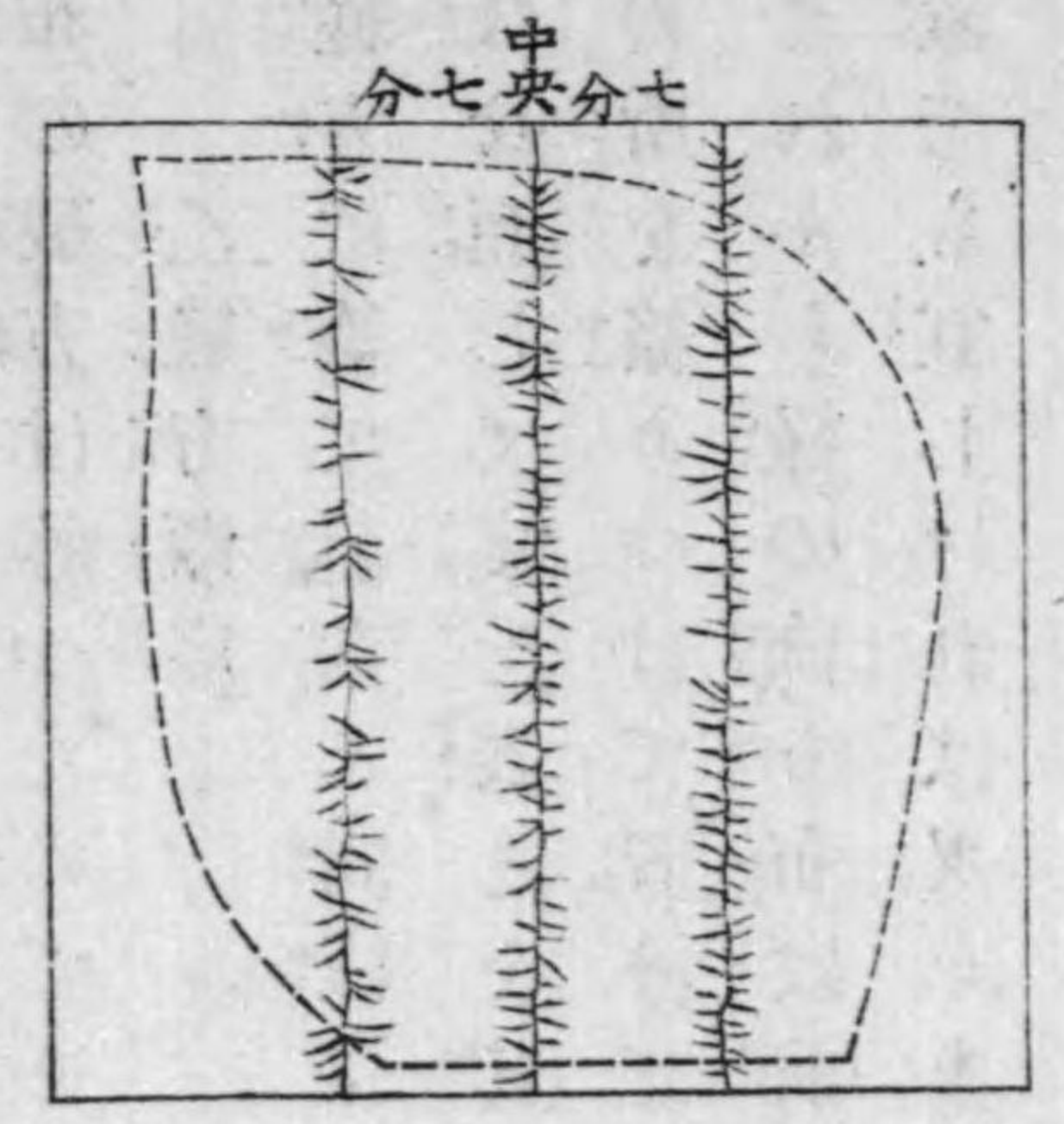
それより表用布の方を頭布として幅二寸八分丈九寸の長方形に一枚裁ち切り又脇布として幅三寸六分丈五寸五分の長方形のもの二枚裁ち切つて置きます。次に此の頭布の幅の中央を縦真直ぐに筋を標し又其の兩脇五分づつ離れた處を同じく縦真直ぐに筋を標し此の標しを山として五厘づつ摘まんで縫ひ此の縫つた處を三本とも平均に引締めて頭布の型紙より少し長い位の丈に縮めて置きます。

圖九十六第



布を心地の頭布に載せ心地の方の型通りに尙ほ引き締めたる

圖十七第



上にて綴ち附け而して其の周圍を心地の方の型通りに裁ち落して置きます。第四圖は即ち此表頭布を心地の頭布の上に乗せたる所を圖に示したるもので波線にて示せるものが即ち心地の頭布の部分であります。

圖一十七第



次に表脇布の幅の中央を縦真直ぐに筋を標し又其の兩脇七分づつ離れた處を同じく縦真直ぐに筋を標し此の標しを山として五厘づつ摘まんで縫ひ此の縫つた處を三本とも平均に引き締めて脇布の型紙より少し長い位の長さに縮めて置く事二枚

とも同様に致します。夫より此の表脇布を心地の脇布の上に載せ心地の方の型通りに尙長を引きしめたる上にて綴ぢ附ける事第五ツ圖に示せる如く致し而して其の周囲を心地の方の型通りに裁ち落して置きます。今一枚も同様に致して置きますが其の向は反對にする事を忘れてはなりません。以上にて用布の裁方は終つたのであります。次は縫方に移ります。

(乙)縫方順序

縫方は總て前章と同様に表と裏とを別々に頭布と脇布とを縫合せ而して裏と表とを其周囲を縫ひ合せ外表に返して縫殘しの所を絡りつけて置けば宜しいのであります。それから縁の飾り布は前と同様に羽二重を縫ひ縮めて附けて置ても宜しければ又レースを縫縮めて附けて置ても宜しい

のであります。但し此の縫縮めに附ては只端をギヤダに縫縮めるのもあれば又第七十一圖に示せる如く普通の巾着襷に縫縮めるのもあります其の縫縮めの形式に従つて布の丈及び幅に相違を生ずるものでありますから此の邊は豫め斟酌する必要が有ります。

而して此の縫縮めは尙ほ二重になした布地に山形の如く又波形の如くに針目をつけて縫つて行き之を引き締めると頗る面白い縮み方を致します。又縫ひ縮めの糸を二重又は三重に致して之を八重に引き締めたり致しますと又一層變つた面白い縮み方をいたします。

斯様に縫ひ縮めの方法には工風一つでいろく〜と面白いものが澤山出来るのであります第七十二圖に示せるものは前に

圖二十七第



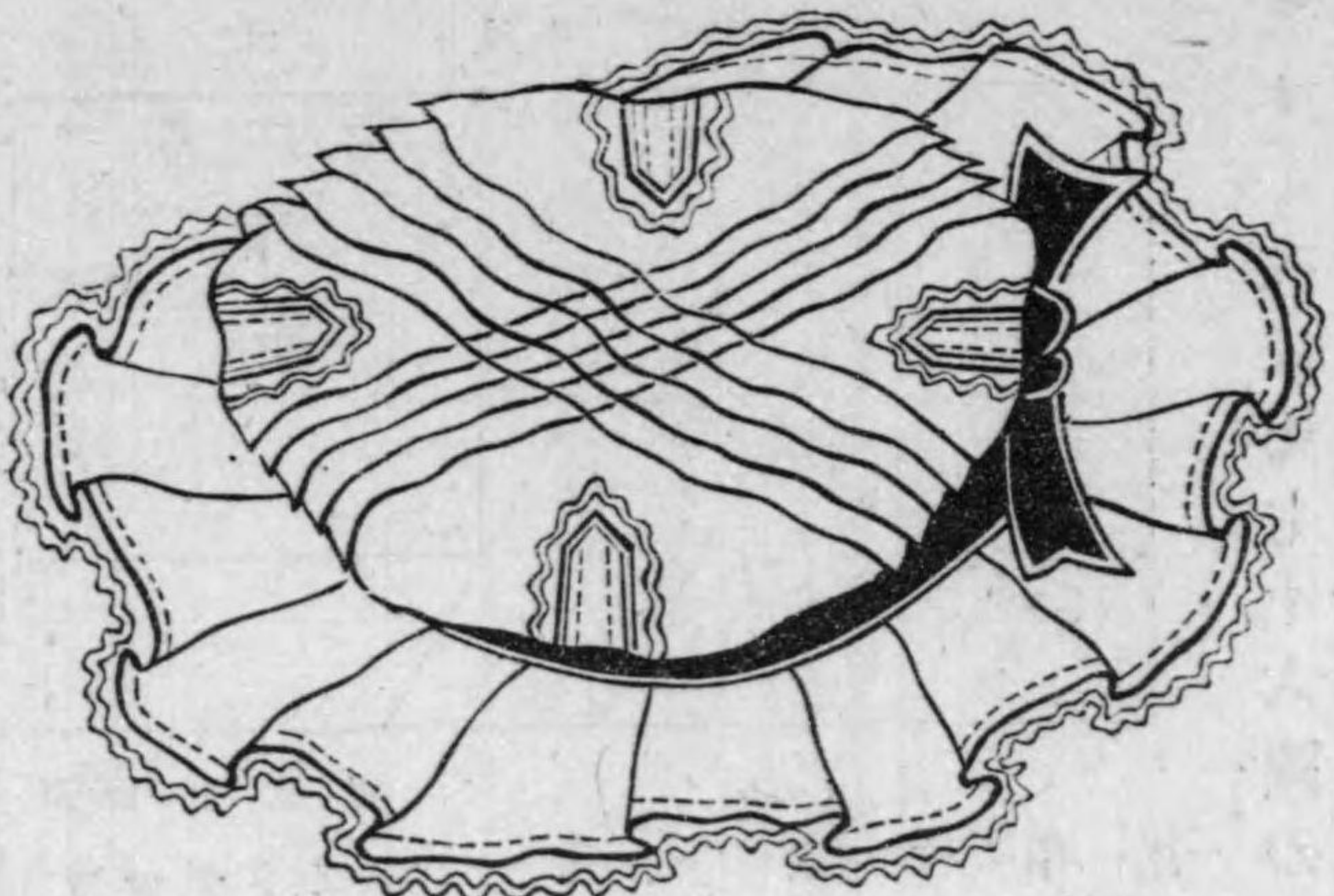
ますから此の帽子は應用の方面が甚だ廣い事となり教授のものとして甚だ適當して居ります。偕て最後に飾りの結びリボンを綴ち附け結び紐のりボンを腮の所に縫ひ附ければ全部出來上りとなります。

七八

第二十二章 帽子 (第六種)

二三歳用

圖三十七第



第二十二章 帽子 (第六種)

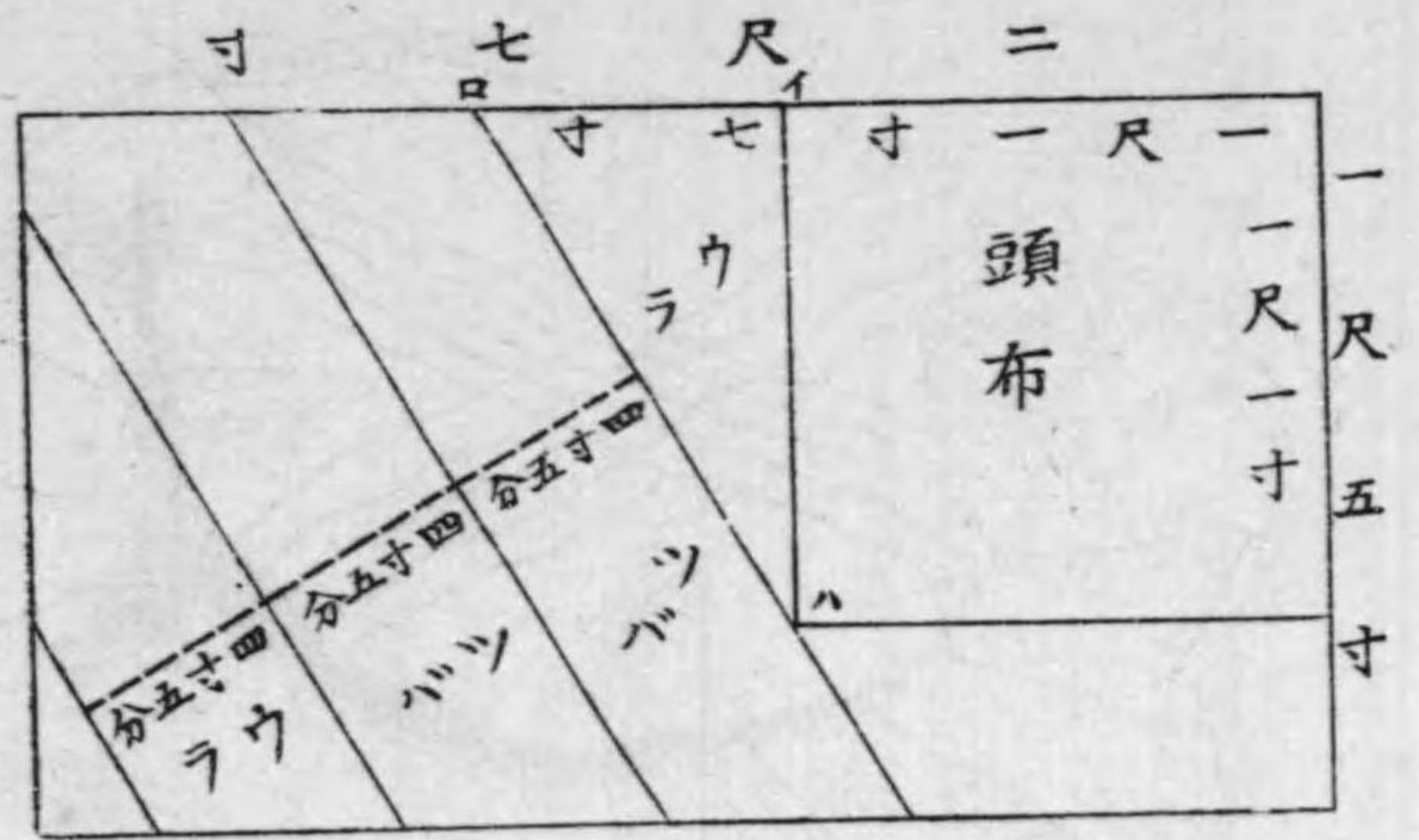
要布は長一尺五寸。幅二尺七寸。  
レース、リボン數尺  
「頭廻り一尺三寸」

(甲)裁方順序

最初に一尺一寸四方の頭布をと  
り次に頭布の角(イ)より七寸離れた  
處(ロ)と頭布の下(カ)に定規を當  
て斜めに線を引き其の線に直角に  
四寸五分の幅に罫布を二枚裁ち切  
り次に残り布にて裏を裁切ります  
が幅四寸五分長一尺三寸になる様  
に縫ひ合せるのであります。

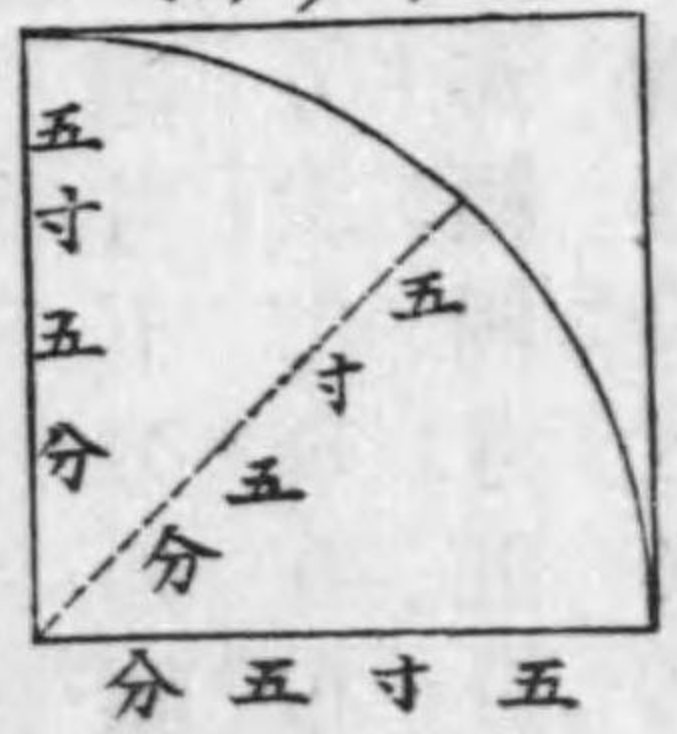
七九

圖四十七第



ります。次に第七十六圖の如く四方にレースをつけ両端にミ

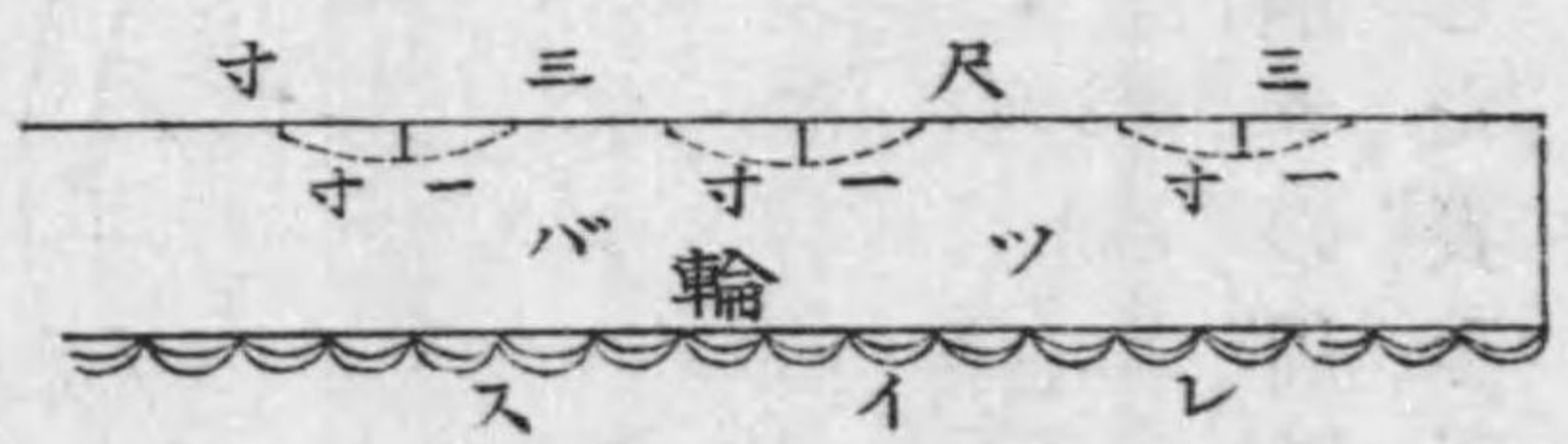
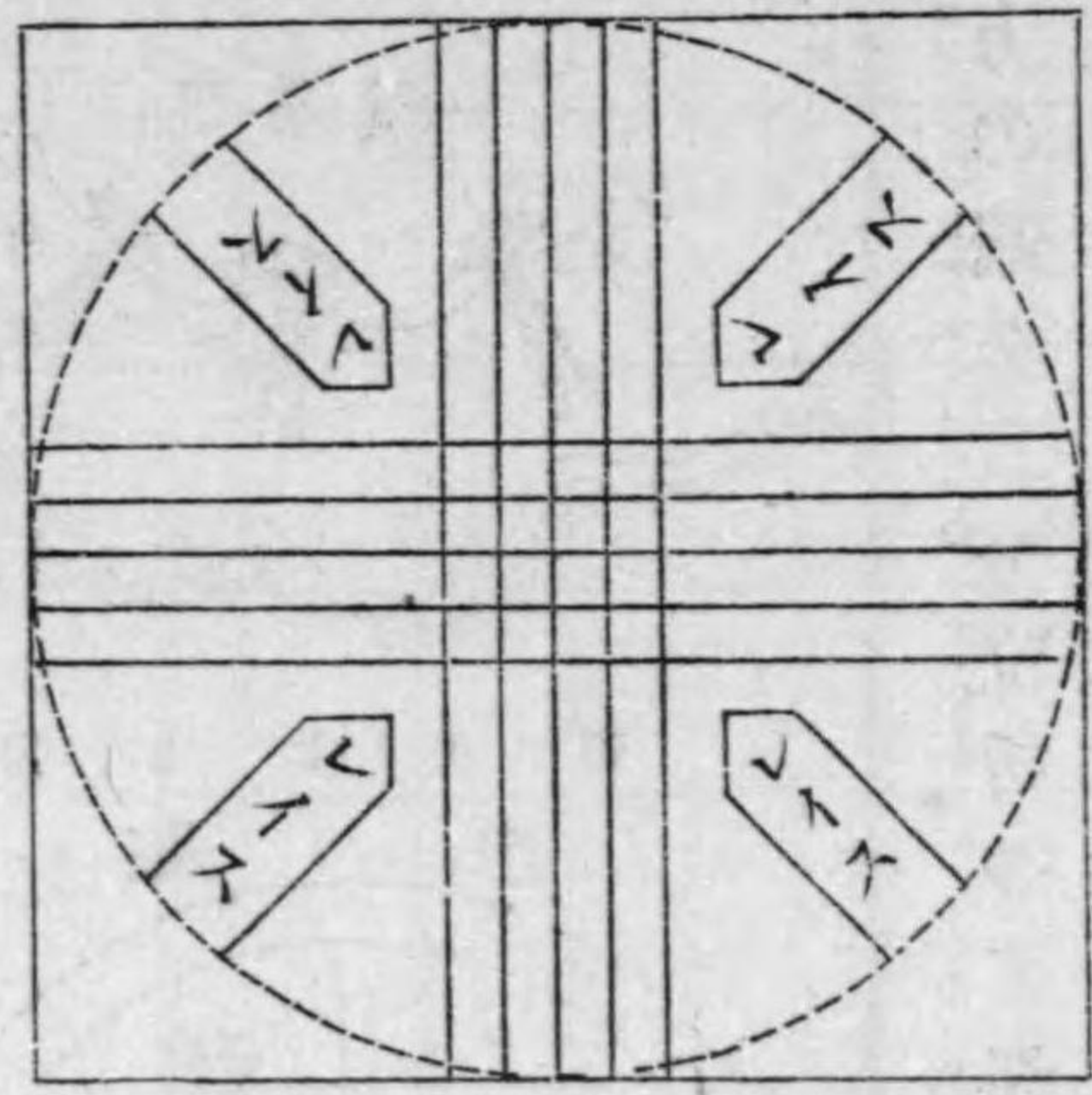
圖五十七第  
ミタダツヨ



八〇  
縫方順序  
先づ頭布の中央より左右に五分づつ二箇所に印を付け之を山に一分の襷をとり

ます。襷は合計五本とりまして一方へ折伏せて置きます。横にも縦と同様に五本の襷をとり一方へ折伏せて置きます。(第七十五圖)それより布を四ツに疊みて第七十五圖の如く五寸五分づつに印を付け圓形に裁切

圖六十七第



の印を中央にして一寸幅の巾着襷を十三ヶ所とりますと周圍が一尺三寸になりまして頭廻りと丁度同じ長になります。次

シンをかけて置きます。次に罎布を二枚斜目と斜目を縫合せて三尺三寸の長になし又兩端を縫合せて圓形に輪の如く致します。其の布の幅を二ツ折になし輪の方へレースを付けてミシンをかけ他の一方の周圍を十三等分し其



に頭布の四方即ち横縦の襷と罽の頭廻りを四等分した其の  
ケ所づつに待針を刺し其の間に於て頭布の縁を適度に縫縮め  
て罽廻と縫合せま



第七十八圖 形 梅



他方の端を二分位折つて罽廻りの周圍に縫合せます。梅形に  
縫ひますには輪型になりました表を五等分して其の箇所を二

す。

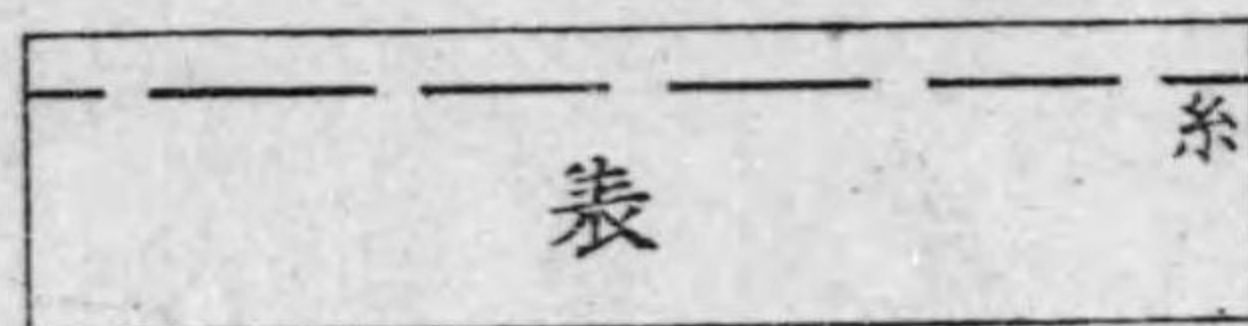
次に裏布を縫ぎ  
合せまして一尺三  
寸の長になし之を  
圓形の輪型に縫合  
せて一方の端を梅  
型に疊み縫になし

第七十九圖

一尺三寸



四十五分



分位づゝ掬縫になし裏に返して糸を引締  
めて裏の方にて良くとみますと表の方  
へ梅形が現れます。次に一分位の幅のゴ  
ムを八寸斗り頭廻の左右の端に附けます  
ゴムの代用に白テップにても宜敷う御座  
います。

第二十三章 帽 子 (第七種)

三四歳用

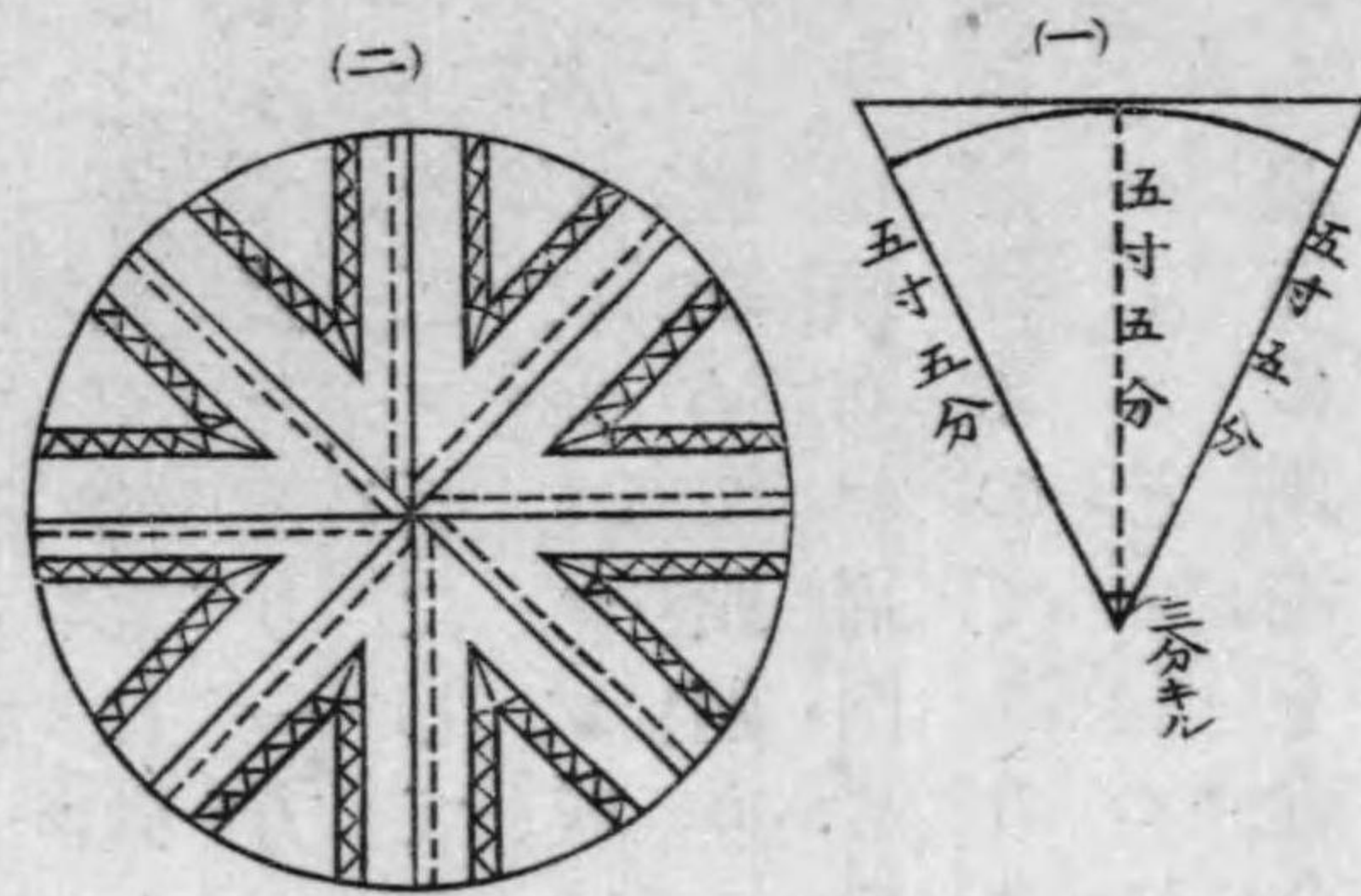
要布は寒冷紗にて長一尺三寸。幅二尺七寸。レース數尺

「頭廻り一尺三寸五分」

縫方順序

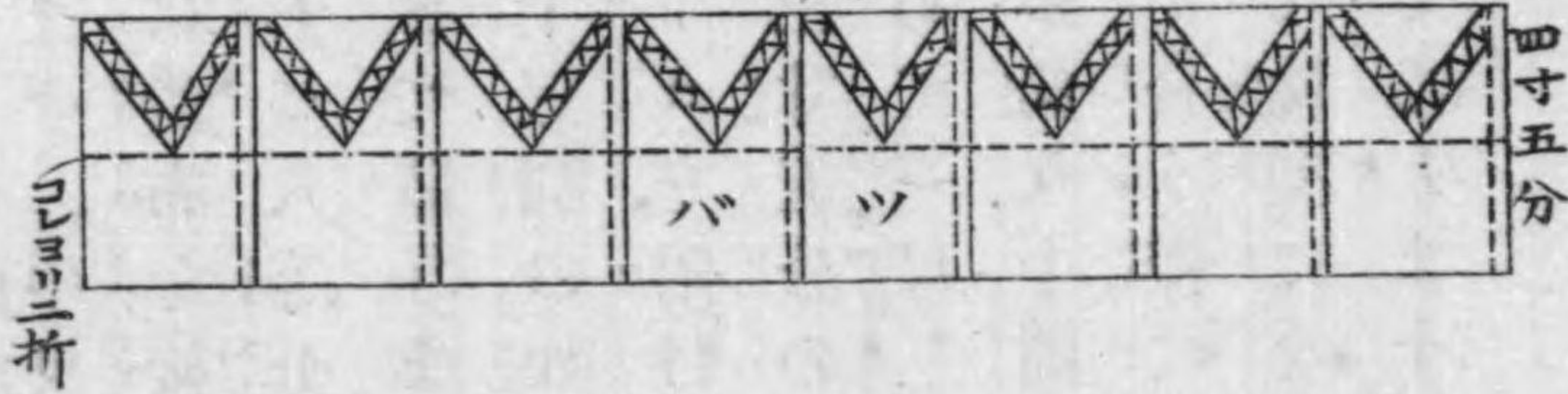
第二十三章 帽 子 (第七種)

圖二十八第



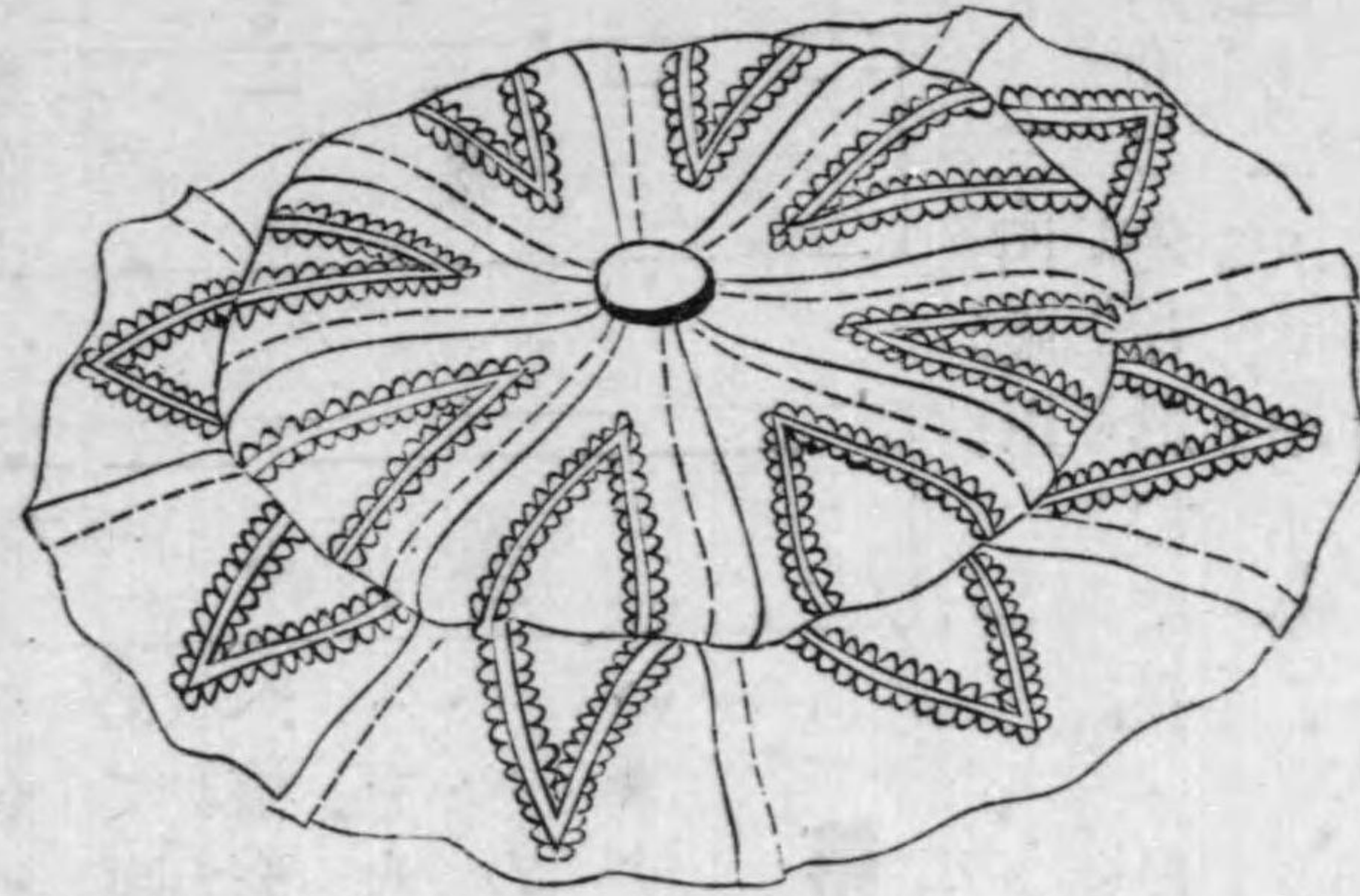
圖三十八第

寸一尺三



法を印して裁切り下の尖りたる所を三分丸く切り取つて中央に穴を開けます。此の圓形の頭布を第八十二圖(二)圖の如く八ツにたゝみまして其の折目の所を山に二分撮みて襷をとり襷は一方に向けて伏せて置きます。襷と襷との間に三角にレ

圖十八第



小兒實用和洋裁縫小物集

圖一十八第

寸七尺二

バツ	四寸五分	寸一尺一	一尺三寸
バツ	四寸五分	頭布	
ラウ	四寸		

第八十一圖の綜合圖に於て裁切りましたり一尺一寸四方の頭布を第八十二圖の(二)の如く三角に疊みまして下より五寸五分づつ各部に寸

ス或は飾テツブの類を附けます。中央の孔の處は釦を布にて包みて附けて置きます。次に罽布を接合せて三尺一寸の長になし之を丸く輪形に致しまして八等分に印をつけ之を山に二分撮みて襷をとり一方へ伏せて置きます。夫より四寸五分の幅の方を二ツ折にして第八十三圖の如く一方の襷と襷との間に三角形に飾テツブ或はレースを附けます。罽布の端を二枚一所に縫縮めて頭廻り一尺三寸五分の長にして糸を留めて置きます。頭布の周圍も縫縮めて一尺三寸五分となし罽の廻りに縫ひ附けるのでありますが第八十圖の出來上り圖の如く襷と襷。レースとレースが能く合う様にして縫附けるのであります。裏布の兩端を縫合せて輪型になし一方を梅形に縫ひます。梅形の縫方は前述の通りであります。他の一方の端を二分

位折りまして頭廻りの縫目に折伏せて絡縫にして置きます。

白テツブか或は一分位の幅のゴムを八寸程頭廻りの左右に附けて置きます。

第二十四章 帽 子 (第八種)

三四歳用

要布は長一尺五寸。幅二尺七寸。

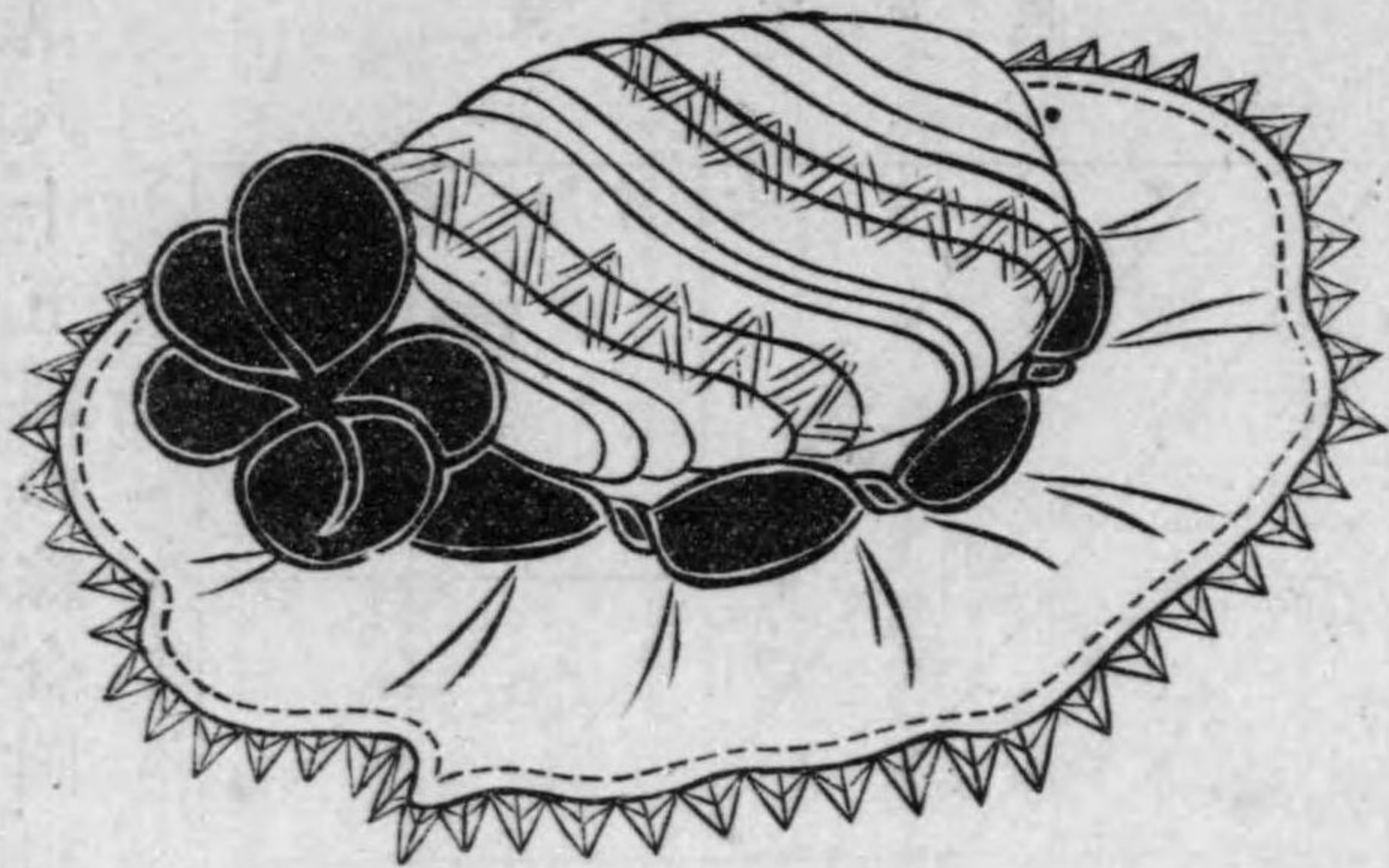
レース、四尺五寸、籐二尺六寸、リボン

数尺

頭廻り一尺三寸五分

縫方順序

圖 四 十 八 第



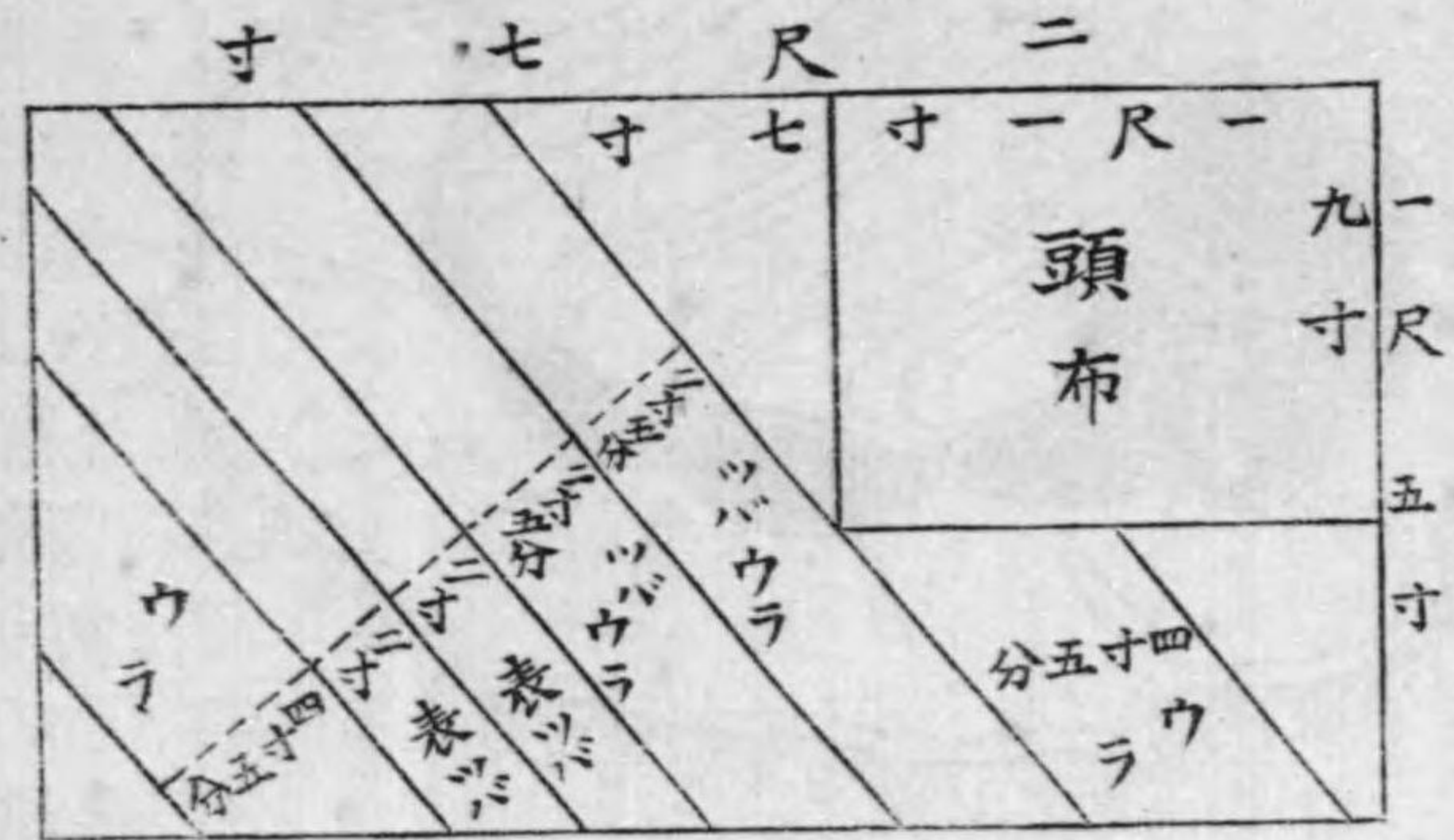
第二十四章 帽 子 (第八種)

第八十五圖の綜合圖にて裁

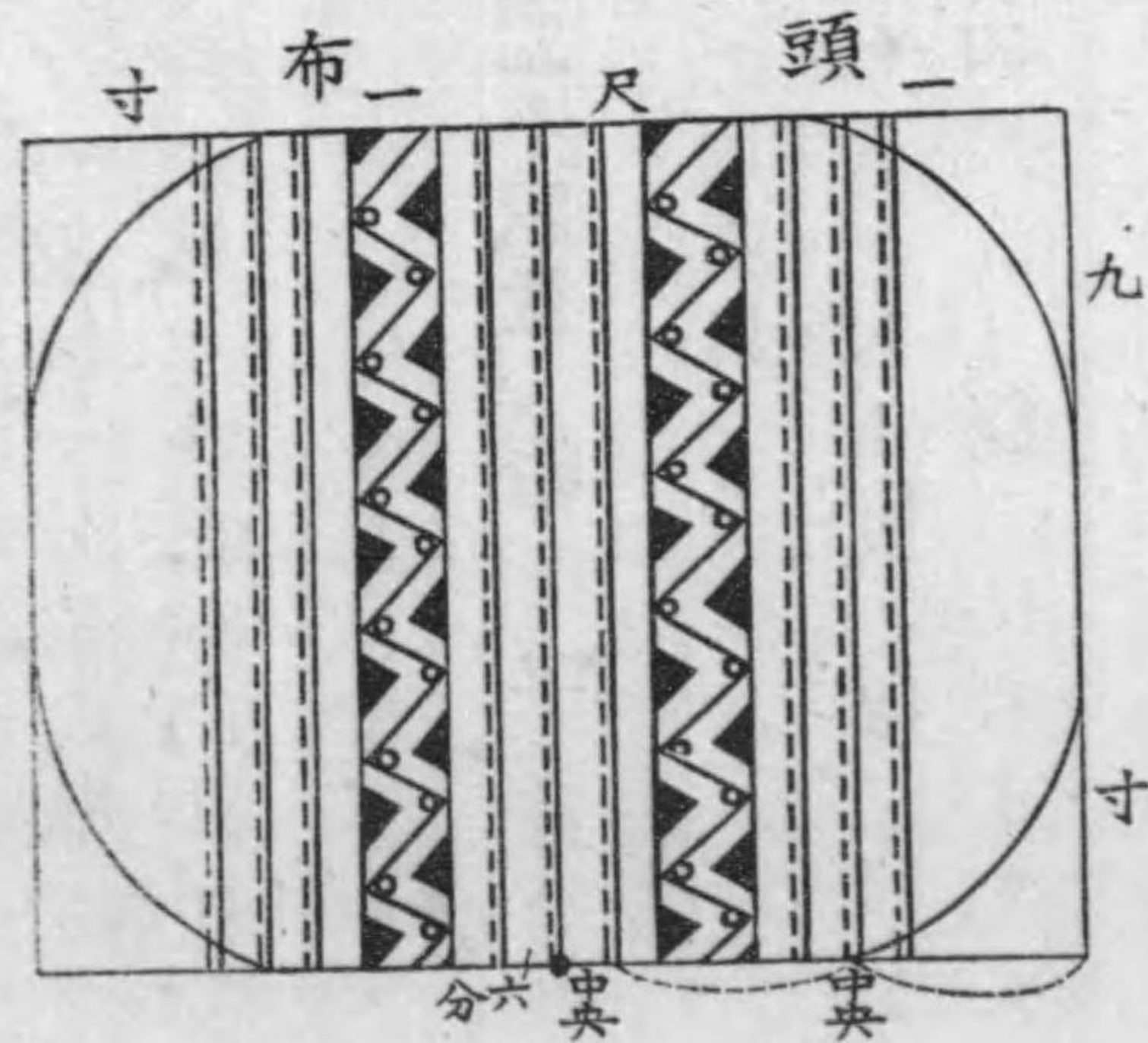
切りました頭布の一尺一寸幅の中央とそれより左右六分の所に

八八

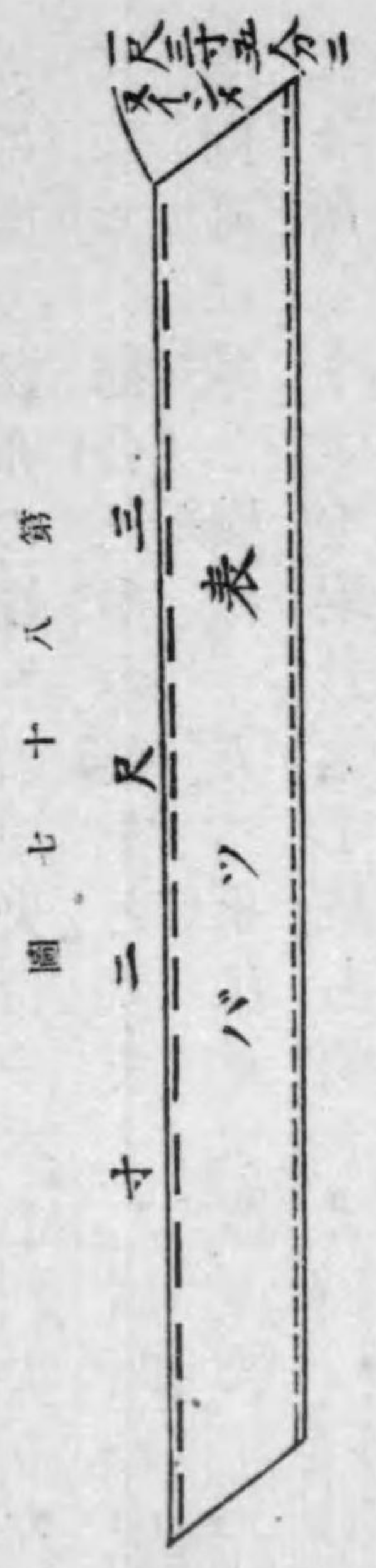
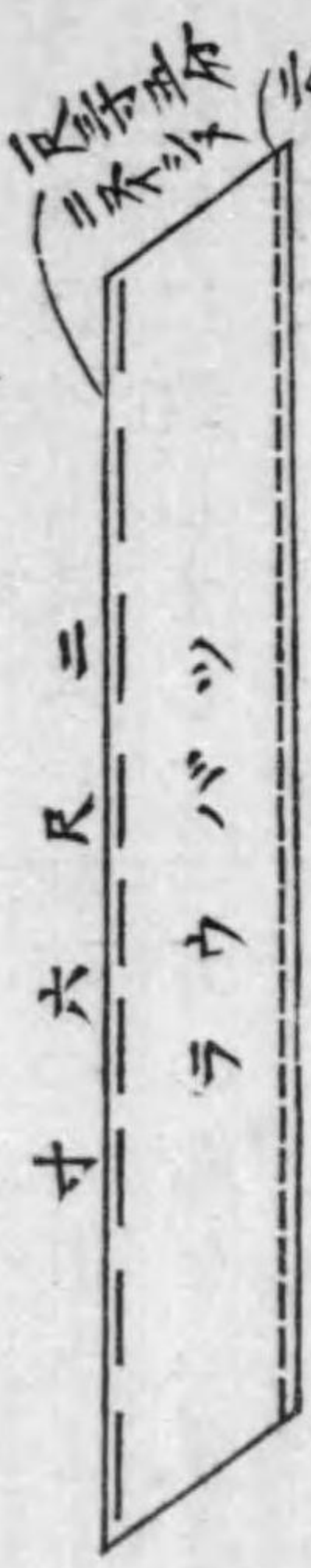
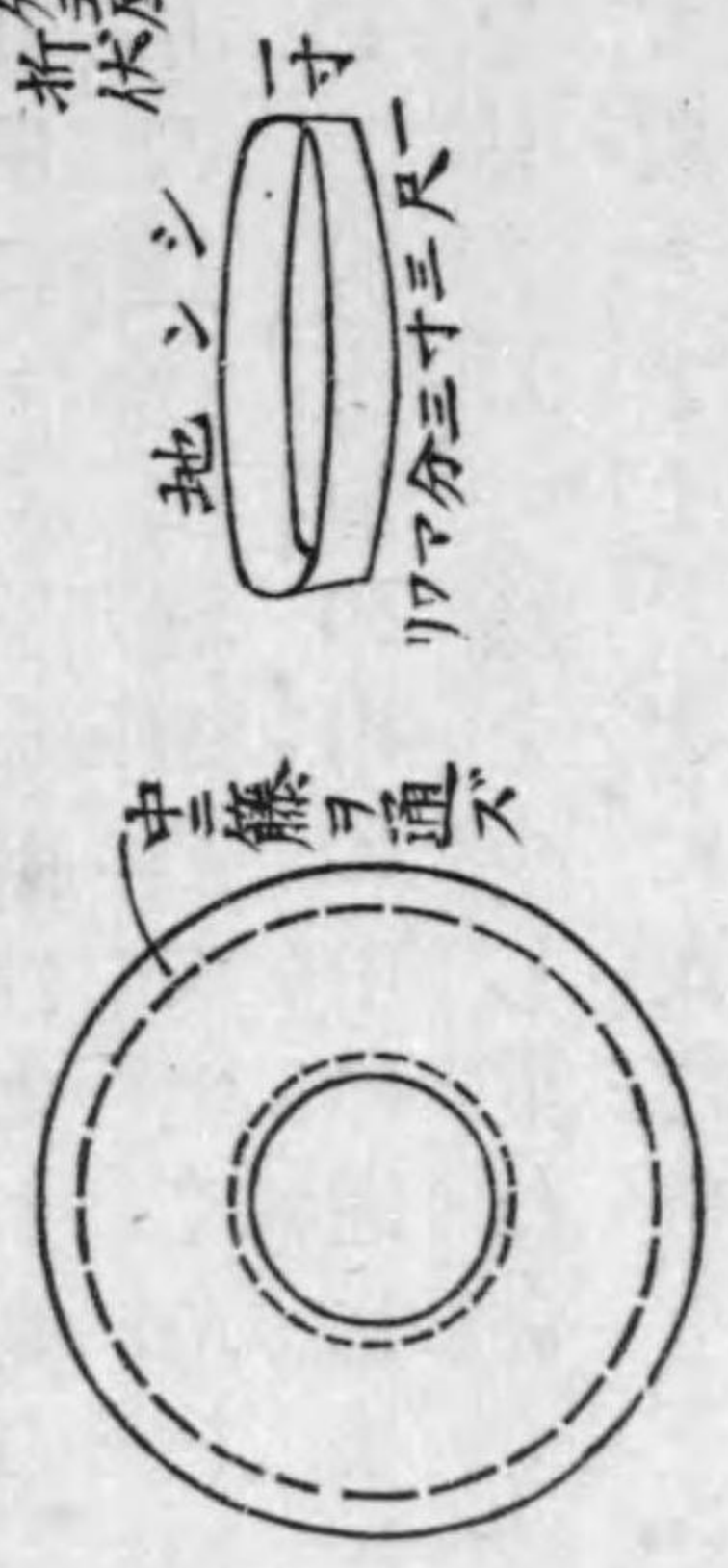
第八十五圖



第八十六圖



印をつけ此の印を山に撮みて一分の襷三本取ります。次に終りの襷と頭布の端との中央に一本それより左右に六分を離れて二本。都合三本の襷をとります之は幅の中央より左の方へも同様に致し襷は一方へ折伏せて置きます。襷と襷との間へ二ヶ所レースを附け裏を裁ち切りましてレースを透します。頭布の角は少し丸みに裁切つて置きます。次に裏罽布二尺六寸を輪型に致しまして一方の端を一分折つて又二分五厘折伏せて其所にミシンを掛けます他の一方の端を一尺三寸五分の頭廻りの長けに縫縮めて堅く糸を留めて置きます。次に籐を一方の二分五厘の中に通しまして頭廻りの縫縮めました丸みを見まして籐を少し重ね合す様にして慥つかりと布に縫附けて置きます。次に表罽布を三尺二寸の長に接ぎ合せて輪



第八十七圖

二ツ重ねて其所にミシンをかけて置きます。

九〇 形になし一方の先を一分折伏せて小巾のレースを附ける他の一方の端を縫縮めて一尺三寸五分と致します。そこで裏罽布の縫縮めと表罽布の縫縮めと此の表罽布は此

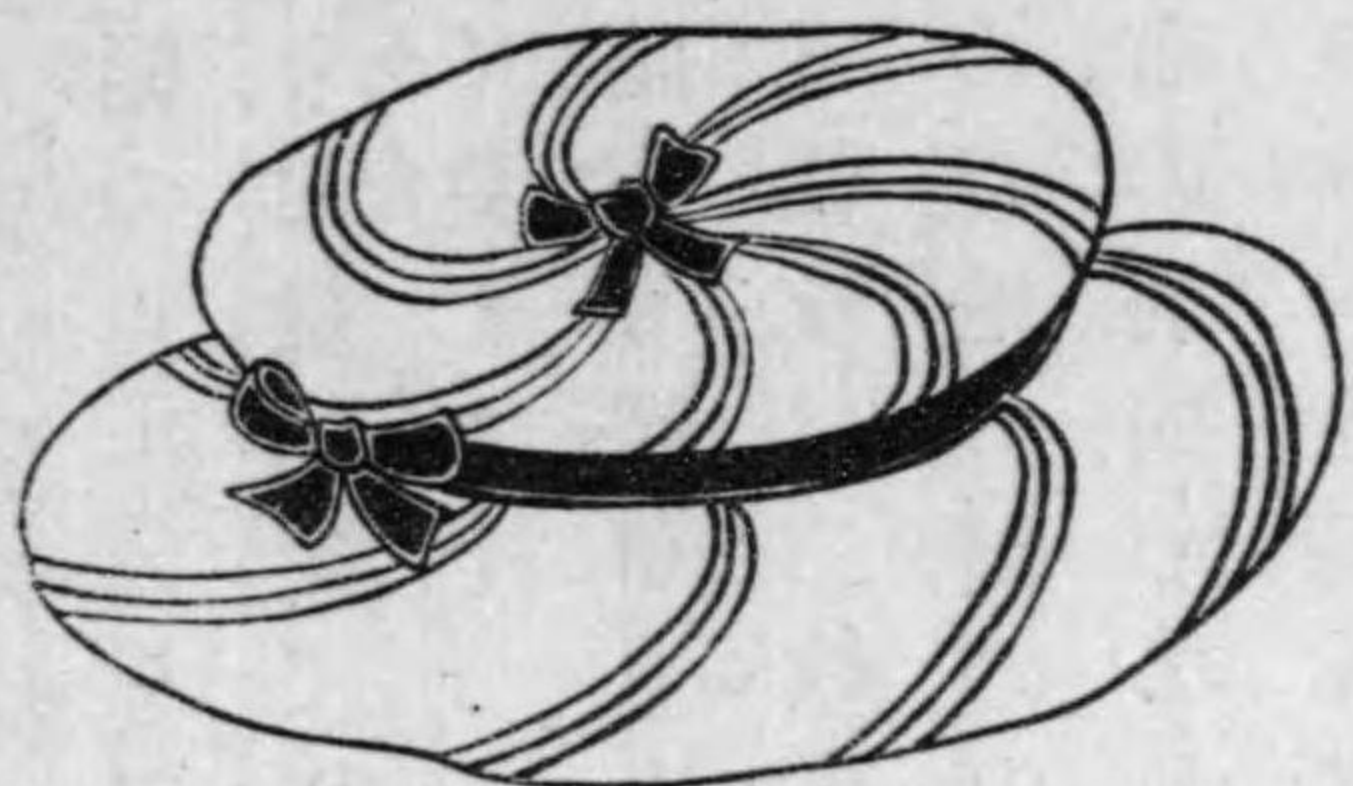
所では用布の先にレースを附けて置きました。が別に二寸位の大幅のレースを三尺二寸位の長に切り之を一尺三寸五分の頭廻りに縫縮めて用布の代りに縫附けます。と至極格好もよし美麗く見えます。

頭布も罽布も出来上りましたら心地と申して少し堅き切を一寸幅位に二枚重ねまして一尺三寸三分位の輪型に致します。此の心地の幅の中央位の所へ頭布の周囲を縫縮めて縫附け又罽布の縫縮めました所も此のしん地の中央へ縫附け。合せ目はリボンを結んで隠して置きます。

裏布は接ぎ合せて一尺三寸五分の長になし之を輪形にして一方の端を梅形に縫ひ他の一方の端は一分折伏せて心地の中央即ち罽布をつけた下より新縫に致します。

第二十五章 帽子 (第九種)

三四歳用



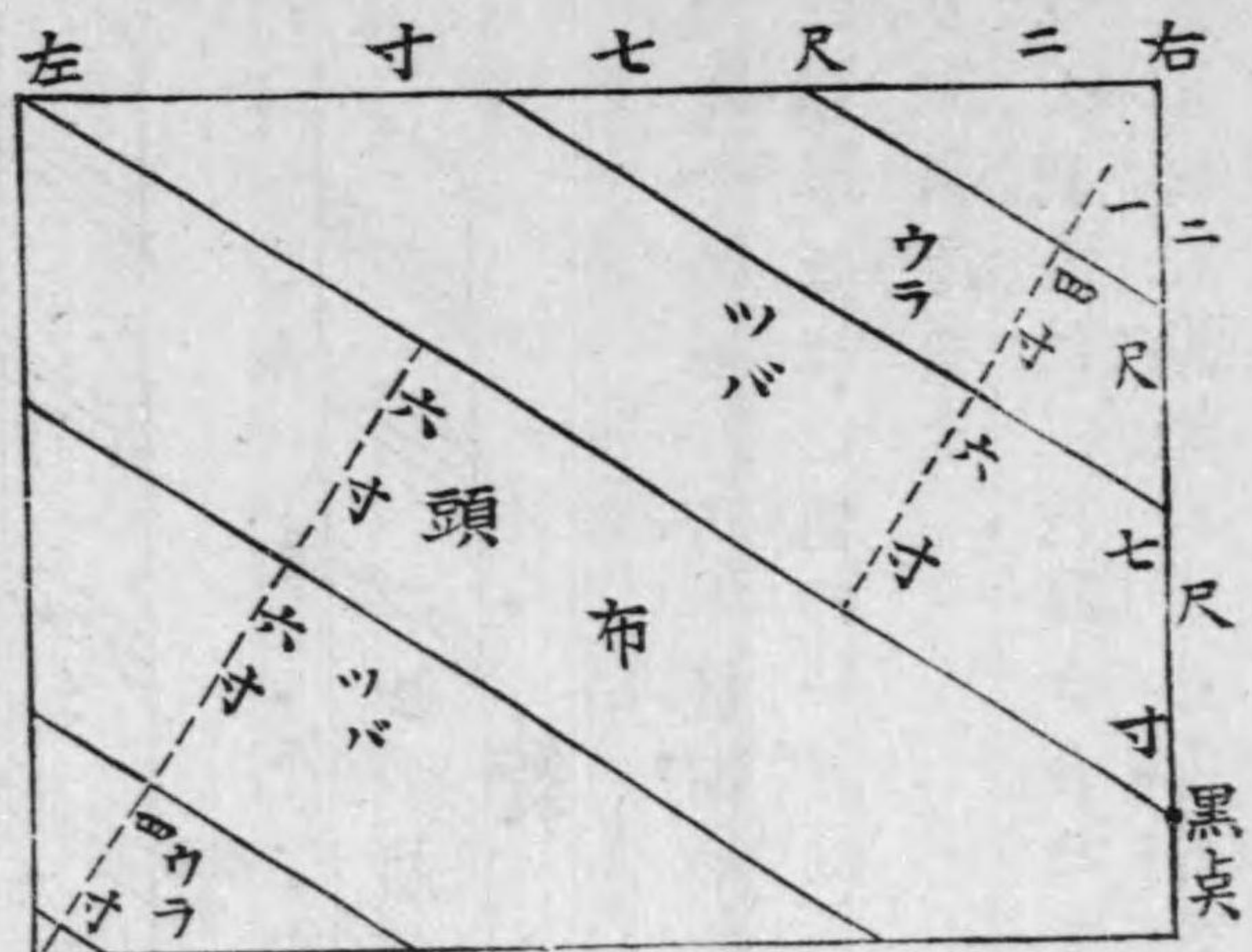
圖八十八第

要布は寒冷紗にて長二尺。幅二尺七寸。  
リボン數尺  
頭廻り一尺三寸五分

(甲)裁方順序

第八十九圖の綜合圖に示す如く用布の  
右角より一尺七寸下りたる黒點に印を附  
け其の黒點より用布の左角に向つて斜目  
に直線を引き其の直線を基礎として左右  
に直角に六寸づつの幅に裁切り裏布は四

圖九十八第



寸幅に裁切ります。此の六寸の  
幅を極めますのは幅の中央にて  
左右に極めて行くので用布の端  
にて六寸と印しますと幅が狭く  
なりますから注意して裁たねば  
なりません。

(乙)縫方順序

裁ち切りました頭布を二尺四  
寸の長けに兩端を裁切り之を輪  
型になし布目通りに斜目に七等  
分して印を附け其の印の左右に

七分離れて二本印をつけ合せて三本の印をつけます此の印を



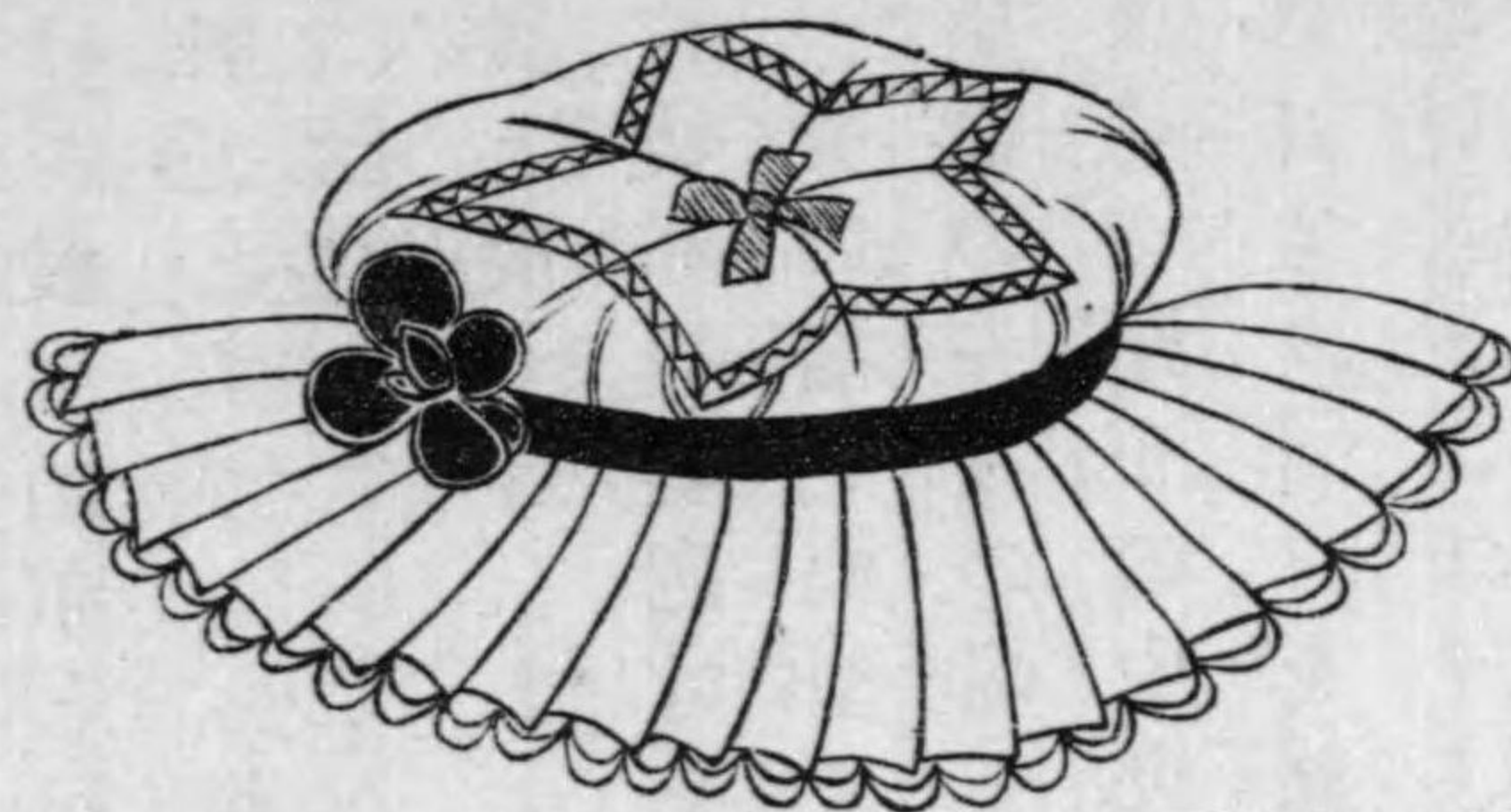
山に一分五厘の襷を三本とりま  
す。かくする事  
都合七ヶ所致し  
ます。襷は皆一  
方へ折伏せて置  
きます。襷がと  
れましたなら一方を縫縮めまして中央で能く糸を引締めて留  
めて置きます。他の一方は一尺三寸五分の周圍になる様に縫  
縮めて置きます。  
次に罌布は二枚接ぎ合せまして三尺三寸の長になし之も頭  
布と同様に輪型になし七等分して三本づつ七ヶ所に襷をとり

ます。襷は頭布と同じ方面に折伏せる様に縫合せます時に能  
く注意ください。襷がとれましたなら幅を二ツに折り二枚一  
所に縫縮めまして一尺三寸五分の周圍になし頭布の襷と罌布  
の襷と能く合ひます様にして二ツ一所に頭廻りを縫合せます  
次に裏布の幅四寸を接ぎ合せて周圍一尺三寸五分の輪形にな  
し一方の端を梅型に縫ひまして梅型は第十八章に述べてあり  
ます。他の一方の端を二分折伏せて頭廻りに絡り縫に致して置  
きます。頭布の中央に好みの色のリボン結び附け頭廻りの  
括れにもリボンを飾り、ゴム一尺ばかりを頭廻りの左右の端に  
縫附けて置きます。

第二十六章 帽子 (第十種)

七八歳用

此の帽子は鋤は折襷になつて居り頭上は梅形に見えます一



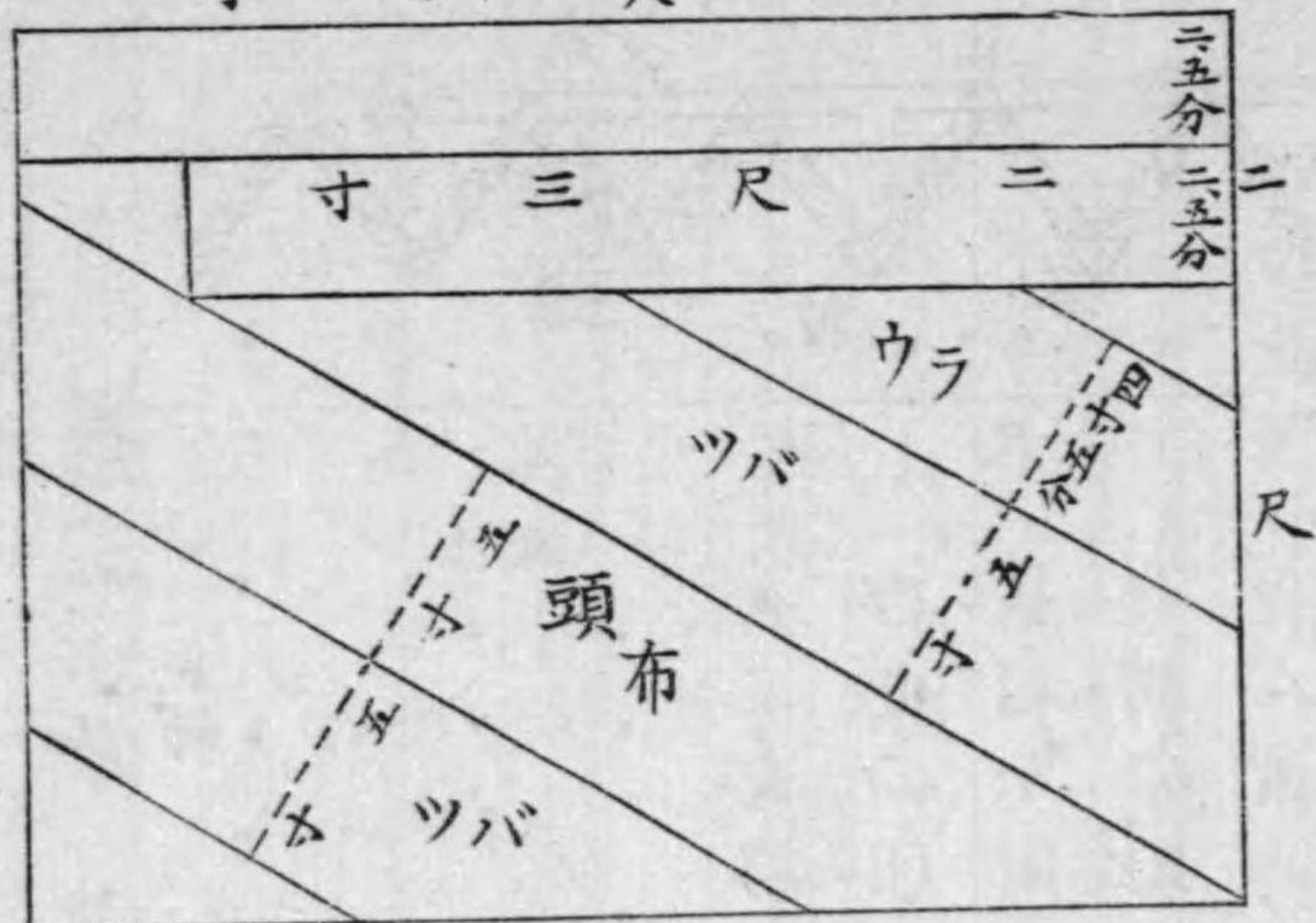
ハイカラの帽子であります之に用する用布は長二尺幅二尺七寸、レース數尺、簾三尺、頭廻は一尺四寸

(甲)裁方順序

第九十二圖の綜合圖に示す如く各部に寸法を印して裁ち切ります。即ち頭布一枚、裏鋤布は二枚、接ぎ合せて三尺となし、表鋤布も布を接ぎ合せて五尺の長さになし、裏布は残布を接ぎ合せて一尺四寸の長に致して置きます。

圖一十九第

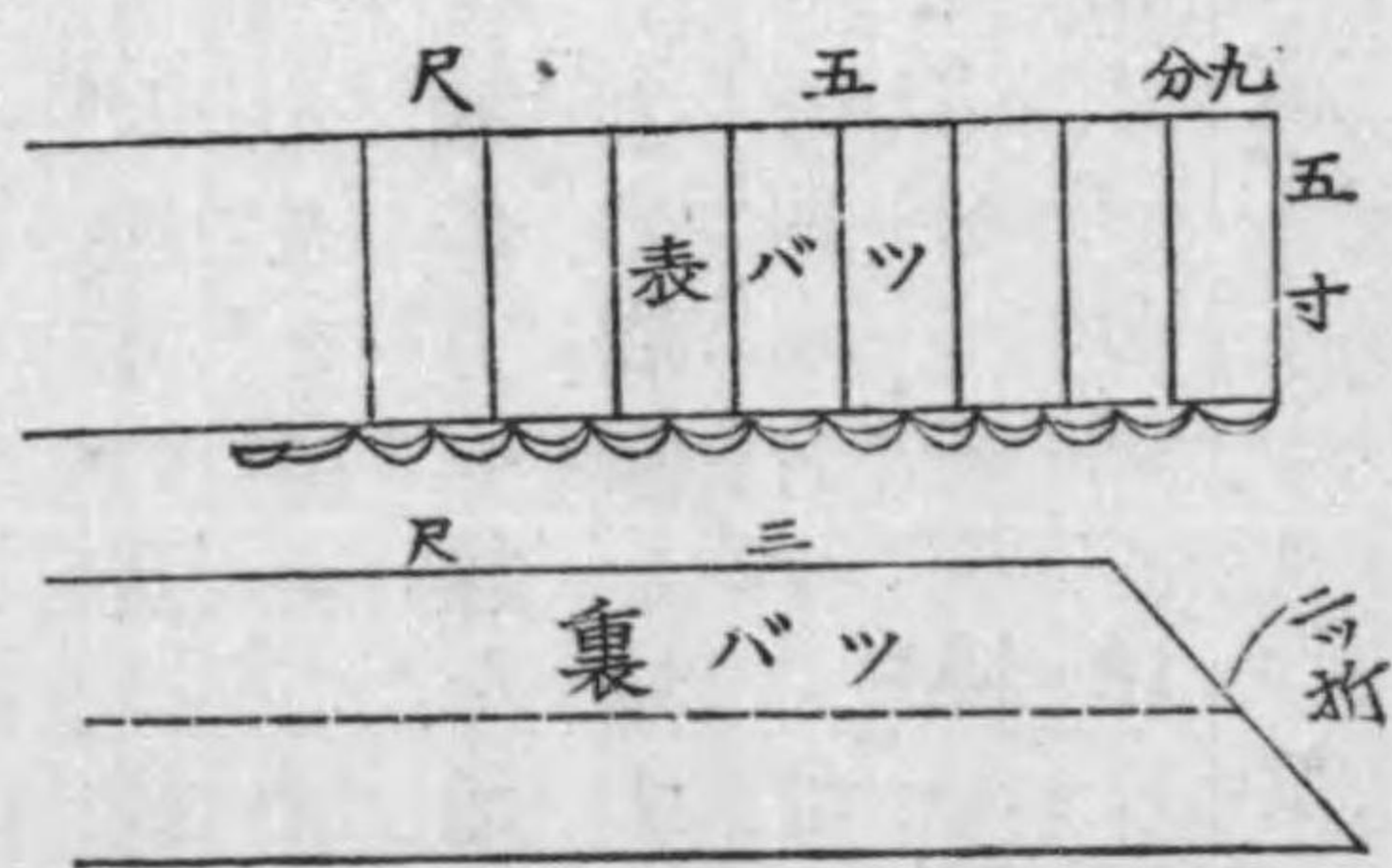
圖二十九第  
寸七尺二



(乙)縫方順序

第二十六章 帽子(第九種)

圖三十九第



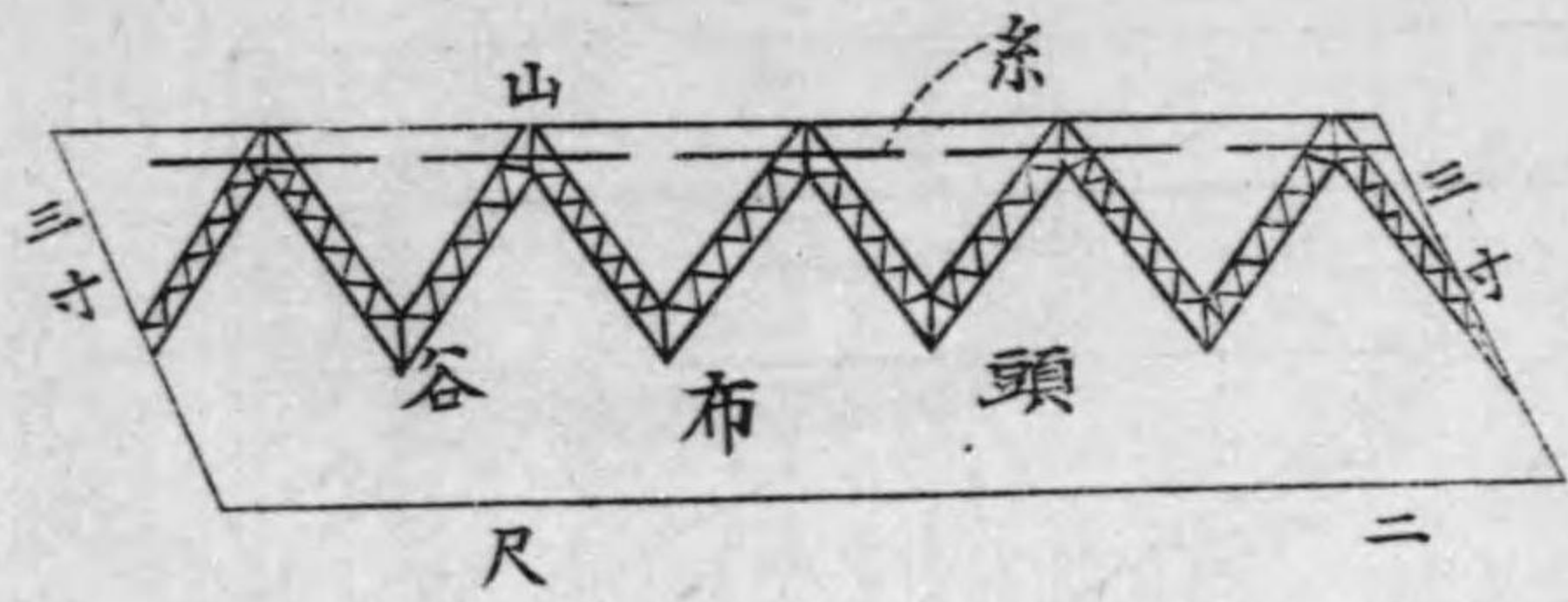
先づ表鋤布の先を二ツ折になして端に細きレースを附け布を輪型になし

てミシンをかけて置き、裏鋤布を中央より二ツ折になし、輪の方の端を二分位の幅



にぐるりと周圍にミシンをかけ他の一方の端は二枚一緒に一

圖四十九第



圖五十九第



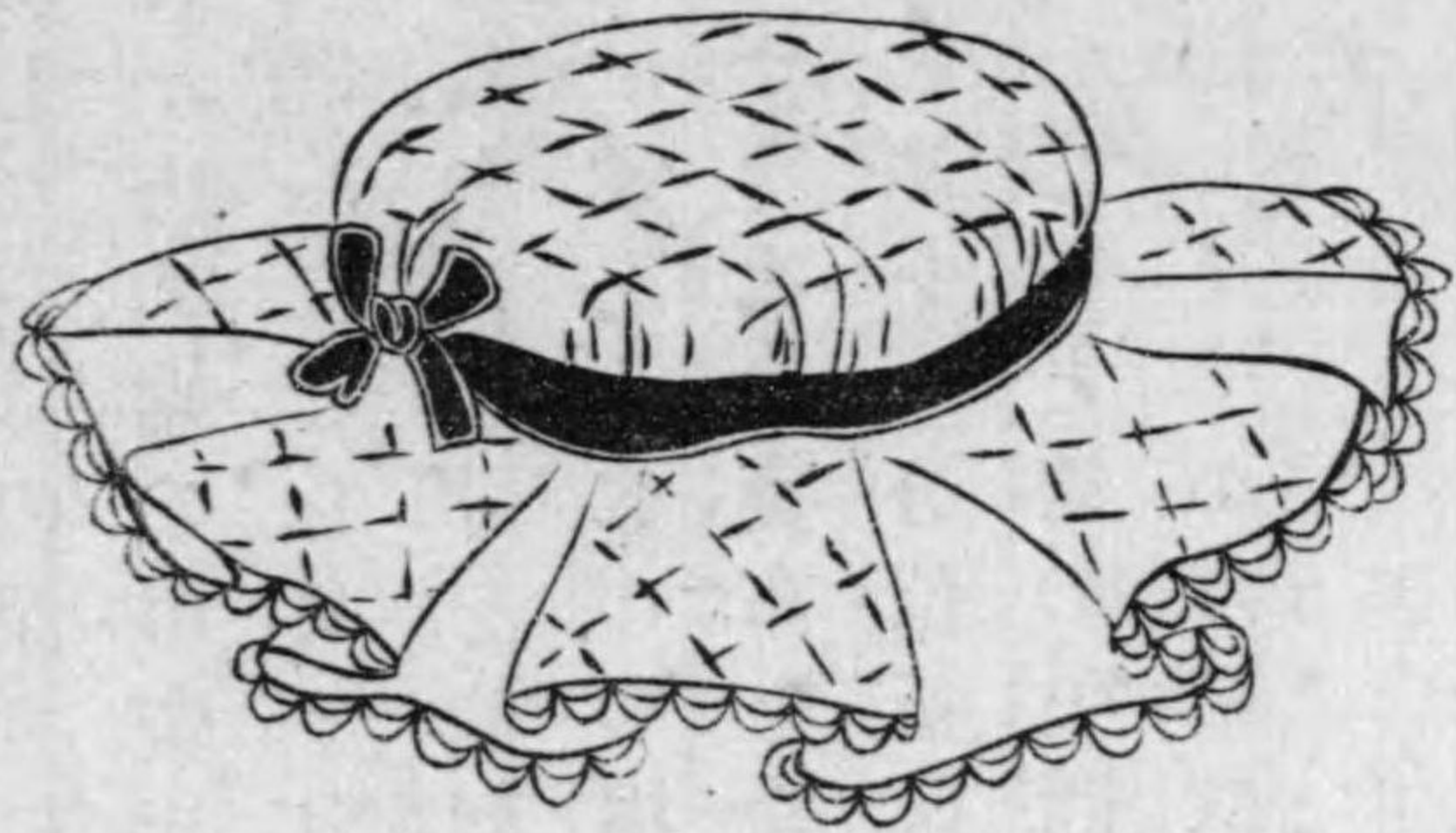
次に表罎布を九分づつ間隔を置きて印をつ  
け此の印を山に三分位の巾に折疊みて能く  
折目を附けて置きレースの無い一方の端を  
裏罎の頭廻りの周圍に重ねて一緒に罎をか  
けて留めて置きます。  
次に頭布を二尺の丈に輪型になし之を五

等分して三寸の深さに山谷とレースを附け第九十四圖に示す  
如く一方の端の巾廣き所即ち山と山との間を一分位に小針に  
掬い縫ひになし糸を引締めると梅形になります。次に心地巾  
一寸長一尺四寸を輪型に作り其の心地の巾の中央の周圍に頭  
布の一端を少しづつ撮まみて縫附け又其處へ罎布の端を縫附  
けます。次に裏布を輪型になし一方の端を梅形にたゝみ他の  
一方の端を一分位折伏せて罎の縫目の上にぐけ縫にして置き  
ます。頭布と罎の中間にリボンを飾り頭布の頂上は梅形が現  
れて居りますから結びリボンを附けても附けなくも隨意に致  
します。

第二十七章 帽子 (第十一種)

三四歳用

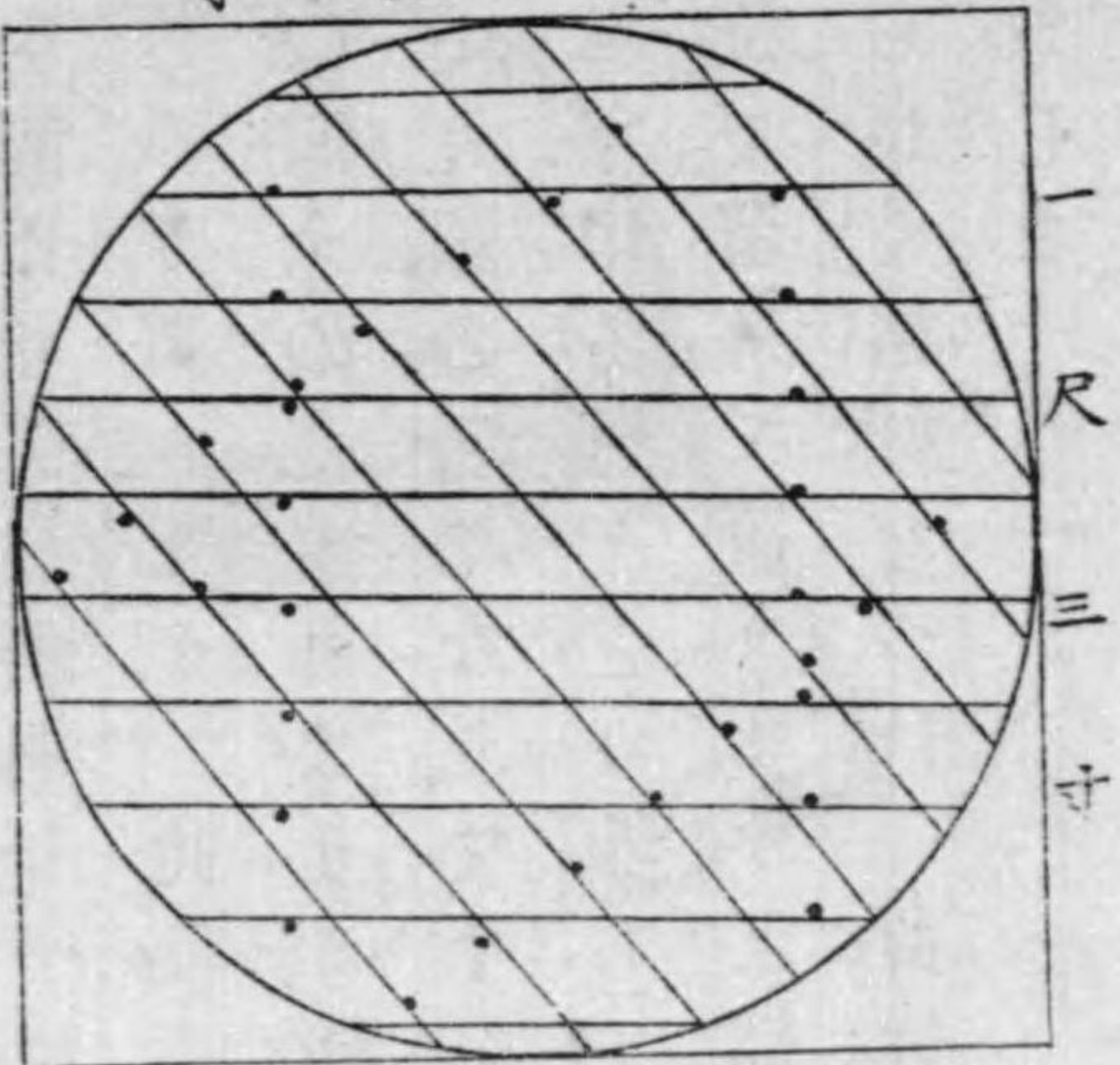
此の帽子は極めて簡単に製作する事の出来る平帽子であり



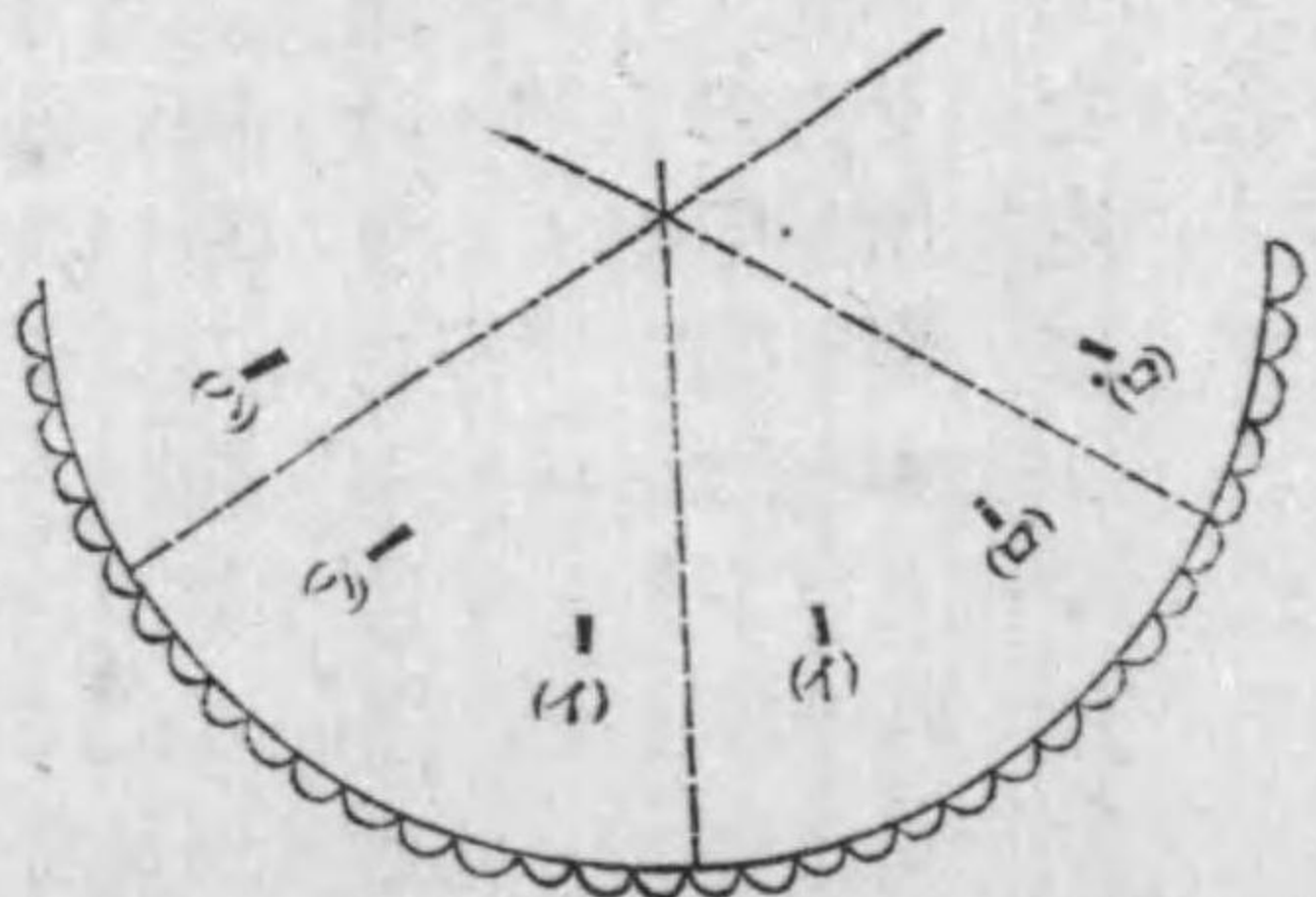
圖六十九第

まして又此の帽子を洗濯する時は糸留  
めを取り放して平に致しまして洗ひ少  
々糊を附け火のしを當て又元の如くに  
六ヶ所に襷を取りて留めましてから頭  
布と鏢の格好をつけます。  
要布は表は少し厚地の雲サイに裏は  
白キヤラコの類を合せますか又はキヤ  
ラコなれば表裏二枚裁ちまして心に寒  
冷紗を入れます。  
次に要布は三四歳ならば一尺三寸四

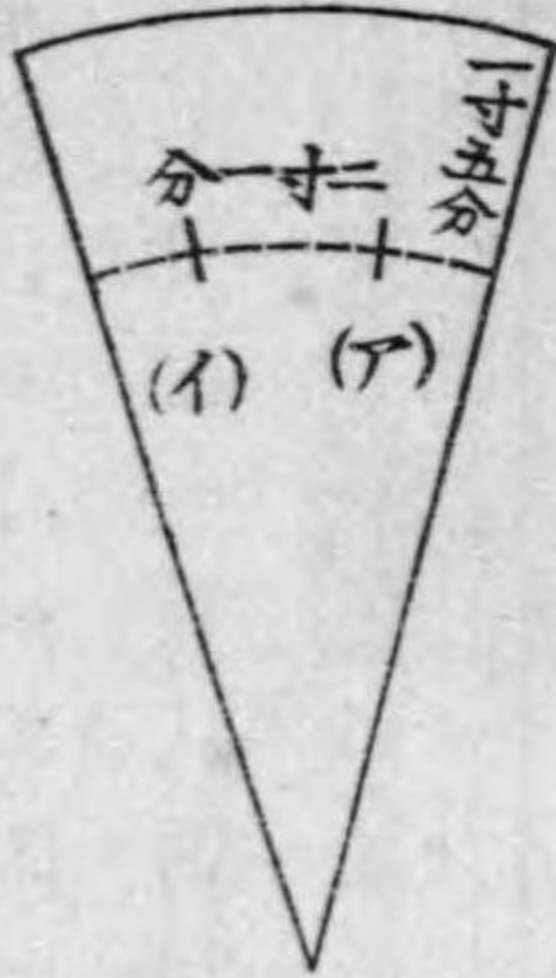
圖七十九第  
一尺三寸



圖九十九第



圖八十九第  
六ツ折



第二十七章 帽子(第十一種)

は要布を一尺三寸四方として裁ちま  
す。先づ右寸法の布を圓形に裏表二  
枚裁ち切り此の二枚を合せて女兒な

方に裁ち二  
歳位は一尺  
二寸五分四  
方。一歳位  
は一尺一寸  
四方に裁て  
ばよいので  
あります。  
此の章にて

れば周圍にレースを附け男兒なれば白テツプにて包み縫に致  
 します。布は一樣に斜目にミシンをかけ之を最初二ツ折にな  
 し次に三ツにたゝみますと第九十八圖の如き形になります。  
 次に中央より左右二寸一分の所に(イ)と印をつけます、此の(イ)  
 (ロ)の中間の寸法は頭廻り一尺三寸の六分の一になる様に印を  
 つけるのであります。此の(イ)(ロ)の周圍の端より一寸五分入つ  
 た處に印すのであります。印を附けましたら之を開きますと  
 第九十九圖の如くなりすから(イ)と(イ)。(ロ)と(ロ)。(ハ)と(ハ)の點  
 を合せて巾着褌をとり(即ち(イ)と(イ)の中間は下になる様にして)  
 二針位で留めて置きますと都合六ヶ所褌がとれる様になりま  
 すから良く格好をつけ。留縫にした處はリボンを結んで隠す  
 様に致します。

第二十八章 帽 子 (第十二種)



圖 百 第

第二十八章 帽 子 (第十二種)

五六歳用

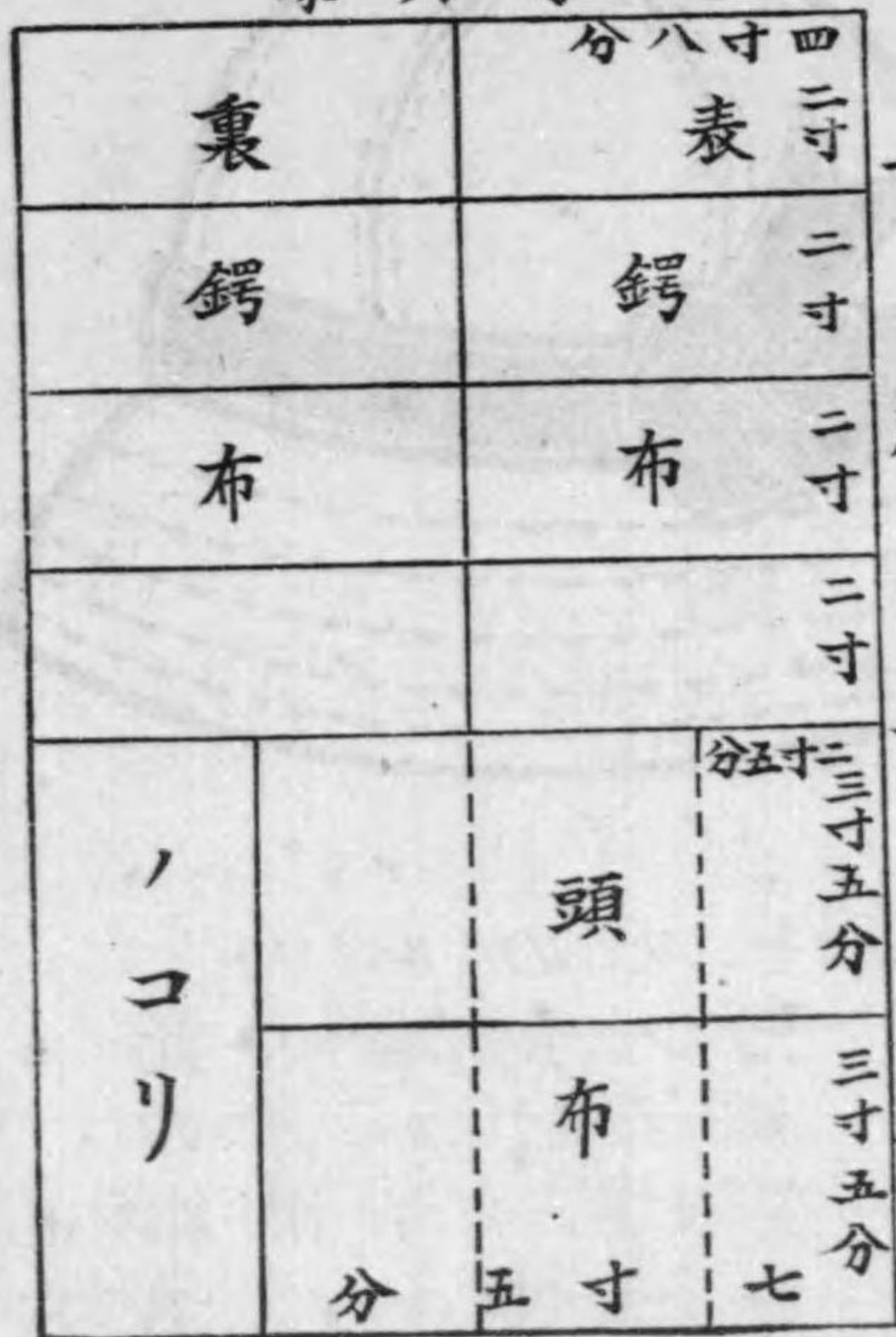
此の帽子は現今最も流行する  
 ハット帽でありまして要布はセ  
 ル地かネル地を用ゐます。要布  
 の長は一尺五寸巾九寸六分其他  
 テツプは三分巾の長が八寸位の  
 を三本要し七分巾二尺三寸の長  
 のリボン一本を要します。

頭廻り一尺三寸八分

(甲)裁方順序

先づ裁方綜合圖に示す如く各部に寸法を印して裁切ります。其裁切りました頭布の一枚長三寸五分巾二寸五分の物を取

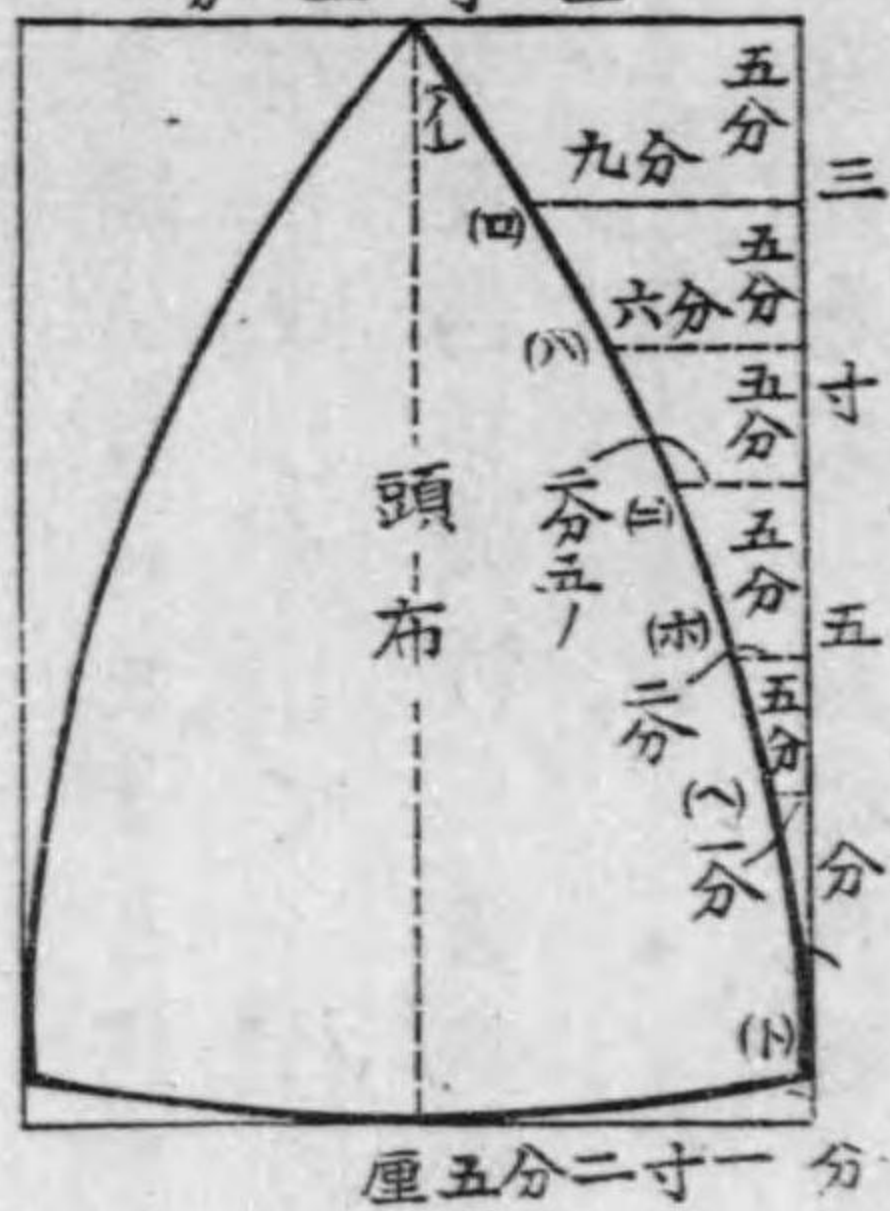
圖一百第 綜九 合寸 分六



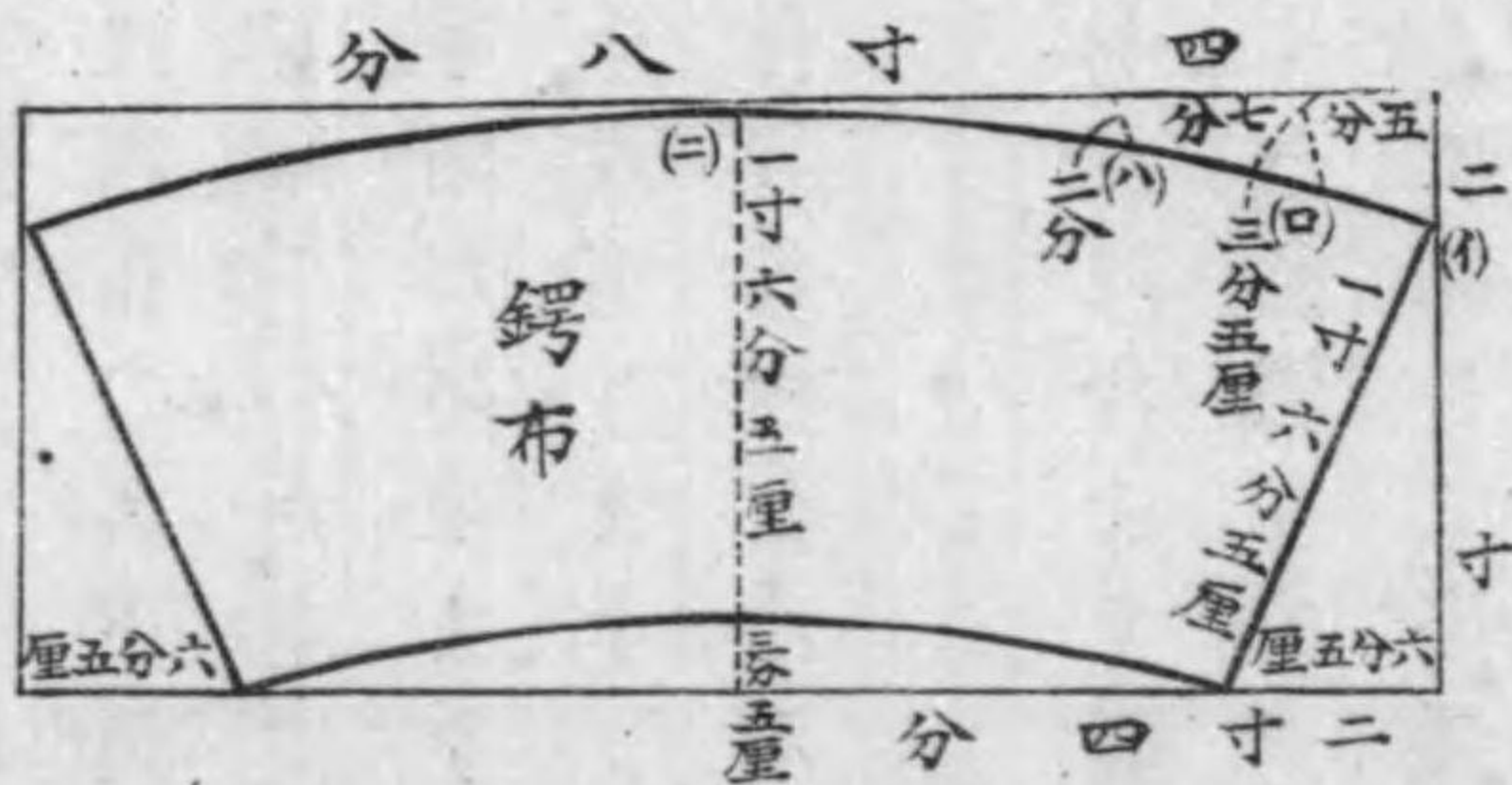
た所より六分の處に(ハ)と印をつけ漸時五分づつ下つて印をつけ、一番下は底線より一分上つた處に(ト)と印をつけ(イ)(ロ)(ハ)(ニ)

(ホ)(ヘ)(ト)の諸點を結ぶと頭布の半面の線が出来ます是と同様に左側にも致し

圖二百第 分五寸二



圖三百第



各部に寸法を入れて裁切ります。

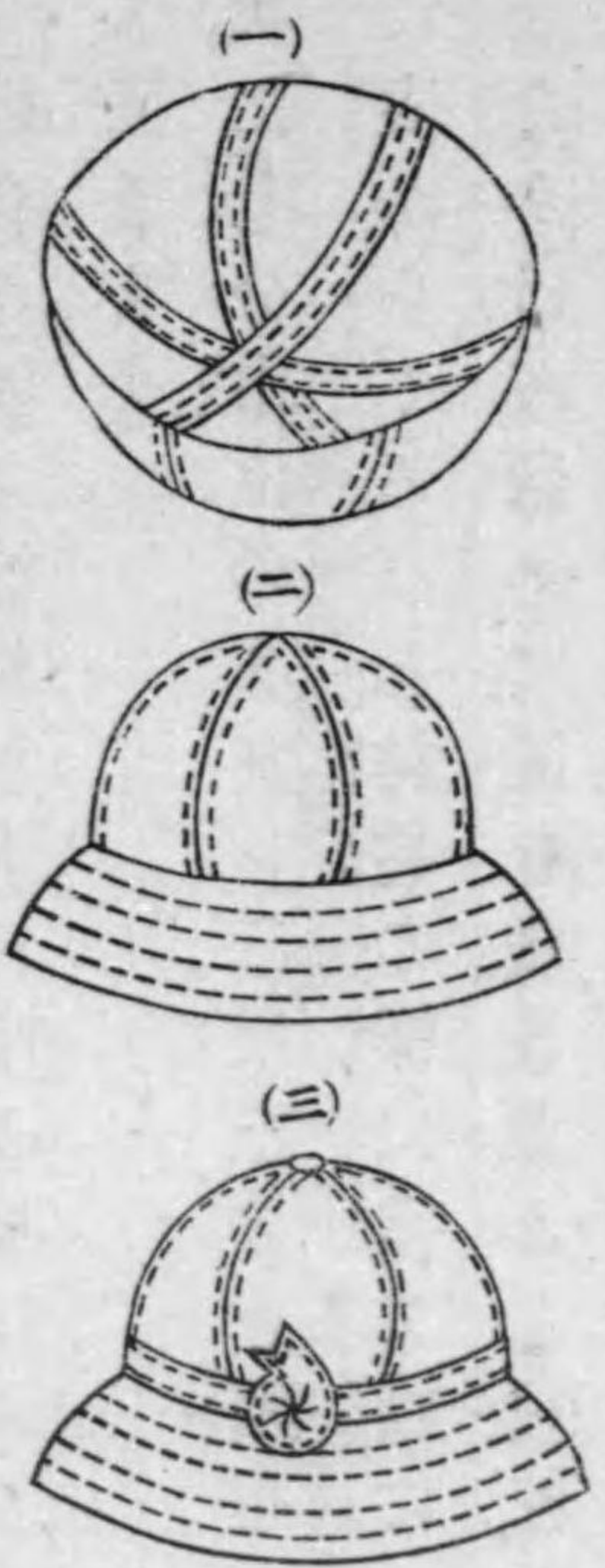
裁切りますには先づ左上角

より左五分入たる處を基點として下の方へ三分五厘と印をつけ。次は七分左に入りたる處を基點として下の方へ二分印をつけ。(イ)(ロ)(ハ)(ニ)の諸點を結び次に鏢布の右下角より六分五厘の處へ印をなし又中央より三分五厘上つた處に印をつけ是等の印を結び合せますと鏢型の右半面が出来ますから之と同じ様に左も致しまして一枚の鏢布を裁切ります。斯う云ふ型の鏢布を表鏢布四枚。裏鏢布四枚合計八枚取るのであります。

(乙)縫方順序

最初頭布の一枚の横縁を各々中表に合せて縫代一分として漸時六枚をミシンにて縫合せますと頭廻りか一尺三寸二分の長になります。各々の縫目は兩方に開きて烙鏝を當て、置き三分幅位のテップを長さ八寸程に三本切り各一本づゝ第百〇

圖四百第



四圖(一)の如く頭布の裏面から縫目の處に當て、鏝をかけ表の方からテップの兩端にミシン

をかけます。頭布の中央は釦を布にて包みて綴ぢ附けて置きます。

次に表鏢布を一枚づゝ中表に合せ縫代を一分として四枚縫合せますと頭廻り一尺三寸二分の輪型になります。縫目の端は兩方に開きて烙鏝を當て、置きます。裏鏢布も同様にして縫合せますが鏢の内廻を心持表鏢布よりも詰め加減にして縫合せます。

次に裏表の罽布二枚を中表に合せ外縁即ち周囲の丈の長い方を裏にて押へ其所にミシンをぐるりとかけ外表に返して縫目の處はけぬき合せにして良く罽をかけ裏表の罽布がびつたり合ふ様に罽をかけ外縁から二分位離れた内側にぐるりと周囲にミシンをかけ漸時二分間隔位に罽全体の周囲にミシンをかける事第百〇四圖(二)の様致します。次に頭布と罽布の一尺三寸二分の周囲を外表に合せ二分位に縫代にてミシンをかけて縫合せ(即ち縫目が表に出る様に)而して縫目は兩側に折伏せて置きます。

次に七分巾位のリボン二尺三寸を頭布と罽布との縫目の周囲に表からぐるりと鉢巻の様に當て罽にて押さへて兩端にミシンをかけて留めて置き残りたる一尺ばかりの端にては第百

〇四圖三の如くに結ぶか或は蝶形に結んで飾りと致します。

### 第二十九章 帽子 (第十三種)

五六歳用

此の帽子は運動會などに用ゐる兒童の運動帽子であります。普通は紅白一つ置きに縫合せますが若し兒童が源平に組を別つて遊戯をする時には源氏ならば白ばかり平家ならば赤ばかりの帽子と致します。要布はカナキンを用品長一尺六寸二分巾五寸を要します。頭廻りは一尺五寸の出来上りになります。

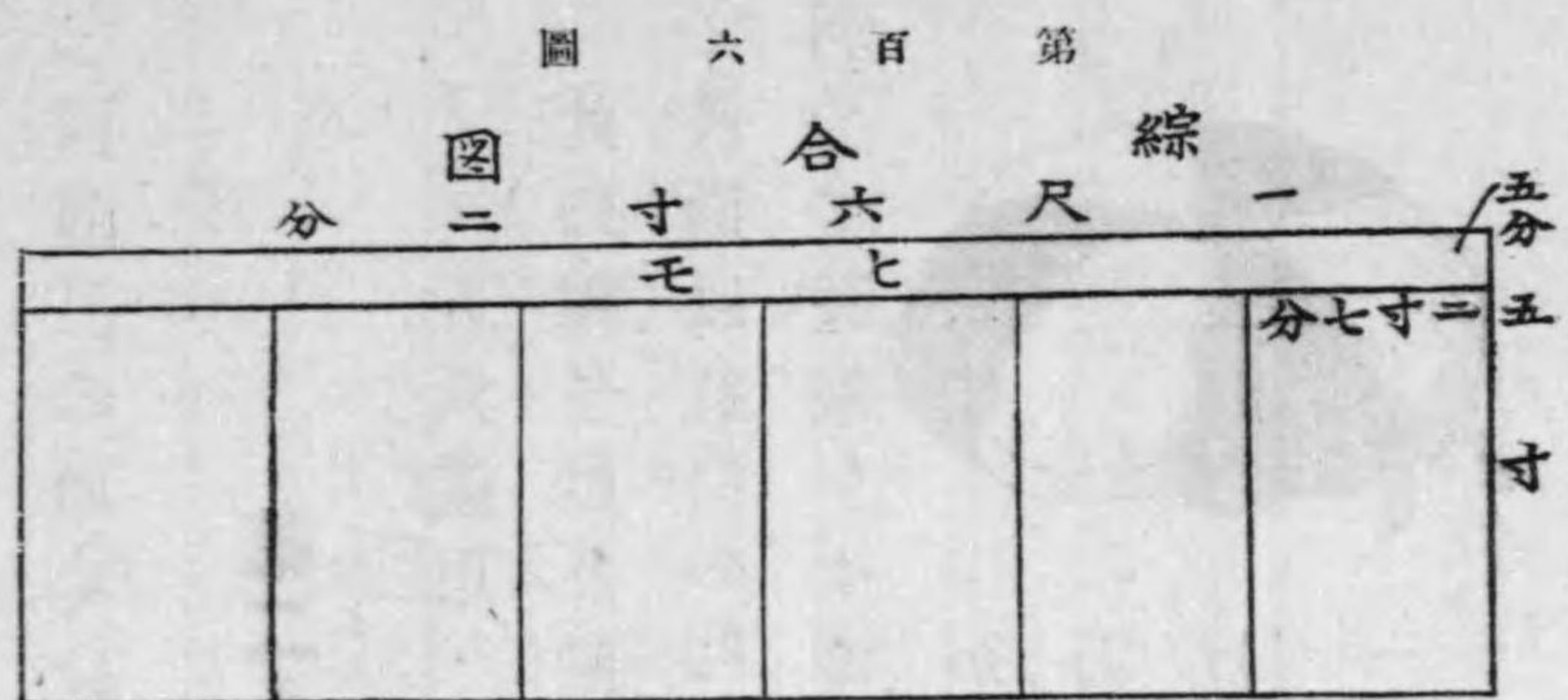
(甲)裁方順序

先づ綜合圖に示す如く各部に寸法を印して

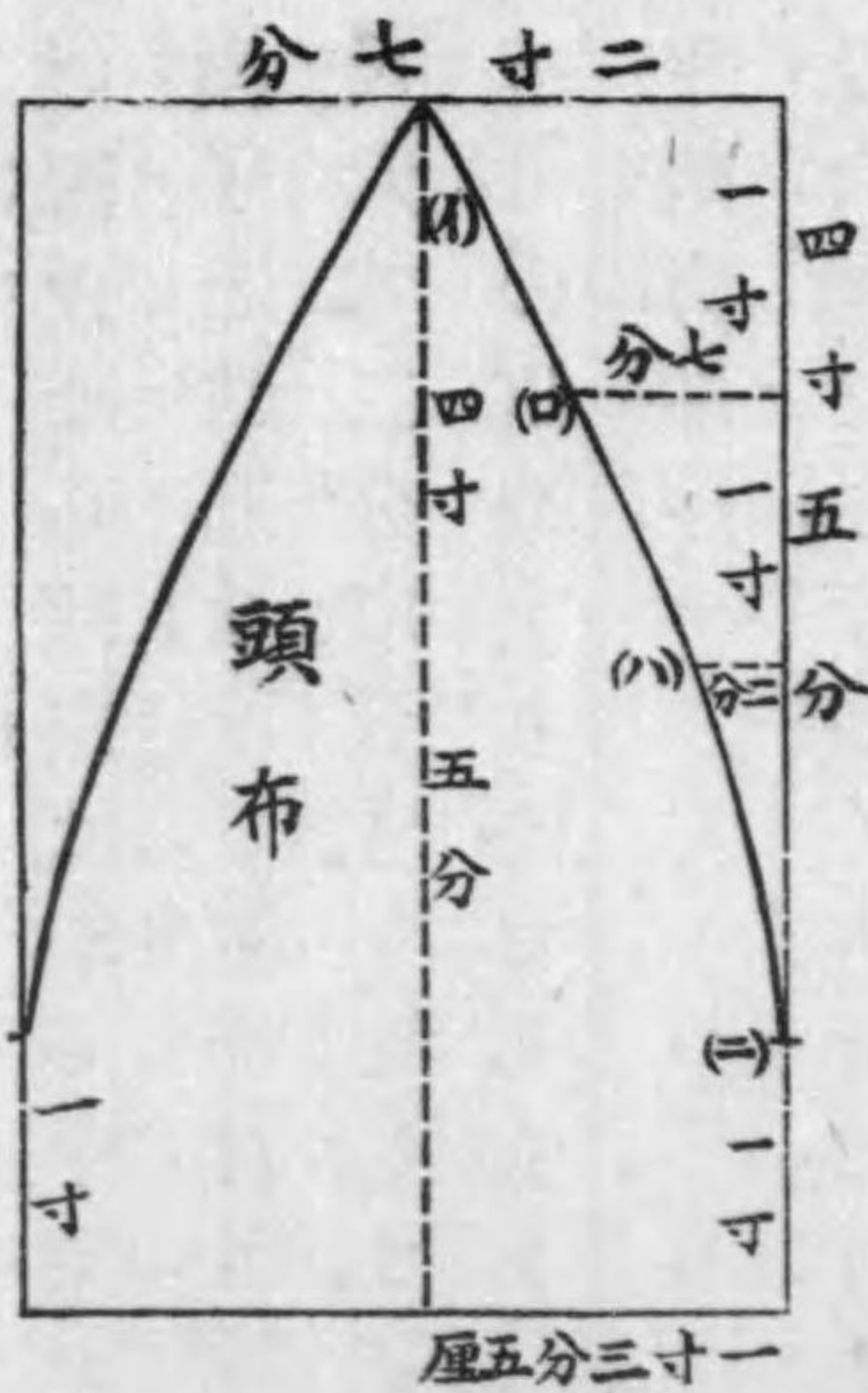
第百五圖



第二十九章 帽子 (第十三種)



圖六百第



裁切り其の裁切り一枚の頭布を第百〇の如く各部に

寸法を印して裁切るのであります。其の裁方は先づ頭布の右上方より下一寸の處を基點として左の方へ七分と印をつけ次に又一寸下つた處より左へ二分と印をつけ下の方より一寸上つた處に印をつけ(イ)

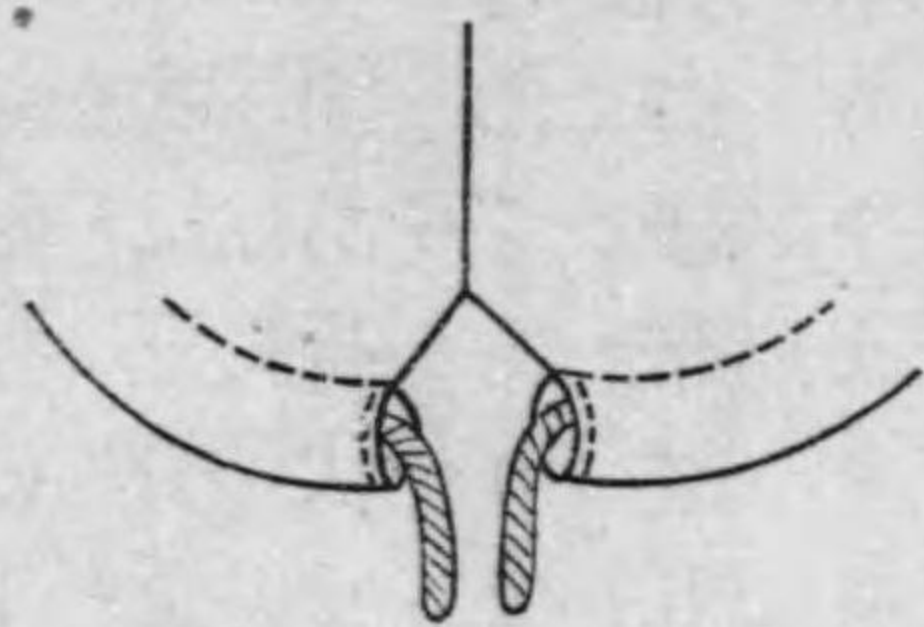
(ロ)(ハ)(ニ)の諸點を結び合せ之と同じ方法にて頭布の左側にも施して頭布一枚の型を裁切り此の型と同形のものをも都合六枚とるのであります。

(乙)縫方順序

先づ頭布の一枚と他の頭布の一枚との縁の一方を中表に合せて縫代一分にてミシンをかけ漸時六枚の頭布を縫合せて鉢

型を作ります。縫目は兩端に折伏せて三分巾のテップにて隠し縫にするか或は糸にてからげ縫に致します。此處にて注意すべきは頭布を縫合せる時に後となる一方を一寸五分ばかり明けて置いて縫ひ合せす。此の二つの縁は別に細く三ツ折縫にして置きます。

圖八百第



次に鉢型の下の縁即ち頭廻となる周囲は初め一分内側に折伏せ次に三分折伏せて一分折伏せた周囲全體にミシンをかけます即ち折伏せた間は袋の形になつて其の間へ紐を通す様にするのであります。

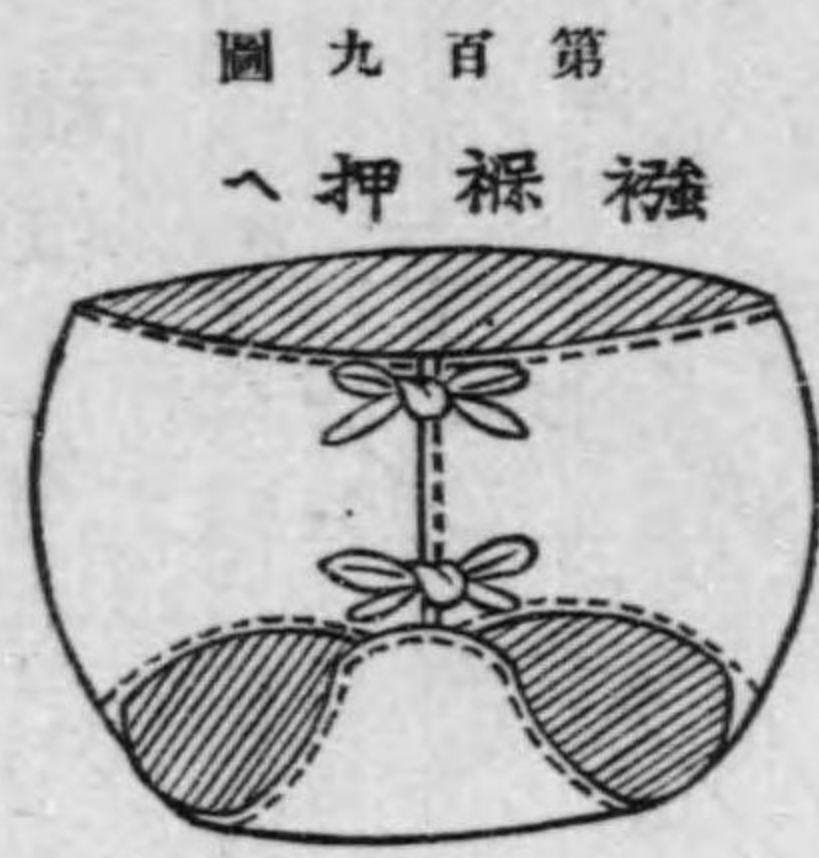
次に紐布は五分巾を二ツ折りにして其の端を更に細く内側に折り上よりミシンをかけ長は一尺六寸位に致します。此の紐を前の袋の形になつた間に通し後に結びます。此の紐によつて頭廻の大小の調節をとるのであります。次に鈕を布にて包み頭布の尖つた中央に縫ひ附けて置きます。

第三編

第三十章 襠襟押へ

第百〇九圖に示す襠襟押への作方は簡単で而も至極便利のものでありますから此所で説明致します。

先づ一尺七寸四方の用布を第百圖に示す如く角より角と斜目に二ツ折になし兩方の四寸入りたる所に豎に端を切落し下の三角より左右二寸上りたる所より中央に一寸五分切込みを入れましてから周囲を折込みまして縫合せします。下の三角の先に一尺位の紐の中央を縫附け



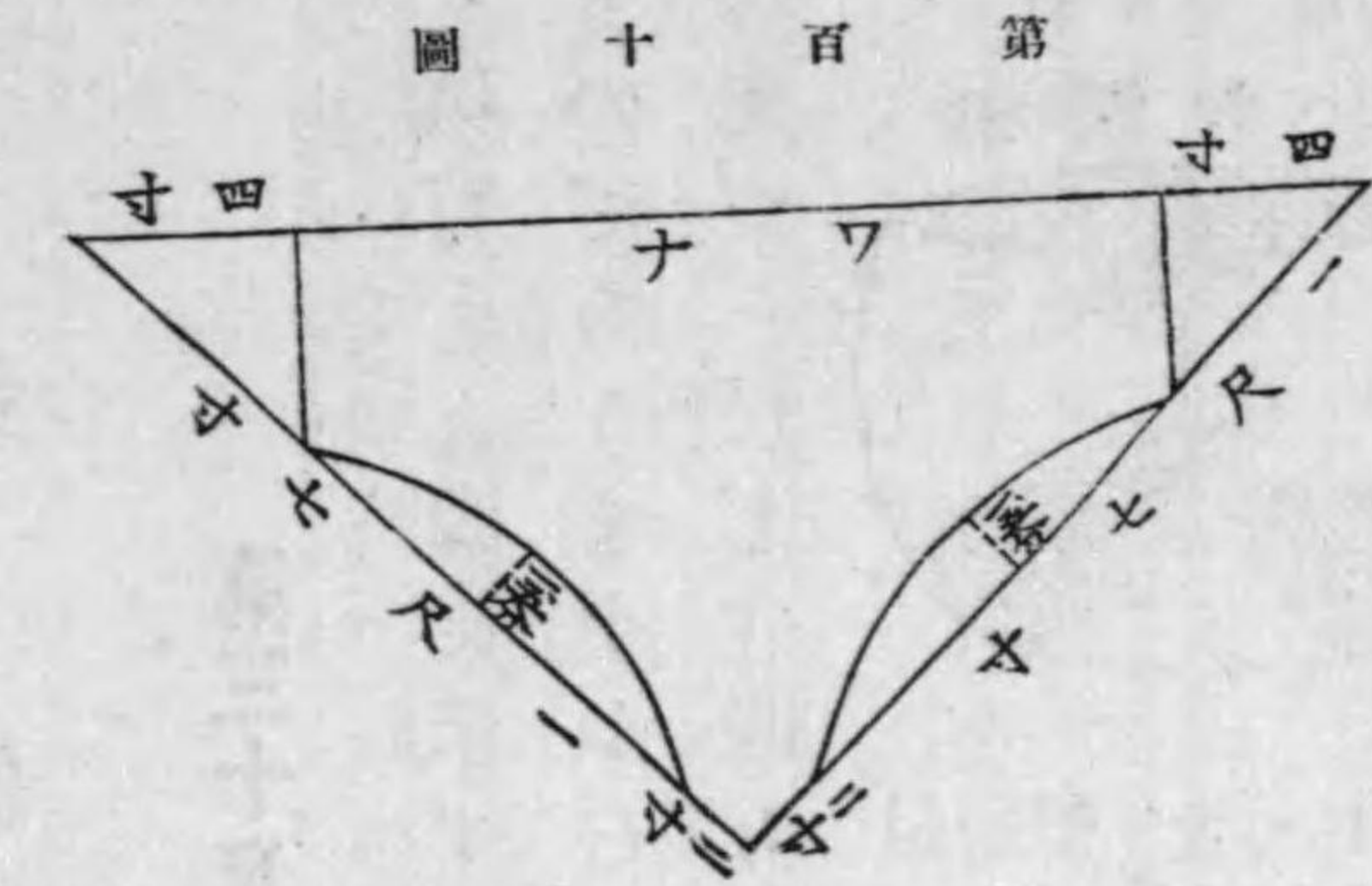
第百〇九圖 襠襟押へ



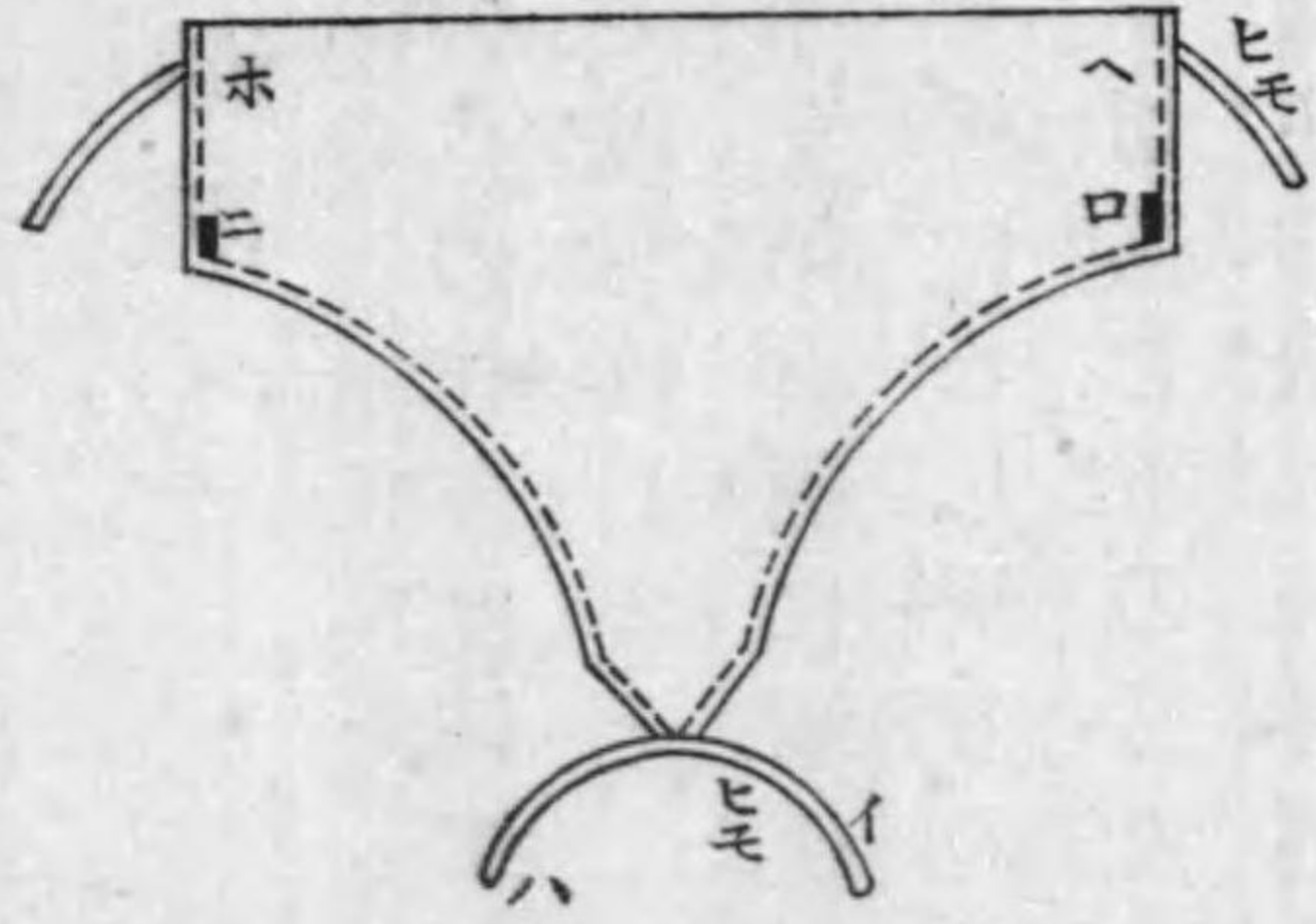
紐はテップにてもよし上の(ホ)への處に五寸位の紐を表より附

け(ニ)の處は豎に孔を縫つて置きます。

一一四



圖一十百第  
開タキル



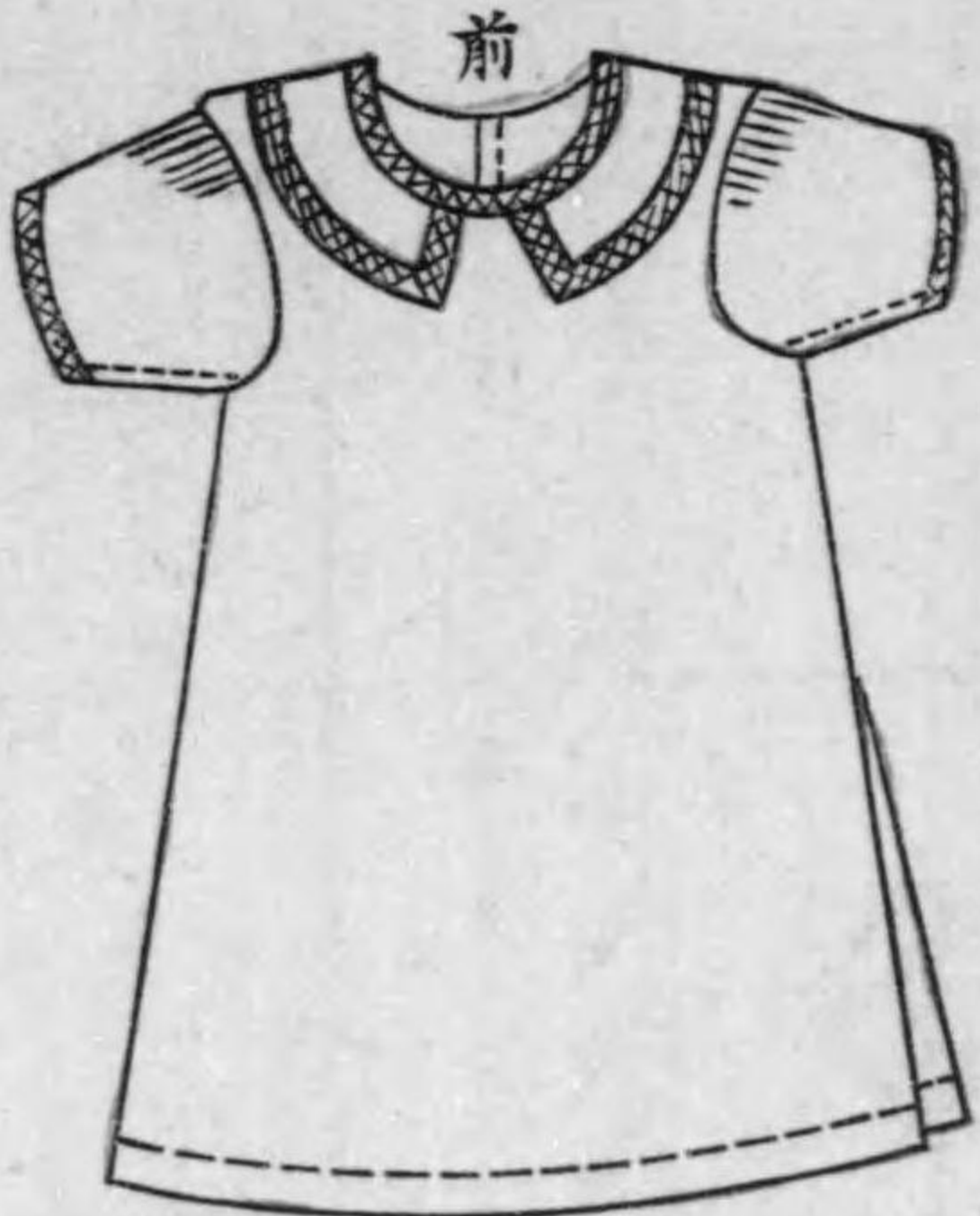
全部出來上りまし  
たなら此の襷袢押  
へを小兒の腰に當  
て、先づ上の紐を  
結び次に襷袢を小  
兒の股に當がつて  
から三角の先の(イ)  
の紐を(ロ)の孔に通  
し(ハ)の紐を(ニ)の孔

に通して結ぶのであります。

第三十一章 簡單服

一二歳用

圖二十百第

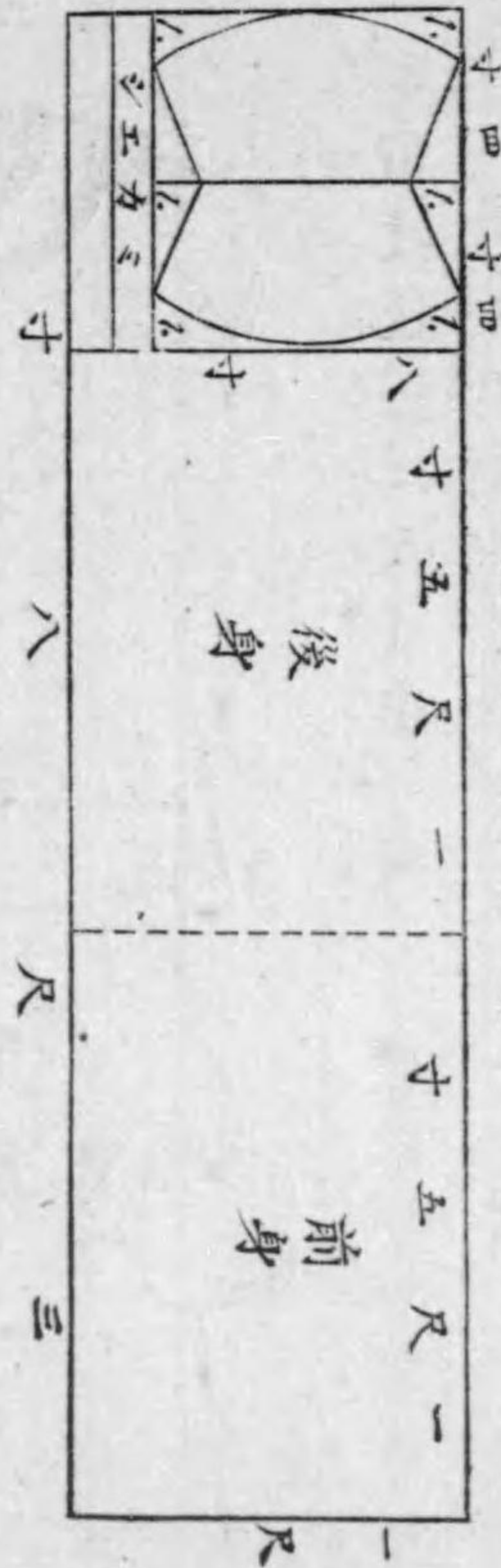


要布は長三尺八寸巾一尺

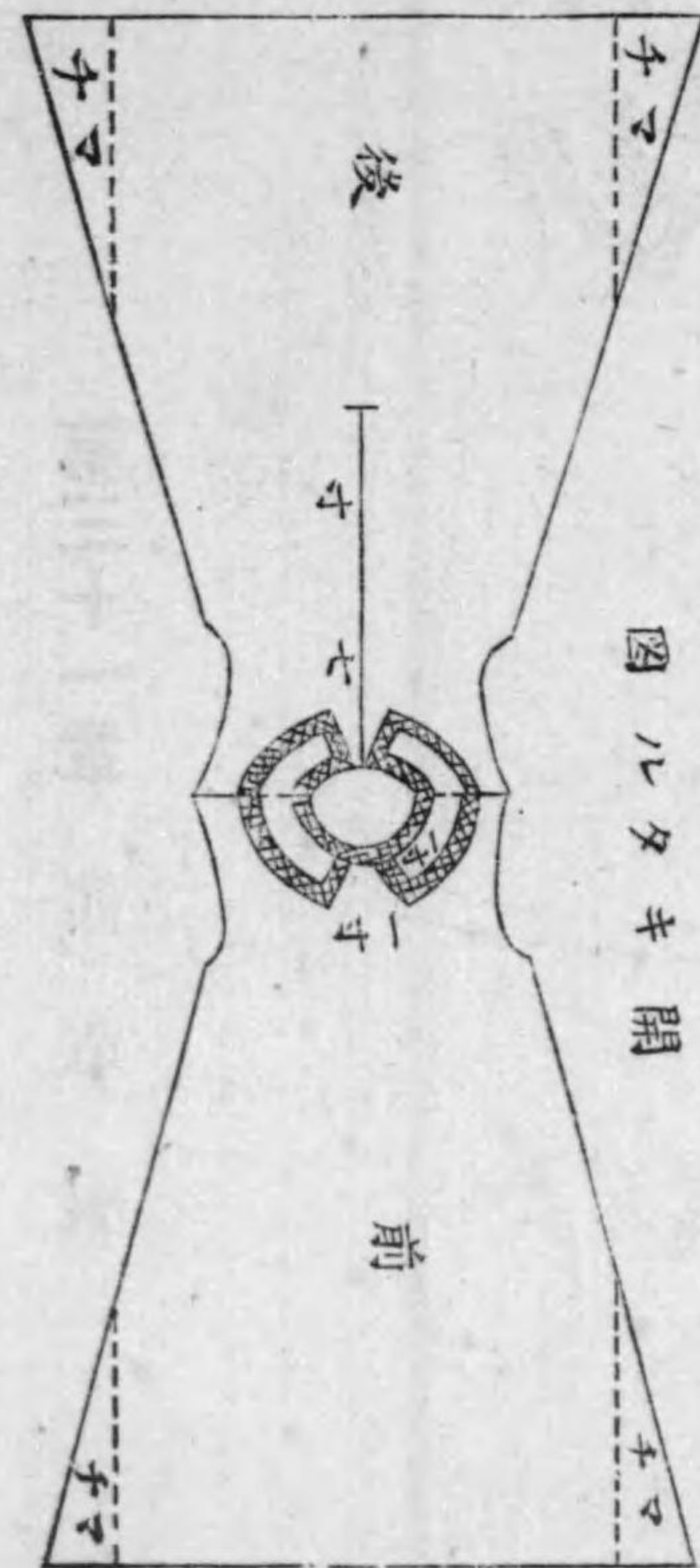
(甲)裁方順序

第三十一章 簡單服

圖三十五第



圖五十五第  
ハタキ開



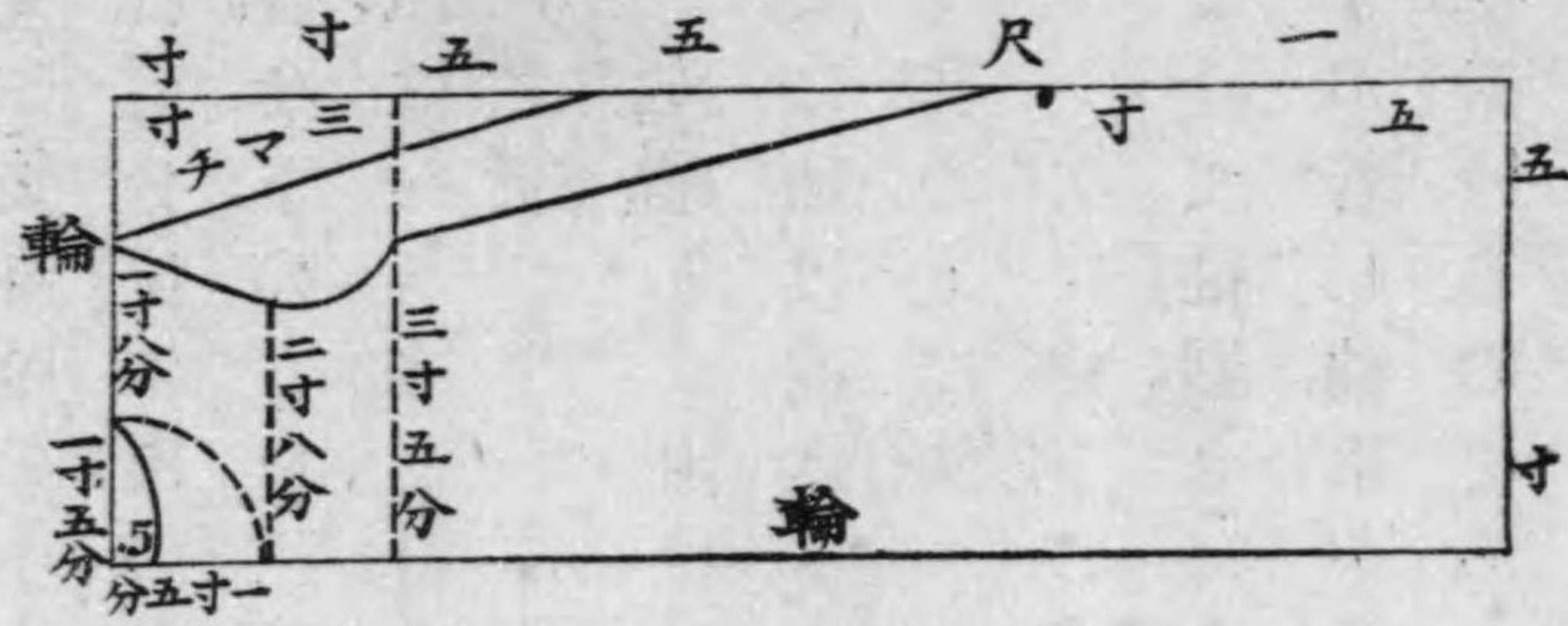
一一六

第百十三圖

綜合圖に示す  
如く各部に寸  
法を印して裁  
切ります。

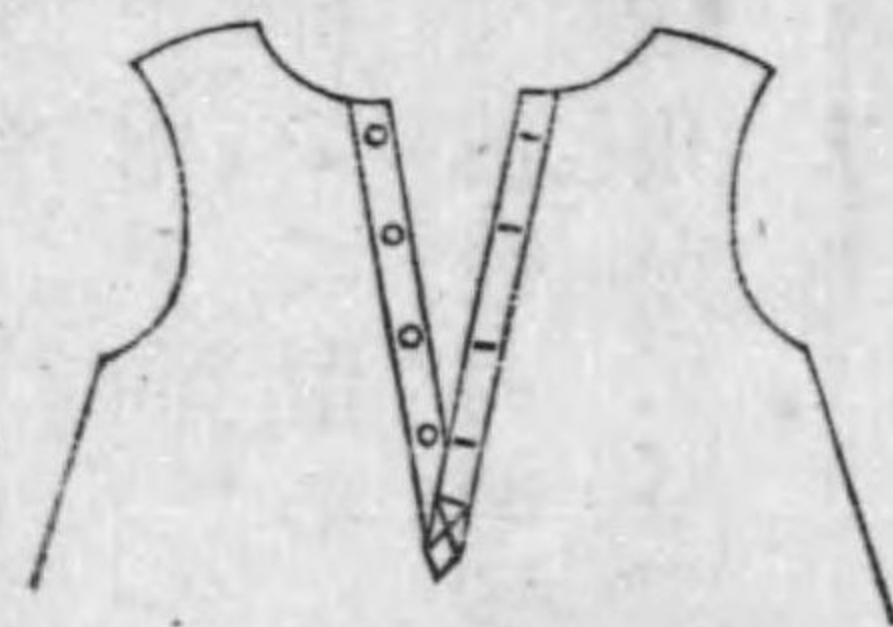
次に第百十  
四圖に示す如  
く三尺の布の  
一尺巾を二ツ  
に折り更に横  
に二ツ折りに  
して衿割一寸

圖四百第



第三十一章 簡單服

圖六十第



五分づゝに明けます但し後身頃の方は五  
分の深さに削ります事を注意せねばなり  
ません即ち初めに後衿割を切り開いてか  
ら前衿割を裁つのであります。次に前巾  
を輪の方より三寸五分と二寸八分として  
袖割の寸法を極め裾より五寸上りたる處  
に斜目に線を施して脇を  
極め五寸の所はマチが附  
く事になりますマチ布は  
袖割の落とし布から取りま  
す。

縫方順序

一一七

先づ後身頃の中央を衿廻りから七寸豎に切込を印し此の兩端に五分位の巾の見返を附け向つて左を下に右を上にして重ね合せ下の方を三角に折つて留めミシンをかけて置きます。衿裾巾にマチ布を縫合せて前後身頃の脇を袋縫に致します。衿廻りは飾テップか或は縁布を二分五厘位の巾にして圖に示す如く衿廻りに附けて置きます。

次に袖は裁込みが出来ましたなら袖口の端を少し表に折伏せて其の上に飾テップを附け而して袖下を袋縫に致して置きます。次に袖下の縫目を身頃の脇の縫目より一寸斗り前の方によせて袖廻りに合せ上から躰にて押さい縫付けるのであります。若し袖巾が残つたなら肩の所にて縫縮める様にして袖を縫附けるのであります。裾は七分位の巾にしてミシンをか

けて置き、後身の見返の左側に釦を四箇つけ右側に釦孔を四箇明けて置きます。

### 第三十二章 運動服

四五歳用

圖七十百第



要布は長三尺五寸巾二尺四寸を要します。

(甲)裁方順序

第百十九圖の綜合

初め裁切りました

圖の如く各部に寸法を入れて裁切ります。前身頃の用布の一尺巾を二ツ折になし第百二十圖(一)の如く各

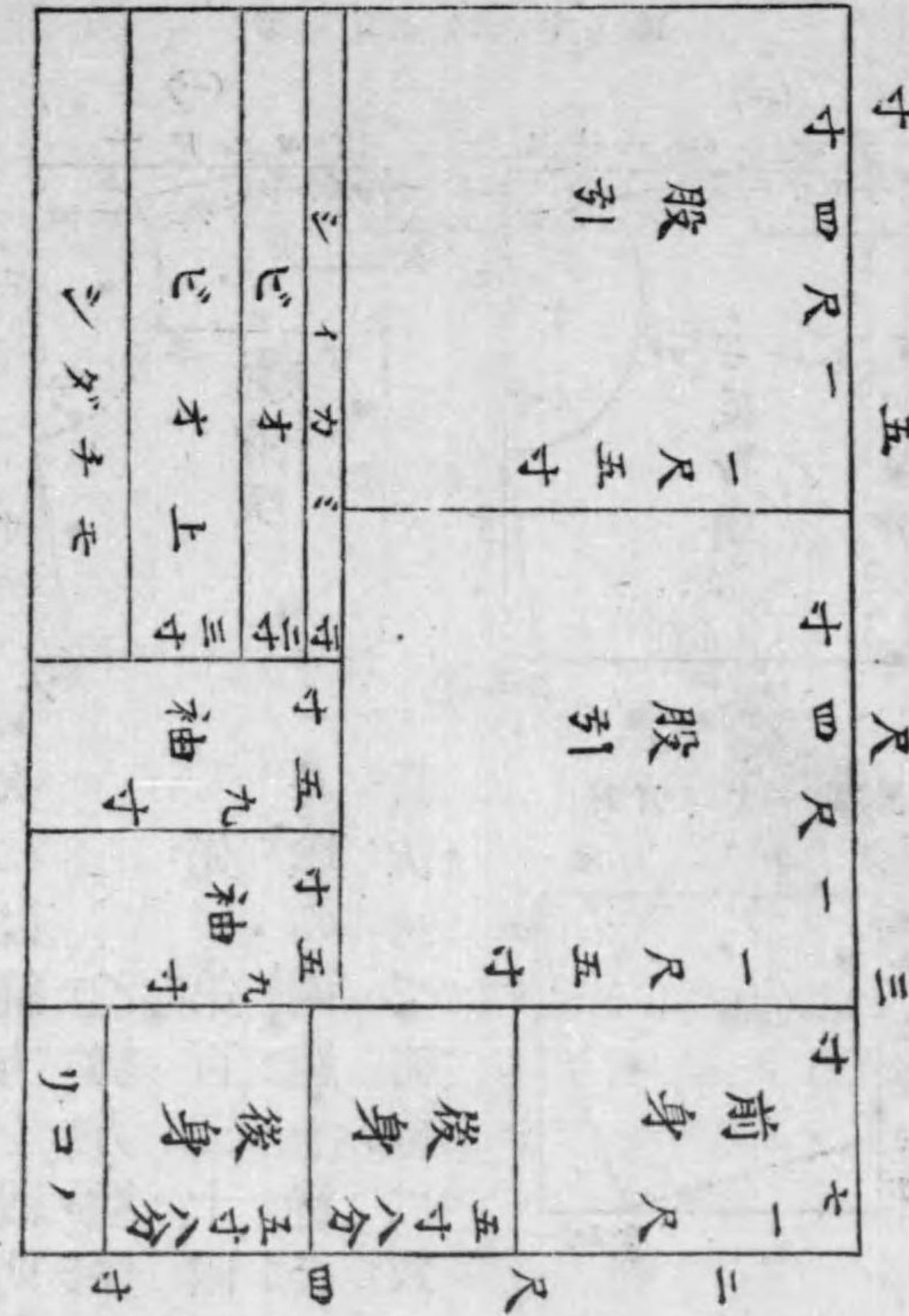
部に寸法を入れ前巾は腮下の輪の方より三寸と標して袖割を付け袖明は上より四寸下りたる處にてとり下の方は五分斜目を裁込みます。



次に後身頃の用布を二枚重ねて第百二十圖(二)の如く各部に寸法を標し止より二寸位下つた所より四寸一分と標して背巾を極め前と同様に上より四寸下つた處にて袖明の標をつけるのであります。次に袖は九寸の巾を二ツ折になし袖付の方を一寸五分を二ツ折にありませぬ。次に袖は九寸の巾を二ツ折にありませぬ。次に袖は九寸の巾を二ツ折にありませぬ。次に袖は九寸の巾を二ツ折にありませぬ。

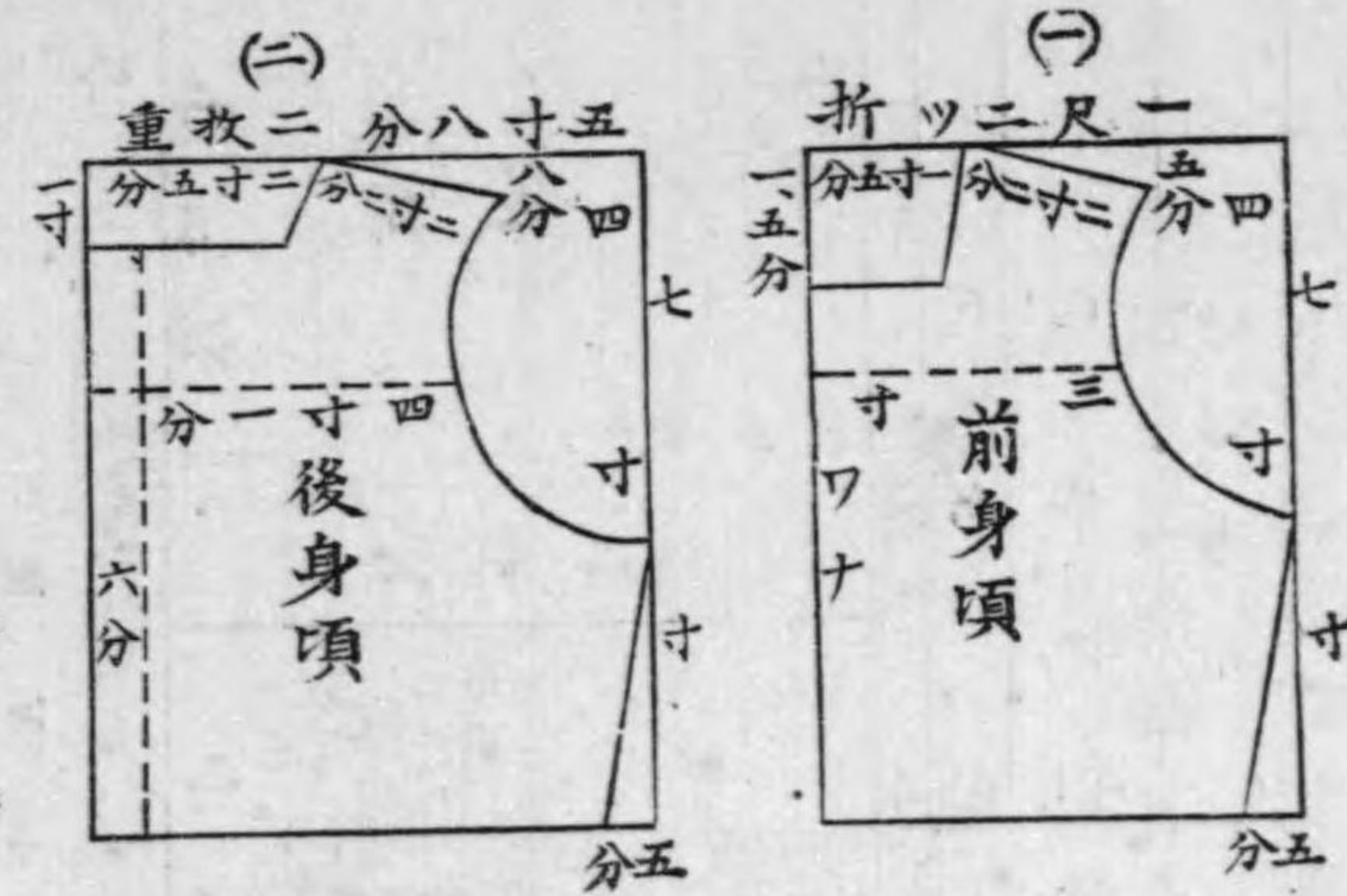
第百二十八圖

圖の如く輪の方より各部に寸法を入れて先づ外の方を裁切つてから中の黒點の所を二枚だけ裁切つて開くと第百二十三圖



の如くになりませぬ。此の中央に四寸五分程切下げまして横に二分づつ左右に切込入れます此の切込の兩端に持出が附く事になりませぬ。これで裁方は終りました。

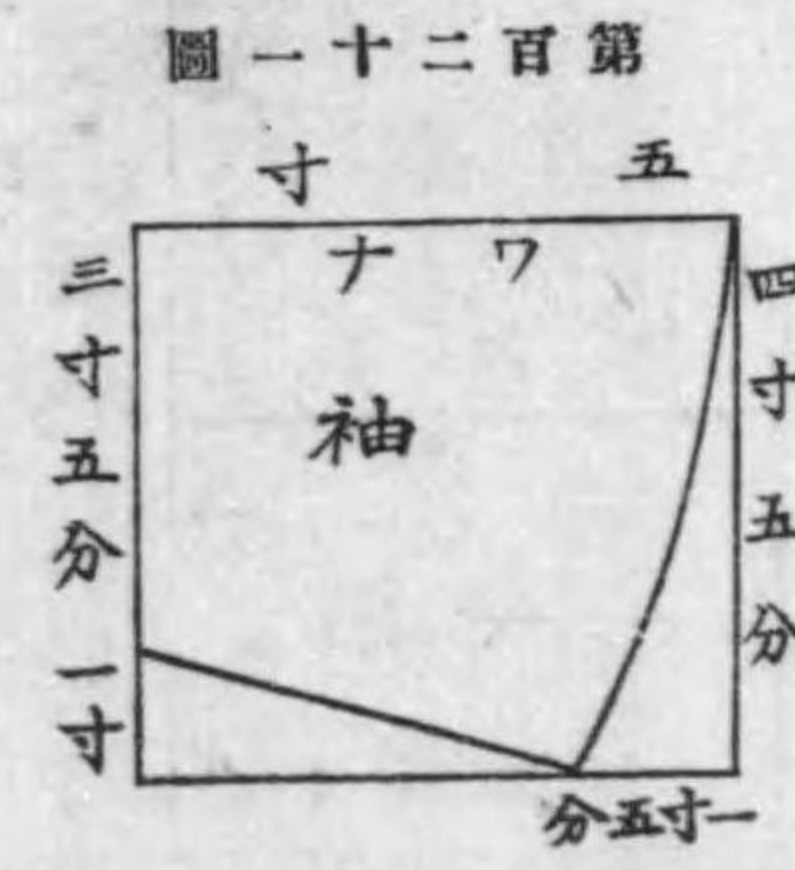
圖 十 二 百 第



次には縫方を説明いたします

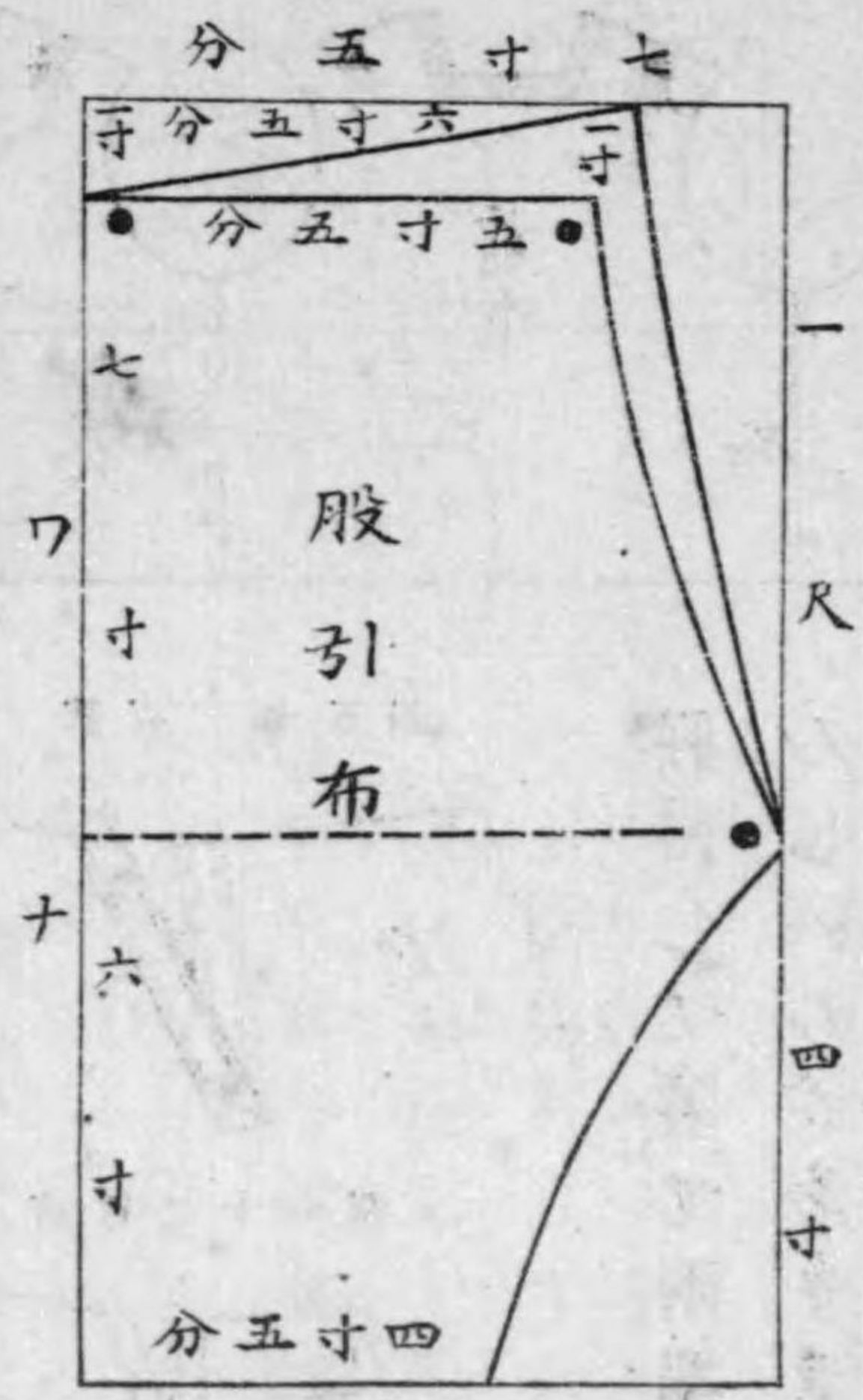
(乙)縫方順序

先づ第百二十四圖に示す如く前後身頃の脇を縫合せ縫目は後の方に折伏せて絡縫に致します。次に背巾の両端を折伏せて



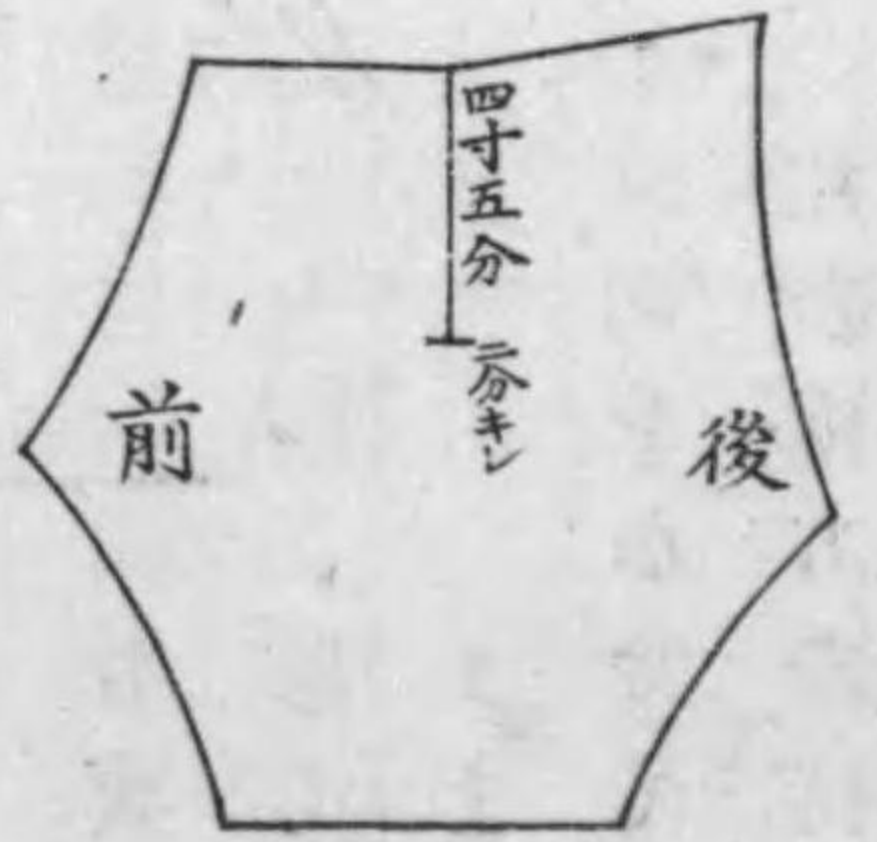
縫に致します。衿は細きテップにて縁の所へ襷にて押へ両端にミシンをかけて置きます。次に袖の縫方は先づ袖下を袋縫

圖 二 十 二 百 第



になし袖口の處は端を少し折伏せて周圍にテップを付けて置きます。袖を付ける時は袖下の縫目を身頃の脇の縫目の所に待針を刺しそれより左右に別れて縫合せます。縫目は袖の方へ

圖 三 十 二 百 第



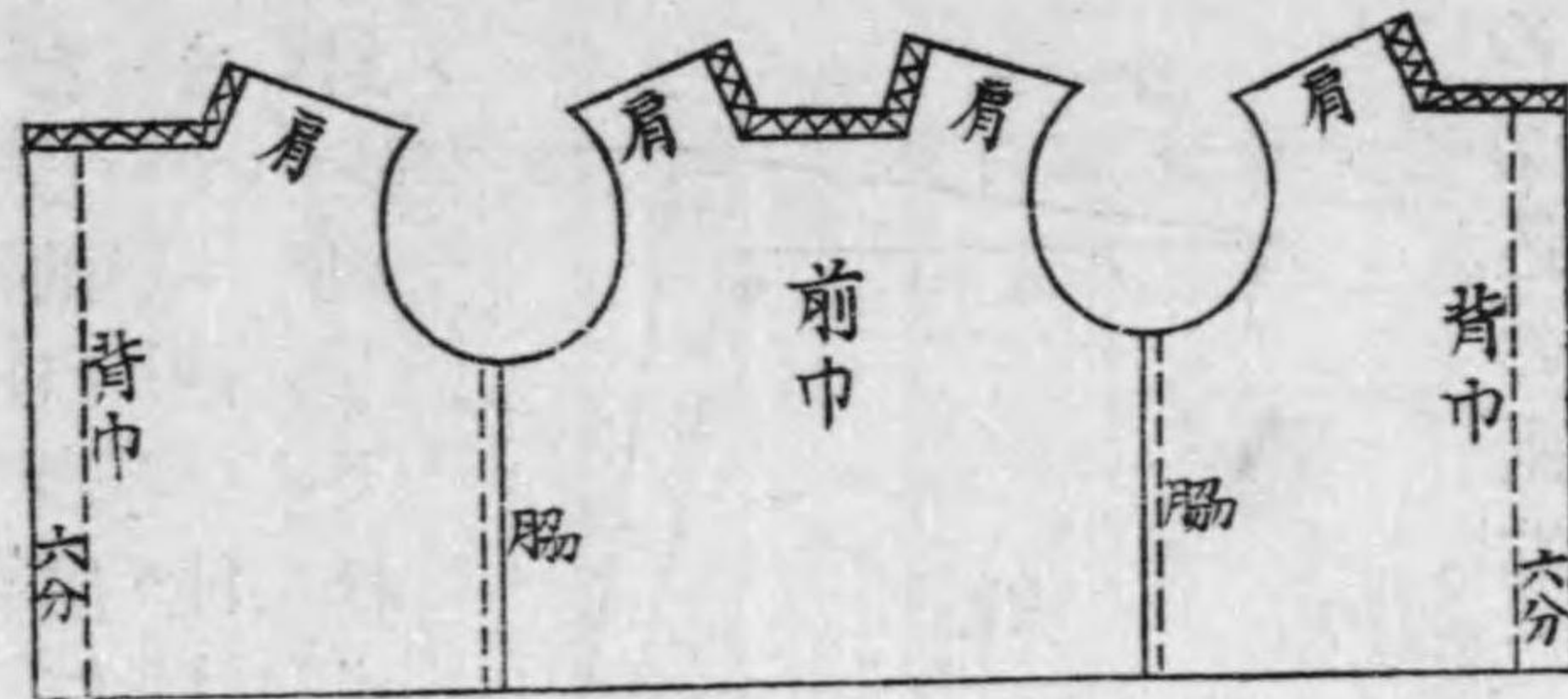
返し縫に

のであります。股引の縫方は先づ中

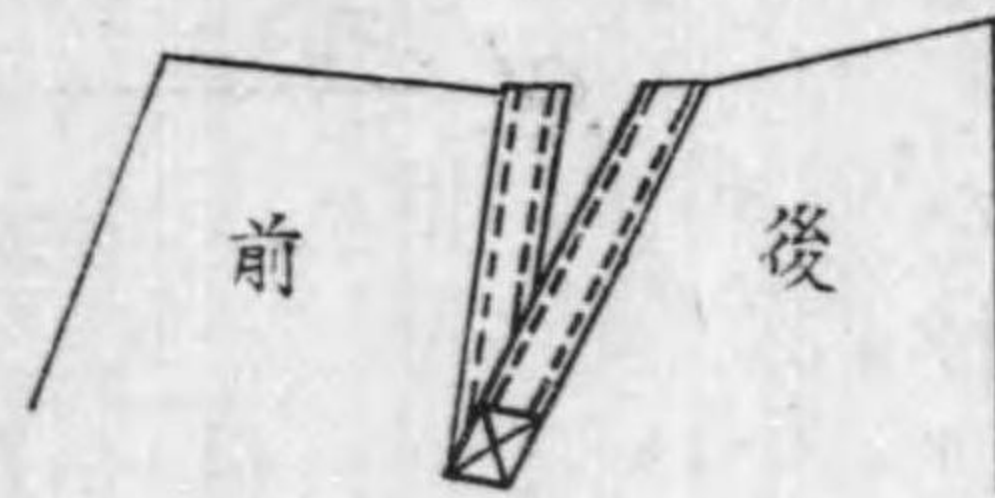
央の切込の兩端に持出しを付けます。此の持出しは巾四分の出

込の左右に縫付け下は五分ばかり長くして置きます、それから

圖四十二百第



圖五十二百第



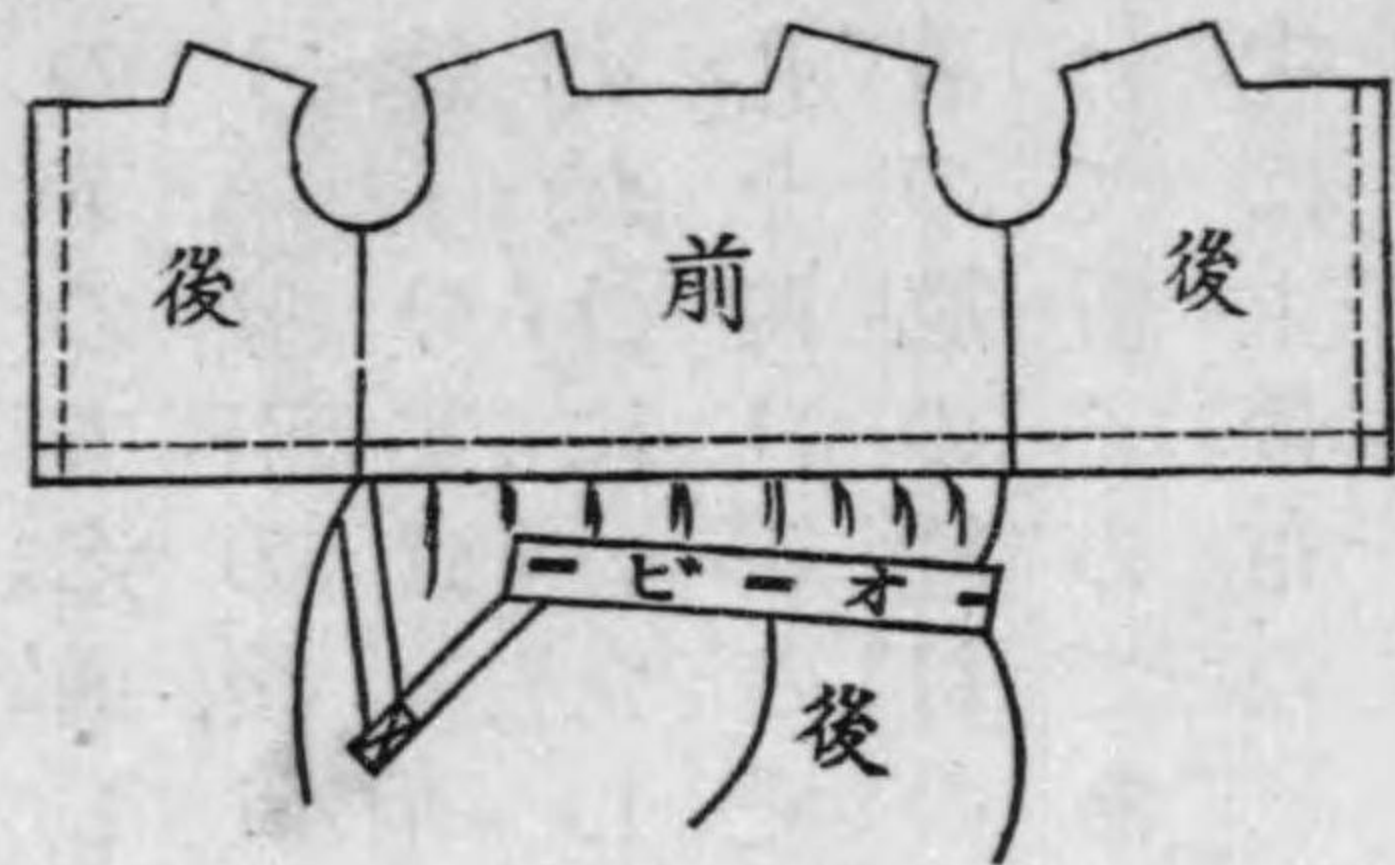
圖六十二百第



襪にして置いて兩端にミシンをかけてもよろしいのであります。此の兩方の持出しが附きましたならば此の持出しの下は前を下に後を上にして挟み上前の先を折伏せて留めミシンをかけるのであります。左

縫ひましたら之を二ツに折り裏に返してマツリます又

圖七十二百第



第三十二章 運動服

圖八十二百第



右の持出しが付きましたならば二枚合せて前後の股上を縫合せませます此の縫目は前と後と向ひ合に折伏せてマツリます。次に股下を縫合せ縫目は前と後と向ひ合に折伏せてマツリます。亦ミシンを掛けても宜しいのであります。股引の下の方は端を少し折伏せてテップをつけて置きます(第百二十五圖第百二十六圖を見よ)次に第百二十七圖に示す如く股引の前の巾を上着の前身頃の脇縫目の間の長に縫

締めて見返しにて狭み此の見返しは五分程になし後身

頃ころの下したの方ほう迄まで通とおして付つけ身み頃ころに折お伏ふせて表おもよりミシソみしそを掛かけ  
 ます。股もも引ひの後うしろは別べつに帶おびを縫ぬい付つけます。此この巾ぬいは七なな分ぶんばかり  
 に縫ぬい上げ丈たけは上うへ着ぎの脇わきにて合あせまますから其その寸すん法ぽうを計はかりて其その  
 の丈たけだけだけにいたしましして上うへ着ぎの後うしろの左ひだりに四よヶ所ところの釦はかまを付つけ右みぎ  
 に孔あなを明あけるのであります。後うしろ股もも引ひの帶おびに三さんヶ所ところの釦はかま孔あなを開あけ  
 上うへ着ぎの脇わきの縫ぬい目めの所ところの左ひだり右みぎに釦はかまを附つけ後うしろ股もも引ひの帶おびを此この釦はかまに  
 掛かけて置おくのであります第だい百ひゃく二じゅう八はち圖ずを見みよ  
 次つぎに上うへ帶おび布ぬいの三さん寸すん巾ぬいを二にツ折おにして中なかに心こゝろを入いれ兩りょう端たんを少すこ  
 し折お込こみて上うへからミシソみしそをかけ長ながは腹はら廻まわりの長ながに切きりて端たんを  
 折お込こみてミシソみしそをかけ一ひた方ほうの端たんに釦はかまをつつけ他ほかの一ひた方ほうに釦はかま孔あなを  
 開あけて之これを上うへ帶おびとして服ふくの上うへにしめるのであります。  
 (注ちゅう意い)子こ供どもが用もちを達たつしやうとする場ばい合ごうには後うしろ帶おびの釦はかまを外はずせばよ

ろしいのであります。  
 猶なほ此この運うん動どう服ふくは寢ね衣いの代た用ようにもなり又また和わ服ふくの下したに着きる事ことも  
 出で来きますから冬ふゆ期きに之これを用もちるればシャツ股もも引ひの代た用ようになりま  
 す。

### 第三十三章 女 兒 服

一三三歳用

圖九十二百第



前表

用布は長三尺五寸  
 巾二尺テップ  
 レース數尺

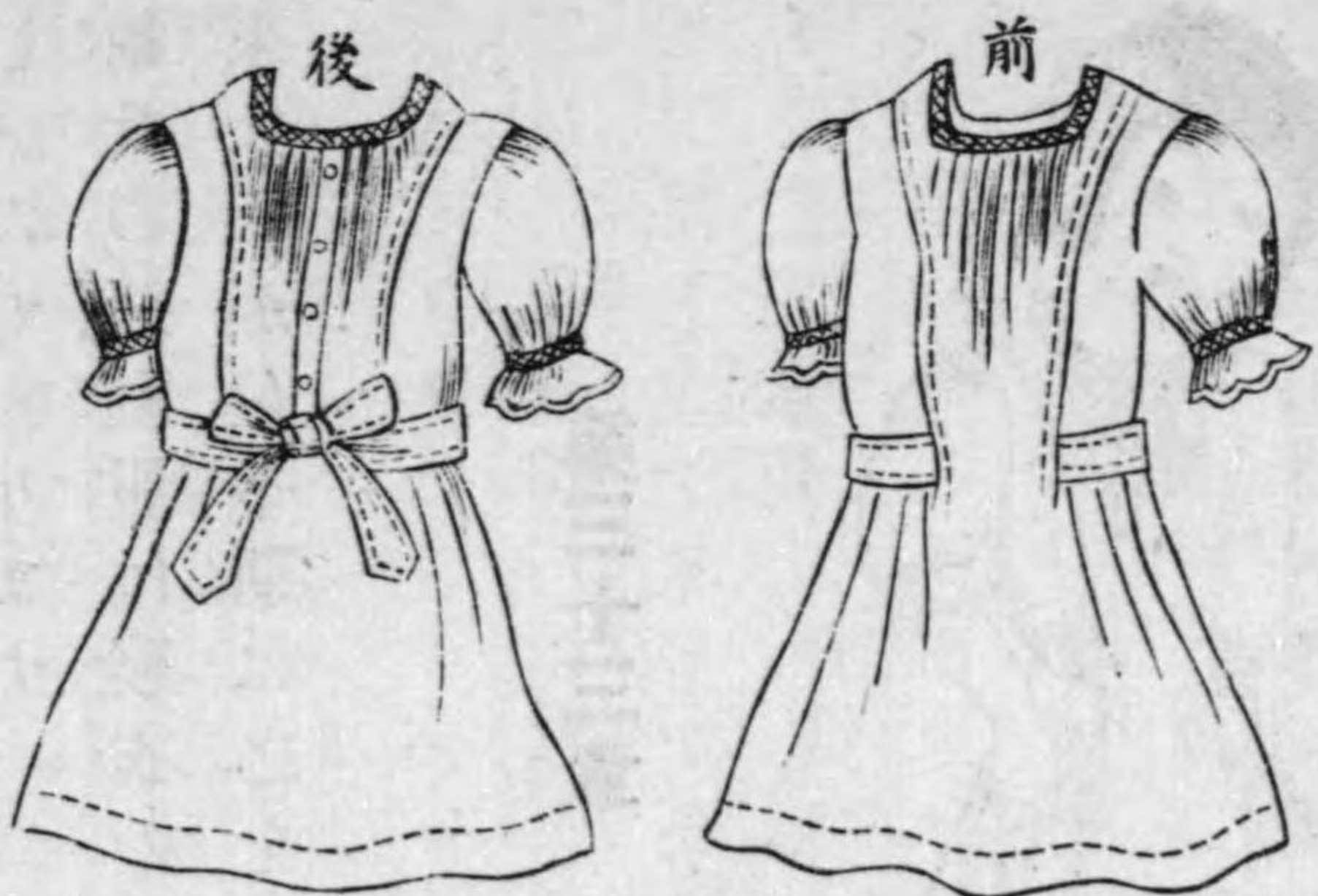
(甲)裁方順序

前身裁方 第百

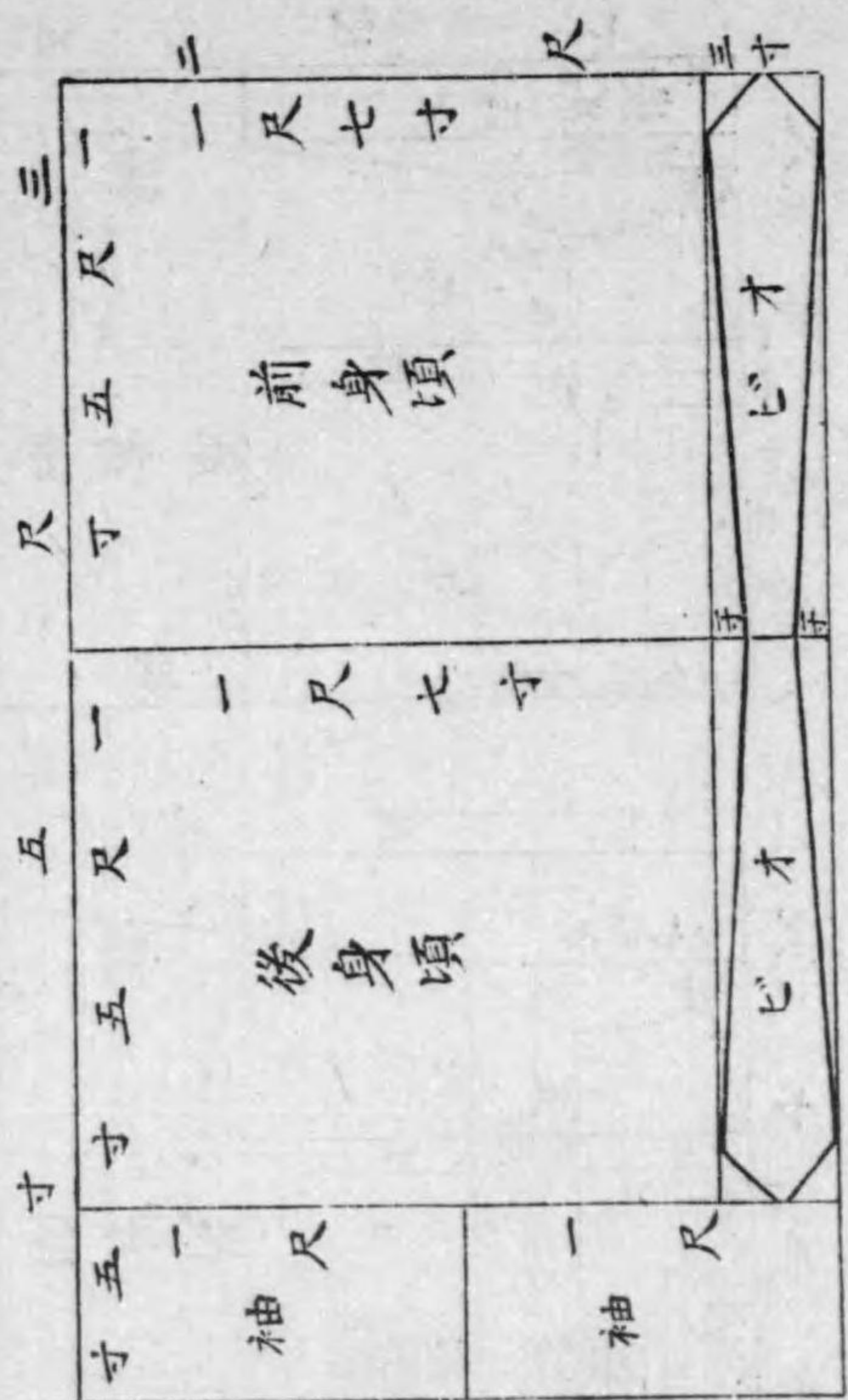
第三十三章 女 兒 服

三十一圖の綜合圖に於て裁切りました前身の布の一尺七寸巾

第三百十三圖



を二ツ折になし第百三十二圖に示す如く輪の方より(イ)と標のある所を間四寸五分おきて標をつけ此の印を山に五分撮みて長六寸の襷をとりてミシンをかけ折は袖明の方へ返して置きます。次に又輪の方より三寸八分上から一寸五分と印して衿線をとります。次に上より六分下りて肩布二寸と印し又上より三寸五分下りたる所に輪の方より六寸と印し又一寸五分上りたる處に五寸と印して袖線を印します。六寸の巾より裾へ向つて斜目に裁切り脇といたします。次に(ハ)(ニ)と印のある處を總丈三寸に縫縮めま



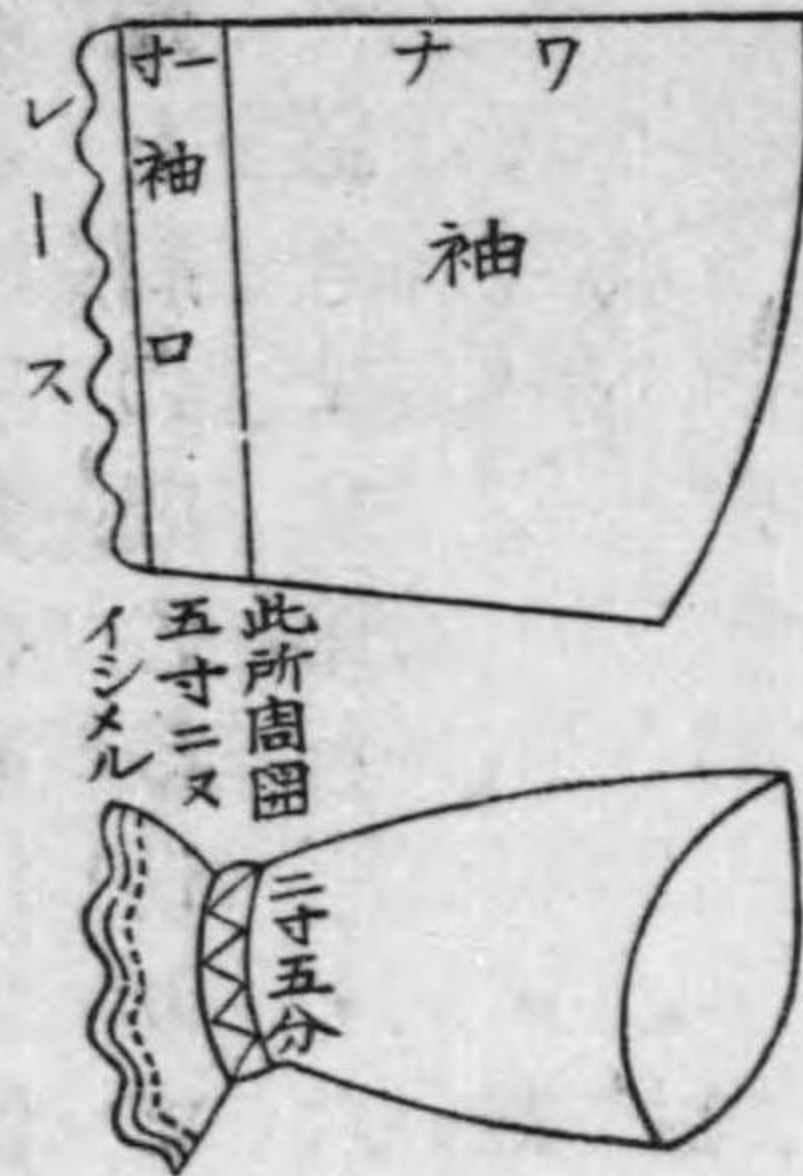
る處に五寸と印して袖線を印します。六寸の巾より裾へ向つて斜目に裁切り脇といたします。次に(ハ)(ニ)と印のある處を總丈三寸に縫縮めま

して糸を縫つかりと留めて置きます。

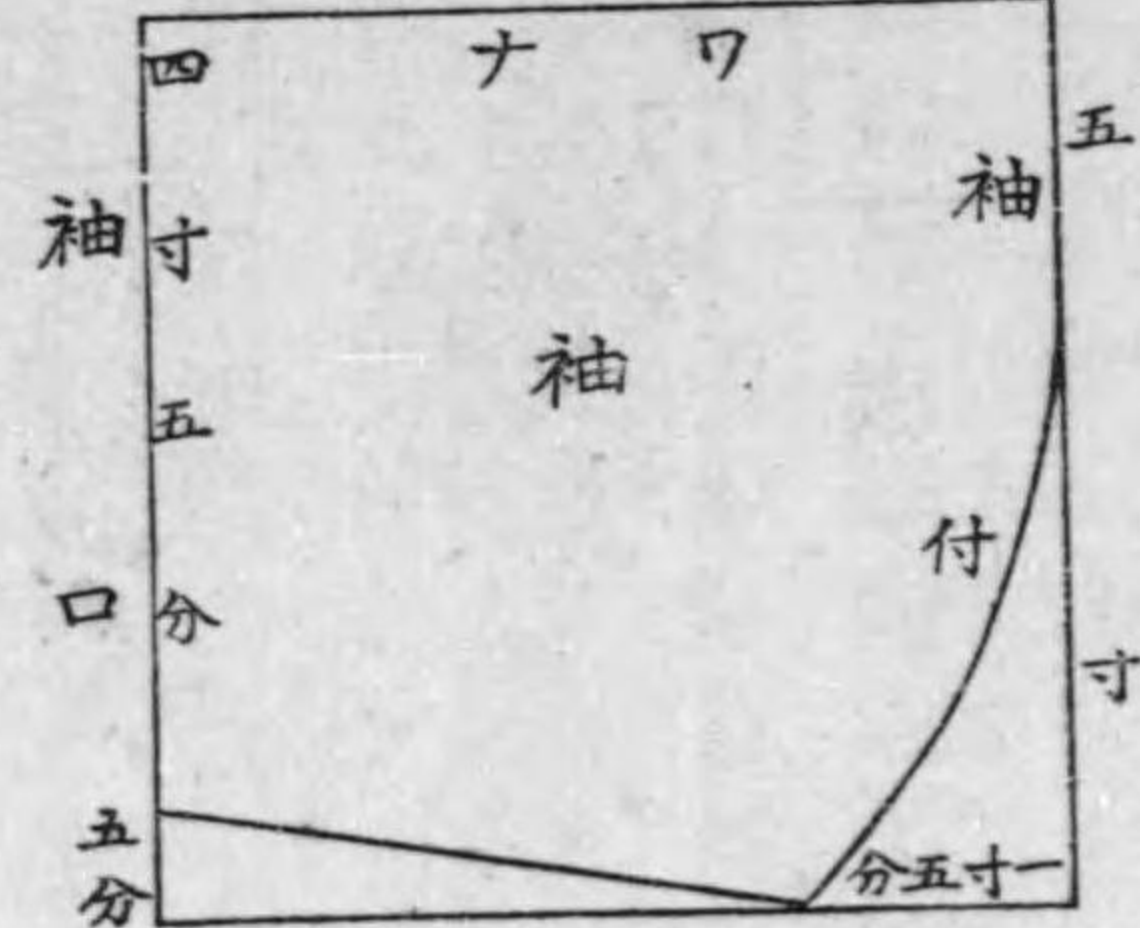
後身裁方。後身も前身と同じ様に(イ)と印のある所を山に五分撮みて丈六寸の襷をとり折は袖明の方へ伏せて置きます



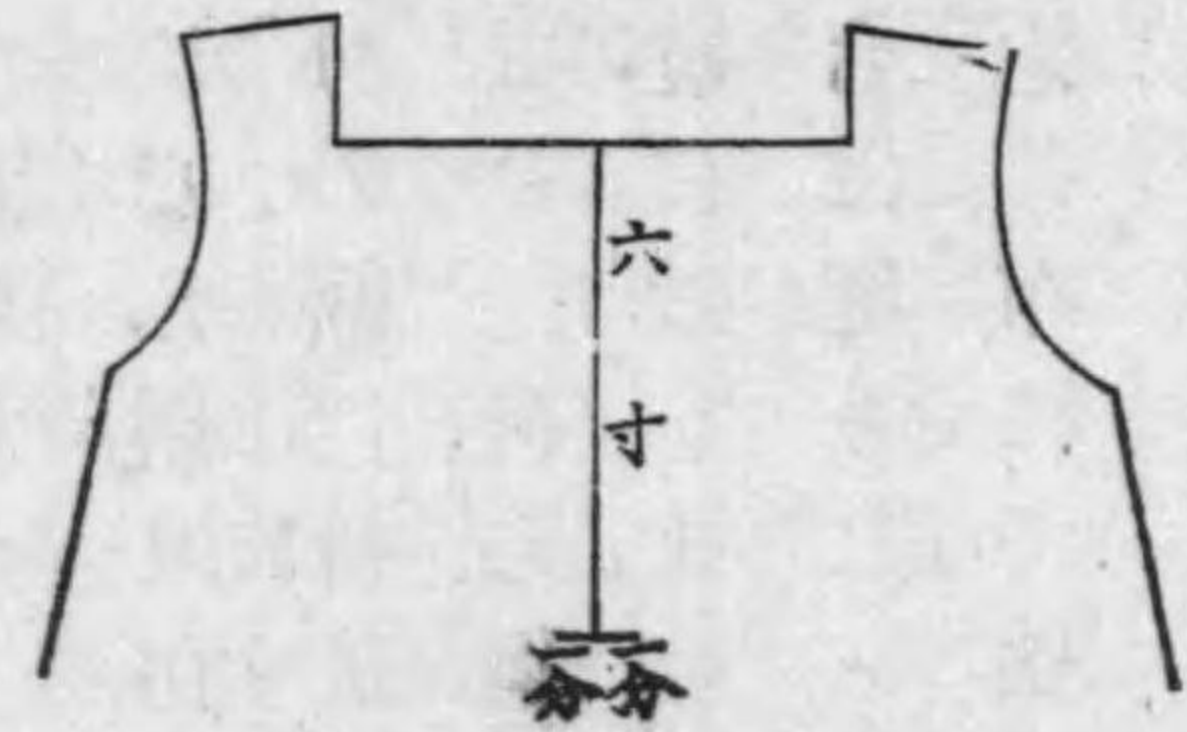
圖七十三第



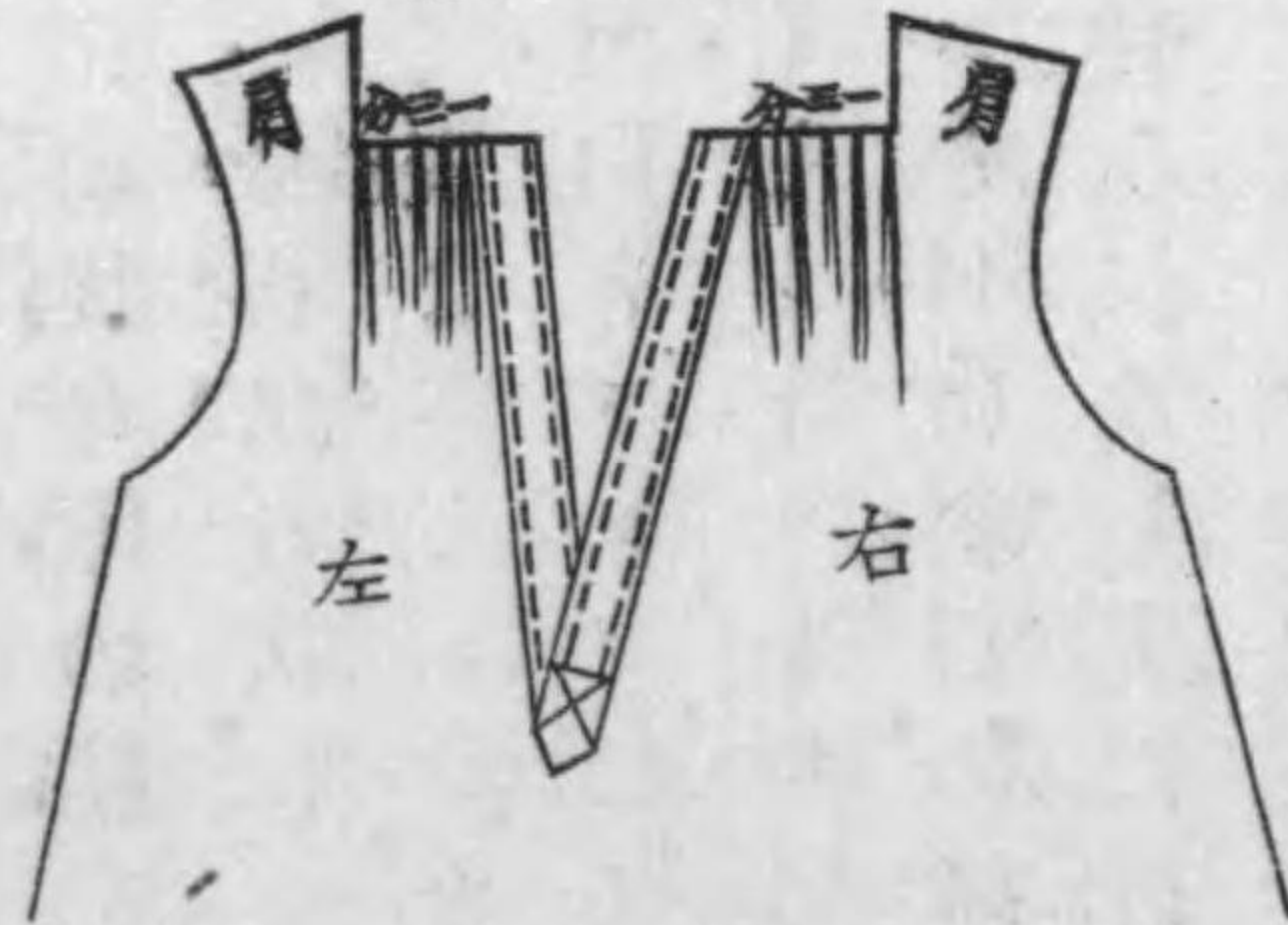
圖四十三百第



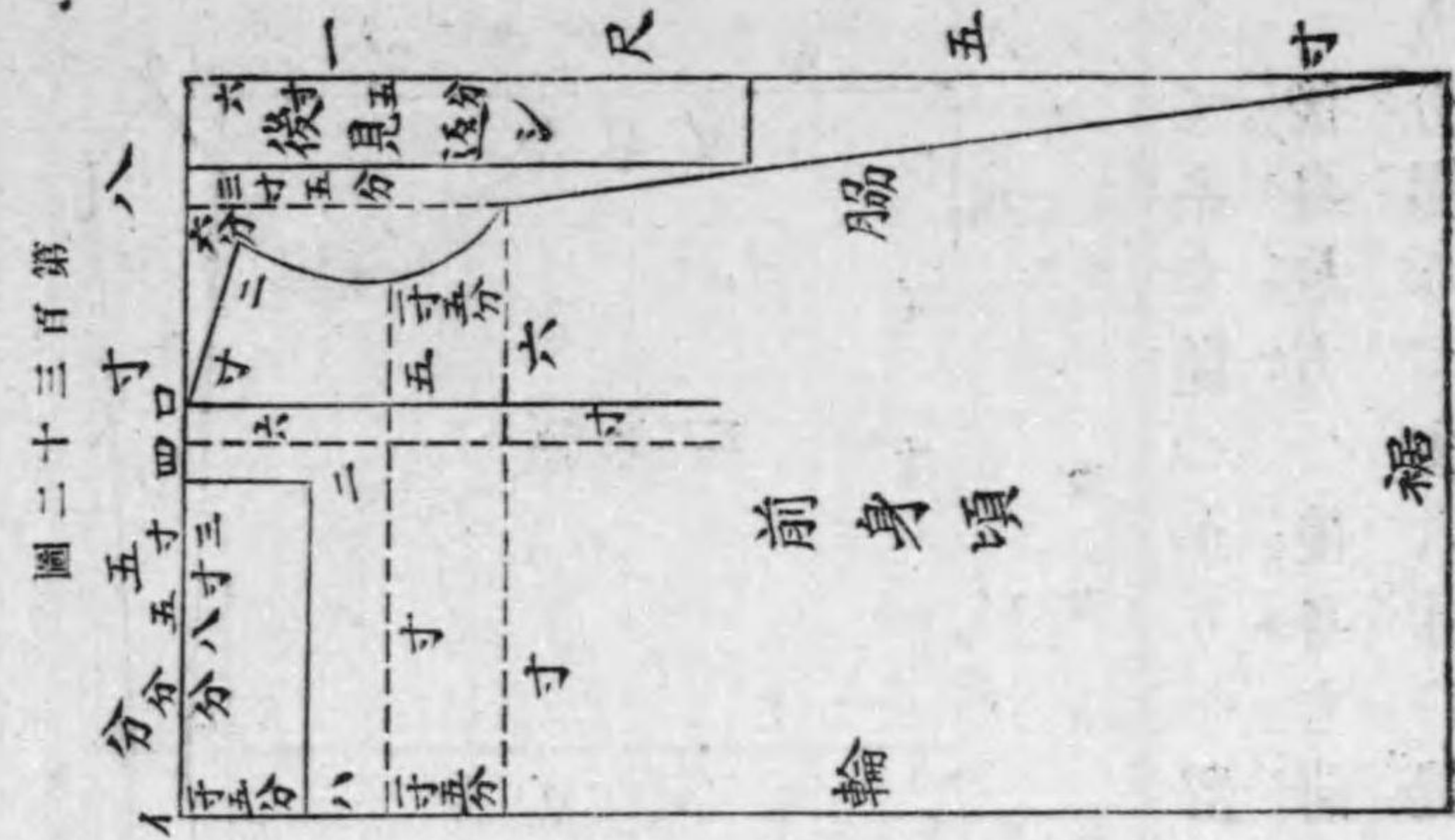
圖五十三百第



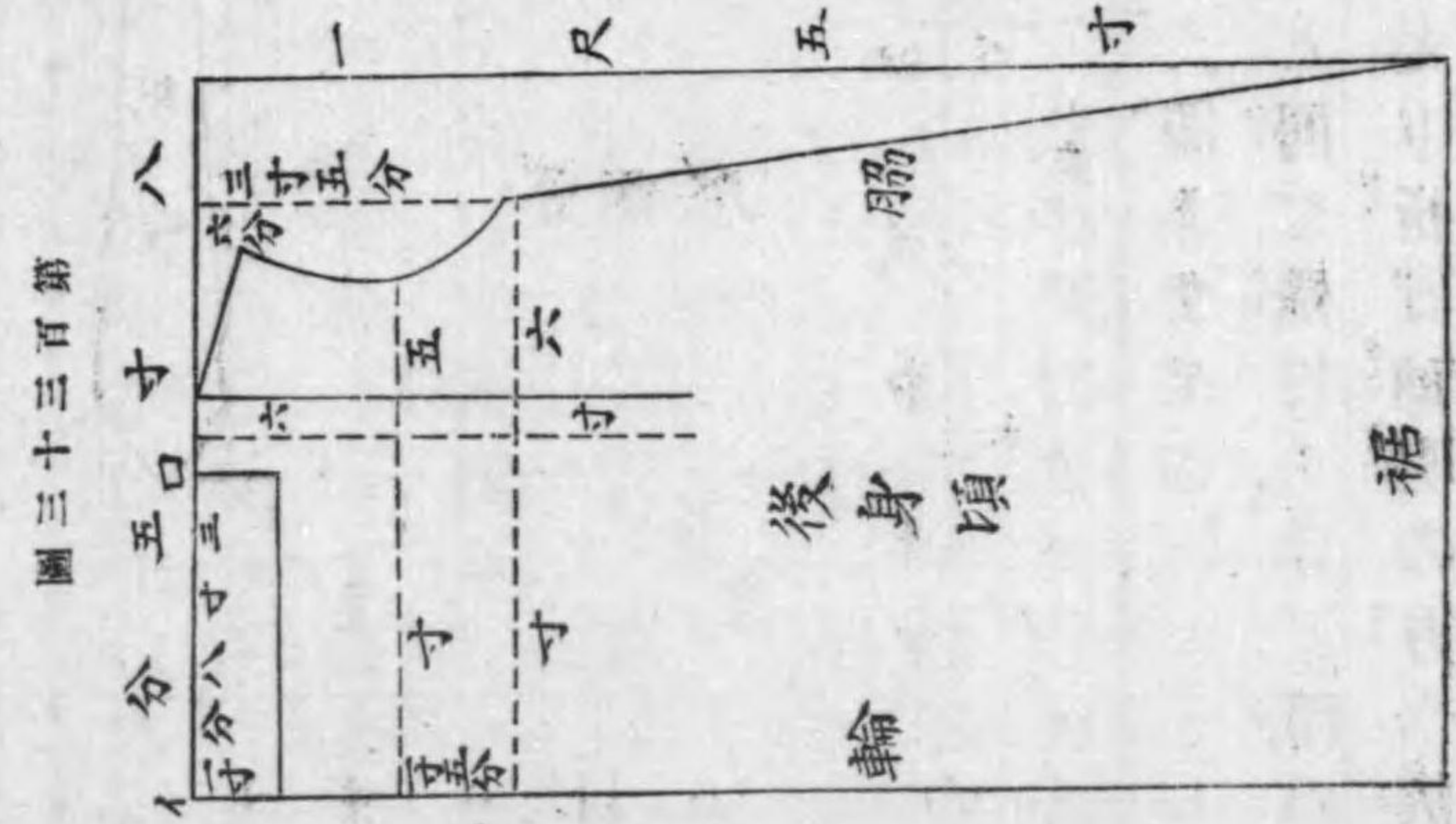
圖六十三第



左に裁き、右に返し、幅五分、見返しを左右に縫い付けます。此の見返しは左の方には裏に、右の方には表に付けます。先を三角に折り、飾ミシをかけ、左を下に、右を上にして重



圖三十二百第

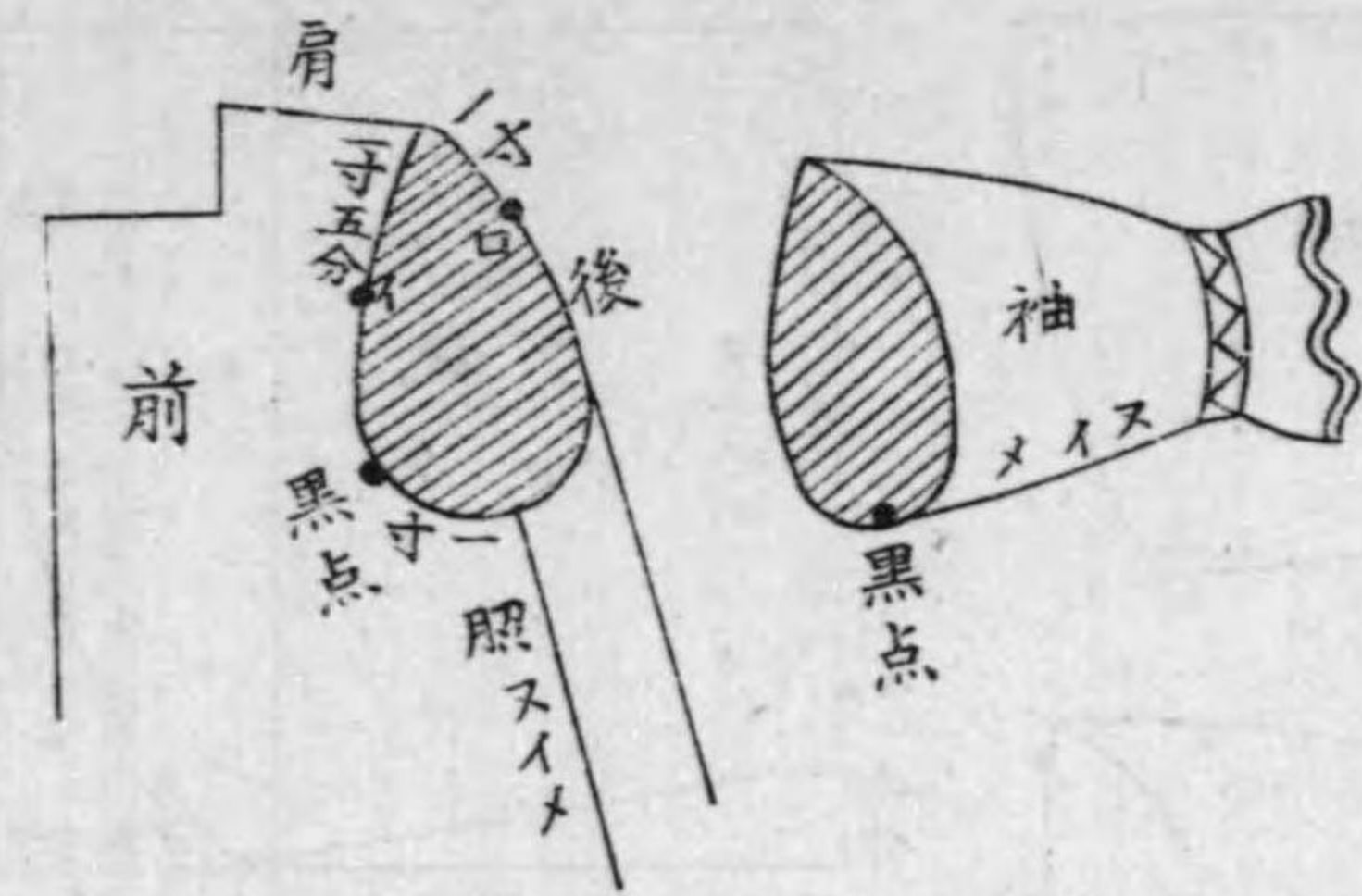


圖三十三百第

一三〇 輪の方より三寸八分深さ一寸として、衿線をとって、後は前身と同様に、袖線は裁き切ります。(乙)縫方順序を先に、輪の中央を縦に六寸切、明けまして、下は一分ほどに

ね合せて三角の所にて留めてミシンをかけて置きます。見返の端と肩の間の裁切りました幅を一寸三分に縫縮めて糸を留めて置きます。第百三十六圖を見よ。見返が附きましたなら前

第百三十八圖



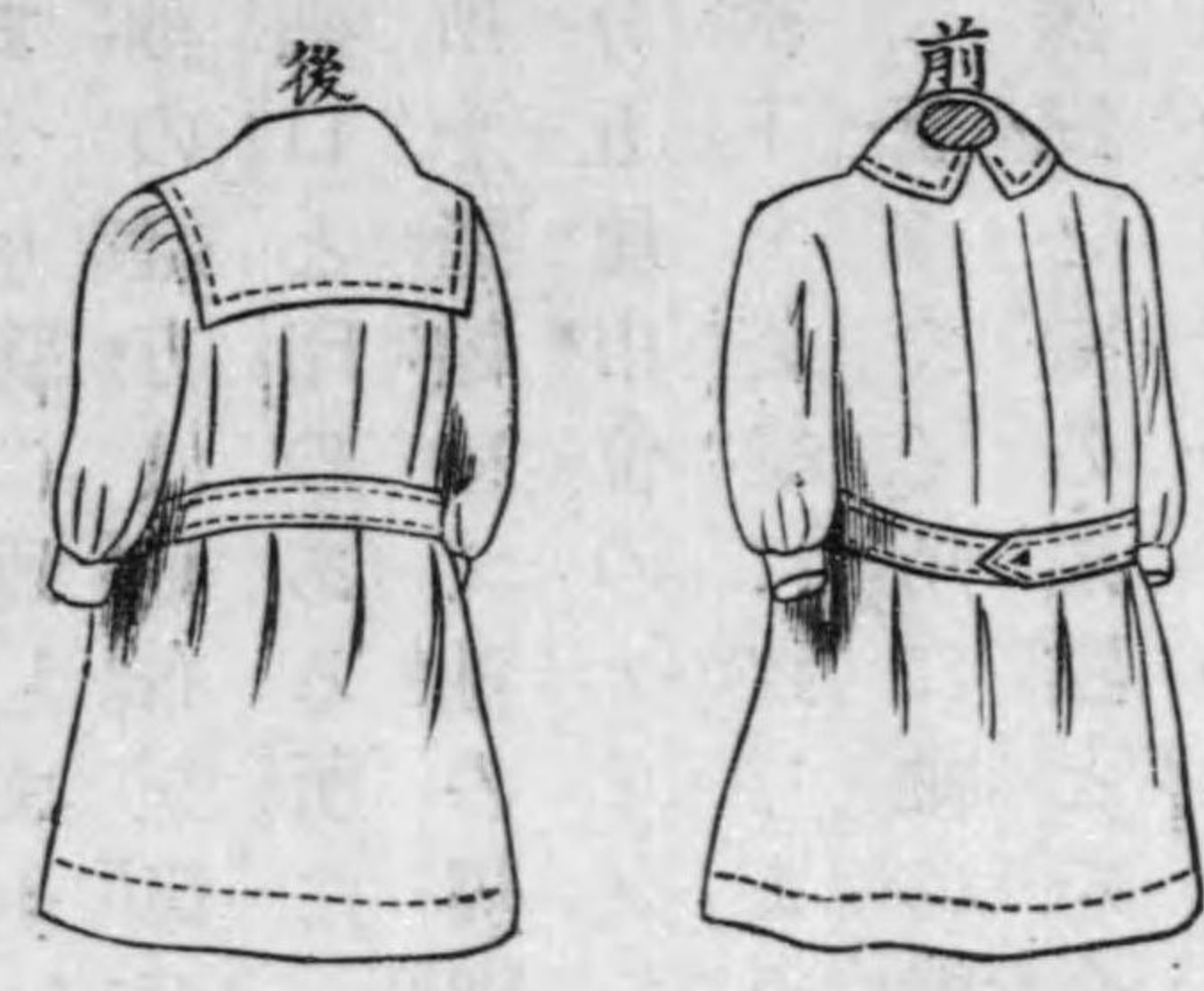
後身頃の肩を縫合せてミシンをかけ縫目は揃へて裁切り糸にて、からげ縫にし て置きます。次に前後身頃の脇を袋縫になし裾は初め一分折伏せ次に一寸五分の幅に折伏せて表よりミシンをかけます。衿の廻りは白きテップにて包みます。縫に致します。もしレースを付ける場合は廻りにレースを付け斜目の細き見返の布にて狭み縫ひになし裏に折伏せ

てまつり縫に致します。

袖の縫方は袖布を第百三十四圖に示す如く二枚重ねて裁切り袖口と印のある所にレースを付け其の袖口より一寸入りたる所を縫縮めて袖の周囲の五寸になる様に致しまして其上に二分五厘巾位のテップを載せて両端にミシンをかけます。次に袖下を袋縫に致します。袖附は身頃の脇の縫目より一寸前に身に寄りたる所に袖の縫目の所を合せて待針を刺し即ち前身の黒点と袖の黒点とを合せる左右に割れて肩の縫目より前一寸五分。後一寸の所に即ち(イ)の所に來る迄に平に合せて襷をかけ袖幅の残りたる所は縫縮めて肩の左右前一寸五分後一寸の間に縫ひ合さる様にして合せ周囲全體にミシンをかけて身頃に袖を縫付けるのであります。縫目は糸にてからげ縫に

致して置きます。  
次に帶布の一方の先きを三角に裁切り周囲を細く三ツ折にしてミシンをかけ他の一方の端を前身の襷の終りの下に狭み上よりミシンをかけて留めて置きます。此の帶は後にて結ぶ様に致します。後身の持出の左に釦を付け右に釦孔を縫つて置きます。

圖九十三百第



第三十四章 男兒服

四五歳用

茲に説明する洋服は襷附のものでありまして表題には男兒服としてあります。男女兒共に用ゐられる極め

圖十四百第 圖合綜

寸九	寸九	分五寸八尺一	分五寸八尺一	ニ
袖	袖	後身頃	前身頃	尺
帯		三寸		
見透シ	分五寸五寸	寸九八寸		
	スフカ	ヨーク		
	スフカ			
	リコ			
寸五尺五				

て簡單なる仕立方でありませす。之は夏服でありまして用布は更紗にて男兒なれば縞物、女兒なれば細かき花形様の模様物の類を用ゐます。又キャラコを用ゐても差支ありません。而して用布は長五尺五寸幅二尺あれば宜しいのであります。

(甲)裁方順序

先づ用布を綜合圖に示す如く各部に寸法を印して裁切り而して一々のものに又寸法を施して裁切ります。ヨーク。ヨークの布を二ツ折にし

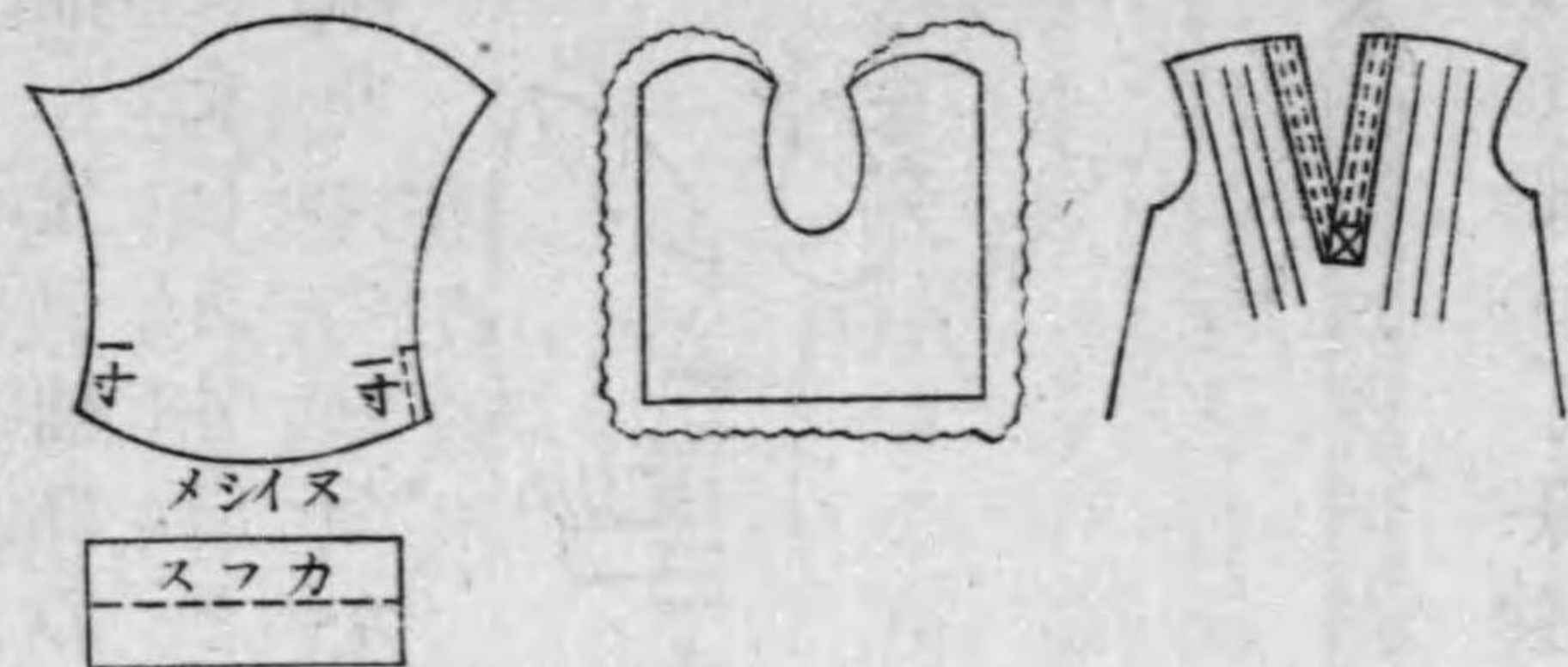


ら能く注意せねばなりません。  
 前身頃。(3)圖の如く前身頃の中央と其左右に四寸五分間を置  
 きて印をつけ此の印を山に幅一寸三分の巾着襷を七寸五分の  
 長さに中央と左右とに都合三本とりまして其の襷を中央より  
 開きて襷をかけ中央の襷の真中より布を二ツに折りて百四十  
 二圖の右圖の通りに寸法と線を施して(ハ)ロ(ヘ)ト及び右の下  
 角と連なれる線の通りに裁切ります。後身頃は寸法に少しの  
 差があるばかりで其の方法は前身頃と同じでありますから之  
 を省くことと致します。

(乙)縫方順序

身頃。先づ前身頃の中央の襷の下の縫目より二分ばかりの  
 所を縦に襷の長だけに切開けて其兩端に五分位の持出しを附

圖三十四百第



狭みてミシンをかけ見返しを身頃の方へ返して三分位の幅に

第三十四章 男兒服

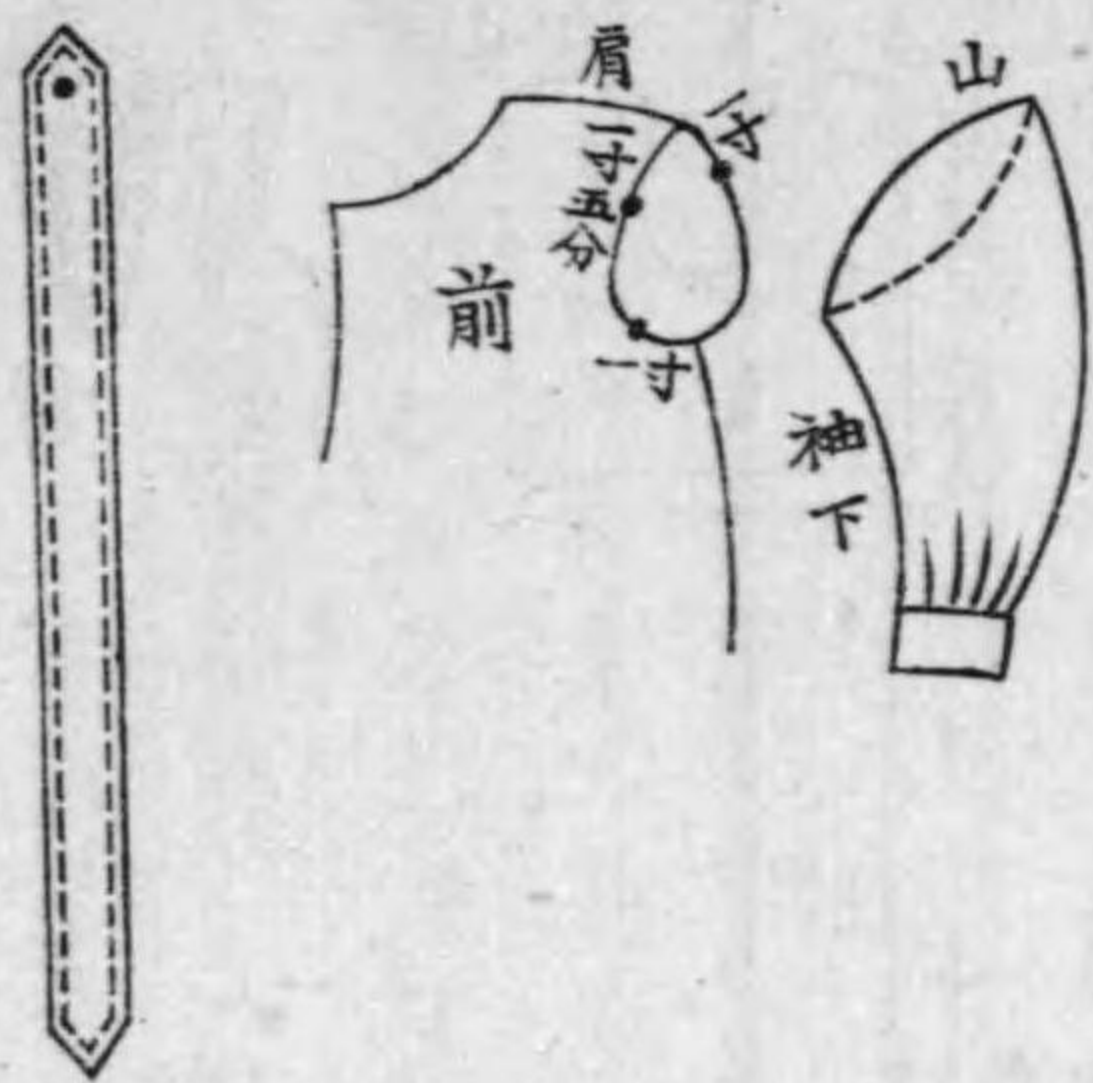
一三九

けて下は留めミシンをかけて置きます。  
 それより身頃の前後の兩脇を袋縫ひにな  
 し肩を縫合せてから裾を二枚折返して表  
 よりミシンをかけて置きます。

ヨーク。ヨークは周圍にレース又は飾  
 リテープの類を附けても亦單にても裏を  
 附けても宜しう御座います。而して先づヨ  
 ークの中央と後身頃の襷の中央とに待針  
 を打ち左右に割れて襷をかけヨークの一  
 方の端は前身頃の中央迄一方の端は持出  
 の端まで附け見返しを斜目に切りヨークを

折りてマツリ縫ひに致します。  
 袖。先づ袖口の先の兩端を一寸許り三ツ折にしてマツリ縫ひになし五寸ほどに縫しめてカフスの布をつけ折返して四方に飾りミシンをかけそれより袖下を袋縫に致します。

圖四十四百第



縫目は細かく縁縫に致しまして亦糸にてからげ縫ひに致し  
 頃の脇の縫目より前一寸入りたる所に合せ袖山を前にして待針を打ちそれより左右に割れて肩より前一寸五分の所までと後一寸下りたる所までとに躰をかけ袖幅の残りたるを縫縮めて前後の明いた所へ平等に縫付け

ましても宜しう御座います。  
 帯。帯は先づ心地を幅一寸二分長一尺七寸に裁ち其の兩先を三角に裁ち之を帯布にて包みて四方を二段ばかり飾りミシンをかけ一方の端に釦孔を一箇明け一方の端に釦を一箇附け腹廻りの適宜の所にて是を締めます。

第三十五章 廻し外套

四五歳用

是は四五歳の男兒用のマントであります用布は表は羅紗裏は適當の物にて長二尺二寸幅三尺六寸を要します。

(甲)裁方順序

表の羅紗を長二尺二寸に裁ち是を其の幅の方にて二ツ折に

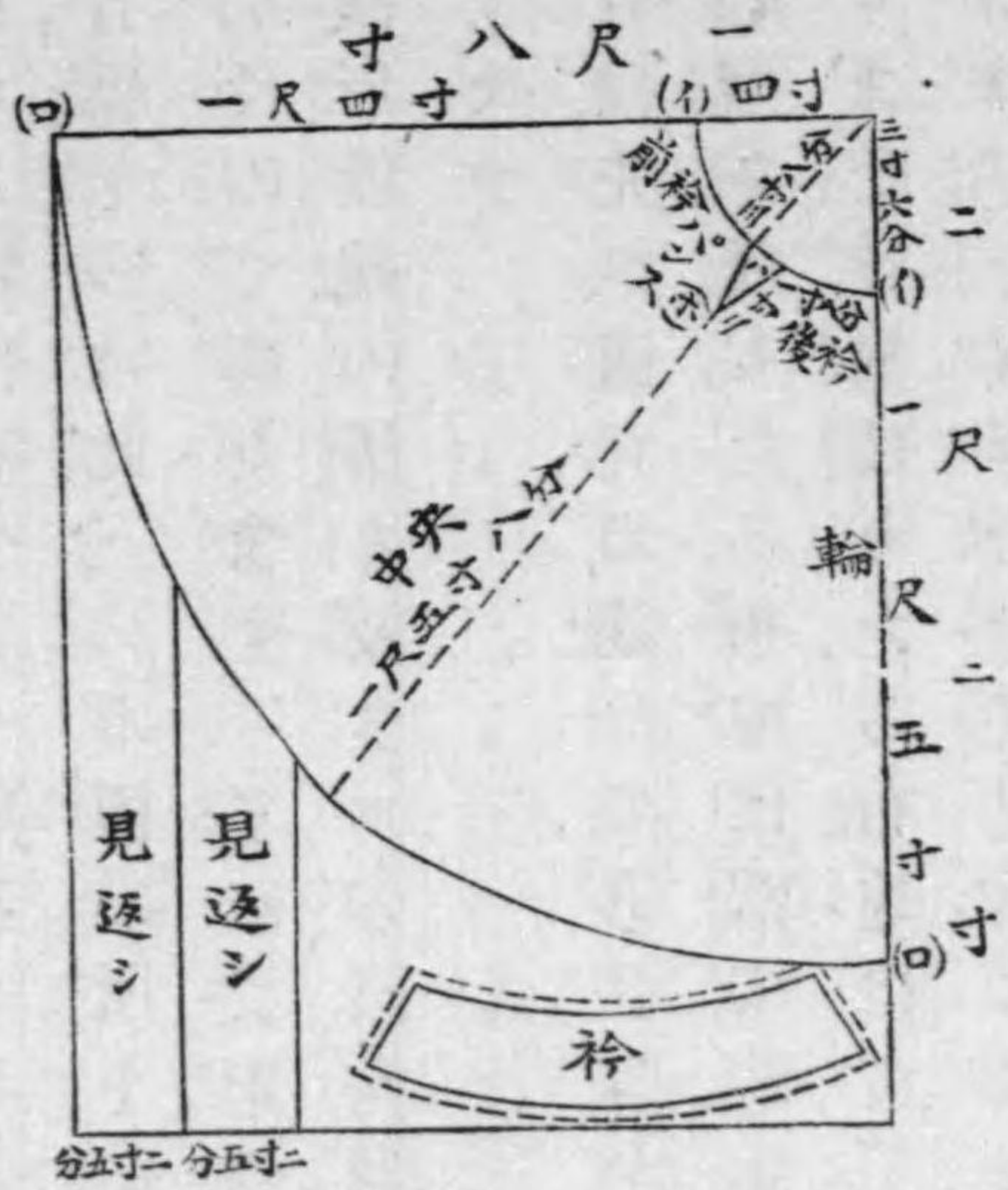
圖五十四百第



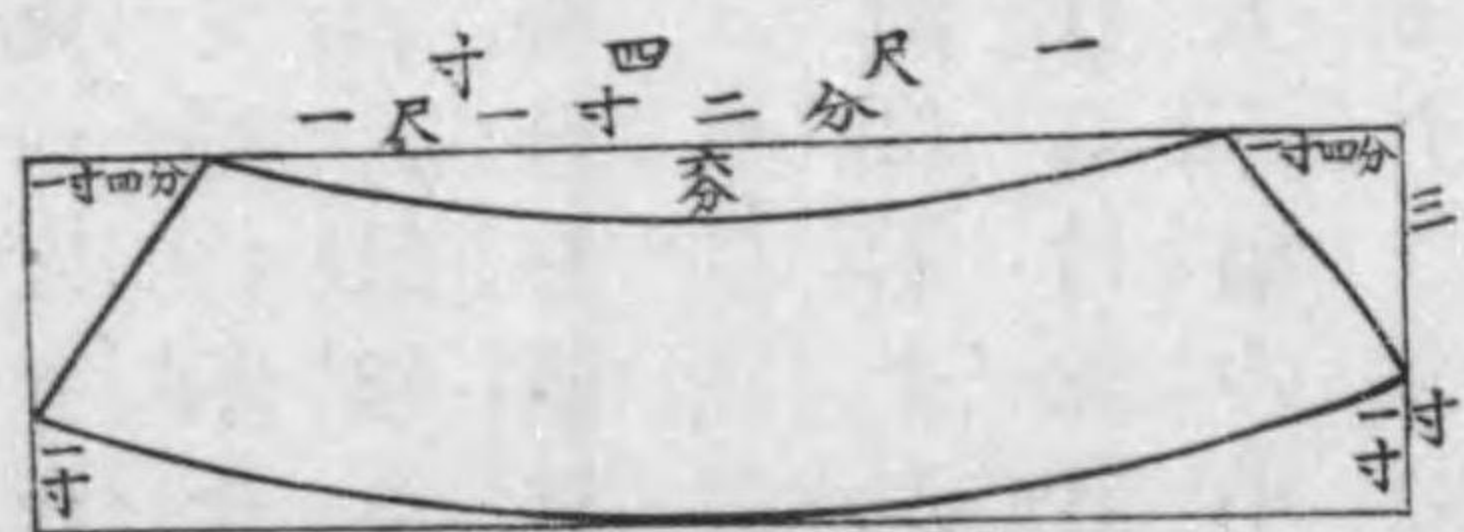
從つて角より中央へ三寸八分入りたる所の三ヶ所へ各標をつ  
け此三箇の標の所を結んで圖に示す如く圓形の線を引きます。  
次に後衿幅を一寸八分と標し即ち右上角の下三寸六分の所よ  
り圓線に從つて一寸八分の所へ標し又其所より圓線に從つて

なし第百四十六圖の綜合圖に示す如く  
輪の所(即ち折りたる所)を後幅裁目の所  
を前幅となし先づ角より後三寸六分の  
所(即ち右上角より下三寸六分の所)前四  
寸の所(即ち右角より左四寸の所)及び其  
の角より中央三寸八分の所(即ち九十度  
の直角をなして居る右上角を四十五度  
の角に二等分し其の二等分したる線に

圖六十四百第



圖七十四百第



圖ノ方取型衿

に線を引きます。夫より後丈を一尺五寸前丈を一尺四寸とし  
て標をつけ中央は後丈より八分増して標をつけ此の三つの標  
の所を結んで圖に示す如く裾廻りを丸くして線を引きます。

(即ち右<sup>みぎ</sup>上<sup>うへ</sup>角<sup>かど</sup>の下<sup>した</sup>三<sup>さん</sup>寸<sup>すん</sup>六<sup>ろく</sup>分<sup>ぶん</sup>の所<sup>ところ</sup>より下<sup>した</sup>一<sup>いち</sup>尺<sup>しゃく</sup>五<sup>ご</sup>寸<sup>すん</sup>の所<sup>ところ</sup>右<sup>みぎ</sup>上<sup>うへ</sup>角<sup>かど</sup>の左<sup>ひだり</sup>四<sup>よん</sup>寸<sup>すん</sup>の所<sup>ところ</sup>より左<sup>ひだり</sup>一<sup>いち</sup>尺<sup>しゃく</sup>四<sup>よん</sup>寸<sup>すん</sup>の所<sup>ところ</sup>及び(ホ)の三角<sup>さんかく</sup>形<sup>けい</sup>を二<sup>に</sup>等<sup>とう</sup>分<sup>ぶん</sup>し其<sup>その</sup>の二<sup>に</sup>等<sup>とう</sup>分<sup>ぶん</sup>したる線<sup>せん</sup>が(イ)(イ)の圓<sup>えん</sup>形<sup>けい</sup>の線<sup>せん</sup>に接<sup>せつ</sup>したる所<sup>ところ</sup>より其<sup>その</sup>の二<sup>に</sup>等<sup>とう</sup>分<sup>ぶん</sup>したる線<sup>せん</sup>に從<sup>したが</sup>つて一<sup>いち</sup>尺<sup>しゃく</sup>五<sup>ご</sup>寸<sup>すん</sup>八<sup>はち</sup>分<sup>ぶん</sup>中<sup>ちゆう</sup>央<sup>やう</sup>へ入<sup>い</sup>りたる所<sup>ところ</sup>の三<sup>さん</sup>箇<sup>か</sup>所<sup>ところ</sup>へ各<sup>かく</sup>標<sup>ひょう</sup>をつけ此<sup>こゝ</sup>三<sup>さん</sup>ツ<sup>つ</sup>の標<sup>ひょう</sup>の所<sup>ところ</sup>を結<sup>むす</sup>んで圖<sup>ず</sup>に示<sup>し</sup>す如<sup>ごと</sup>く圓<sup>えん</sup>形<sup>けい</sup>の線<sup>せん</sup>を引<sup>ひ</sup>くのでありませす。之<sup>これ</sup>にて先<sup>ま</sup>づ(イ)(イ)の圓<sup>えん</sup>形<sup>けい</sup>の線<sup>せん</sup>の所<sup>ところ</sup>と(ロ)(ロ)の圓<sup>えん</sup>形<sup>けい</sup>の線<sup>せん</sup>の所<sup>ところ</sup>と及び(ホ)の三角<sup>さんかく</sup>形<sup>けい</sup>の所<sup>ところ</sup>とを適<sup>てき</sup>宜<sup>ぎ</sup>の順<sup>じゆん</sup>を以<sup>もつ</sup>て裁<sup>た</sup>ち切<sup>き</sup>ります。

衿<sup>えり</sup>は先<sup>ま</sup>づ適<sup>てき</sup>宜<sup>ぎ</sup>の紙<sup>かみ</sup>にて第<sup>だい</sup>百<sup>ひやく</sup>四<sup>し</sup>十<sup>じゅう</sup>七<sup>しち</sup>圖<sup>ず</sup>に示<sup>し</sup>すが如<sup>ごと</sup>き型<sup>かた</sup>を作<sup>つく</sup>り其<sup>その</sup>の型<sup>かた</sup>を殘<sup>のこ</sup>りたる布<sup>ぬい</sup>地<sup>ぢ</sup>に當<sup>あ</sup>てがひ縫<sup>ぬい</sup>代<sup>だい</sup>だけ餘<sup>あま</sup>計<sup>けい</sup>に見<sup>み</sup>積<sup>つ</sup>りて裁<sup>た</sup>ち切<sup>き</sup>ります。猶<sup>なほ</sup>殘<sup>のこ</sup>りたる布<sup>ぬい</sup>地<sup>ぢ</sup>にて二<sup>に</sup>寸<sup>すん</sup>五<sup>ご</sup>分<sup>ぶん</sup>幅<sup>はち</sup>の小<sup>こ</sup>切<sup>ぎ</sup>を二<sup>に</sup>枚<sup>まい</sup>だけ裁<sup>た</sup>ち切<sup>き</sup>り是<sup>こゝ</sup>を接<sup>つ</sup>ぎ合<sup>あ</sup>せて見<sup>み</sup>返<sup>かへ</sup>しに致<sup>いた</sup>します。次<sup>つぎ</sup>に裏<sup>うら</sup>は表<sup>おもて</sup>の如<sup>ごと</sup>く

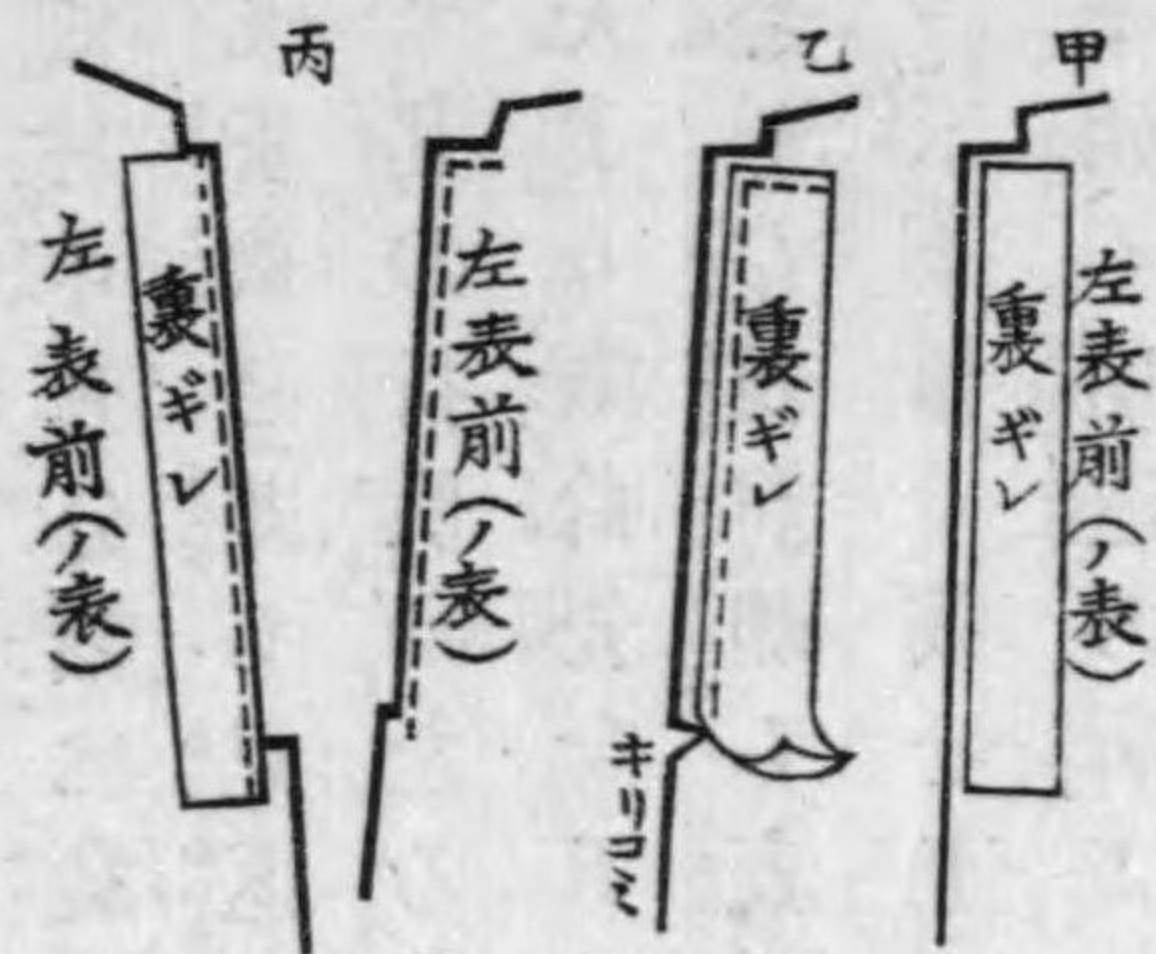
裁<sup>た</sup>ちませす、但<sup>たゞ</sup>し前<sup>まへ</sup>は見<sup>み</sup>返<sup>かへ</sup>しだけ幅<sup>はち</sup>を差<sup>さ</sup>引<sup>ひ</sup>いて裁<sup>た</sup>つのであります。

(乙)縫<sup>ぬい</sup>方<sup>かた</sup>順<sup>じゆん</sup>序<sup>じゆ</sup>

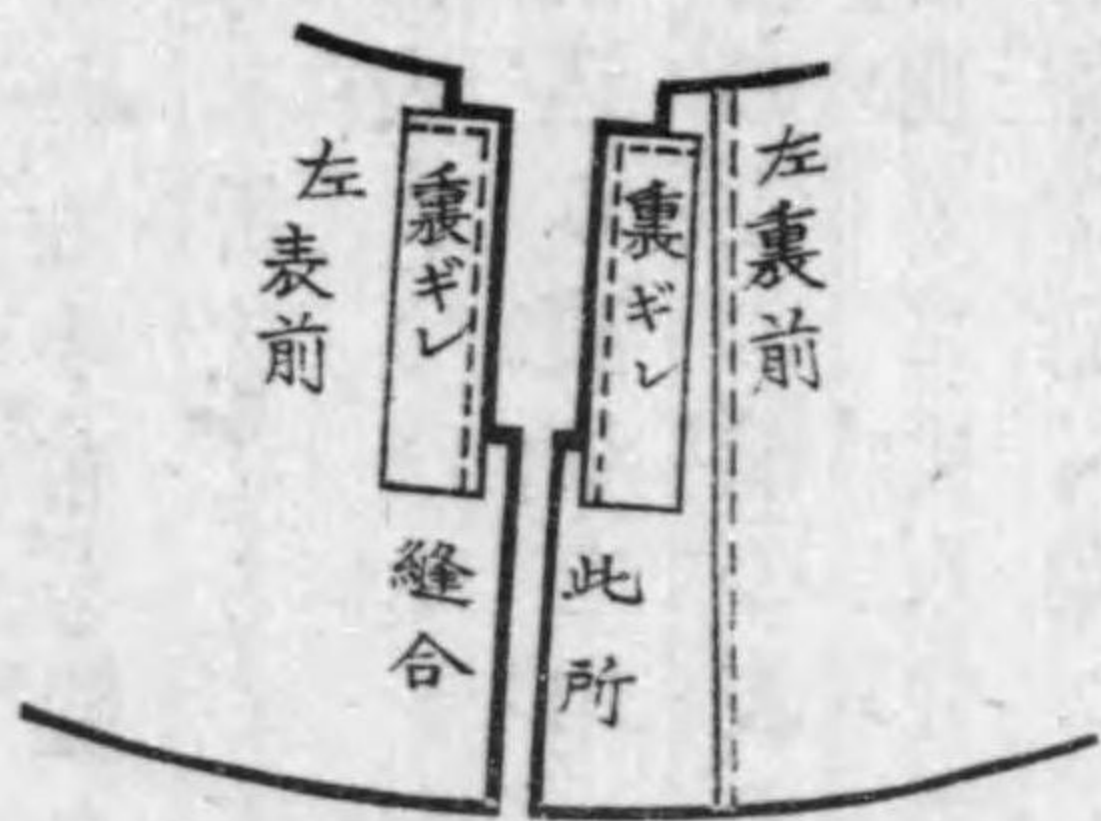
先<sup>ま</sup>づ兩<sup>りゆう</sup>肩<sup>かた</sup>のペン<sup>ペン</sup>スの所<sup>ところ</sup>即<sup>すなは</sup>ち裁<sup>た</sup>ち切<sup>き</sup>りたる(ホ)の三角<sup>さんかく</sup>形<sup>けい</sup>の所<sup>ところ</sup>を縫<sup>ぬい</sup>合<sup>あ</sup>せ其<sup>その</sup>の縫<sup>ぬい</sup>目<sup>め</sup>の外<sup>ぐわい</sup>端<sup>たん</sup>に鈎<sup>かぎ</sup>を入<sup>い</sup>れ縫<sup>ぬい</sup>目<sup>め</sup>は開<sup>ひ</sup>きて烙<sup>やく</sup>鏝<sup>び</sup>を當<sup>あ</sup>てませす(裏<sup>うら</sup>も亦<sup>また</sup>同<sup>どう</sup>じ様<sup>やう</sup>に致<sup>いた</sup>して置<sup>お</sup>きます)。次<sup>つぎ</sup>に裏<sup>うら</sup>の兩<sup>りゆう</sup>前<sup>まへ</sup>に見<sup>み</sup>返<sup>かへ</sup>し表<sup>おもて</sup>布<sup>ぬい</sup>にて二<sup>に</sup>寸<sup>すん</sup>五<sup>ご</sup>分<sup>ぶん</sup>幅<sup>はち</sup>に裁<sup>た</sup>ち切<sup>き</sup>りたる小<sup>こ</sup>布<sup>ぬい</sup>を縫<sup>ぬい</sup>合<sup>あ</sup>せ縫<sup>ぬい</sup>目<sup>め</sup>は裏<sup>うら</sup>の方<sup>かた</sup>に向<sup>むか</sup>けて折<sup>を</sup>り伏<sup>ふ</sup>せ(即<sup>すなは</sup>ち見<sup>み</sup>返<sup>かへ</sup>の方<sup>かた</sup>へ折<sup>を</sup>り伏<sup>ふ</sup>せるのではなく裏<sup>うら</sup>の方<sup>かた</sup>へ折<sup>を</sup>り伏<sup>ふ</sup>せて其<sup>その</sup>の折<sup>を</sup>り伏<sup>ふ</sup>せたる所<sup>ところ</sup>に表<sup>おもて</sup>よりミシンを掛<sup>か</sup>けます。夫<sup>それ</sup>より兩<sup>りゆう</sup>衿<sup>えり</sup>先<sup>さき</sup>を五<sup>ご</sup>分<sup>ぶん</sup>切<sup>き</sup>込<sup>こ</sup>み裏<sup>うら</sup>切<sup>き</sup>を巾<sup>ひん</sup>一<sup>いち</sup>寸<sup>すん</sup>五<sup>ご</sup>分<sup>ぶん</sup>丈<sup>たけ</sup>九<sup>く</sup>寸<sup>すん</sup>位<sup>くらい</sup>に裁<sup>た</sup>ち是<sup>こゝ</sup>を左<sup>ひだり</sup>表<sup>おもて</sup>前<sup>まへ</sup>即<sup>すなは</sup>ち表<sup>おもて</sup>羅<sup>ら</sup>紗<sup>しや</sup>の左<sup>ひだり</sup>前<sup>まへ</sup>の表<sup>おもて</sup>の方<sup>かた</sup>に第<sup>だい</sup>百<sup>ひやく</sup>四<sup>し</sup>十<sup>じゅう</sup>八<sup>はち</sup>圖<sup>ず</sup>の(甲<sup>か</sup>)に示<sup>し</sup>す如<sup>ごと</sup>く載<sup>の</sup>せ五<sup>ご</sup>分<sup>ぶん</sup>折<sup>を</sup>り曲<sup>ま</sup>りて丈<sup>たけ</sup>八<sup>はち</sup>寸<sup>すん</sup>の所<sup>ところ</sup>迄<sup>まで</sup>縫<sup>ぬい</sup>下<sup>くだ</sup>げ(即<sup>すなは</sup>ち乙<sup>おつ</sup>)に示<sup>し</sup>す如<sup>ごと</sup>く切<sup>き</sup>込<sup>こ</sup>の所<sup>ところ</sup>より外<sup>ぐわい</sup>端<sup>たん</sup>の方<sup>かた</sup>へ横<sup>よこ</sup>に五<sup>ご</sup>分<sup>ぶん</sup>ほだ縫<sup>ぬい</sup>ひ夫<sup>それ</sup>より角<sup>かく</sup>



圖八十四百第



圖九十四百第



裏の方に折返して襷をかけ(丙)に示す如く表より飾りミシンを

かけます。

次に左裏前(即ち裏用布の左の前の見返の表の方に裏布をのせ五分折曲りて丈八寸の所迄縫下げ見返の羅紗布の下八寸の

一四六

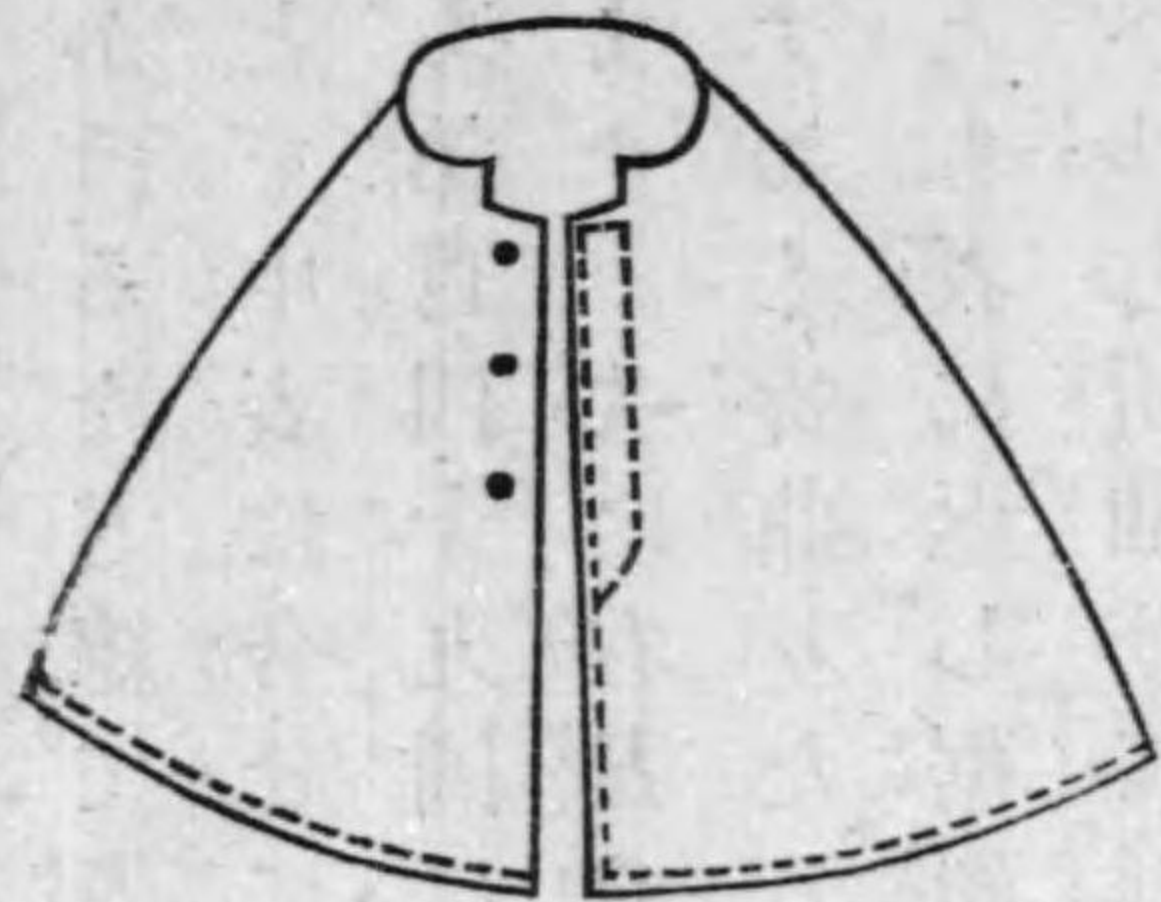
に折曲りて下八寸の所迄縫下げ其の下八寸の縫終りの直下に表羅紗の方へ縫代だけの幅に切込を入れ(乙)圖を見よ)而して其の縫付けたる表羅紗の

所へ切込を入れ裏の方へ折返して襷をかけ表の方へ飾りミシンをかけるなど總て表と同様に致します。而して左表前と左裏前とを中表に合せて切込を入れたる下八寸の所より下端まで(即ち第四百四十九圖に此所縫合としてある所)を中表にして縫合せます。次に右表前と右裏前とを中表に合せて第五百十圖に示す如く折曲りたる所より下端迄縫合せます。夫より右左兩方とも表に返し裾廻りを能く合せ表裏とも裾廻りの端を中方へ少し折曲げて襷にて押へ表裏別々にミシンをかけ裏と表は三ヶ所ばかり合せて留め縫に致します。次に左の前を表裏とも一緒に衿元の所より下八寸の所へかけて百五十一圖に示す如く下の方から山になる様に八分ばかりの巾にて飾りミシンをかけて表裏を押しへ猶左前表裏縫合せたる所と右前表裏縫合

圖十五百第



圖一十五百第



せたる所に飾ミシンをかけます。  
 衿は型紙の通りに心地を裁ち是を一  
 枚の表衿切に合せつけて躰にて押へ衿  
 先の所を第百五十二圖の如く六七段ば  
 かり一分づつ間を置きてミシンをかけ  
 猶其の上と同圖に示す如く三角形にミ  
 シンをかけ表衿切と心地とを押へます  
 此の心地の付きたる衿の部合を(乙)の如  
 く表衿布の方を内に向けて其衿元の所  
 を下の部分の表の衿廻りの所(即ち衿元  
 の所に合せ其中央の所に待針を打ち先  
 づ同圖に示す如く其衿元の所を縫合せ

圖二十五百第



甲



乙

面ノ方ノ地心

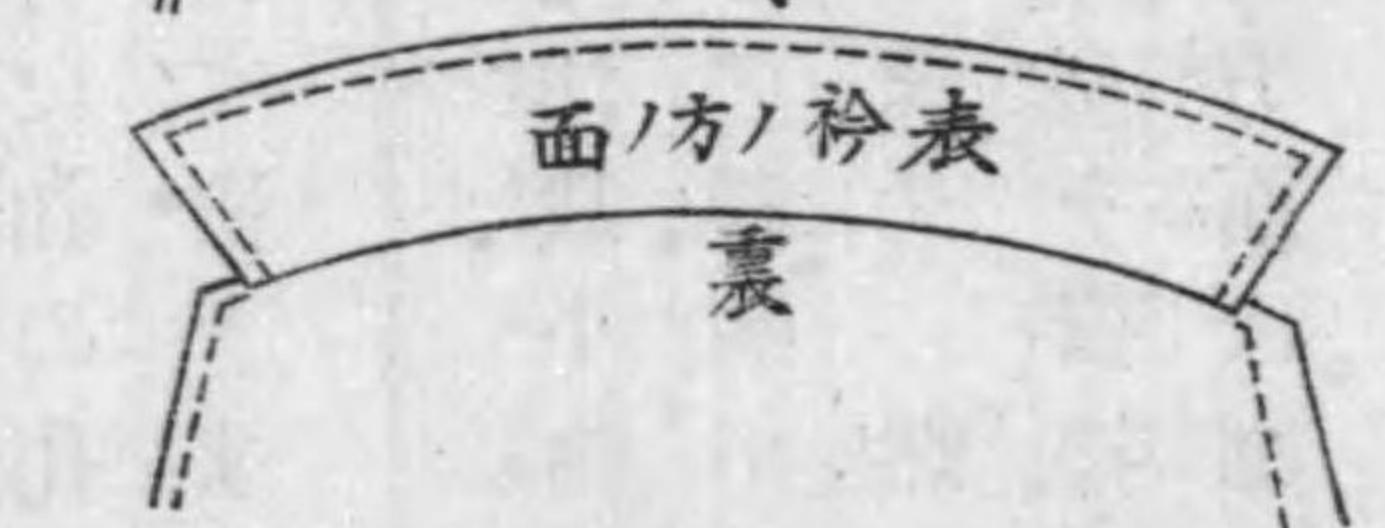
表



丙

面ノ方ノ地心

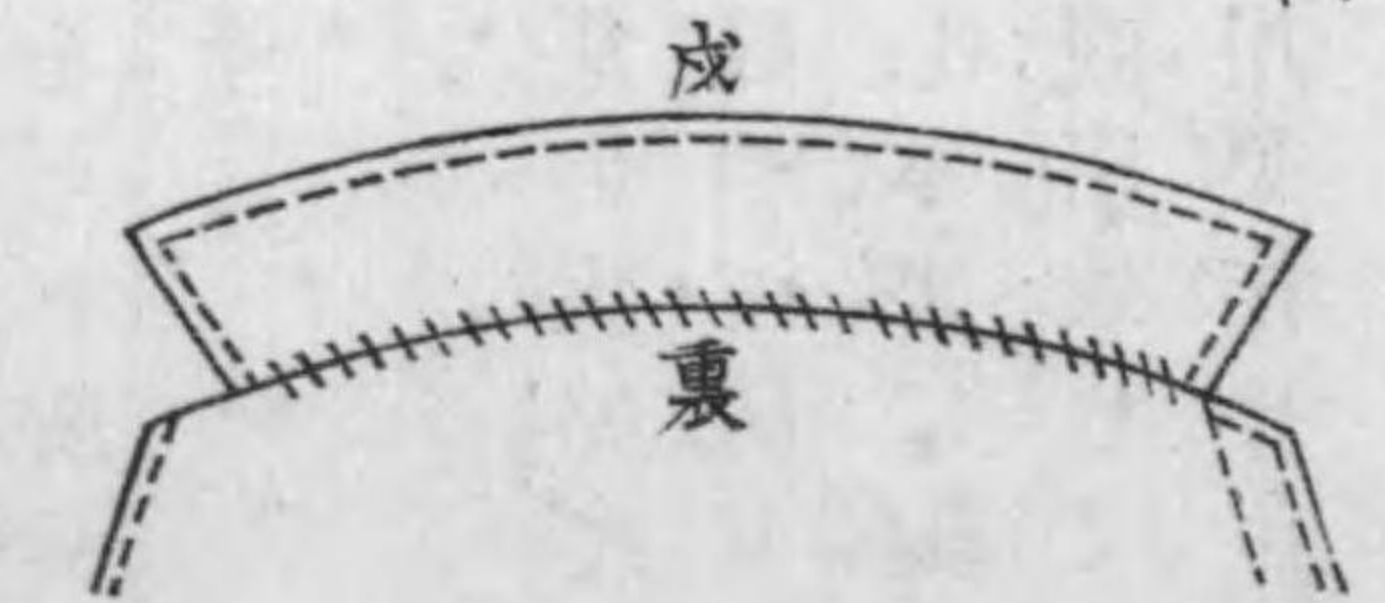
裏



丁

面ノ方ノ衿表

裏



戊

裏

縫目は開きて烙鏝を當て次に心地の付きたる衿の部分の上部  
 の所と他の一枚の表衿切の上部の所とを縫代を見て(丙)圖の如  
 く縫合せ其の縫合せたる他の一枚の表衿切を心地の方の面へ  
 折返して(丁)圖の如く三方に躰をかけて置き其の折返したる表

衿切の衿元の所を少しく中へ折曲げて下の部分の裏の衿元の所へ載せて(成圖の如くマツリ縫になし衿の三方に同圖に示す如く飾ミシンをかけます。  
次に右前に釦を三箇附け又左前には陰し釦にする爲め即ち釦が陰れる様にする爲に見返の方に釦の孔を三ヶ所明けます。衿元の前にも兩方にホックを附けて置きます。

以上説明致しました各章は小兒洋裁小物集の大略であります。して詳細に記述致しますと猶幾多の種類が残つて居ります。是等は又期を見て増版致す考であります。然し本書に編述する處は重に根本組織とも云ふべき原型を撰擇説明致して置きましたから各自製作者に於て好みの方面に應用製作せられん事

を希望いたします。要するに本書は一家の主婦として家事業務の餘暇に小兒の前掛や帽子が頗る簡単に製作し而も家事經濟の一助となる事を目的と致します。

小兒實用 和洋裁縫小物集 終

【小兒和洋裁縫小物集奥付】

■ 著作權所有 ■

【正價金九拾錢】

大正六年九月五日印刷  
大正六年九月十日發行

著者 伊澤峯子

發行者 大倉保五郎

印刷者 高橋郁

印刷所 三協印刷株式會社

發行所

東京市日本橋區通町一丁目十九番地

大倉書

振替東京二三八



共立職業學校  
女子

東京女子美術學校教師 伊澤峯子先生著  
實踐女學校

菊判美製全一冊  
正價金壹圓參拾錢  
郵税金八錢

家庭  
實用

# 小兒洋服裁縫全書

第七版

小兒を完全に保育せんとする者小兒洋服の仕立方を知らざるべからず▲洋服は小兒の性情に適する理想的の服装なり▲洋服は運動を軽快ならしめて形状色彩の美を兼ね洗濯に便にして其材料可廉なり▲洋服仕立方の基礎を知らざれば洋服裁縫教授を完全になす能はず▲洋服裁縫の基礎を知るは應用力を増進するの基なり▲本書は洋服裁縫の基礎を悉く圖解を附し詳細に説き次て洋服裁縫の奥義を容易に知らしむる也

### 内容略

- 第一章 總説 第二章 「ジミス」 第三章 「パンタロン」
- 第四章 シワボン 第五章 胴着 第六章 女児服胸織形
- 第七章 折袂附 第八章 帶附 第九章 帶附形 第十章 女児服水兵形 第十一章 外套 第十二章 短外套 第十三章 折袂外套 第十四章 男児服寸法取方 第十五章 脊廣 第十六章 男児服水兵形 第十七章 「ズボン」 第十八章 前ダテ無ズボン 第十九章 頭巾附外套 第二十章 廻シ外套 第二十一章 帽子 第二十二章 前掛(第一種) 第二十三章 前掛(第二種) 第二十四章 前掛(第三種) 第二十五章 前掛(第四種) 第二十六章 前掛(第五種) 第二十七章 前掛(第六種)

共立女子職業學校教師  
伊藤文子 小川久子 高田久子 同 共著

和裝美製全一冊  
正價金壹圓  
郵税金八錢

# 裁縫おさといく物 附實用小物

誰れにも手軽に出来る

手藝中で最も手軽に複雑な道具を使はず普通裁縫の心得のある方には誰れにでも習得さるるのほおさいくもので本書はその製作順序を細説した上石版刷と寫真版木版などで外形から分解圖までも示し實物大の原型圖を掲げ説明と相助けて懇切に書いてあります本書を手本にして寸暇を利用すれば立派な美しい家庭要具が製作されて趣味と實益とを兼ね得られます

奇麗な家庭の要具なり

## 續裁縫おさといく物

共立女子職業學校教師  
伊藤文子 小川久子 高田久子 同 共著  
和裝美製全一冊  
正價金壹圓卅錢  
郵税金八錢

K21T-11

女子手藝普及會編 ■ 新裁縫小物全書 正價壹圓卅錢 郵税金 八錢

木村淡香著 ■ 和洋裁縫小ざれ細工 正價金壹圓 郵税金 八錢

遠藤錠子 高田久子 共著 ■ 裁縫おもちゃ集 正價金壹圓 郵税金 八錢

山田きよ子 種村なつ子 共著 ■ 袋物細工の技折 正價壹圓廿錢 郵税金 八錢

村井秋翠 中村興湖 共著 ■ 家庭袋物細工全書 正價壹圓廿錢 郵税金 八錢

吉岡房次郎著 ■ 女子技藝撮み細工全書 正價金壹圓 郵税金 八錢

赤堀峰吉 赤堀みち子 赤堀菊子 共著 ■ 家庭日本料理法 正價壹圓卅錢 郵税金 八錢

◀◀ 京東 大倉書店 日本橋 ▶▶

終